預言者伝（スィーラ）全集

第3集

フダイビーヤからマッカ征服へ

第15～21巻



Hj Che Alim Hj Che Haron

AK (Kelantan)

quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY

この電子書籍はムスリムのための無料版です ― 販売はできません。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）全集

第 3 集

フダイビーヤからマッカ征服へ

第 15〜21 巻：クルアーンと真正なハディースに基づく、フダイビーヤの和約からマッカ征服まで

لَّقَدْ رَضِيَ ٱللَّهُ عَنِ ٱلْمُؤْمِنِينَ إِذْ يُبَايِعُونَكَ تَحْتَ ٱلشَّجَرَةِ فَعَلِمَ مَا فِي قُلُوبِهِمْ فَأَنزَلَ ٱلسَّكِينَةَ عَلَيْهِمْ وَأَثَٰبَهُمْ فَتْحًا قَرِيبًا

「かれらがあの樹の下であなたに忠誠を誓った時、アッラーは信者たちに、ことの外御満悦であった。かれはかれらの胸に抱くことを知り、かれらに安らぎを下し、手近な勝利をもって報われた。」

勝利章 48:18

Hj Che Alim Hj Che Haron

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売はできません。

謝辞

私たち自身の中から一人の使徒を遣わされたアッラーに、すべての称賛あれ。その使徒は私たちの苦しみを心に痛め、私たちの幸福を強く願われた。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、そのご家族と教友たちに祝福と平安あれ。教友たちはかれの生涯を目撃し、それを守り、完全な誠実さをもって私たちに伝えてくれた。

この電子書籍を、愛する妻

Zaharah Mohd Latif、

愛する子どもたち

Muhammad Hafiz, Noor Hazwani, Abdul Hakim, Noor Hidayah, Nor Aqila と **Nor Atiqah**、

そして義理の息子・娘たち

Fazilah, Malek, Hanin, Fairizal と **Firwan** に捧げます。

本書は『預言者伝（スィーラ）』第 15 巻から第 21 巻までを一冊にまとめたものである。フダイビーヤの和約とリドワーンの誓い、ハイバルの戦い、アッラーの使徒 ﷺ の諸王への書簡、カダーのウムラ、ムウタの戦い、そしてマッカ征服までを収める。各巻の参考文献はそのまま残している。本書が私たちをアッラーの使徒 ﷺ により近づけ、制作に協力し、読み、広めるすべての人にとって、絶えることのない施し（サダカ・ジャーリヤ）となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

本書の表紙について

本書の表紙には、人間も動物も描かれていない。描かれているのは、太陽が地平線に低くかかる広い砂漠の平原である。点在するアカシアの木々、平原の中ほどにある古い井戸、そして金色の光に包まれた遠くの山並み。

木と井戸はフダイビーヤを思い起こさせる。一本の木の下で、教友たちはリドワーンの誓いによってアッラーの使徒 ﷺ に忠誠を誓い、フダイビーヤの井戸ではかれの祝福によって水があふれ出た。初めは厳しく見えたその和約を、アッラーは明白な勝利と呼ばれた。そしてそれは、大きな流血なくマッカが開かれるまでの道を開いたのである。

下部の紺色の帯は細い金の線に縁取られ、そこに著者名が記されている。この全集の五冊の表紙の題字は、同じ書体・大きさ・金色でそろえてあり、並べると一つのセットに見えるようになっている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

第一部：第 15 巻 — フダイビーヤの和約

フダイビーヤの和約 — はじめに

1. アッラーの使徒の夢 🕋 — 勝利章 48:27

2. ウムラへの出発 — 『サヒーフ・ブハーリー』2731；スィーラ書

3. アル＝カスワーがひざまずく — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

4. あふれ出たフダイビーヤの井戸 — 『サヒーフ・ブハーリー』4150

5. クライシュの使者たち — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

6. マッカへ向かうウスマーン — 『サヒーフ・ブハーリー』3698；スィーラ書

7. リドワーンの誓い — 『サヒーフ・ブハーリー』4169；勝利章 48:10

8. 「地上で最も優れた人々」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4154；『サヒーフ・ムスリム』2496

9. 木の下でのアッラーの満悦 — 勝利章 48:18

10. 忘れられた木 — 『サヒーフ・ブハーリー』4163

11. スハイル・ブン・アムルの到着 — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

12. 和約の起草 — 『サヒーフ・ムスリム』1784

13. 和約の条件 — 図；『サヒーフ・ブハーリー』2731

14. 足かせのアブー・ジャンダル — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

15. ウマルの動揺 — 『サヒーフ・ブハーリー』3182

16. ウンム・サラマの助言 — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

17. タハッルル：犠牲を屠り、髪を剃る — 雌牛章 2:196

18. 勝利章の啓示 — 『サヒーフ・ブハーリー』4177

19. それは勝利なのか？ — 『サヒーフ・ブハーリー』4172、4150

20. アブー・バスィール：約束された出口 — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

21. 移住してきた女性たち — 試問される女章 60:10

22. 交渉の技 — 戦利品章 8:61

23. フダイビーヤの物語の典拠 — 図；表

24. 残った者たちと隠れた者たち — 勝利章 48:11–17、20–25；表

25. フダイビーヤにおける協議と諸規定 — 『サヒーフ・ブハーリー』4178、4179、4159；雌牛章 2:196

26. フダイビーヤの和約の人物 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』2731；『サヒーフ・ムスリム』1856、1858

27. フダイビーヤへの道の地名 — 表

28. フダイビーヤの和約の年表 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』1778

29. フダイビーヤの和約についてのよくある質問 — 12 の質問

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

30. 教訓と結び

第 15 巻の参考文献

第二部：第 16 巻 — ハイバルの戦い

ハイバルの戦い — はじめに

1. ハイバル：オアシスの中の砦の町 — スィーラ書

2. 約束された近い勝利 — 勝利章 48:18–21

3. 夜の行軍とアーミルの詩 — 『サヒーフ・ブハーリー』4196

4. 「ハイバルは滅びた！」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4197

5. 砦から砦へ — 図；スィーラ書

6. 一人の男への旗 — 『サヒーフ・ブハーリー』4210

7. 赤いラクダよりも良いもの — 『サヒーフ・ブハーリー』4210

8. マルハブとアル＝カムースの砦 — 『サヒーフ・ムスリム』1807；スィーラ書

9. 行いは最期によって決まる — 『サヒーフ・ブハーリー』4202

10. 燃える外套 — 『サヒーフ・ブハーリー』4234；イムラーン家章 3:161

11. 飼いロバの肉 — 『サヒーフ・ブハーリー』4217

12. 収穫折半の協定 — 『サヒーフ・ブハーリー』2285

13. サフィーヤ：捕虜から信者たちの母へ — 『サヒーフ・ブハーリー』5086

14. ジャアファルと船の人々 — 『サヒーフ・ブハーリー』4230

15. ハイバルに着いたアブー・フライラ — 『サヒーフ・ブハーリー』4237

16. 毒入りの羊の肉 — 『サヒーフ・ブハーリー』3169

17. 生涯の終わりまで残った毒の影響 — 『サヒーフ・ブハーリー』4428

18. ファダクとファイの財 — 集合章 59:6–7

19. 戦利品の分配 — 戦利品章 8:41

20. 宗教に強制なし — 雌牛章 2:256

21. ハイバルの物語の典拠 — 図；表

22. ハイバルからの帰路 — 『サヒーフ・ブハーリー』4205、2889；『サヒーフ・ムスリム』680

23. ハイバルからの法規定 — 『サヒーフ・ブハーリー』4216、853、2201；『サヒーフ・ムスリム』1406、1591

24. ハイバルの戦いの人物 — 表；『サヒーフ・ムスリム』1807

25. ハイバルの昔と今 — 地理と考古学

26. ハイバルの戦いの年表 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』2338

27. ハイバルの戦いについてのよくある質問 — 12 の質問

28. 教訓と結び

第 16 巻の参考文献

第三部：第 17 巻 — 諸王への書簡

諸王への書簡 — はじめに

1. フダイビーヤの後：宣教の扉が開く — スィーラ書

2. 全人類への使徒 — サバア章 34:28；『サヒーフ・ブハーリー』335

3. 万有への慈悲 — 預言者章 21:107

4. 「ムハンマド・ラスールッラー」の銀の指輪 — 『サヒーフ・ブハーリー』65

5. すべての支配者への書簡 — 『サヒーフ・ムスリム』1774

6. 六人の使者、六つの方向 — 図；スィーラ書

7. ヘラクレイオスとローマの勝利 — ビザンチン章 30:2–4；『サヒーフ・ブハーリー』2941

8. ヘラクレイオスの宮廷のアブー・スフヤーン — 『サヒーフ・ブハーリー』7

9. ヘラクレイオスの十の問い — 『サヒーフ・ブハーリー』7

10. 「イスラームに入りなさい、そうすれば安全です」 — イムラーン家章 3:64

11. ヘラクレイオスとその王座 — 『サヒーフ・ブハーリー』7

12. 書簡を引き裂いたキスラー — 『サヒーフ・ブハーリー』4424

13. イエメンのバーザーンとキスラーの死 — スィーラ書

14. 「かれの後にキスラーはいない」 — 『サヒーフ・ブハーリー』3121

15. ナジャーシー：誰も虐げない王 — 食卓章 5:83；スィーラ書

16. 一人の王のための葬儀の礼拝 — 『サヒーフ・ブハーリー』1245、3877

17. エジプトの長官アル＝ムカウキス — スィーラ書

18. アラブの王たち：ガッサーン、ヤマーマ、バハレーン、オマーン — スィーラ書

19. スマーマ・ブン・ウサール：品性にとらえられた指導者 — 『サヒーフ・ブハーリー』4372

20. 英知をもって招きなさい — 蜜蜂章 16:125；イムラーン家章 3:20

21. 諸王への書簡の伝承の出典 — 図；表

22. アッラーの使徒 ﷺ の使者たち：かれらは誰か — 表；『サヒーフ・ブハーリー』3634、93、3053；『スナン・アビー・ダーウード』2761

23. 支配者たちからの贈り物 — 『サヒーフ・ブハーリー』3161、2615；『スナン・アビー・ダーウード』3057

24. 書記たちと書簡の言語 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』2715；『サヒーフ・ムスリム』2501

25. 今日発見されている書簡の写本 — 歴史；真正性は議論あり

26. 諸王への書簡の年表 — 表

27. 諸王への書簡についてのよくある質問 — 12 の質問

28. 教訓と結び

第 17 巻の参考文献

第四部：第 18 巻 — カダーのウムラ

カダーのウムラ — はじめに

1. フダイビーヤの一年後 — 『サヒーフ・ブハーリー』4252

2. 真実の夢 — 勝利章 48:27

3. 四つのウムラ — アッラーの使徒 ﷺ — 『サヒーフ・ブハーリー』1778

4. 聖月には聖月 — 雌牛章 2:194

5. マディーナからの旅 — 図；スィーラ書

6. マッカの入口でのイブン・ラワーハの詩 — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2847

7. 「ヤスリブの熱病に弱められた」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4256

8. 今日まで続くラマルのスンナ — 『サヒーフ・ブハーリー』4257、1605

9. サファーとマルワ — 雌牛章 2:158

10. ウマルと黒石 — 『サヒーフ・ブハーリー』1597

11. 聖殿：人びとのための最初の家 — イムラーン家章 3:96–97

12. 三日間だけ — 『サヒーフ・ブハーリー』4252；悔悟章 9:7

13. ハムザの娘：「おじさま！」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4251

14. 「母方のおばは母と同じ」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4251

15. 乳兄弟 — 婦人章 4:23；『サヒーフ・ブハーリー』2645

16. マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス — 『サヒーフ・ブハーリー』4258

17. イフラーム中か、その後か — 『サヒーフ・ムスリム』1411、1409

18. サリフでの披露宴 — スィーラ書

19. ウムラの後：ハーリドとアムルの入信 — 『サヒーフ・ムスリム』121；スィーラ書

20. 私たちの生活の中のウムラ — 雌牛章 2:196；『サヒーフ・ブハーリー』1773

21. カダーのウムラの出典 — 図；表

22. カダーのウムラの背後にあるクルアーンの節 — 表；22:25；2:217；48:25

23. カダーのウムラの人物たち — 表；『サヒーフ・ブハーリー』4255

24. 礼拝行為が妨げられたとき：イフサールとイフラームの条件付け — 『サヒーフ・ブハーリー』1810、5089；『スナン・アビー・ダーウード』1862

25. マイムーナの家：イブン・アッバースの学び舎 — 『サヒーフ・ブハーリー』183、75、1989

26. 年表：フダイビーヤからムウタへ — 表

27. カダーのウムラに関するよくある質問 — 12 の質問

28. 教訓と結び

第 18 巻の参考文献

第五部：第 19 巻 — ムウタの戦い

ムウタの戦い — はじめに

1. カダーのウムラの後 — スィーラ書；図

2. 一度の任命で三人の指揮官 — 『サヒーフ・ブハーリー』4261

3. ザイド・ブン・ハーリサ：指揮にふさわしい人 — 『サヒーフ・ブハーリー』3730；部族連合章 33:37

4. ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ：貧しい人びとの友 — 『サヒーフ・ブハーリー』3708

5. アブドゥッラー・ブン・ラワーハ：出発前の涙 — マルヤム章 19:71；スィーラ書

6. シャームの地への道のり — 図；スィーラ書

7. マアーンでの協議 — 図；スィーラ書

8. 「少数の集団が……」 — 雌牛章 2:249；戦利品章 8:45–46

9. ジャアファル：前面に受けた五十の傷 — 『サヒーフ・ブハーリー』4260

10. 二つの翼を持つ者 — 『サヒーフ・ブハーリー』4264

11. イブン・ラワーハ：「わが魂よ……」 — スィーラ書

12. アッラーの剣の一つ — 『サヒーフ・ブハーリー』1246；図

13. 折れた九本の剣 — 『サヒーフ・ブハーリー』4265

14. 知らせより先の知らせ — 『サヒーフ・ブハーリー』4262

15. マダディーの男と指揮官への服従 — 『サヒーフ・ムスリム』1753；アブー・ダーウード 2719

16. 涙を流されたアッラーの使徒 🕸 — 『サヒーフ・ブハーリー』4263；雌牛章 2:155–157

17. ジャアファルの家族のための食事 — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998；アブー・ダーウード 4192

18. 「いや、かれらは生きている」 — イムラーン家章 3:169–171；『サヒーフ・ムスリム』1887

19. 殉教者たちの願い — 『サヒーフ・ブハーリー』2817；部族連合章 33:23

20. 勝利か、撤退か — スィーラ書；表

21. ウサーマ：受け継がれた旗 — 『サヒーフ・ブハーリー』3730、4469

22. 今日のムウタ — 歴史

23. ムウタの戦いの物語の出典 — 表

24. ザート・アッ＝サラースィルの遠征：ムウタの後 — 『サヒーフ・ブハーリー』4358；『スナン・アビー・ダーウード』334

25. ハバトの部隊と海辺の大魚 — 『サヒーフ・ブハーリー』4361、4362；食卓章 5:96

26. ムウタの戦いの人物たち — 表

27. ムウタとその後の遠征から導かれる法規定 — 表；戦利品章 8:15–16

28. 年表：ムウタからマッカ征服へ — 表

29. ムウタの戦いに関するよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

第 19 巻の参考文献

第六部：第 20 巻 — マッカ征服（一）

マッカ征服（一） — 序論

1. **フダイビーヤから二年** — 図；スィーラ書
2. **ヘラクレイオスの前のアブー・スフヤーン** — 『サヒーフ・ブハーリー』7
3. **フザーア族：ハーシム家の古い同盟者** — スィーラ書
4. **ワティールでの夜襲** — 図；スィーラ書
5. **破られた盟約** — 悔悟章 9:12–13；『サヒーフ・ブハーリー』3188
6. **アムル・ブン・サーリムの訴え** — スィーラ書
7. **マディーナのアブー・スフヤーン** — スィーラ書
8. **ウンム・ハビーバ：アビシニアからの妻** — 『サヒーフ・ムスリム』728；スィーラ書
9. **約束を守り、裏切りに報いる** — 蜜蜂章 16:91；戦利品章 8:58
10. **秘密裏の準備** — 『サヒーフ・ブハーリー』3030；スィーラ書
11. **戦いにおけるアッラーの使徒** 🕸 — 雌牛章 2:190；『サヒーフ・ムスリム』1731
12. **髪の中の手紙** — 『サヒーフ・ブハーリー』4274
13. **ハーティブ・ブン・アビー・バルタアとは誰か** — スィーラ書；第 17 巻
14. **試問される女章** — 試問される女章 60:1、60:8
15. **バドルの人々と赦しの門** — 『サヒーフ・ムスリム』2495
16. **ラマダーン月の一万の軍勢** — 『サヒーフ・ブハーリー』4276；図
17. **旅の途中の斎戒** — 『サヒーフ・ムスリム』1114；雌牛章 2:185
18. **「望む者は斎戒せよ」** — 『サヒーフ・ブハーリー』4279
19. **ラマダーン：勝利の月** — 雌牛章 2:185
20. **帰るべき所へ** — 物語章 28:85；『サヒーフ・ブハーリー』4773
21. **聖域のためのイブラーヒームの祈り** — イブラーヒーム章 14:35、14:37；イムラーン家章 3:96
22. **アル＝アッバースの移住** — スィーラ書
23. **かつて傷つけた二人の親族** — ユースフ章 12:92；スィーラ書
24. **マッル・アッ＝ザフラーンの火** — 『サヒーフ・ブハーリー』4280；図
25. **アブー・スフヤーンの入信** — 『サヒーフ・ブハーリー』4280；スィーラ書
26. **ハキーム・ブン・ヒザーム：無駄にならない善行** — 『サヒーフ・ブハーリー』1436、1472
27. **次々と続く部隊** — 『サヒーフ・ブハーリー』4280
28. **「アッラーがカアバを尊ばれる日」** — 『サヒーフ・ブハーリー』4280；スィーラ書
29. **サアド・ブン・ウバーダ：アンサールの指導者** — 『サヒーフ・ブハーリー』2756；スィーラ書
30. **第一部の物語の典拠** — 表
31. **征服の前と後** — 鉄章 57:10；『サヒーフ・ムスリム』2541
32. **第一部の人物** — 表

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

33. マディーナからマッル・アッ＝ザフラーンまでの地名 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』4275

34. 第一部から得られる法規定 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』3007

35. 第一部の年表 — 表

36. マッカ征服（一）に関するよくある質問 — 12 の質問

37. 教訓と結び

第 20 巻の参考文献

第七部：第 21 巻 — マッカ征服（二）

マッカ征服（二） — 序

1. 征服の日の夜明け — 『サヒーフ・ブハーリー』4281；図

2. 垂れた頭 — 『サヒーフ・ブハーリー』4289；スィーラ書

3. 四つの部隊、一つの目的地 — 『サヒーフ・ムスリム』1780；図

4. 「わたしの生はあなたがたの生」 — 『サヒーフ・ムスリム』1780

5. 安全の扉 — 『サヒーフ・ムスリム』1780；図

6. アル＝ハンダマでの小競り合い — 『サヒーフ・ブハーリー』4280；スィーラ書

7. 鉄の兜と除外された者たち — 『サヒーフ・ブハーリー』1846；スィーラ書

8. 「真理は下った」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4287；夜の旅章 17:81

9. カアバの中の絵 — 『サヒーフ・ブハーリー』4288；食卓章 5:3

10. アッラーの館の中で — 『サヒーフ・ブハーリー』4289

11. カアバの鍵と信託 — 女性章 4:58；スィーラ書

12. カアバの上のアザーン — 部屋章 49:13；スィーラ書

13. 「あなたがたに咎めはない」 — ユースフ章 12:92；スィーラ書

14. 翌日の説教 — 『サヒーフ・ブハーリー』104

15. 審判の日までの聖域 — 『サヒーフ・ブハーリー』1834；イムラーン家章 3:97

16. 「征服の後にヒジュラはない」 — 『サヒーフ・ブハーリー』1834

17. ヒンド・ビント・ウトバ — 『サヒーフ・ブハーリー』3825

18. 女性たちの忠誠の誓い — 『サヒーフ・ブハーリー』4891；試問される女章 60:12

19. イクリマ・ブン・アビー・ジャハル — スィーラ書

20. サフワーン・ブン・ウマイヤ — 『サヒーフ・ムスリム』2313；スィーラ書

21. アブー・クハーファ：染められた白髪 — 『サヒーフ・ムスリム』2102

22. マッカ周辺の偶像 — スィーラ書

23. ハーリドとジャズィーマ族 — 『サヒーフ・ブハーリー』4339

24. 待っていた諸部族 — 『サヒーフ・ブハーリー』4302

25. 援助章 — 援助章 110:1–3；『サヒーフ・ブハーリー』4970

26. マッカでの 19 日間 — 『サヒーフ・ブハーリー』4298

27. 追われた日、戻った日 — 表

28. 第二部の物語の典拠 — 表

29. 征服の日の背後にあるクルアーンの節 — 表；サバア章 34:49

30. 除外された者たちとその結末 — 表；『スナン・アン＝ナサーイー』4067

31. ウンム・ハーニー、マフズーム族の女性、征服の日の諸規定 — 『サヒーフ・ブハーリー』357、4304

32. 第二部の人物 — 表

33. カアバと聖なるマスジド：昔と今 — 『サヒーフ・ブハーリー』1586

34. 第二部の年表 — 表

35. マッカ征服（第二部）についてのよくある質問 — 12 の質問

36. 教訓と結び

第 21 巻の参考文献

支援と寄付

色の案内：緑の枠＝クルアーンの節、金色の枠＝ハディース、茶色の枠＝注（弱い伝承または補足説明）、青い表＝比較。青い下線付きの伝承者名をクリックすると、sunnah.com のその伝承者のページが開きます。

第一部

フダイビーヤの和約

預言者伝（スィーラ）— 第 15 巻

リドワーンの誓いと明白な勝利 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

フダイビーヤの和約

ヒジュラから 6 年がたっても、移住者たちはなおマッカとカアバを慕っていました。かれらはバドル、ウフド、ハンダク、そしてさまざまな試練をくぐり抜けてきました（第 9〜14 巻）。**ヒジュラ暦 6 年ズル＝カアダ月**、アッラーの使徒 ﷺ は約 **1,400 人**の教友とともに出発されました — 戦うためではなく、**ウムラを行う**ためです。

クライシュは、聖域の端にある**アル＝フダイビーヤ**でかれらを阻みました。そのぶつかり合いから一つの和平条約が生まれましたが、その条件はムスリムにとって**不利**に見え、ウマル رضي الله عنه でさえ動揺したほどでした。しかし帰り道、アッラーは**勝利章**を下し、その条約を「**明白な勝利**」と名づけられたのです。

この話は、アル＝ミスワル・ブン・マフラマとマルワーンによって、『サヒーフ・ブハーリー』の中でも最も長いハディースの一つとして詳しく伝えられています（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。それは私たちに**忍耐、服従、交渉の知恵**を教え、敗北に見えるものが、どのように勝利になりうるかを教えてくれます。

フダイビーヤの和約の年表（ヒジュラ暦6年ズル＝カアダ月）

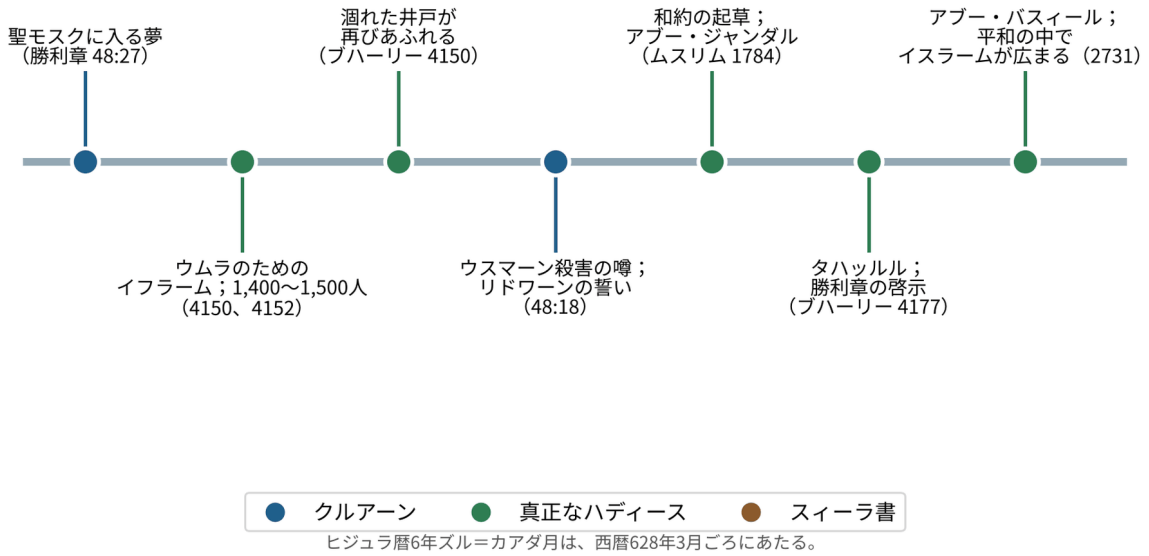


図 1：フダイビーヤの和約の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

アッラーの使徒の夢 ﷺ

この旅は一つの**夢**から始まりました。アッラーの使徒 ﷺ は、ご自身と教友たちが安らかに聖モスクに入り、頭を剃り、また髪を短くする夢を見られました。預言者たちの夢は**啓示**です。そこで教友たちは喜び、出発の支度をしました。アッラーはのちに、勝利章でこの夢に触れられました：

「アッラーはその使徒に、真実をもって夢を確かなものとされた。あなたがたは、アッラーが御望みなら、必ず安全に聖モスクに入るであろう」『イブン・カスィール注釈』48:27。

しかし、その夢は**年を示していません**でした。教友たちはその年のうちに実現すると思っていたので、阻まれたとき、多くの者が落胆しました。イブン・カスィールは、アッラーがそれを **1 年**延ばされ、ヒジュラ暦 7 年のウムラ・アル＝カダーで本当に実現したと説明しています。

教訓：アッラーの約束は**必ず真実**ですが、その時はアッラーの知識によって決まり、私たちの思い込みによってではありません。アッラーご自身が時を定められなかった約束に、私たちが時を定めるとき、失望が生まれやすいのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウムラへの出発

アッラーの使徒 ﷺ は、ズル＝カアダ月にマディーナを出発されました。それはアラブの人々が敬い、戦いが禁じられていた**聖なる月**の一つです。**ズル・フライファ**で、使徒と教友たちはウムラのイフラームに入り、使徒は**犠牲の動物（ハドユ）**に印をつけ、首飾りをかけられました。礼拝のために来たことを示すためです（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

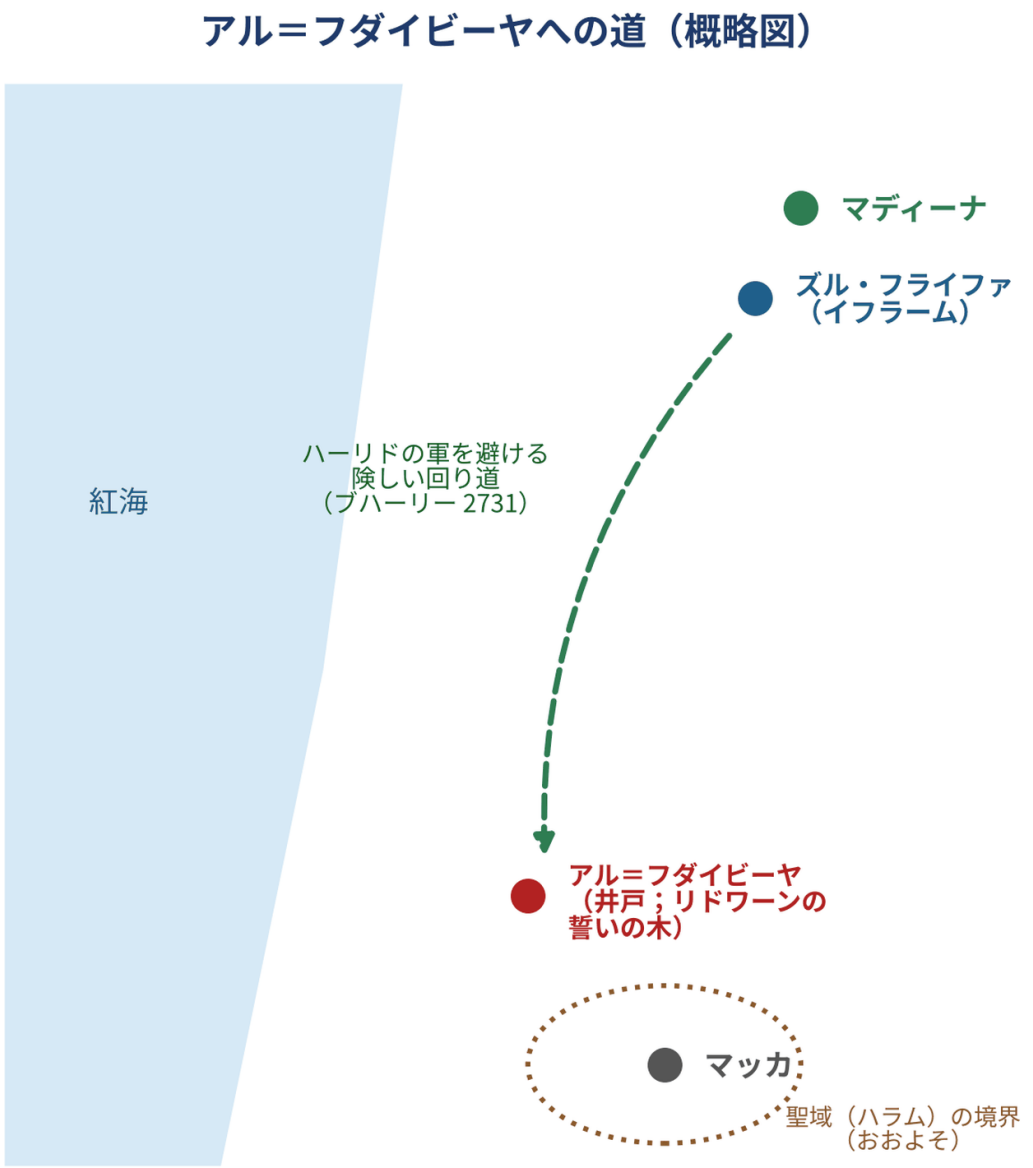


図 2：マディーナからアル＝フダイビーヤへの旅（概略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

しるし	クライシュへのメッセージ
聖なる月（ズル＝カアダ月）	私たちは戦うために来たのではない
イフラームの衣	私たちはウムラの巡礼者として来た
首飾りをかけた犠牲の動物	私たちはカアバを敬うために来た
鞘に収めた剣だけ	旅人の武器だけ（スィーラ書）

ジャービルとアル＝バラーウのハディースは、かれらの人数を **1,400 人**、または **1,500 人**と伝えています（第 4 章）。教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**平和から始め**、明確な行動によって意図を示し、攻撃する口実を与えられませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：18 / 522

聖月

アッラーは仰せられます：「まことにアッラーの御許での月の数は 12 か月である… そのうち **4 か月は聖なる月**である」（悔悟章 9:36）。その 4 か月とは**ズル＝カアダ月、ズル＝ヒッジャ月、ムハッラム月、ラジャブ月**です。ジャーヒリーヤのアラブ人自身もこれらの月を敬い、その間は戦いをやめていました。

ズル＝カアダ月を選ぶことで、アッラーの使徒 ﷺ はクライシュを**ジレンマ**に置かれました。もし聖なる月に武器を持たないウムラの巡礼者を阻めば、かれらはアラブの諸部族の目に不正な者と映るからです。教訓：**正しい時を選ぶこと**は知恵の一部です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アル＝カスワーがひざまずく

使徒が**ウスファーン**に着かれたとき、クライシュが阻む準備をし、**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**（当時はまだムスリムではなかった）が騎兵を率いてアル＝ガミームで待ち構えているという知らせが届きました。アッラーの使徒 ﷺ はかれらと衝突しないよう、丘を越える険しい**別の道**を選ばれました（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

マッカへ下る丘に着いたとき、使徒のラクダ**アル＝カスワー**が突然**ひざまずき**、立ち上がろうとしませんでした。人々は「アル＝カスワーが強情を張った！」と言いました。使徒は仰せられました：「**アル＝カスワーは強情を張ったのではなく、それはその性質でもない。象を（マッカから）押しとどめた御方が、これを押しとどめられたのだ。**」 それから仰せられました：「**わたしの魂をその御手に握る御方にかけて、かれらがアッラーの聖なるものを敬う計らいを求めてくるなら、わたしは必ずそれを与えよう。**」（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

「象を押しとどめた御方」とは、使徒の誕生の年にマッカへ入ることを阻まれた**アブラハの象の軍勢**の出来事を指しています（象章）。アッラーの使徒 ﷺ は、そのときアッラーが聖域で**血が流されることを望まれていない**ことを理解されたのです。

教訓：指導者は**しるし**を読み取り、流血から最も遠い道を選びます。**アッラーの聖なるものを敬うどんな計らいでも**受け入れようとされた使徒の姿勢が、その後の和約の土台となりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

押しとどめられた象

「象を押しとどめた御方に押しとどめられた」という使徒の言葉は、**象の年**の出来事を思い起こさせます。アッラーは仰せられます：「あなたは、あなたの主が象の仲間をどのように扱われたかを見なかったか」（象章 105:1）。アブラハはカアバを壊すために象を連れて来ましたが、その象はマッカの方へ進もうとせず、アッラーはかれの軍勢を滅ぼされました。

二つの出来事は、アッラーが**聖域の神聖さを守られる**ことを示しています。しかし今回は目的が違いました。アッラーがアッラーの使徒 ﷺ のラクダを押しとどめられたのは、誰かを滅ぼすためではなく、**流血を避け**、和平への道を開くためだったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

あふれ出たフダイビーヤの井戸

アッラーの使徒 ﷺ はアル＝フダイビーヤの谷の端、水のごく少ない井戸のそばで止まられました。何千もの人とラクダがいたので、井戸はすぐに涸れてしまいました。アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه はそのとき起きたことを語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4150 番

حَدَّثَنَا عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ مُوسَى، عَنْ إِسْرَائِيلَ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الْبَرَاءِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ تَعُدُّونَ أَنْتُمُ الْفَتْحَ فَتْحَ مَكَّةَ، وَقَدْ كَانَ فَتْحُ مَكَّةَ فَتْحًا، وَنَحْنُ نَعُدُّ الْفَتْحَ بَيْعَةَ الرِّضْوَانِ يَوْمَ الْحُدَيْبِيَةِ. كُنَّا مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم أَرْبَعَ عَشْرَةَ مِائَةً، وَالْحُدَيْبِيَةُ بِئْرٌ فَنَزَحْنَاهَا، فَلَمْ نَتْرُكْ فِيهَا قَطْرَةً، فَبَلَغَ ذَلِكَ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَأَتَاهَا، فَجَلَسَ عَلَى شَفِيرِهَا، ثُمَّ دَعَا بِإِنَاءٍ مِنْ مَاءٍ فَتَوَضَّأَ ثُمَّ مَضْمَضَ وَدَعَا، ثُمَّ صَبَّهُ فِيهَا فَتَرَكْنَاهَا غَيْرَ بَعِيدٍ ثُمَّ إِنَّهَا أَصْدَرَتْنَا مَا شِئْنَا نَحْنُ وَرِكَابُنَا.

訳：

アル＝バラーウ رضى الله عنه は言った：「**あなたがたは、勝利（アル＝ファトフ）とはマッカの解放のことだと思っている — マッカの解放もたしかに勝利である — だが私たちは、フダイビーヤの日のリドワーンの誓いこそが勝利だと考えている。** 私たちは預言者 ﷺ とともに ***1,400*** 人いた。アル＝フダイビーヤとは一つの井戸のことで、私たちが水を汲み尽くしたので一滴も残らなかった。その知らせが預言者 ﷺ に届くと、使徒は来て井戸のそばに座られた。水の入った器を求められ、ウドゥーをして口をすすぎ、祈られ、それを井戸に注がれた。私たちはしばらくそのままにしておいた。**すると井戸は、私たちと乗用の家畜が望むだけ水を与えてくれたのだ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイドゥッラー・ブン・ムーサー ← イスラーイール ← アブー・イスハーク ← バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4150 番；第 3577 番にも。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4150

注目してください：教友たちにとって**真の勝利**とは、マッカの解放ではなく、リドワーンの誓いでした（第 19 章）。

指の間からの水

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما も、同じ日に起きた水にまつわるもう一つの奇跡を伝えています：

ハディース —『サヒーフ・ブハーリー』第 4152 番

حَدَّثَنَا يُوسُفُ بْنُ عِيسَى، حَدَّثَنَا ابْنُ فُضَيْلٍ، حَدَّثَنَا حُصَيْنٌ، عَنْ سَالِمٍ، عَنْ جَابِرٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ عَطِشَ النَّاسُ يَوْمَ الْحُدَيْبِيَةِ وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بَيْنَ يَدَيْهِ رَكْوَةٌ، فَتَوَضَّأَ مِنْهَا، ثُمَّ أَقْبَلَ النَّاسُ نَحْوَهُ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَا لَكُمْ. قَالُوا يَا رَسُولَ اللَّهِ لَيْسَ عِنْدَنَا مَاءٌ نَتَوَضَّأُ بِهِ، وَلاَ نَشْرَبُ إِلاَّ مَا فِي رَكْوَتِكَ. قَالَ فَوَضَعَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَدَهُ فِي الرَّكْوَةِ، فَجَعَلَ الْمَاءُ يَفُورُ مِنْ بَيْنِ أَصَابِعِهِ كَأَمْثَالِ الْعُيُونِ، قَالَ فَشَرِبْنَا وَتَوَضَّأْنَا. فَقُلْتُ لِجَابِرٍ كَمْ كُنْتُمْ يَوْمَئِذٍ قَالَ لَوْ كُنَّا مِائَةَ أَلْفٍ لَكَفَانَا، كُنَّا خَمْسَ عَشْرَةَ مِائَةً.

訳：

ジャービル عنه رضى الله は言った：**フダイビーヤの日、人々はのどが渇いていた。アッラーの使徒 ﷺ の前には小さな水の器（ラクワ）があり、使徒はそれでウドゥーをされた。人々は使徒の方へやって来た。** 使徒は「どうしたのか」と尋ねられた。かれらは「アッラーの使徒よ、あなたの器にある水のほかには、ウドゥーをする水も飲む水もありません」と答えた。**そこで預言者 ﷺ が手を器に入れられると、指の間から泉のように水が湧き出し始めた。** 私たちは飲み、ウドゥーをした。（サーリムは言った：）私は

ジャービルに「そのとき何人いたのですか」と尋ねた。かれは答えた：「たとえ 10 万人いても足りただろう。私たちは **1,500 人**だった。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ユースフ・ブン・イーサー ← イブン・フダイル ← フサイン・ブン・アブドゥッラフマーン ← サーリム・ブン・アビー・アルジャアド ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4152 番；第 3576 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1856 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4152

奇跡	説明
あふれ出た井戸	使徒のウドゥーの水と祈りが涸れた井戸に注がれた（4150）
指の間からの水	使徒の指の間から泉のように水が湧き出た（4152）
人数	1,400〜1,500 人が飲み、ウドゥーをした
証人	アル＝バラーウとジャービル — 二人ともその場にいた

教訓：和約という大きな試練の前に、アッラーは、かれら自身が目にした奇跡によって教友たちの**信仰を強められ**ました。アッラーの助けを見た心は、試されたときに忍耐しやすいのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：24 / 522

クライシュの使者たち

クライシュは、ムスリムの目的を探るために何人かの使者を送りました。最初は、フザーア族の**ブダイル・ブン・ワルカー**です。アッラーの使徒 ﷺ はかれに仰せられました：「**私たちは誰とも戦うために来たのではなく、ウムラを行うために来たのだ。戦いはクライシュを弱らせてしまった…。もしかれらが望むなら、わたしはかれらと一定期間の和平を結ぶ用意がある。**」（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

次に**ウルワ・ブン・マスウード・アッ＝サカフィー**がやって来ました。かれは教友たちを注意深く観察し、帰ってクライシュにこう言いました：「**わが民よ、アッラーにかけて、私はカイサル、キスラー、ナジャーシーといった王たちに会ってきたが、ムハンマドの教友たちがムハンマドを敬うほどに、家来から敬われている王を見たことがない。**」 かれは、教友たちが使徒のウドゥーの水を争って受け、その前では声を低くし、敬意のあまり使徒をじっと見つめることもしなかった様子を伝えました（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

使者	結果
ブダイル・ブン・ワルカー	和平の申し出をクライシュに伝えた
ウルワ・ブン・マスウード	教友たちの愛に感嘆し、受け入れるようクライシュに助言した
キナーナ族の男	首飾りをかけた犠牲の動物を見て「かれらを阻むべきではない！」
ミクラズ・ブン・ハフス	使徒が「悪い男」と評した

教訓：**品性と愛情** — 教友たちがアッラーの使徒 ﷺ に向けたもの — こそ、最も効果のあるダアワとなりました。敵の使者は、恨みではなく感嘆を抱いて帰って行ったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真の愛

ウルワ・ブン・マスウードが見たものは、単なる礼儀ではなく**信仰**でした。アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました：「**あなたがたのうち誰も、わたしがその者にとって父や子やすべての人々よりも愛しい存在とならない限り、（完全に）信仰したことにはならない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』15）。

教友たちの愛は、その後フダイビーヤで試されました。使徒の決定が自分の気持ちに反しても、かれらは従うだろうか。教訓：アッラーの使徒 ﷺ への真の愛は、外面の敬意だけでなく**服従**によって証明されます。

マッカへ向かうウスマーン

アッラーの使徒 ﷺ は次に**ウスマーン・ブン・アッファーン** رضى الله عنه をマッカに遣わし、自分たちの目的を説明させました。ウスマーンにはマッカに、かれを守ることのできる有力な一族がいたからです。

スィーラの注：世間を騒がせた噂

スィーラ書は、クライシュがウスマーンにカアバのタワーフを許そうとしたが、かれが断ったと伝えています：「**アッラーの使徒 ﷺ がタワーフをされるまで、私はタワーフをしない。**」クライシュはかれを予想以上に長く引き留めたので、**ウスマーンが殺されたという噂**が広まりました。

使者を殺すことは、アラブの慣習では重大な裏切りでした。そこでアッラーの使徒 ﷺ は、教友たちに誓いを立てるよう呼びかけられたのです（第 7 章）。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

真正なハディースは、ウスマーンへのたいへん大きな栄誉を記録しています。アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は、ウスマーンがマッカに遣わされていたためリドワーンの誓いに居合わせなかったことを説明し、こう述べました：「**アッラーの使徒 ﷺ は右手を示して『これはウスマーンの手だ』と仰せになり、それを（もう一方の）手に打ち合わせて『これはウスマーンのためだ』と仰せられた。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3698）。

教訓：ウスマーンは**個人的な機会を取らず**、アッラーの使徒 ﷺ より先にタワーフをしようとはしませんでした。そしてアッラーの使徒 ﷺ は、任務のために不在だった教友の**権利を守られ**、ご自身の手がウスマーンの手となったのです。

リドワーンの誓い

ウスマーンについての噂が届くと、アッラーの使徒 ﷺ は**一本の木**の下に座り、教友たちに誓いを呼びかけられました。かれらは次々に押し寄せました。その誓いの内容は何だったのでしょうか。誓った者の一人、サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضي الله عنه が簡潔に答えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4169 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا حَاتِمٌ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ أَبِي عُبَيْدٍ، قَالَ قُلْتُ لِسَلَمَةَ بْنِ الأَكْوَعِ عَلَى أَيِّ شَىْءٍ بَايَعْتُمْ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الْحُدَيْبِيَةِ. قَالَ عَلَى الْمَوْتِ.

訳：

ヤズィード・ブン・アビー・ウバイドは言った：**私はサラマ・ブン・アル＝アクワウに尋ねた。「フダイビーヤの日、あなたがたは何についてアッラーの使徒 ﷺ に誓いを立てたのですか。」** かれは答えた：**「死についてだ。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ハーティム・ブン・イスマーイール ← ヤズィード・ブン・アビー・ウバイド ← サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4169 番；第 2960 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1860 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4169

別の伝承では、ジャービル رضي الله عنه は、かれらが戦場から**逃げないこと**を誓ったと述べています（『サヒーフ・ムスリム』1856）。どちらも同じ意味です：最後の一滴の血まで忠実であるということです。かれらはイフラームの衣をまとい、剣を鞘に収めて来ましたが、真理のためには死ぬ覚悟がありました。

アッラーはその誓いをきわめて高い位に上げられました：**「本当にあなたに忠誠を誓う者たちは、アッラーに忠誠を誓うのである」**『イブン・カスィール注釈』48:10。

教訓：真の忠誠は、安楽なときではなく**危険**なときに試されます。そしてアッラーの使徒 ﷺ へのあらゆる約束は、実は**アッラーへの約束**なのです。

三度誓ったサラマ

イマーム・ムスリムの長い伝承の中で、サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضي الله عنه は、自分が人々の最初のほうで誓いを立てたと語っています。半ばまで来たとき、アッラーの使徒 ﷺ は「サラマよ、誓いなさい」と仰せられました。かれは「アッラーの使徒よ、私はもう誓いました」と答えました。使徒は「もう一度」と仰せられました。そして最後に、使徒はかれに**三度目**の誓いを求められました（『サヒーフ・ムスリム』1807）。

学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が戦いでの勇気と素早さゆえにサラマを**称えよう**とされたのだと説明しています。教訓：良い指導者は、従う者一人ひとりの**長所を知り**、それを大切にします。

「地上で最も優れた人々」

アッラーの使徒 ﷺ は、木の下で誓った人々に比類のない賛辞を与えられました。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4154 番

حَدَّثَنَا عَلِيٌّ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، قَالَ عَمْرٌو سَمِعْتُ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَالَ لَنَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الْحُدَيْبِيَةِ أَنْتُمْ خَيْرُ أَهْلِ الأَرْضِ. وَكُنَّا أَلْفًا وَأَرْبَعَمِائَةٍ، وَلَوْ كُنْتُ أُبْصِرُ الْيَوْمَ لأَرَيْتُكُمْ مَكَانَ الشَّجَرَةِ. تَابَعَهُ الأَعْمَشُ سَمِعَ سَالِمًا سَمِعَ جَابِرًا أَلْفًا وَأَرْبَعَمِائَةٍ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は言った：アッラーの使徒 ﷺ はフダイビーヤの日、私たちに仰せられた：「**あなたがたは地上の民の中で最も優れた者たちである。**」 私たちは 1,400 人だった。「**もし今日も私の目が見えたなら、あの木の場所をあなたがたに示したであろう。**」 アル＝アアマシュもこれを裏づけている：かれはサーリムから聞き、サーリムはジャービルから聞いた — 1,400 人と。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アル＝マディーニー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما；裏づけ：アル＝アアマシュ ← サーリム ← ジャービル。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4154 番；『サヒーフ・ムスリム』第 1856 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4154

ジャービルは年老いて目が見えなくなってから、このハディースを伝え、「もし私の目がまだ見えたなら、あの木の場所をあなたがたに示したであろう」と言いました。さらに、アッラーの使徒 ﷺ はかれらの来世について保証を与えられました：

ハディース —『サヒーフ・ムスリム』第 2496 番

حَدَّثَنِي هَارُونُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، حَدَّثَنَا حَجَّاجُ بْنُ مُحَمَّدٍ، قَالَ قَالَ ابْنُ جُرَيْجٍ أَخْبَرَنِي أَبُو الزُّبَيْرِ، أَنَّهُ سَمِعَ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ، يَقُولُ أَخْبَرَتْنِي أُمُّ مُبَشِّرٍ، أَنَّهَا سَمِعَتِ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ عِنْدَ حَفْصَةَ لاَ يَدْخُلُ النَّارَ إِنْ شَاءَ اللَّهُ مِنْ أَصْحَابِ الشَّجَرَةِ أَحَدٌ. الَّذِينَ بَايَعُوا تَحْتَهَا. قَالَتْ بَلَى يَا رَسُولَ اللَّهِ. فَانْتَهَرَهَا فَقَالَتْ حَفْصَةُ { وَإِنْ مِنْكُمْ إِلاَّ وَارِدُهَا} فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم قَدْ قَالَ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ { ثُمَّ نُنَجِّي الَّذِينَ اتَّقَوْا وَنَذَرُ الظَّالِمِينَ فِيهَا جِثِيًّا}

訳：

ウンム・ムバッシル رضى الله عنها は、預言者 ﷺ がハフサのそばでこう仰せられるのを聞いた：「**アッラーが御望みなら、あの木の人々（アスハーブ・アッ＝シャジャラ）の中で、その木の下で誓いを立てた者は誰一人、地獄の火に入ることはない。**」 ハフサは「いいえ（入るのでは）、アッラーの使徒よ」と言った。使徒はかの女をたしなめられた。ハフサは「あなたがたの中で、そこ（地獄）に来ない者は一人もいない」（マルヤム章 19:71）と読んだ。預言者 ﷺ は仰せられた：「**至高にして偉大なるアッラーは、『それからわれは、主を畏れた者たちを救い、不正な者たちをそこにひざまずかせたままにしておく』と仰せられている。**」（マルヤム章 19:72）。

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ハールーン・ブン・アブドゥッラー ← ハッジャージュ・ブン・ムハンマド ← イブン・ジュライジュ ← アブー・アッ＝ズバイル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー ← ウンム・ムバッシル رضى الله عنها。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』教友の美徳の書、木の人々の美徳の章、ハディース第 2496 番。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2496

アッラーの使徒 ﷺ とハフサ رضى الله عنها のやり取りに注目してください。ハフサは反論したのではなく、クルアーンの節に基づいて**理解するために尋ねた**のであり、使徒もまたクルアーンの節で答えられました。これが学びにおける話し合いの作法です。

教訓：リドワーンの誓いに加わった教友たちの地位はきわめて高いのです。かれらをののしることは、アッラーの使徒 ﷺ が称え、アッラーが満悦された人々をののしることになります（第 9 章）。

木の下でのアッラーの満悦

アッラーご自身が、審判の日まで読まれ続ける節の中で、かれらへの満悦を記録されました：「**アッラーは、信者たちが木の下であなたに忠誠を誓ったとき、かれらに満悦された**」『イブン・カスィール注釈』48:18。

この節があるからこそ、その誓いは**リドワーンの誓い** — 満悦の誓い — と呼ばれます。この節は、かれらへの四つの恵みを述べています：

恵み	48:18 の節の中で
アッラーの満悦	「アッラーは信者たちに満悦された」
アッラーは心の中をご存じ	「…かれらの心の中にあるもの」
安らぎ	「かれらの上に安らぎを下された」
近い勝利	「…近い勝利」（ハイバル）

アラビア語の**サキーナ**（安らぎ）という言葉は、勝利章の中で何度も繰り返されています（48:4、18、26）。和約の条件に教友たちの心が揺れたとき、アッラーはかれらが従い続けられるよう安らぎを下されました。教訓：心の安らぎは**アッラーの恵み**であり、人間の努力だけの結果ではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：34 / 522

忘れられた木

リドワーンの誓いの木はクルアーンに述べられています。しかしアッラーはその英知によって、その木を**忘れられたもの**とされ、誓った教友たち自身もそれを見つけられなくなりました。ターリク・ブン・アブドゥッラフマーンは語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4163 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودٌ، حَدَّثَنَا عُبَيْدُ اللَّهِ، عَنْ إِسْرَائِيلَ، عَنْ طَارِقِ بْنِ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، قَالَ انْطَلَقْتُ حَاجًّا فَمَرَرْتُ بِقَوْمٍ يُصَلُّونَ قُلْتُ مَا هَذَا الْمَسْجِدُ قَالُوا هَذِهِ الشَّجَرَةُ، حَيْثُ بَايَعَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بَيْعَةَ الرُّضْوَانِ. فَأَتَيْتُ سَعِيدَ بْنَ الْمُسَيَّبِ فَأَخْبَرْتُهُ فَقَالَ سَعِيدٌ حَدَّثَنِي أَبِي أَنَّهُ كَانَ فِيمَنْ بَايَعَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم تَحْتَ الشَّجَرَةِ، قَالَ فَلَمَّا خَرَجْنَا مِنَ الْعَامِ الْمُقْبِلِ نَسِينَاهَا، فَلَمْ نَقْدِرْ عَلَيْهَا. فَقَالَ سَعِيدٌ إِنَّ أَصْحَابَ مُحَمَّدٍ صلى الله عليه وسلم لَمْ يَعْلَمُوهَا وَعَلِمْتُمُوهَا أَنْتُمْ، فَأَنْتُمْ أَعْلَمُ.

訳：

ターリク・ブン・アブドゥッラフマーンは言った：**私はハッジに出かけ、礼拝している人々のそばを通った。「これは何のモスクですか」と尋ねると、かれらは「これは、アッラーの使徒 ﷺ がリドワーンの誓いを受けられた木です」と答えた。** 私はサイード・ブン・アル＝ムサイヤブのところへ行き、そのことを伝えた。サイードは言った：私の父は、自分がその木の下でアッラーの使徒 ﷺ に誓いを立てた者の一人だったと私に語った。父は言った：「**翌年に出かけたとき、私たちはそれを忘れてしまい、見つけることができなかった。**」 サイードは言った：「**ムハンマド ﷺ の教友たち自身がそれを知らなかったのに、あなたがたは知っているというのか。あなたがたのほうがよく知っているというのか。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：マフムード・ブン・ガイラーン ← ウバイドゥッラー・ブン・ムーサー ← イスラーイール ← ターリク・ブン・アブドゥッラフマーン ← サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ ← その父アル＝ムサイヤブ・ブン・ハズン رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4163 番；第 4162〜4165 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1859 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4163

最も学識あるタービイーンの一人サイード・ブン・アル＝ムサイヤブは、木の場所を知っていると主張する者を穏やかにたしなめました。その下で**誓いを立てた教友たち**でさえ知らなかったのに、どうしてあなたがたにわかるのか、と。

スィーラの注：ウマルとその木

イブン・サアドは、ウマル رضى الله عنه の時代に、人々が誓いの木と思われる一本の木のところへ礼拝に来るようになったため、ウマルが**それを切り倒すよう命じた**と伝えています。崇拝の場となることを恐れたからです。この伝承はよく知られていますが、その伝承経路については学者たちの間で**議論があります**（イブン・ハジャルが『ファトフ・アル＝バーリー』で触れている）。

参照：

イブン・サアド『大列伝』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』— ハディース 4163 の注釈。https://sunnah.com/bukhari:4163

教訓：イスラームは**タウヒードの純粋さを守ります**。敬われるのは出来事とアッラーの満悦であって、木の幹ではありません。木が忘れられた英知は、誰もそれを崇拝の場にしないためでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：36 / 522

スハイル・ブン・アムルの到着

やがてウスマーンは無事に戻り、クライシュは弁舌に優れた**スハイル・ブン・アムル**を交渉のために送ってきました。かれが来るのを見たアッラーの使徒 ﷺ は、前向きな調子で仰せられました：「**あなたがたの事は容易になった（サフラ）。**」 — スハイルという名の意味にかけた言葉です（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

アッラーの使徒 ﷺ は**良い名や良いしるしを好まれ**（タファーウル）、縁起を悪く取ること（タタイユル）を禁じられました。「スハイル」（容易なもの）という名の交渉者の到来は、事が容易になるしるしと受け取られたのです。

スィーラの注：スハイル・ブン・アムルとは誰か

スハイルはクライシュの有力者で、雄弁な弁論家でした。バドルの戦いで捕虜になっています（第 9 巻）。スィーラ書は、かれがマッカ解放の日にイスラームに入り、良いムスリムになったと伝えています。アッラーの使徒 ﷺ が亡くなられた後、マッカの多くの人々が背教しかけたとき、**スハイルは立ち上がって演説し**、かれらの信仰を強めました。のちにかれはシャームでの戦いで殉教しました。

参照：

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』；Wikipedia「Suhayl ibn Amr」。 https://en.wikipedia.org/wiki/Suhayl_ibn_Amr

教訓：今日の敵は、明日の**信仰の兄弟**かもしれません。この和約で「アッラーの使徒」という言葉をかたくなに拒んだ男が、のちにマッカでイスラームを守る者となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

和約の起草

交渉が始まり、**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه が書記として呼ばれました。最初の一行から、スハイルは異議を唱えました。アナス رضى الله عنه は語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1784 番

حَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا عَفَّانُ، حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسٍ، أَنَّ قُرَيْشًا، صَالَحُوا النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فِيهِمْ سُهَيْلُ بْنُ عَمْرٍو فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لِعَلِيٍّ اكْتُبْ بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ. قَالَ سُهَيْلٌ أَمَّا بِاسْمِ اللَّهِ فَمَا نَدْرِي مَا بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ وَلَكِنِ اكْتُبْ مَا نَعْرِفُ بِاسْمِكَ اللَّهُمَّ فَقَالَ اكْتُبْ مِنْ مُحَمَّدٍ رَسُولِ اللَّهِ. قَالُوا لَوْ عَلِمْنَا أَنَّكَ رَسُولُ اللَّهِ لاَتَّبَعْنَاكَ وَلَكِنِ اكْتُبِ اسْمَكَ وَاسْمَ أَبِيكَ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم اكْتُبْ مِنْ مُحَمَّدِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ. فَاشْتَرَطُوا عَلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم أَنَّ مَنْ جَاءَ مِنْكُمْ لَمْ نَرُدَّهُ عَلَيْكُمْ وَمَنْ جَاءَكُمْ مِنَّا رَدَدْتُمُوهُ عَلَيْنَا فَقَالُوا يَا رَسُولَ اللَّهِ أَنَكْتُبُ هَذَا قَالَ نَعَمْ إِنَّهُ مَنْ ذَهَبَ مِنَّا إِلَيْهِمْ فَأَبْعَدَهُ اللَّهُ وَمَنْ جَاءَنَا مِنْهُمْ سَيَجْعَلُ اللَّهُ لَهُ فَرَجًا وَمَخْرَجًا.

訳：

アナス رضى الله عنه は伝えている：**クライシュは預言者 ﷺ と和約を結び、その中にスハイル・ブン・アムルがいた。預言者 ﷺ はアリーに「書きなさい：ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム（慈悲あまねく慈悲深きアッラーの御名において）」と仰せられた。**スハイルは言った：「ビスミッラーについては、ビスミッラーヒッラフマーニッラヒームが何なのか私たちは知らない。私たちの知っているもの、ビスミカッラーフンマ（アッラーよ、あなたの御名において）と書け。」使徒は「書きなさい：アッラーの使徒ムハンマドより」と仰せられた。かれらは言った：「もしあなたがアッラーの使徒だと知っていたら、あなたに従っていただろう。あなたの名とあなたの父の名を書け。」預言者 ﷺ は仰せられた：**「書きなさい：アブドゥッラーの子ムハンマドより。」** かれらは

預言者 ﷺ に次の条件をつけた：**あなたがたのうち私たちのもとに来た者を、私たちは返さない。だが私たちのうちあなたがたのもとに来た者は、あなたがたが私たちに返さなければならない。** 教友たちは尋ねた：「アッラーの使徒よ、これを書くのですか。」使徒は仰せられた：**「そうだ。私たちのうち、かれらのもとへ行った者は、アッラーがその者を遠ざけられたのだ。かれらのうち、私たちのもとへ来た者には、アッラーがゆとりと出口を与えてくださるだろう。」**

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← アッファーン・ブン・ムスリム ← ハンマード・ブン・サラマ ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、フダイビーヤの和約の章、ハディース第 1784 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1784

アル＝バラーウの伝承では、アリーは敬意から「**アッラーの使徒**」という言葉を消すのを拒みました。そこでアッラーの使徒 ﷺ はその場所を示すよう求め、**ご自身の手でそれを消されました**（『サヒーフ・ブハーリー』2699）。

スハイルの異議	アッラーの使徒の答え ﷺ
「慈悲あまねく慈悲深き御方」を知らない	「ビスミカッラーフンマ」を受け入れる
「アッラーの使徒」を認めない	「アブドゥッラーの子ムハンマド」を受け入れる
アリーが消すのを拒む	使徒が自ら消す
原則は変わらない	「アッラーにかけて、たとえあなたがたがわたしを嘘つきと呼んでも、わたしはアッラーの使徒である」

アッラーの使徒 ﷺ は**形式では柔軟**でありながら、**本質では揺るぎません**でした。「ビスミカッラーフンマ」もアッラーの御名を唱えており、「アブドゥッラーの子

ムハンマド」も真実です。使徒は信条を犠牲にせず、和平を実現するために言葉の要求だけを手放されたのです。

読み書きをしない預言者

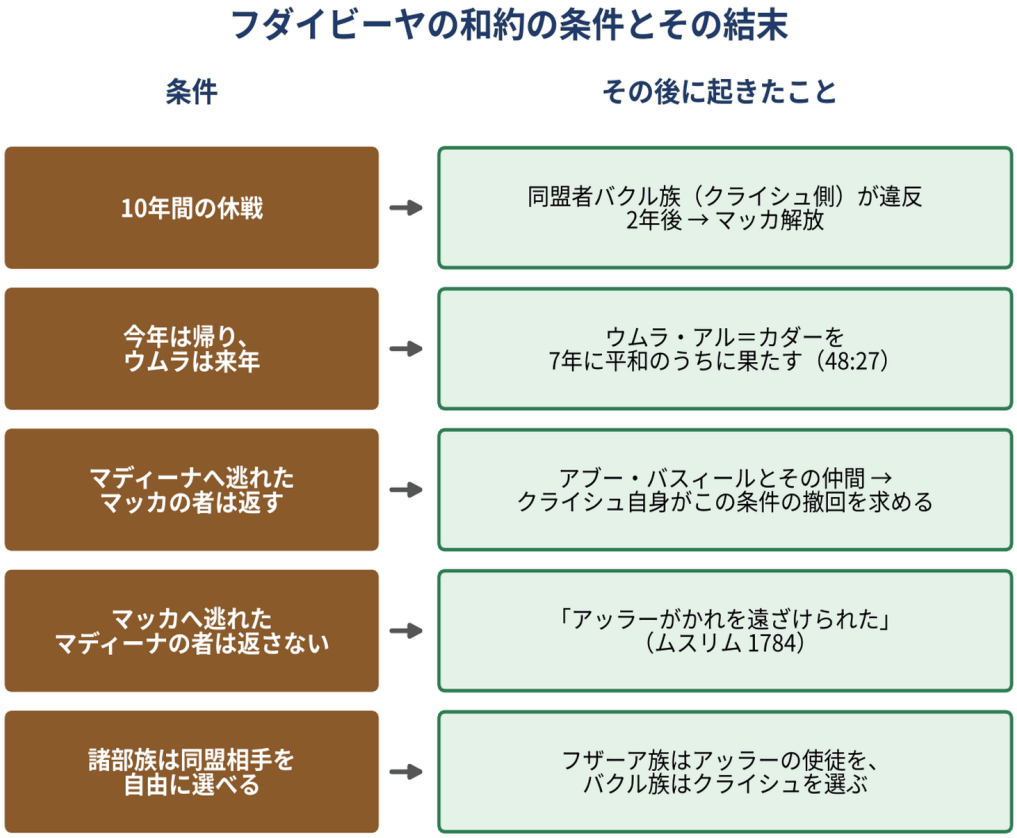
アル＝バラーウの伝承は、アッラーの使徒 ﷺ が「アッラーの使徒」という言葉の場所を示すよう求められたと述べています。使徒は**読み書きをされなかった**（ウンミー）からです。アッラーは使徒を「文字を知らない預言者である使徒」（高壁章 7:157）と形容されました。この特質は、クルアーンが**使徒の著作ではない**ことの証拠です。読まない人が、あれほど美しい書物を生み出すことはできないからです。

そのとき書記を務めたのはアリーでした。教訓：アッラーの使徒 ﷺ は教友たちの**技能を尊重し**、ふさわしい者に務めを任せ、ご自身は交渉を導かれました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

和約の条件

最終的に合意された和約の条件は、**一方に偏っている**ように見えました。教友たちはひどく悔しい思いをしました。しかし歴史は、そのどの条件も最後にはイスラームに益をもたらしたことを証明しています：



条件は『サヒーフ・ブハーリー』2731、『サヒーフ・ムスリム』1784、スィーラ書による。不利に見えた条件は、最後にはムスリムに益をもたらした。

図 3：フダイビーヤの和約の条件とその結末。

最も重い条件は、**マディーナへ逃れたマッカの者は返さなければならない**が、その逆はない、というものでした。アッラーの使徒 ﷺ はその英知を説明されました：不信仰へ逃げた者はアッラーが遠ざけられた者であり、イスラームへ来る者には**アッラーが出口を与えてくださる**のだ、と（『サヒーフ・ムスリム』1784、第 12 章）。

この **10 年間**の休戦は、ダアワの扉を開きました。アッ＝ズフリーは言いました：イスラームにおいてそれ以前に、フダイビーヤより大きな勝利はなかった。戦いが止

み、人々が安心して出会うようになると、**かれらはイスラームについて語り合い**、それを聞いた分別ある者で、イスラームに入らない者はいなかったからである（イブン・イスハークの伝承）。

教訓：ある決定を**第一印象**だけで判断してはなりません。不利に見える条件が、まだ見えていない勝利を秘めていることもあるのです。

足かせのアブー・ジャンダル

和約がまだ書かれている最中で**締結されていなかった**とき、たいへん胸の痛む出来事が起きました。スハイル・ブン・アムル自身の息子で、イスラームに入ったために家族に鎖でつながれていた**アブー・ジャンダル**が、足かせをつけたままよろめきながらやって来て、ムスリムたちのただ中に身を投げたのです（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

スハイルは言いました：「**ムハンマドよ、これがあなたに返すよう求める最初の者だ。**」 アッラーの使徒 ﷺ は交渉しようとされました：「私たちはまだ和約を書き終えていない。」スハイルは譲りません：「それなら、私は何についてもあなたと和平を結ばない。」アブー・ジャンダルは叫びました：「**ムスリムの皆さん、ムスリムとして来た私が、多神教徒のもとへ返されるのですか。私の受けた仕打ちが見えないのですか。**」 — かれはアッラーのためにひどい拷問を受けていたのです（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

> **スィーラの注：アブー・ジャンダルへの言葉**
>
> スィーラ書は、アッラーの使徒 ﷺ がかれにこう仰せられたと伝えています：「**アブー・ジャンダルよ、忍耐し、報いを期待しなさい。アッラーはあなたと、あなたとともにいる弱い者たちに、ゆとりと出口を与えてくださる。私たちはかれらと約束を交わしたのであり、かれらを裏切ることはない。**」
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『ムスナド・アフマド』。

教訓：**約束を守ること**は、最もつらい状況においても犠牲にされない原則です。そしてアブー・ジャンダルの忍耐は無駄になりませんでした — アッラーはほどなくかれに出口を開かれたのです（第 20 章）。

ウマルの動揺

アブー・ジャンダルの出来事と和約の条件は、**ウマル・ブン・アル＝ハッターブ** رضى الله عنه をひどく動揺させました。サフル・ブン・フナイフ رضى الله عنه はのちにスィッフィーンで人々にこの出来事を語り、**自分の意見を疑う**ことの教訓としました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3182 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ آدَمَ، حَدَّثَنَا يَزِيدُ بْنُ عَبْدِ الْعَزِيزِ، عَنْ أَبِيهِ، حَدَّثَنَا حَبِيبُ بْنُ أَبِي ثَابِتٍ، قَالَ حَدَّثَنِي أَبُو وَائِلٍ، قَالَ كُنَّا بِصِفِّينَ فَقَامَ سَهْلُ بْنُ حُنَيْفٍ فَقَالَ أَيُّهَا النَّاسُ اتَّهِمُوا أَنْفُسَكُمْ فَإِنَّا كُنَّا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الْحُدَيْبِيَةِ، وَلَوْ نَرَى قِتَالاً لَقَاتَلْنَا، فَجَاءَ عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ فَقَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ، أَلَسْنَا عَلَى الْحَقِّ وَهُمْ عَلَى الْبَاطِلِ فَقَالَ بَلَى. فَقَالَ أَلَيْسَ قَتْلاَنَا فِي الْجَنَّةِ وَقَتْلاَهُمْ فِي النَّارِ قَالَ بَلَى. قَالَ فَعَلَى مَا نُعْطِي الدَّنِيَّةَ فِي دِينِنَا أَنَرْجِعُ وَلَمَّا يَحْكُمِ اللَّهُ بَيْنَنَا وَبَيْنَهُمْ فَقَالَ ابْنَ الْخَطَّابِ، إِنِّي رَسُولُ اللَّهِ، وَلَنْ يُضَيِّعَنِي اللَّهُ أَبَدًا. فَانْطَلَقَ عُمَرُ إِلَى أَبِي بَكْرٍ فَقَالَ لَهُ مِثْلَ مَا قَالَ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ إِنَّهُ رَسُولُ اللَّهِ، وَلَنْ يُضَيِّعَهُ اللَّهُ أَبَدًا. فَنَزَلَتْ سُورَةُ الْفَتْحِ، فَقَرَأَهَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى عُمَرَ إِلَى آخِرِهَا. فَقَالَ عُمَرُ يَا رَسُولَ اللَّهِ، أَوَفَتْحٌ هُوَ قَالَ نَعَمْ.

訳：

アブー・ワーイルは言った：私たちがスィッフィーンにいたとき、サフル・ブン・フナイフが立ち上がって言った：「**人々よ、自分の意見を疑いなさい！私たちはフダイビーヤの日、アッラーの使徒 ﷺ とともにいたが、もし戦うべきだと考えたなら、私たちは戦っていただろう。** ウマル・ブン・アル＝ハッターブがやって来て言った：『アッラーの使徒よ、私たちは真理の上にあり、かれらは虚偽の上にあるのではありませんか。』使徒は『そのとおりだ』と答えられた。かれは言った：『私たちのうち殺された者は楽園に、かれらのうち殺された者は火獄にいるのではありませんか。』使徒は『そのとおりだ』と答えられた。かれは言った：『それならなぜ、私たちは宗教において屈辱を受け入れ、アッラーが私たちとかれらの間を裁かれないうちに帰るのですか。』使徒は仰

せられた：『**イブン・アル＝ハッターブよ、わたしはアッラーの使徒であり、アッラーは決してわたしを見捨てられない。**』 ウマルはアブー・バクルのところへ行き、同じことを言った。するとアブー・バクルは答えた：『**かの御方はアッラーの使徒であり、アッラーは決してかの御方を見捨てられない。**』 そして勝利章が下り、アッラーの使徒 ﷺ はそれを最後までウマルに読み聞かせられた。ウマルは尋ねた：『アッラーの使徒よ、これは勝利なのですか。』使徒は答えられた：『**そうだ。**』」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド ← ヤフヤー・ブン・アーダム ← ヤズィード・ブン・アブドゥルアズィーズ ← その父アブドゥルアズィーズ・ブン・スィヤーフ ← ハビーブ・ブン・アビー・サービト ← アブー・ワーイル ← サフル・ブン・フナイフ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』人頭税と休戦の書、ハディース第 3182 番；第 4844 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1785 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3182

注目してください。**アブー・バクル**の答えは、聞いてもいないのに、アッラーの使徒 ﷺ の答えと一言一句同じでした。だからこそアブー・バクルは**アッ＝スィッディーク**（真実を認める者）と呼ばれるのです。その心はアッラーの使徒 ﷺ の心と調和していました。

ウマルはのちに自分の言葉を悔いました。別の伝承でかれは言っています：「**それゆえ私は（その償いとして）多くの善行をした**」 — 施しをし、断食をし、礼拝をし、奴隷を解放したのです（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

教訓：**誠実な熱意**も**啓示**に従わなければなりません。私たちの意見は、どれほど善意からであっても誤ることがあります。だからこそ、それをアッラーとその使徒の導きで量るのです。

調和した心

アッラーの使徒 ﷺ はかつて仰せられました：「**もしわたしが主のほかに親友（ハリール）をとることができるなら、アブー・バクルをとったであろう。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3656）。フダイビーヤではこの位がはっきりと表れました。ウマルが揺れていたとき、アブー・バクルは落ち着いていました。アッラーの使徒 ﷺ へのかれの確信は、目に見えるものに左右されなかったからです。

教訓：強い信仰とは、アッラーとその使徒の決定が私たちの理屈に反するように見えるときにも**揺るがない**信仰です。アブー・バクルはイスラーの出来事をためらわずに真実と認めましたが（第 6 巻）、フダイビーヤも同じように受け入れたのです。

ウンム・サラマの助言

和約が結ばれると、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちに命じられました：「**立って、犠牲の動物を屠り、それから頭を剃りなさい。**」 しかし、使徒が三度繰り返されても、**誰一人立ち上がりませんでした。**かれらは背いたのではなく、あまりの衝撃と悲しみに打ちのめされ、啓示が状況を変えてくれることをまだ望んでいたのかもしれません（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

使徒は妻の**ウンム・サラマ** رضى الله عنها のもとに入り、起きたことを話されました。ウンム・サラマはたいへん賢明な助言をしました：「**アッラーの預言者よ、そうお望みですか。外に出て、誰とも一言も話さずに、ご自分のラクダを屠り、床屋を呼んで頭を剃らせてください。**」（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

使徒はそのとおりにされました。使徒が屠り、頭を剃るのを見ると、**教友たちは立ち上がって屠り**、互いに頭を剃り始めました。深い悲しみのあまり、互いを傷つけそうになるほどでした（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

ウンム・サラマの助言	その英知
「外に出てください」	指導者は待つのではなく、前に出る
「一言も話さずに」	繰り返す命令より、手本のほうが強い
「屠り、頭を剃ってください」	決定的な行動が、決定を変える望みを断つ
アッラーの使徒 ﷺ が受け入れる	使徒は一人の女性の助言に耳を傾けられた

教訓：**手本**は言葉よりも効果があります。そしてアッラーの使徒 ﷺ は**妻の意見**を大切にされました — ウンム・サラマの助言が、教友たちを不服従から救ったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

タハッルル：犠牲を屠り、髪を剃る

教友たちはイフラームに入っていましたが、カアバにたどり着くことを**阻まれました**。かれらの規定はどうなるのでしょうか。アッラーはクルアーンの中でそれを明らかにされていました：

「アッラーのために、ハッジとウムラを全うしなさい。もし（それを）阻まれたならば、容易に得られる犠牲を捧げなさい」『イブン・カスィール注釈』2:196。

この規定は**イフサール** — ハッジやウムラを全うすることを阻まれること — として知られています。阻まれた者は、阻まれた場所で犠牲を屠り、頭を剃るか髪を短くしてイフラームを解きます。学者たちはこの規定を、フダイビーヤの出来事から直接導き出しました。

アッラーの使徒 ﷺ は祈られました：**「アッラーよ、頭を剃った者たちに慈悲を。」**人々は尋ねました：「アッラーの使徒よ、髪を短くした者たちには？」使徒は繰り返され、三度目か四度目に「そして髪を短くした者たちにも」と仰せられました（『サヒーフ・ブハーリー』1727）。スィーラの伝承の中には、この祈りがフダイビーヤで唱えられたと述べるものがあります。

フダイビーヤから生まれた規定	説明
イフサール	ウムラを全うすることを阻まれる → 屠ってタハッルル
頭を剃るほうが優れている	剃った者への三度の慈悲の祈り
犠牲の共有	ラクダまたは牛 1 頭を 7 人で（『サヒーフ・ムスリム』1318）
カダーのウムラ	翌年にウムラをやり直した

ジャービル رضي الله عنه は言った：**「フダイビーヤの年、私たちはアッラーの使徒 ﷺ とともに、ラクダ1頭を7人で、牛1頭を7人で屠った。」**（『サヒーフ・ムスリム』

1318）。教訓：イスラームの法は**容易にする**ものであり、どの試練も今日に至るまでウンマに益となる規定をもたらしました。

勝利章の啓示

重い心でマディーナへ帰る途中、アッラーはすべてを変える啓示を下されました。

まだ自分のことを案じていたウマル رضى الله عنه は語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4177 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنْ زَيْدِ بْنِ أَسْلَمَ، عَنْ أَبِيهِ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم كَانَ يَسِيرُ فِي بَعْضِ أَسْفَارِهِ، وَعُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ يَسِيرُ مَعَهُ لَيْلاً، فَسَأَلَهُ عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ عَنْ شَيْءٍ فَلَمْ يُجِبْهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم ثُمَّ سَأَلَهُ فَلَمْ يُجِبْهُ، ثُمَّ سَأَلَهُ فَلَمْ يُجِبْهُ وَقَالَ عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ ثَكِلَتْكَ أُمُّكَ يَا عُمَرُ، نَزَرْتَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم ثَلاَثَ مَرَّاتٍ، كُلُّ ذَلِكَ لاَ يُجِيبُكَ. قَالَ عُمَرُ فَحَرَّكْتُ بَعِيرِي ثُمَّ تَقَدَّمْتُ أَمَامَ الْمُسْلِمِينَ، وَخَشِيتُ أَنْ يَنْزِلَ فِيَّ قُرْآنٌ، فَمَا نَشِبْتُ أَنْ سَمِعْتُ صَارِخًا يَصْرُخُ بِي ـ قَالَ ـ فَقُلْتُ لَقَدْ خَشِيتُ أَنْ يَكُونَ نَزَلَ فِيَّ قُرْآنٌ. وَجِئْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَسَلَّمْتُ عَلَيْهِ فَقَالَ لَقَدْ أُنْزِلَتْ عَلَىَّ اللَّيْلَةَ سُورَةٌ لَهِيَ أَحَبُّ إِلَىَّ مِمَّا طَلَعَتْ عَلَيْهِ الشَّمْسُ، ثُمَّ قَرَأَ {إِنَّا فَتَحْنَا لَكَ فَتْحًا مُبِينًا}.

訳：

アスラムは伝えている：**アッラーの使徒 ﷺ はある旅の途中で進んでおられ、ウマル・ブン・アル＝ハッターブが夜、使徒とともに進んでいた。ウマルは何かを尋ねたが、使徒は答えられなかった。もう一度尋ねたが答えられず、さらに尋ねたが、やはり答えられなかった。** ウマルは（自分に）言った：「ウマルよ、お前は何ということをしたのか！アッラーの使徒 ﷺ に三度もしつこく迫り、そのたびに答えていただけなかったではないか。」ウマルは言った：私はラクダを進めてムスリムたちの列の先頭に出た。私について何かクルアーンの節が下るのではないかと恐れたのだ。ほどなく、誰かが私を呼ぶ声が聞こえた…。私はアッラーの使徒 ﷺ のもとに行ってあいさつすると、使徒は仰せられた：**「今夜、わたしに一つの章が下された。それは太陽が照らすすべてのもの**

よりも、わたしにとって愛しい。」 そして使徒は読まれた：**「本当にわれは、あなたに明白な勝利を授けた。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← マーリク・ブン・アナス ← ザイド・ブン・アスラム ← その父アスラム ← ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4177 番；第 4833 番と第 5012 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4177

「本当にわれは、あなた（ムハンマド）に明白な勝利を授けた」『イブン・カスィール注釈』48:1。

ウマルの態度に注目してください。かれは**恐れて**いました。アッラーの使徒 ﷺ にしつこく迫ったことで、自分をとがめる節が下るのではないかと。しかし下ったのは**吉報**でした。アッラーの使徒 ﷺ はこの章を、**太陽が照らすすべてのもの** — つまり全世界 — よりも愛しいと形容されたのです。

勝利章の節	フダイビーヤとの関係
48:1–3	明白な勝利；赦し；力強い助け
48:4	信者たちの心に安らぎが下される
48:10、18	リドワーンの誓い；アッラーの満悦
48:24–26	アッラーが双方の手を押しとどめる；ジャーヒリーヤの熱情
48:27	真実の夢が実現する
48:29	教友たちの姿は力強く育つ作物のよう

作物のたとえ

勝利章は、教友たちについての美しいたとえで結ばれています：「**芽を出して、それを強め、太くなってその茎の上にまっすぐに立つ作物のように**」（勝利章 48:29）。この節は、このたとえが**福音書**にあると述べています。

フダイビーヤの教友たちは**小さな若芽**のようでした — カアバから阻まれた 1,400 人です。しかしその若芽から、たくましく見事なイスラームの木が育ちました。教訓：誠実に植えられたものなら、小さな始まりを軽んじてはなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

それは勝利なのか？

教友たちはなお疑問に思っていました。この和約がどうして**勝利**になりうるのか。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه がその節の意味を説明しています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4172 番

حَدَّثَنِي أَحْمَدُ بْنُ إِسْحَاقَ، حَدَّثَنَا عُثْمَانُ بْنُ عُمَرَ، أَخْبَرَنَا شُعْبَةُ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ {إِنَّا فَتَحْنَا لَكَ فَتْحًا مُبِينًا} قَالَ الْحُدَيْبِيَةُ. قَالَ أَصْحَابُهُ هَنِيئًا مَرِيئًا فَمَا لَنَا فَأَنْزَلَ اللَّهُ {لِيُدْخِلَ الْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ جَنَّاتٍ} قَالَ شُعْبَةُ فَقَدِمْتُ الْكُوفَةَ فَحَدَّثْتُ بِهَذَا كُلِّهِ عَنْ قَتَادَةَ ثُمَّ رَجَعْتُ فَذَكَرْتُ لَهُ فَقَالَ أَمَّا {إِنَّا فَتَحْنَا لَكَ} فَعَنْ أَنَسٍ، وَأَمَّا هَنِيئًا مَرِيئًا فَعَنْ عِكْرِمَةَ.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、**「本当にわれは、あなたに明白な勝利を授けた」**という節について言った：「**（それは）フダイビーヤのことである。**」使徒の教友たちは言った：「おめでとうございます。では私たちには何があるのですか。」するとアッラーは下された：「**（それは）アッラーが男女の信者たちを楽園に入らせるためである…**」シュウバは言った：「インナー・ファタフナー・ラカ」の部分はアナスから、「おめでとうございます」の部分はイクリマからである。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・イスハーク ← ウスマーン・ブン・ウマル ← シュウバ ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、フダイビーヤの戦いの章、ハディース第 4172 番；第 4834 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4172

アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه も言っています：**「あなたがたは勝利とはマッカの解放のことだと思っている…だが私たちは、フダイビーヤの日のリドワーンの誓いこそが勝利だと考えている。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4150、第 4

章）。それを目撃した人々にとって、フダイビーヤはその後のすべての勝利への**扉**だったのです。

勝利の証拠	説明
承認	クライシュがマディーナを対等な当事者として交渉した
ダアワの安全	人々が恐れなくイスラームについて出会い、語り合った
ムスリムの増加	フダイビーヤで 1,400 人 → 2 年後のマッカ解放で約 1 万人（スィーラ書）
有力者の入信	ハーリド・ブン・アル＝ワリードとアムル・ブン・アル＝アースがイスラームに入る（8 年）
王たちへの書簡	アッラーの使徒 ﷺ がカイサル、キスラーなどにダアワの書簡を送る

教訓：**勝利はいつも剣によって来るとは限りません。**ときには、人々の心を真理に開く平和こそが最大の勝利なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

王たちへの書簡

フダイビーヤの後の平和によって、アッラーの使徒 ﷺ は**ダアワの書簡を送る**ことができました — 大国の支配者たちへです。『サヒーフ・ブハーリー』冒頭のハディースは、ローマ皇帝**ヘラクレイオス**が、アッラーの使徒 ﷺ についてアブー・スフヤーンに尋ねた様子を伝えています。それはアブー・スフヤーンがシャームにいた「**休戦の期間中**」、すなわちクライシュとアッラーの使徒 ﷺ の間の休戦中のことでした（『サヒーフ・ブハーリー』7）。

フダイビーヤの和約がなければ、アブー・スフヤーンのシャームへの交易の旅も、ヘラクレイオスとの対話も起こらなかったかもしれません。教訓：**平和はダアワの扉を開きます**。戦いでは開けない扉をです。

アブー・バスィール：約束された出口

マディーナに戻って間もなく、マッカのムスリムで**アブー・バスィール**という男が、アッラーの使徒 ﷺ のもとへ逃れて来ました。クライシュはかれを連れ戻すために二人の男を送り、アッラーの使徒 ﷺ は、**和約を守って**、かれをかれらに引き渡されました（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

道中でアブー・バスィールは逃れることに成功し、マディーナに戻って来ました。アッラーの使徒 ﷺ はほのめかすように仰せられました：「**その母は災いだ！仲間がいれば、かれは戦いの火をつけるだろう。**」 アブー・バスィールは、また返されることを悟り、サイフ・アル＝バフルの**海岸地帯**へ向かいました。のちにアブー・ジャンダルも逃れてかれに加わり、マッカの多くのムスリムが続いて一つの集団となり、シャームへ向かう**クライシュの隊商の行く手をふさぐ**ようになりました（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

ついに**クライシュ自身**が、アッラーの使徒 ﷺ に書簡を送り、アッラーと血縁の絆にかけて、かれらをマディーナに受け入れるよう懇願しました：「あなたのもとに来た者は安全である。」**最も重い条件は、それを求めた者たち自身によって取り消されたのです。** そしてアッラーは 48:24–26 の節を下されました（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

これこそが「**ゆとりと出口**」 — アッラーの使徒 ﷺ が『サヒーフ・ムスリム』1784 で約束されたもの — でした。教訓：忍耐と**約束を守ること**は、ムスリムが一度も和約を破ることなく、最後には解決を実らせたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

移住してきた女性たち

フダイビーヤの和約は、マッカから逃れた**男性**を返さなければならないと定めていました。ムスリムの女性たちがマディーナへ移住して来たとき、アッラーはかの女たちのための特別な規定を下されました：

「信仰する者たちよ、信者の女たちが移住してあなたがたのもとに来たならば、かの女たち（の信仰）を試しなさい。アッラーはかの女たちの信仰を最もよくご存じである。もしかの女たちが信者であるとわかったならば、不信仰者たちのもとへ帰してはならない」『イブン・カスィール注釈』60:10。

移住した女性の中に**ウンム・クルスーム・ビント・ウクバ・ブン・アビー・ムアイト**がいました。家族がかの女を連れ戻しに来ましたが、この節が下った後、アッラーの使徒 ﷺ はかの女を返されませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』2711〜2712）。学者たちは、和約の文言は**男性**を指しており、女性は返されればより大きな危険にさらされたと説明しています。

教訓：イスラームは信仰を選んだ**女性を守り**、その選択を尊重します。この節にある信仰の試しも、決定が盲目的にではなく**公正かつ慎重に**なされたことを示しています。

フダイビーヤからマッカ解放へ

10 年間の休戦は、わずか約**2 年**しか続きませんでした。スィーラ書によれば、クライシュの同盟者バクル族が、アッラーの使徒 ﷺ の同盟者フザーア族を、クライシュからの武器と人員の援助を受けて襲いました。和約は、ムスリムではなく**クライシュによって破られた**のです。

その違反は、ヒジュラ暦 8 年の**マッカ解放**へとつながり、それはほとんど流血なしに成し遂げられました。教訓：約束を守る側は最後に**アッラーによって勝利を与えられ**、約束を裏切る側は自らを損なうのです（勝利章 48:10）。

交渉の技

フダイビーヤは、和平についてのアッラーの命令を実行した最良の例です：「**もしかれらが和平に傾くならば、あなたもそれに傾き、アッラーを信頼しなさい**」『イブン・カスィール注釈』8:61。

社会科学の注：原則に基づく交渉

ハーバード交渉プロジェクトは、**原則に基づく交渉**という方法を、有名な著書『**Getting to Yes**』（フィッシャー、ユーリー、パットン）で紹介しました。その主な原則には、**人と問題を切り離す**こと、**立場ではなく利害に焦点を当てる**こと、そして**双方に利益となる選択肢をつくる**ことがあります（Harvard PON）。

現代の交渉の原則	フダイビーヤでは
利害に焦点を当てる	本当の利害は平和とダアワであり、「アッラーの使徒」という言葉ではない
人と問題を切り離す	「あなたがたの事は容易になった」— スハイルを丁重に扱う
最善の代替案を知る	戦う用意はあった（誓い）が、和平を選んだ
長期的な視点	10 年の休戦 → ムスリムの大幅な増加

現代の交渉理論より 1,400 年以上も前に、アッラーの使徒 ﷺ はこれらの原則を実践されていました — しかも理論書にはない一つのことを加えて：**アッラーへの信頼（タワックル）**です。教訓：交渉における本当の力は、すべての言葉で勝つことではなく、**目標の明確さ**と**忍耐**にあります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

家庭と仕事の中のフダイビーヤ

フダイビーヤの原則は、日々の生活の中でも実践できます。**家庭**では、より大きな調和を守るために、小さなことで譲る必要があるときもあります。**仕事**では、妥協できない原則と、交渉できる技術的な事柄とを区別する必要があります。

アッラーの使徒 ﷺ も、行き詰まったときに**妻**の助言に耳を傾けられました（第 16 章）。教訓：良い交渉は家庭から始まります — **耳を傾け、忍耐し、先を見通す**ことによって。

フダイビーヤの物語の典拠

フダイビーヤの物語は、位置づけの異なる三種類の典拠を通して私たちに伝わっています。この電子書籍はその三つを区別し、読者が**何が確かなこと**で、**何がよく知られていること**なのかを知ることができるようにしています：

フダイビーヤの物語の典拠

クルアーン（6）

- 明白な勝利（48:1）
- アッラーの御手はかれらの手の上にある（48:10）
- 木の下でアッラーは満悦された（48:18）
- ジャーヒリーヤの熱情と敬虔の言葉（48:26）
- 真実の夢（48:27）
- 移住してきた女性たち（60:10）

真正なハディース（9）

- あふれた井戸；指の間からの水
- 死を誓う誓約；1,400人
- 「地上で最も優れた人々」
- 和約の起草；条件
- ウマルの動揺
- ウンム・サラマの助言；アブー・ジャンダル；アブー・バスィール
- 勝利章の啓示
- 忘れられた木
- 木の人々は地獄に入らない

スィーラ書（3）

- ウスマーン殺害の噂（詳細）
- マッカ解放のときの軍勢の数
- ウマルが木を切らせた話

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：この電子書籍におけるフダイビーヤの物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
夢；誓い；満悦；安らぎ；タハッルル；移住した女性たち	クルアーン（雌牛章 2:196；勝利章 48；試問される女章 60:10）— 確実

物語	典拠と等級
旅；アル＝カスワー；使者たち；アブー・ジャンダル；ウンム・サラマ；アブー・バスィール	『サヒーフ・ブハーリー』2731 — サヒーフ
井戸；指の間からの水；死を誓う誓約；1,400 人；木；勝利章	『サヒーフ・ブハーリー』4150〜4177、3182、3698 — サヒーフ
和約の起草；木の人々；犠牲の共有	『サヒーフ・ムスリム』1784、2496、1318 — サヒーフ
ウスマーンの噂（詳細）；ウマルが木を切らせた話；アッ＝ズフリーの言葉	スィーラ書（イブン・イスハーク、イブン・サアド）——有名、伝承経路はさまざま

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

残った者たちと隠れた者たち

第 18 章では、勝利章の主な節 — 明白な勝利、安らぎ、リドワーンの誓い、真実の夢、作物のたとえ — を説明しました。しかしこの章は、あまり語られることのない二つの集団にも触れています。第一の集団は、アッラーの使徒 ﷺ とともに出発することを拒んだベドウィンたちです。第二の集団は、マッカに隠れていた信者たちで、かれらはその日アッラーが戦いを押しとどめられた理由の一つでした。

節	簡単な意味	教訓
48:11	残ったベドウィンは言い訳をした：財産と家族に忙しかったと；赦しを求めた	舌は心にないことを言う
48:12	かれらは、アッラーの使徒 ﷺ と信者たちが二度と家族のもとへ戻らないと思った	アッラーの約束についての悪い推測
48:15	ムスリムが戦利品を取りに行くとき、かれらはついて来ようとした；アッラーはそれを退けられた	犠牲なしに成果を望む
48:16	かれらは非常に強い民と戦うよう呼びかけられる；従えば報いを受ける	悔悟の扉はまだ開いている
48:17	盲人、足の不自由な者、病人には罪がない	本当の事情は受け入れられる
48:20–21	アッラーは多くの戦利品と、まだ手にできないもう一つを約束された	段階的に果たされる約束
48:24	アッラーはマッカの谷で双方の手を押しとどめられた	和平はアッラーの決定
48:25	もしあなたがたの知らない男女の信者がマッカにいなかったなら…	信者の血を守る

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

残った者たちの言い訳

アッラーの使徒 ﷺ が人々にウムラへの出発を呼びかけられたとき、マディーナ周辺のベドウィンの部族の一部はついて来ることを拒みました。かれらは、ムスリムがクライシュに滅ぼされると思っていたのです。アッラーはかれらの心の内を明かされました：「かれらは心にないことを舌で言う」（勝利章 48:11）。注釈者たちはこの文脈でいくつかの部族の名を挙げていますが、それはその部族の一人ひとりが残ったという意味ではありません。ベドウィンの部族からも多くの教友がフダイビーヤに参加していたからです（『イブン・カスィール注釈』48:11）。

ハイバルの戦利品を取りに行く時が来ると、この人々はついて行こうとしました。アッラーはアッラーの使徒 ﷺ に、かれらを退けるよう命じられました（勝利章 48:15）。ハイバルの財はフダイビーヤの人々に特別に約束されていたからです。しかしアッラーは扉を閉ざされませんでした。かれらは「大きな力を持つ民」と戦うよう呼びかけられ、もし従うなら、アッラーは良い報いを与えられるのです（勝利章 48:16）。その民が誰かについて、注釈者たちの意見は分かれています。ハワーズィン族とサキーフ族だという者、ハニーファ族だという者、ペルシアとローマだという者がいます（イブン・カスィール）。これは注釈者たちの議論であって、決定的な典拠ではありません。

マッカに隠れていた信者たち

第 25 節は、アッラーが戦いを押しとどめられた英知の一つを説明しています。当時マッカには、信仰を隠している男女の信者がいました。もし戦いが起きれば、ムスリムは知らずにかれらを殺し、後悔と恥を負ったかもしれません。アッラーは、もしかれらが分かれていたなら、不信仰者たちを痛ましい懲罰で罰したであろうと仰せられています（勝利章 48:25；『イブン・カスィール注釈』48:25）。

アブー・ジャンダル（第 14 章）とアブー・バスィール（第 20 章）は、マッカで虐げられていたムスリムの例です。名の知られていない人々は、ほかにも大勢いました。アッラーは和平によってかれらの血を守られたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓

これらの節は二つのことを教えています。第一に、舌の上の甘い言い訳はアッラーを欺くことはできません。量られるのは、必要なときに犠牲を払う覚悟です。第二に、弱く見える決定が、私たちの知らない人々の命を守っているのかもしれません。アッラーは、私たちに見えないものを見ておられるのです。

フダイビーヤにおける協議と諸規定

フダイビーヤは和約の物語であるだけではありません。それは今日に至るまで法学者たちが論じている諸規定の源でもあります。この章では、まだ触れていない二つの出来事 — フダイビーヤに着く前の協議と、カアブ・ブン・ウジュラの話 — をまとめ、この出来事に基づく諸規定を整理します。

決定の前に協議する

ハディース：「私に意見を述べなさい」

アル＝ミスワル・ブン・マフラマとマルワーンは伝えています。アッラーの使徒 ﷺ がガディール・アル＝アシュタートに着かれたとき、偵察者が来て、クライシュが使徒をカアバから阻むために軍勢を集めたと知らせました。使徒は「人々よ、私に意見を述べなさい」と仰せられました。アブー・バクル رضى الله عنه は言いました：「アッラーの使徒よ、あなたはこの館を訪れるために出て来られたのであり、誰かを殺したり戦ったりするためではありません。ですから、そこへ進んでください。私たちを阻む者がいれば、その者と戦いましょう。」使徒は「アッラーの御名において進め」と仰せられました。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』4178、4179。

アッラーの使徒 ﷺ は啓示を受けておられましたが、それでも教友たちに意見を求められました。アブー・バクルは旅の本来の目的 — 戦いではなくウムラ — を挙げて答えました。この助言は、のちに使徒が和平の道を選ばれたことと一致しています。ウンム・サラマの助言（第 16 章）とあわせて、フダイビーヤでは出来事の方向を決めた二つの協議があったのです。

カアブ・ブン・ウジュラと剃髪の償い

ハディース：カアブの頭のシラミ

カアブ・ブン・ウジュラ رضي الله عنه は、フダイビーヤでイフラームの状態のまま、アッラーの使徒 ﷺ とともにいたとき、頭からシラミが落ちていたと伝えています。使徒はシラミがかれを苦しめているかと尋ね、頭を剃るよう命じられました。そして次の節が下りました：「あなたがたのうち病気の者、または頭に苦痛のある者は（頭を剃ってもよいが）、断食か施しか犠牲で償いをしなければならない。」

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』4159；『サヒーフ・ブハーリー』1814 にも；節は雌牛章 2:196。

同じハディースの別の伝承では、アッラーの使徒 ﷺ が償いの三つの選択肢を説明されています：3 日間の断食、6 人の貧者に食事を与えること、または羊 1 頭を屠ることです（『サヒーフ・ブハーリー』1814）。ちょっとした病にかかったごく普通の一人の教友が、今日に至るまで何百万ものハッジとウムラの巡礼者が実践する規定の下る理由となったのです。

フダイビーヤに基づく諸規定

規定	フダイビーヤからの典拠	備考
大きな決定の前に協議する	『サヒーフ・ブハーリー』4178〜4179；ウンム・サラマの助言	本章と第 16 章
イフラーム中にやむを得ず頭を剃った場合の償い	雌牛章 2:196；『サヒーフ・ブハーリー』4159	断食、施し、または犠牲
イフサール：阻まれたときのタハッルル	雌牛章 2:196	第 17 章
ラクダや牛の犠牲を共有する	『サヒーフ・ムスリム』1318	第 17 章

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

規定	フダイビーヤからの典拠	備考
非ムスリムとの和平条約	戦利品章 8:61；『サヒーフ・ブハーリー』2731	益（マスラハ）がある場合に許される
重くても約束を守る	アブー・ジャンダルとアブー・バスィールが返された	第 14 章と第 20 章
条件によって禁じられたものを許すことはできない	信者の女性は返されない（試問される女章 60:10）	第 21 章
休戦の期間	10 年間の休戦（スィーラ書）	法学者の見解は分かれる

休戦の期間について、イマーム・シャーフィイーを含む一部の法学者は、フダイビーヤの 10 年を最長期間としています。一方、ほかの法学者は、その期間はムスリムの益（マスラハ）によるとしています。これはイジュティハードの議論であり、法学書がくわしく説明しています。

教訓

フダイビーヤは、イスラームの諸規定が現実の生活から生まれることを教えています。病気の一人の教友、阻まれた巡礼者の一団、そして難しい和約です。シャリーアは容易にするために来たのであって、重荷を負わせるためではありません。そして最も高貴な指導者でさえ、まわりの人々に意見を求められたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：70 / 522

フダイビーヤの和約の人物

フダイビーヤのハディースには、さまざまな部族の多くの人物が登場します。下の表は、かれらを部族、役割、典拠とともに整理したものです。各人物の部族は改めて確認しており、スィーラ書にしかない情報ははっきりと示しています。

ムスリム側

人物	部族	役割	典拠
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	クライシュ（タイム家）	協議で意見を述べる；ウマルを落ち着かせる	ブハーリー 4178、2731
ウマル・ブン・アル＝ハッターブ	クライシュ（アディー家）	条件に動揺し、のちに悔いる	ブハーリー 2731、3182
ウスマーン・ブン・アッファーン	クライシュ（ウマイヤ家）	マッカへの使者；アッラーの使徒の手による代理の誓い ﷺ	ブハーリー 3698
アリー・ブン・アビー・ターリブ	クライシュ族（ハーシム家）	和約の書記	ムスリム 1784；ブハーリー 2699
ウンム・サラマ	クライシュ（マフズーム家）	屠って頭を剃るよう助言	ブハーリー 2731
アル＝ムギーラ・ブン・シュウバ	サキーフ族	ウルワの交渉中、剣を持ってアッラーの使徒 ﷺ を守って立った	ブハーリー 2731
サラマ・ブン・アル＝アクワウ	アスラム族	三度誓った	ブハーリー 4169；ムスリム 1807
マアキル・ブン・ヤサール	ムザイナ族	誓いのとき、アッラーの使徒 ﷺ の頭上で木の枝を持っていた	ムスリム 1858

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：71 / 522

人物	部族	役割	典拠
ジャービル・ブン・アブドゥッラー	アンサール、ハズラジュ族（サリマ家）	1,400 人と「地上で最も優れた人々」の伝承者	ブハーリー 4154
アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ	アンサール、アウス族（ハーリサ家）	あふれた井戸の話の伝承者	ブハーリー 4150
カアブ・ブン・ウジュラ	バリー族、アンサールの同盟者	剃髪の償いの規定が下る理由となった	ブハーリー 4159
アブー・ジャンダル・ブン・スハイル	クライシュ（アーミル・ブン・ルアイ家）	足かせのまま返された	ブハーリー 2731
アブー・バスィール	ブハーリー：「クライシュの一人の男」；スィーラ書：ウトバ・ブン・アスィード・アッ＝サカフィー、ズフラ家の同盟者	虐げられたムスリムに出口を開いた	ブハーリー 2731；スィーラ書
アル＝ジャッド・ブン・カイス	アンサール（サリマ家）	ただ一人誓わなかった；自分のラクダの腹の下に隠れた	ムスリム 1856

クライシュとその同盟者の側

人物	部族	役割	典拠
スハイル・ブン・アムル	クライシュ（アーミル・ブン・ルアイ家）	クライシュの交渉者；マッカ解放の日にイスラームに入る	ブハーリー 2731；伝記書
ブダイル・ブン・ワルカー	フザーア族	最初の使者；和平の申し出を伝えた	ブハーリー 2731
ウルワ・ブン・マスウード	サキーフ族	教友たちの愛に感嘆した	ブハーリー 2731

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：72 / 522

人物	部族	役割	典拠
キナーナ族の男	キナーナ族；スィーラ書はアル＝アハービーシュの長アル＝フライス・ブン・アルカマと名を挙げる	首飾りをかけた犠牲の動物を見て、クライシュに助言した	ブハーリー 2731；スィーラ書
ミクラズ・ブン・ハフス	クライシュ（アーミル・ブン・ルアイ家）	使徒に悪い男と評された	ブハーリー 2731
ハーリド・ブン・アル＝ワリード	クライシュ（マフズーム家）	アル＝ガミームで騎兵を率いた；ヒジュラ暦 8 年にイスラームに入る	ブハーリー 2731

スィーラの注：井戸に降りたのは誰か

真正なハディースは、アッラーの使徒 ﷺ が一本の矢を取り出し、それを井戸の中に置くよう命じられると、水が湧き出したと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。ハディースは、誰が井戸に降りたのかを名指ししていません。イブン・イスハークはそれをナージヤ・ブン・ジュンドゥブ・アル＝アスラミーとし、別の名を挙げる伝承もあります。スィーラ書はまた、ハラーシュ・ブン・ウマイヤ・アル＝フザーイーを、ウスマーンより前にマッカへ送られた最初の使者として挙げています。どちらの情報もスィーラ書からのものです。

参照：イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』（ハディース第 2731 番）。

教訓

フダイビーヤには、クライシュ、アンサール、サキーフ、アスラム、ムザイナなど多くの部族の人々が集まり、皆が一本の木の下で一つになりました。相手側でも、スハイル、ハーリド、ウルワなど、のちにイスラームに入った者が大勢いました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

一方、アル＝ジャッド・ブン・カイスは、大きな出来事に居合わせることが清い心を保証するわけではないという戒めとなっています。

フダイビーヤへの道の地名

マディーナからフダイビーヤへの旅は、ハディースやスィーラ書に出てくるいくつかの場所を通りました。下の表は、それらを旅の順に並べたものです。一部の場所の正確な位置は確定できないため、距離ははっきりした現代の典拠がある場合にのみ記しています。

場所	出来事	典拠
	アッラーの使徒 ﷺ がズル＝カアダ月にウムラのために出発	ブハーリー 1778
ズル・フライファ	イフラームに入る；犠牲の動物に印と首飾り	ブハーリー 4178
ガディール・アル＝アシュタート（ウスファーンの近く）	偵察者が知らせを届ける；アッラーの使徒 ﷺ が協議される	ブハーリー 4178
アル＝ガミーム	ハーリド・ブン・アル＝ワリードが騎兵を率いて待つ；使徒は別の道をとる	ブハーリー 2731
サニーヤ（マッカへ向かう峠道）	アル＝カスワーがひざまずく	ブハーリー 2731；スィーラ書はサニーヤト・アル＝ムラールと名を挙げる
アル＝フダイビーヤ	あふれた井戸；交渉；リドワーンの誓い；和約	ブハーリー 2731、4150
帰り道	勝利章が下る	ブハーリー 4177

今日のアル＝フダイビーヤ

アル＝フダイビーヤは、マッカの聖域の西の端にあります。マッカの当局が発行するサイト「Discover Makkah」は、そこがマッカから約 20 km にあり、古い井戸の跡が今も残っていると述べています（Discover Makkah: Al-Hudaybiyah）。アラブ・ニュース紙

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：75 / 522

は、ジェッダへの旧道沿い、マッカから約 20 km のアッ＝シュマイスィーの近くにあるモスクについて伝えています（Arab News）。

忘れてはならないのは、リドワーンの誓いの木は特定できないということです。誓いを立てた教友たち自身でさえ、翌年にはその場所がわからなかったのです（『サヒーフ・ブハーリー』4163；第 10 章）。したがって、ある場所がその木の場所だという主張は、どれも確かめることができません。

教訓

これらの場所は、アッラーの使徒 ﷺ が流血を避けるために険しい道を選ばれたことの証人です。残るのは木や石ではなく、教訓です：忍耐、服従、そしてアッラーの満悦。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フダイビーヤの和約の年表

図 1 では簡単な年表を示しました。下の表は、それを各出来事の典拠とともに詳しくしたものです。真正なハディースは、フダイビーヤのウムラがズル＝カアダ月に行われたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』1778）。より詳しい日付はスィーラ書によるものです。

番号	出来事	典拠
1	アッラーの使徒 ﷺ が安らかに聖モスクに入る夢を見られる	勝利章 48:27
2	ヒジュラ暦 6 年ズル＝カアダ月：約 1,400 人の教友とともにウムラのためにマディーナを出発	ブハーリー 1778、4154
3	ズル・フライファ：イフラームに入り、犠牲の動物に首飾りをかける	ブハーリー 4178
4	ガディール・アル＝アシュタート：クライシュの知らせ；教友たちとの協議	ブハーリー 4178〜4179
5	アル＝ガミームでハーリドの軍を避ける；アル＝カスワーがひざまずく	ブハーリー 2731
6	アル＝フダイビーヤ：涸れた井戸があふれる	ブハーリー 4150、2731
7	クライシュの使者たち：ブダイル、ウルワ、キナーナの男、ミクラズ	ブハーリー 2731
8	ウスマーンがマッカへ遣わされる；殺されたという噂	ブハーリー 3698；スィーラ書
9	木の下でのリドワーンの誓い	ブハーリー 4169；勝利章 48:18
10	スハイル・ブン・アムルの到着；アリーが和約を書く	ブハーリー 2731；ムスリム 1784
11	アブー・ジャンダルが足かせのまま返される	ブハーリー 2731
12	タハッルル：屠り、頭を剃る；カアブ・ブン・ウジュラの償い	ブハーリー 2731、4159

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

番号	出来事	典拠
13	帰り道：勝利章が下る	ブハーリー 4177
14	マディーナで：アブー・バスィール；移住してきた女性たち	ブハーリー 2731、2711〜2712；試問される女章 60:10
15	ヒジュラ暦 7 年ムハッラム月：ハイバル、「近い勝利」	勝利章 48:18；スィーラ書
16	ヒジュラ暦 7 年ズル＝カアダ月：やり直しのウムラ（ウムラ・アル＝カダー）	ブハーリー 1778
17	ヒジュラ暦 8 年：クライシュの同盟者バクル族がフザーア族を襲う；和約が破られる	スィーラ書
18	ヒジュラ暦 8 年ラマダーン月：マッカ解放	スィーラ書

ムスリムがフダイビーヤに滞在した期間は、この電子書籍で参照した真正なハディースには述べられていません。スィーラ書は数週間としていますが、その数字はまちまちです。

教訓

この年表は、アッラーの約束が一つずつ果たされていったことを示しています。数か月後にハイバル、1 年後にウムラ、2 年後にマッカ。必要だったのは、その道のりの間ずっと忍耐し、従うことだけでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フダイビーヤの和約についてのよくある質問

1. フダイビーヤにいた教友は何人だったのか？

真正な伝承は三つの数字を挙げています。アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファーは 1,300 人としています（『サヒーフ・ブハーリー』4155）。ジャービルとアル＝バラーウは 1,400 人としています（『サヒーフ・ブハーリー』4154、4150）。ジャービルからの別の伝承では 1,500 人です（『サヒーフ・ブハーリー』4153）。イブン・ハジャルが『ファトフ・アル＝バーリー』で述べるなど、学者たちはこれらの伝承を調和させ、人数は 1,400 人を超えていたとしています。伝承者はそれぞれ自分の数え方で述べたのです。

2. なぜアッラーの使徒 ﷺ は、啓示を受けておられたのに協議されたのか？

ウンマに教え、教友たちを尊重するためです。使徒はガディール・アル＝アシュタートで「人々よ、私に意見を述べなさい」と仰せられました（『サヒーフ・ブハーリー』4178）。アッラーもまた、教友たちと協議するよう使徒に命じられました（イムラーン家章 3:159）。

3. アッラーの使徒 ﷺ は、自分の判断でそれらの条件を受け入れられたのか？

ウマルが尋ねたとき、使徒は仰せられました：「わたしはアッラーの使徒であり、主に背くことはない。主こそわたしの助け手である」（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。学者たちはこの言葉から、使徒がアッラーの導きに従って行動されたと理解しています。

4. 勝利章 48:11 の「残ったベドウィン」とは誰か？

かれらは、ムスリムが滅びると思って出発を拒んだ、マディーナ周辺のベドウィンの部族の一部です。注釈者たちはいくつかの部族の名を挙げていますが、同じ部族

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

から多くの教友がフダイビーヤに参加していました。したがって、この節は部族全体ではなく、個人の態度を評価しているのです（第 24 章）。

5. なぜアッラーは、そのときマッカでの戦いを許されなかったのか？

クルアーンが述べている英知の一つは、マッカには隠れた男女の信者がいて、戦いになれば知らずにかれらを殺してしまうおそれがあったことです（勝利章 48:25）。アッラーはまた、双方の手を押しとどめられました（勝利章 48:24）。

6. その場にいた全員が誓いを立てたのか？

ジャービル رضى الله عنه は、自分のラクダの腹の下に隠れたアル＝ジャッド・ブン・カイス・アル＝アンサーリーを除き、皆が誓いを立てたと述べています（『サヒーフ・ムスリム』1856）。ウスマーンはマッカに遣わされていて不在でしたが、アッラーの使徒 ﷺ がご自身の手でかれのために誓いを立てられました（『サヒーフ・ブハーリー』3698）。

7. やむを得ず頭を剃ったイフラーム中の者の規定は？

頭を剃ってもよく、償いをしなければなりません：3 日間の断食、6 人の貧者に食事を与えること、または羊 1 頭を屠ることです。この規定は、フダイビーヤでのカアブ・ブン・ウジュラのことで下りました（雌牛章 2:196；『サヒーフ・ブハーリー』1814）。

8. フダイビーヤのモスクは誓いの木の場所に建てられたのか？

その木の場所は、その下で誓いを立てた教友たちにさえわかりませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』4163）。その地域のモスクは出来事のあった一帯を示すものであって、木の確かな場所を示すものではありません。

9. 休戦はどれくらいの期間で、なぜ終わったのか？

スィーラ書は 10 年間の休戦と伝えています。それはわずか約 2 年しか続かず、クライシュの同盟者バクル族が、アッラーの使徒 ﷺ の同盟者フザーア族を、クライシュの援助を受けて襲ったときに終わりました。その違反がマッカ解放へとつながったのです（第 21 章）。

10. ウマルが動揺していたのに、なぜアブー・バクルは落ち着いていたのか？

二人とも誠実でした。ウマルは宗教への熱い思いから動揺し、アブー・バクルはアッラーの使徒 ﷺ への確信から落ち着いていました。その答えが使徒の答えと同じになったほどです（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。ウマル自身ものちに悔い、善行を増やしました（第 15 章）。

11. 「近い勝利」（48:18）と「多くの戦利品」（48:20）とは何を指すのか？

イブン・カスィールは、それがフダイビーヤの数か月後に開かれたハイバルを指すと述べています（『イブン・カスィール注釈』48:18）。ハイバルの話は、イン・シャー・アッラー、第 16 巻で語られます。

12. フダイビーヤは今日の私たちに何を教えるのか？

フダイビーヤは、決定の前に協議すること、形式では柔軟でも原則では揺るがないこと、重くても約束を守ること、そしてアッラーの定めを良く思うことを教えています。「あなたがたは、自分にとって良いことを嫌うかもしれない」（雌牛章 2:216）。

教訓

これらの質問は、フダイビーヤが注釈、法学、歴史、品性の知識に富んでいることを示しています。クルアーンと真正なハディースの典拠を、スィーラ書の伝承や学

者の見解と区別することで、私たちはこの出来事を正確に理解し、その教訓を確信をもって受け取ることができるのです。

教訓と結び

フダイビーヤの和約は、**人間の見方には限りがある**一方で、アッラーの知識はすべてを包むことの証拠です。その日、敗北のように見えたものは、イスラームの歴史における最大の勝利への扉だったのです。

アッラーは仰せられます：「**あなたがたは、自分にとって良いことを嫌うかもしれない。また自分にとって悪いことを好むかもしれない。アッラーは知っておられ、あなたがたは知らないのである**」『イブン・カスィール注釈』2:216。

教訓	フダイビーヤから
アッラーの約束は確か、その時はアッラーのもの	夢は 1 年後に実現した（48:27）
和平を優先する	「アッラーの聖なるものを敬うどんな計らいでも与えよう」
形式では柔軟、原則では揺るがない	ビスミカッラーフンマ；アブドゥッラーの子ムハンマド
約束を守る	アブー・ジャンダルとアブー・バスィールが返された
自分の意見を疑う	ウマルの動揺と後悔
手本は言葉より強い	ウンム・サラマの助言
困難とともに容易さがある	重い条件 → 出口（アブー・バスィール）
剣によらない勝利	「明白な勝利」（48:1）

私たちの生活の中のフダイビーヤ

人生において、私たちもそれぞれの「フダイビーヤ」に直面します — 心が満足しなくても受け入れざるを得ない決定、不利に見える約束、延期された計画。この物語は、**忍耐し、約束を守り、心を広く持つ**こと、そしてアッラーが、まだ私たちには見えない「**近い勝利**」を用意しておられると信じることを教えてくれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：83 / 522

イン・シャー・アッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 16 巻 — フダイビーヤの後の出来事 —** へと続きます。アッラーこそが最もよくご存じです。

第 15 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:196、216；戦利品章 8:61；勝利章 48:1–29；試問される女章 60:10）。https://tafsir.app/ibn-katheer/48/1

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1727、2699、2711、2731、3182、3698、4150、4152、4154、4163、4169、4172、4177。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1318、1784、1856、2496。https://sunnah.com/muslim

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— フダイビーヤの章。

イブン・サアド『大列伝』；アル＝ワーキディー『遠征の書（マガーズィー）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— フダイビーヤの和約の章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー：サヒーフ・ブハーリー注釈』— 条件の書（ハディース 2731）と遠征の書。

社会科学

Fisher, R., Ury, W. & Patton, B. Getting to Yes: Negotiating Agreement Without Giving In. Harvard Negotiation Project. https://www.pon.harvard.edu/tag/getting-to-yes/

Wikipedia「Treaty of Hudaybiyyah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Treaty_of_Hudaybiyyah

Wikipedia「Pledge of the Tree」。https://en.wikipedia.org/wiki/Pledge_of_the_Tree

Wikipedia「Suhayl ibn Amr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Suhayl_ibn_Amr

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4178、4179（ガディール・アル＝アシュタートでの協議）。https://sunnah.com/bukhari:4178

『サヒーフ・ブハーリー』4159、1814（カアブ・ブン・ウジュラと剃髪の償い）。https://sunnah.com/bukhari:4159

『サヒーフ・ブハーリー』4153、4155（フダイビーヤの教友の人数）。https://sunnah.com/bukhari:4155

『サヒーフ・ブハーリー』1778（アッラーの使徒 ﷺ のズル＝カアダ月のウムラ）。https://sunnah.com/bukhari:1778

『サヒーフ・ムスリム』1856（アル＝ジャッド・ブン・カイスは誓わなかった）。https://sunnah.com/muslim:1856c

『サヒーフ・ムスリム』1858（マアキル・ブン・ヤサールが木の枝を持った）。https://sunnah.com/muslim:1858

『イブン・カスィール注釈』勝利章 48:11 と 48:25。https://tafsir.app/ibn-katheer/48/25

Discover Makkah「Al-Hudaybiyah」。https://discovermakkah.sa/en/places-worth-visiting/landmarks/al-hudaybiyah

Arab News「Hudaibiyah: Grand victory in Islamic history」。https://www.arabnews.com/node/444232

第二部

ハイバルの戦い

預言者伝（スィーラ）— 第 16 巻

近い勝利とアリーへの旗 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ハイバルの戦い

『預言者伝（スィーラ）』第 15 巻は、リドワーンの誓いの人々に「**近い勝利**」を約束する勝利章で終わりました（48:18）。その約束は長く待たされませんでした。フダイビーヤから戻って約 **2 か月**後、**ヒジュラ暦 7 年ムハッラム月**に、アッラーの使徒 ﷺ は北へ向かい、**ハイバル**を目指されました。

ハイバルは肥沃で堅固な砦をもつオアシスの町で、マディーナから追放されたナディール族の指導者たちが身を寄せ（第 11 巻）、部族連合（アル＝アフザーブ）を扇動した中心地でもありました（第 12 巻）。ハイバルの戦いは北からの脅威に終止符を打ち、ここから有名な物語が生まれました：**アリーに手渡された旗**、アビシニアからの**ジャアファル**の帰還、そして**毒入りの肉**です。

ハイバルの戦いの年表（ヒジュラ暦7年ムハッラム月）

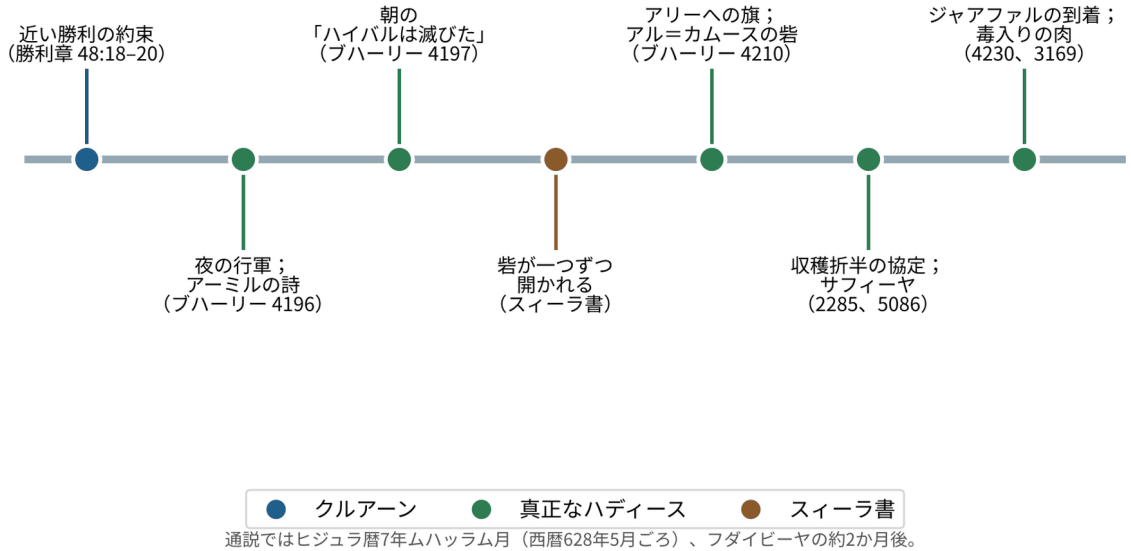


図 1：ハイバルの戦いの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

ハイバル：オアシスの中の砦の町

ハイバルはマディーナの北約 ***150 km*** にあります。広大な**ナツメヤシ園**と多くの**泉**で知られるオアシスで、ヒジャーズで最も肥沃な農地の一つでした。住民は丘の上に堅固な石の**砦**を築き、長期間の備蓄をしていました。

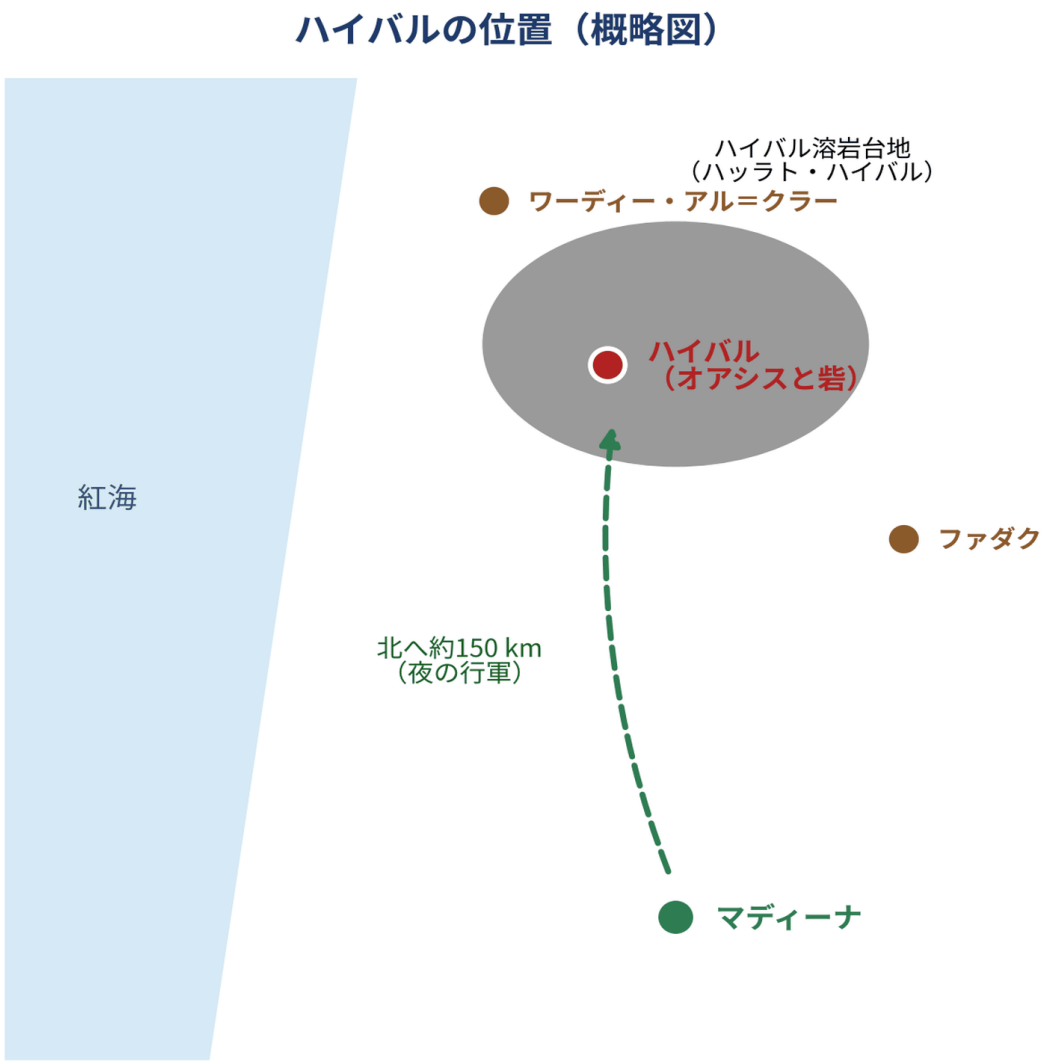


図 2：マディーナの北にあるハイバルの位置（概略図）。

科学の注：火山地帯の中のオアシス

ハイバルは、アラビア半島最大級の**火山地帯**の一つである**ハッラト・ハイバル**の縁にあります。この地帯は約 14,000 km²に及び、数百の火山錐と玄武岩の溶岩流があり

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ます（Wikipedia「Harrat Khaybar」）。ひびや穴の多い玄武岩は**雨水を地下にしみ込ませ**、地下水として蓄え、溶岩地帯のふもとで再び**泉**として湧き出させます。

これがハイバルの肥沃さの秘密です。表面は乾いた黒い大地に見えても、その内に水を蓄えているのです。アッラーは大地に蓄えられた水について仰せられます：「またわれは、天から程よく雨を降らせて、それを大地に留める」（信者たち章 23:18）。教訓：ハイバルの富は**アッラーの恵み**であり、その恵みはやがてムスリムに託されることになります。

約束された近い勝利

フダイビーヤからの帰り道、アッラーは誓いを立てた者たちに報奨を約束されました：「**かれらに安らぎを下し、近い勝利でかれらに報いられた**」『イブン・カスィール注釈』48:18。

「**アッラーは、あなたがたが獲得する多くの戦利品を約束され、この（戦利品）を早めて与えられた**」『イブン・カスィール注釈』48:20。

イブン・カスィールと注釈学者たちは、「**近い勝利**」と「**早めて与えられた戦利品**」とは**ハイバル**のことであると説明しています。スィーラ書は、アッラーの使徒 ﷺ が**フダイビーヤの人々**だけをハイバルへ連れて行かれ、ハイバルの財はかれらに特別に分配されたと伝えています。アッラーの約束の成就としてです。

勝利章の約束	その成就
「近い勝利」（48:18）	2 か月後にハイバルが開かれる
「多くの戦利品」（48:19–20）	ハイバルの園と土地
「人々の手を押しとどめられた」（48:20）	ガタファーン族はハイバルを助けられなかった（スィーラ書）
「まだあなたがたの力の及ばない他のもの」（48:21）	マッカと、のちに開かれた国々

教訓：**アッラーの約束は必ず果たされます**。フダイビーヤの厳しい条件を忍耐して受け入れた人々が、今や勝利と広い糧を受けたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

フダイビーヤの人々だけ

スィーラ書によれば、出発前、フダイビーヤに参加しなかった人々 — かつて拒んだアラブの諸部族を含む — が、戦利品を期待して同行を望みました。アッラーはこのことを勝利章ですでに告げておられました：「あなたがたが戦利品を取りに出かけるとき、残留した者たちは『わたしたちにも、あなたがたに従わせてください』と言うであろう」（勝利章 48:15）。

アッラーの使徒 ﷺ は、フダイビーヤで**誠実に努めた者**だけを連れて行かれました。教訓：報奨は、**苦しいとき**に共にいた者に与えられるのであって、利益があるときだけ現れる者に与えられるのではありません。

夜の行軍とアーミルの詩

ムスリム軍は夜に進みました。サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضي الله عنه は、ある人がかれのおじ**アーミル・ブン・アル＝アクワウ**に「何か歌って聞かせてくれないか」と言ったと伝えています。アーミルは詩人で、ラクダから降りてラクダのために詩を吟じました：「**アッラーよ、あなたがおられなければ、私たちは導かれず、施しもせず、礼拝もしなかったでしょう……**」（『サヒーフ・ブハーリー』4196）。

アッラーの使徒 ﷺ は尋ねられました：「このラクダ追いは誰か」。人々は「アーミル・ブン・アル＝アクワウです」と答えました。使徒は「**アッラーがかれに慈悲をかけられますように**」と言われました。ある教友は言いました：「アッラーの預言者よ、（殉教は）かれのものと決まりました。もう少しかれと共にいさせてくだされば良かったのに」。教友たちは、慈悲を祈る言葉が、アーミルが殉教することを意味すると理解したのです（『サヒーフ・ブハーリー』4196）。

スィーラの注：跳ね返った剣

ハイバルでの戦いの中、アーミルの剣は短く、一人のユダヤ教徒に切りつけたとき、**剣先が跳ね返って自分の膝に当たり**、かれは亡くなりました。ある人々は、自分の武器で死んだのだから、かれの行いは無駄になったと言いました。サラマが悲しんでアッラーの使徒 ﷺ のもとに来ると、使徒は二本の指を合わせながら言われました：「**そう言った者は嘘をついている。かれには二つの報奨がある**」（『サヒーフ・ブハーリー』4196）。

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』4196；『サヒーフ・ムスリム』1802。https://sunnah.com/bukhari:4196

教訓：人がどのように亡くなったかで、その人の**行いを裁く**のを急いではなりません。アッラーは意図と行いを量られ、アッラーの使徒 ﷺ は亡くなった教友の名誉を守られました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

「ハイバルは滅びた！」

アッラーの使徒 ﷺ は夜にハイバルに着かれましたが、暗闇の中で攻撃はされませんでした。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、朝に起きたことを語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4197 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنْ حُمَيْدٍ الطَّوِيلِ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَتَى خَيْبَرَ لَيْلاً، وَكَانَ إِذَا أَتَى قَوْمًا بِلَيْلٍ لَمْ يُغِرْ بِهِمْ حَتَّى يُصْبِحَ، فَلَمَّا أَصْبَحَ خَرَجَتِ الْيَهُودُ بِمَسَاحِيهِمْ وَمَكَاتِلِهِمْ، فَلَمَّا رَأَوْهُ قَالُوا مُحَمَّدٌ وَاللَّهِ، مُحَمَّدٌ وَالْخَمِيسُ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم خَرِبَتْ خَيْبَرُ، إِنَّا إِذَا نَزَلْنَا بِسَاحَةِ قَوْمٍ فَسَاءَ صَبَاحُ الْمُنْذَرِينَ.

訳：

アナス رضى الله عنه は伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ は夜にハイバルに着かれた。使徒は夜にある民のもとに着かれると、朝になるまで攻撃されなかった。**朝になると、ユダヤ教徒たちは鍬とかごを持って出てきた。かれらは使徒を見ると言った：「ムハンマドだ、アッラーにかけて！ムハンマドとその軍勢（アル＝ハミース）だ！」預言者 ﷺ は言われた：「**ハイバルは滅びた！まことに、われらがある民の庭に降り立つとき、警告を受けた者たちの朝はなんと悪いことか。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← マーリク・ブン・アナス ← フマイド・アッ＝タウィール ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4197 番；第 371 番、第 4200 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1365 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4197

別の伝承でアナスは、アッラーの使徒 ﷺ が攻撃の前に**夜明けの礼拝の時を待たれた**と述べています。アザーンが聞こえれば手を控え、聞こえなければ攻撃されました（『サヒーフ・ブハーリー』610）。アザーンは、その民がムスリムであることのしるしだったのです。

戦いの作法	このハディースの中で
夜には攻撃しない	状況がはっきりする朝を待つ
イスラームのしるしを見る	行動の前にアザーンに耳を傾ける（ブハーリー 610）
警告はすでに与えられていた	「警告を受けた者たちの朝はなんと悪いことか」
タクビール	「アッラーは偉大なり、ハイバルは滅びた」（ブハーリー 371）

使徒の言葉「**警告を受けた者たちの朝はなんと悪いことか**」は、クルアーン（整列者章 37:177）からとられたものです。教訓：イスラームは警告なしの奇襲をせず、すでにイスラームに入っているかもしれない人々の**命を守ります**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：95 / 522

タクビール：アッラーフ・アクバル

アナスの別の伝承では、アッラーの使徒 ﷺ は「ハイバルは滅びた」と言われる前に「**アッラーフ・アクバル（アッラーは偉大なり）**」と言われています（『サヒーフ・ブハーリー』371）。タクビールは、**アッラーがより偉大である**こと、最も堅固な砦よりも、最も大きな軍勢よりも偉大であることを思い起こさせます。

教訓：信仰者は大きな事業を**アッラーの偉大さを念じる**ことから始めます。そうすれば心は困難の大きさにおびえず、自分の力におごることもありません。

砦から砦へ

ハイバルは一つの砦ではなく、いくつかの地区に散らばる**砦の集まり**でした。スィーラ書によれば、ムスリムはそれらを約 **20 夜**、あるいはそれ以上かけて一つずつ開いていきました。



図 3：スィーラ書によるハイバルの砦。

スィーラの注：両軍の兵力

スィーラ書は、ムスリム軍を約 **1,400 人** — フダイビーヤの人々 —、馬約 200 頭と見積もっています。ハイバルの戦士は約 **10,000 人**と見積もられています。ハイバルの同盟者**ガタファーン族**は救援に出ましたが、自分たちの村が襲われることを恐れて引き返しました。

参照：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：97 / 522

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；アル＝ワーキディー『遠征の書（アル＝マガーズィー）』；Wikipedia「Battle of Khaybar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Khaybar

包囲は厳しいものでした（第 11 章）。教訓：約束された勝利であっても、**忍耐と努力**が必要なのです。

一人の男への旗

最も堅固な砦の一つは、何日も攻め落とせませんでした。そこでアッラーの使徒 ﷺ は、教友たちが希望を抱いてその夜眠れなくなるような言葉を語られました。サフル・ブン・サアド رضى الله عنه は伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4210 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا يَعْقُوبُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، عَنْ أَبِي حَازِمٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي سَهْلُ بْنُ سَعْدٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ يَوْمَ خَيْبَرَ لأُعْطِيَنَّ هَذِهِ الرَّايَةَ غَدًا رَجُلاً، يَفْتَحُ اللَّهُ عَلَى يَدَيْهِ، يُحِبُّ اللَّهَ وَرَسُولَهُ، وَيُحِبُّهُ اللَّهُ وَرَسُولُهُ. قَالَ فَبَاتَ النَّاسُ يَدُوكُونَ لَيْلَتَهُمْ أَيُّهُمْ يُعْطَاهَا فَلَمَّا أَصْبَحَ النَّاسُ غَدَوْا عَلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، كُلُّهُمْ يَرْجُو أَنْ يُعْطَاهَا فَقَالَ أَيْنَ عَلِيُّ بْنُ أَبِي طَالِبٍ. فَقِيلَ هُوَ يَا رَسُولَ اللَّهِ يَشْتَكِي عَيْنَيْهِ. قَالَ فَأَرْسِلُوا إِلَيْهِ. فَأُتِيَ بِهِ فَبَصَقَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي عَيْنَيْهِ، وَدَعَا لَهُ، فَبَرَأَ حَتَّى كَأَنْ لَمْ يَكُنْ بِهِ وَجَعٌ، فَأَعْطَاهُ الرَّايَةَ، فَقَالَ عَلِيٌّ يَا رَسُولَ اللَّهِ أُقَاتِلُهُمْ حَتَّى يَكُونُوا مِثْلَنَا، فَقَالَ انْفُذْ عَلَى رِسْلِكَ حَتَّى تَنْزِلَ بِسَاحَتِهِمْ، ثُمَّ ادْعُهُمْ إِلَى الإِسْلاَمِ، وَأَخْبِرْهُمْ بِمَا يَجِبُ عَلَيْهِمْ مِنْ حَقِّ اللَّهِ فِيهِ، فَوَاللَّهِ لأَنْ يَهْدِيَ اللَّهُ بِكَ رَجُلاً وَاحِدًا خَيْرٌ لَكَ مِنْ أَنْ يَكُونَ لَكَ حُمْرُ النَّعَمِ.

訳：

サフル・ブン・サアド رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がハイバルの日に言われたと伝えています：「**明日、私はこの旗を、アッラーがその両手によって勝利を与えられる一人の男に渡そう。かれはアッラーとその使徒を愛し、アッラーとその使徒もかれを愛している。**」人々は、誰に旗が渡されるのかを語り合いながら夜を過ごした。朝になると、皆がアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て、それぞれ自分に渡されることを願った。使徒は尋ねられた：「アリー・ブン・アビー・ターリブはどこにいるか」。「アッラーの使徒よ、かれは目を患っています」と言われると、使徒は「かれを呼びなさい」と言われた。かれが連れて来られると、**アッラーの使徒 ﷺ はかれの目に少し唾をつけて祈ら**

れ、かれはまるで病んだことがなかったかのように癒えた。使徒はかれに旗を渡された。アリーは尋ねた：「アッラーの使徒よ、かれらが私たちのようになるまで戦うのですか」。使徒は言われた：**「落ち着いて進み、かれらの庭に着いたら、イスラームへと呼びかけ、アッラーの権利としてかれらに課されていることを告げなさい。**アッラーにかけて、アッラーがあなたを通して一人の人を導かれることは、あなたにとって赤いラクダよりも良い。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ヤアクーブ・ブン・アブドゥッラフマーン ← アブー・ハーズィム ← サフル・ブン・サアド رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4210 番；第 2942 番、第 3701 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 2406 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4210

「かれはアッラーとその使徒を愛している」

教友たちが皆その旗を望んだのは、地位がほしかったからではなく、**約束された資質**のため、つまりアッラーとその使徒に愛されることのためでした。ウマル رضي الله عنه は言いました：「私は、あの日以外に指導者の地位を望んだことはない」（『サヒーフ・ムスリム』2405）。

アリーの目に起きた奇跡 — アッラーの使徒 ﷺ の唾と祈りによってたちまち癒えたこと — は、全軍の目の前で起こりました。教訓：**アッラーとその使徒への愛**こそ、教友たちが財産や地位よりも切望した最高の位なのです。

目を患ったアリー

サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضى الله عنه は、アリーの熱意を示す細部を伝えています。目を患っていたにもかかわらず、かれは**遅れることを拒んだ**のです — アッラーの使徒 ﷺ から：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4209 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مَسْلَمَةَ، حَدَّثَنَا حَاتِمٌ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ أَبِي عُبَيْدٍ، عَنْ سَلَمَةَ، رضى الله عنه قَالَ كَانَ عَلِيٌّ ـ رضى الله عنه ـ تَخَلَّفَ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فِي خَيْبَرَ، وَكَانَ رَمِدًا فَقَالَ أَنَا أَتَخَلَّفُ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَلَحِقَ، فَلَمَّا بِتْنَا اللَّيْلَةَ الَّتِي فُتِحَتْ قَالَ لأُعْطِيَنَّ الرَّايَةَ غَدًا ـ أَوْ لَيَأْخُذَنَّ الرَّايَةَ غَدًا ـ رَجُلٌ يُحِبُّهُ اللَّهُ وَرَسُولُهُ، يُفْتَحُ عَلَيْهِ. فَنَحْنُ نَرْجُوهَا فَقِيلَ هَذَا عَلِيٌّ، فَأَعْطَاهُ فَفُتِحَ عَلَيْهِ.

訳：

サラマ رضى الله عنه は言った：**アリー رضى الله عنه は目を患っていたため、ハイバル（への道）で預言者 ﷺ から遅れていた。かれは言った：「私が預言者 ﷺ から遅れていてよいものか」。そしてかれは追いついた。**ハイバルが開かれる前夜、使徒は言われた：「明日、私は旗を渡そう — あるいは、明日一人の男が旗を取るであろう — アッラーとその使徒に愛される者に。勝利はかれを通して与えられる」。私たちは皆それを望んでいた。すると「アリーが来た」と言われた。**使徒はかれに旗を渡され、勝利はかれを通して与えられた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・マスラマ ← ハーティム・ブン・イスマーイール ← ヤズィード・ブン・アビー・ウバイド ← サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4209 番；第 2975 番、第 3702 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 2407 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4209

教訓：アリーは病を遅れる口実にせず、アッラーは皆が望んだ栄誉をかれに授けられました。**困難な中での真剣さ**が、思いがけない栄誉の扉を開くことがあるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

赤いラクダよりも良いもの

サフル・ブン・サアドのハディースにある、アリーの問いとアッラーの使徒 ﷺ の答えに注目してください。アリーは「かれらが私たちのようになるまで戦うのですか」と尋ねました。使徒は戦いの命令ではなく、**呼びかけ（ダアワ）の命令**で答えられました：「イスラームへと呼びかけなさい……**アッラーにかけて、アッラーがあなたを通して一人の人を導かれることは、あなたにとって赤いラクダよりも良い。**」

赤いラクダは、当時のアラブ人にとって最も価値ある財産で、現代でいえば高級車のようなものでした。アッラーの使徒 ﷺ は、**一人の人間が導かれること**は、最も高価な財産よりも価値があると教えられたのです。

アリーへの指示	原則
「落ち着いて進みなさい」	急がず、性急にならない
「かれらの庭に着くまで」	面と向かって会う
「イスラームへと呼びかけなさい」	戦いの前に呼びかけ
「アッラーの権利を告げなさい」	はっきりとした説明
「赤いラクダよりも良い」	目的は導きであって、財産ではない

教訓：イスラームにおけるジハードの目的は**導きへの道を開くこと**であり、財産を奪ったり復讐したりすることではありません。どのような職業のムスリムでも、誰かがアッラーを知るきっかけとなることで、この「赤いラクダ」を得ることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マルハブとアル＝カムースの砦

アブー・アル＝フカイク家の**アル＝カムース**の砦は、ハイバルで最も堅固な砦の一つでした。有名なユダヤ教徒の戦士**マルハブ**が出てきて、自分を誇る詩を吟じながら、一騎打ちに応じる者に挑みました。

イマーム・ムスリムは、サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضي الله عنه の長いハディースの中で、アリーが詩を吟じながらその挑戦に応じたと伝えています：「**私こそ、母がハイダラ（獅子）と名づけた者……**」そしてアリーはマルハブの頭に切りつけてかれを倒し、**勝利はアリーの手によって与えられました**（『サヒーフ・ムスリム』1807）。

スィーラの注：砦の門の話

一部のスィーラ書は、アリーがハイバルの**砦の門**を持ち上げて盾とし、その後、数人の男たちでもそれを持ち上げられなかったと伝えています。この話は世間でよく知られていますが、アッ＝ザハビーやイブン・ハジャルなどのハディース学者によれば**その伝承経路は弱い**のです。ここでは、確かな伝承としてではなく、その位置づけを読者が知るために記しています。

真正なのは次のことです：アリーが旗を受け取り、目が癒え、マルハブを倒し、砦はかれの手によって開かれました（ブハーリー 4210；ムスリム 1807）。

参照：

『サヒーフ・ムスリム』1807；イブン・ハジャル『バーリーの開示（ファトフ・アル＝バーリー）』；アッ＝ザハビー『均衡の秤（ミーザーン・アル＝イウティダール）』。
https://sunnah.com/muslim:1807

教訓：教友たちの勇気の物語は、真正な伝承だけで十分に偉大です。かれらを称えるために、弱い伝承を**付け加える必要はありません。**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

行いは最期によって決まる

ハイバルでは、**意図と行いの最期**について深く考えさせられる出来事も起きました。

サフル・ブン・サアド・アッ＝サーイディー رضى الله عنه は語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4202 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ، حَدَّثَنَا يَعْقُوبُ، عَنْ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ سَهْلِ بْنِ سَعْدٍ السَّاعِدِيِّ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْتَقَى هُوَ وَالْمُشْرِكُونَ فَاقْتَتَلُوا، فَلَمَّا مَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى عَسْكَرِهِ، وَمَالَ الآخَرُونَ إِلَى عَسْكَرِهِمْ، وَفِي أَصْحَابِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم رَجُلٌ لاَ يَدَعُ لَهُمْ شَاذَّةً وَلاَ فَاذَّةً إِلاَّ اتَّبَعَهَا، يَضْرِبُهَا بِسَيْفِهِ، فَقِيلَ مَا أَجْزَأَ مِنَّا الْيَوْمَ أَحَدٌ كَمَا أَجْزَأَ فُلاَنٌ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَمَا إِنَّهُ مِنْ أَهْلِ النَّارِ. فَقَالَ رَجُلٌ مِنَ الْقَوْمِ أَنَا صَاحِبُهُ. قَالَ فَخَرَجَ مَعَهُ كُلَّمَا وَقَفَ وَقَفَ مَعَهُ، وَإِذَا أَسْرَعَ أَسْرَعَ مَعَهُ ـ قَالَ ـ فَجُرِحَ الرَّجُلُ جُرْحًا شَدِيدًا، فَاسْتَعْجَلَ الْمَوْتَ، فَوَضَعَ سَيْفَهُ بِالأَرْضِ وَذُبَابَهُ بَيْنَ ثَدْيَيْهِ، ثُمَّ تَحَامَلَ عَلَى سَيْفِهِ، فَقَتَلَ نَفْسَهُ، فَخَرَجَ الرَّجُلُ إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ أَشْهَدُ أَنَّكَ رَسُولُ اللَّهِ قَالَ وَمَا ذَاكَ. قَالَ الرَّجُلُ الَّذِي ذَكَرْتَ آنِفًا أَنَّهُ مِنْ أَهْلِ النَّارِ، فَأَعْظَمَ النَّاسُ ذَلِكَ، فَقُلْتُ أَنَا لَكُمْ بِهِ. فَخَرَجْتُ فِي طَلَبِهِ، ثُمَّ جُرِحَ جُرْحًا شَدِيدًا، فَاسْتَعْجَلَ الْمَوْتَ، فَوَضَعَ نَصْلَ سَيْفِهِ فِي الأَرْضِ وَذُبَابَهُ بَيْنَ ثَدْيَيْهِ، ثُمَّ تَحَامَلَ عَلَيْهِ، فَقَتَلَ نَفْسَهُ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عِنْدَ ذَلِكَ إِنَّ الرَّجُلَ لَيَعْمَلُ عَمَلَ أَهْلِ الْجَنَّةِ، فِيمَا يَبْدُو لِلنَّاسِ، وَهْوَ مِنْ أَهْلِ النَّارِ، وَإِنَّ الرَّجُلَ لَيَعْمَلُ عَمَلَ أَهْلِ النَّارِ، فِيمَا يَبْدُو لِلنَّاسِ، وَهْوَ مِنْ أَهْلِ الْجَنَّةِ.

訳：

サフル・ブン・サアド・アッ＝サーイディー رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ と多神教徒たちが出会って戦ったと伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ の教友の中に、離れた敵を一人も見逃さず、追いかけて剣で切りつける男がいた。人々は言った：「今日、私たちの中で誰もあの者ほど働いた者はいない」。アッラーの使徒 ﷺ は言われた：「よく聞きなさい、かれは地獄の民である」。**ある男が「私がかれについて行こう」と言い、

かれの後をつけた……やがてその男は重傷を負い、**耐えきれずに**自分の剣で死を早めた。後をつけた男はアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て言った：「私は、あなたがアッラーの使徒であることを証言します」。アッラーの使徒 ﷺ はそのとき言われた：「**まことに、ある人は人々の目には楽園の民の行いをしていても、地獄の民である。ある人は人々の目には地獄の民の行いをしていても、楽園の民である。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ヤアクーブ・ブン・アブドゥッラフマーン ← アブー・ハーズィム ← サフル・ブン・サアド・アッ＝サーイディー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4202 番；第 2898 番、第 6493 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 112 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4202

その男はたいへん激しく戦い、皆がかれを称えました。しかしアッラーの使徒 ﷺ は、啓示によって**隠されていたこと**を知っておられました。かれは傷の痛みに耐えられず、自ら命を絶ったのです — イスラームにおける大罪です。学者たちは、別の伝承では、かれがアッラーのためではなく**部族の熱情**のために戦っていたと説明しています。

アッラーの使徒 ﷺ はまた言われました：「**まことに、行いは最期によって決まる。**」（『サヒーフ・ブハーリー』6607）。私たちは自分の最期がどうなるかを知りません。だから、アッラーが私たちの心を**堅く保ってくださる**よう、その教えの上にとどめてくださるよう、常に祈るのです。

イスラームは命を**アッラーからの預かりもの**とみなし、自分自身を傷つけることを禁じています：「あなたがた自身を殺してはならない」（女性章 4:29）。痛みや試練は、どれほど重くても、忍耐と助けを求めることで向き合うものです。教訓：**見か**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：107 / 522

けにだまされてはなりません。そして常に、アッラーのために意図を新たにしましょう。

心の堅固さを求める祈り

行いの最期は分からないので、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が常にこう祈っておられました：「**ヤー・ムカッリバル・クルーブ、サッビト・カルビー・アラー・ディーニク**」 — 「心を移り変わらせる御方よ、私の心をあなたの教えの上に堅く保ってください。」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2140、ハサン（良好）と評価）。

罪から守られたアッラーの使徒 ﷺ でさえ心の堅固さを求められたのなら、私たちにはなおさら必要です。教訓：すでに行った善行で**安心しきって**はなりません。生涯の終わりまで祈り、行い続けましょう。

燃える外套

勝利の後、新たな試練が訪れました。**戦利品**です。イスラームでは、戦利品は集められ、公正に分配されねばならず、分配の前には誰も少しも取ってはなりません。アブー・フライラ رضى الله عنه は、恐ろしい出来事を語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4234 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا مُعَاوِيَةُ بْنُ عَمْرٍو، حَدَّثَنَا أَبُو إِسْحَاقَ، عَنْ مَالِكِ بْنِ أَنَسٍ، قَالَ حَدَّثَنِي ثَوْرٌ، قَالَ حَدَّثَنِي سَالِمٌ، مَوْلَى ابْنِ مُطِيعٍ أَنَّهُ سَمِعَ أَبَا هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ افْتَتَحْنَا خَيْبَرَ، وَلَمْ نَغْنَمْ ذَهَبًا وَلاَ فِضَّةً، إِنَّمَا غَنِمْنَا الْبَقَرَ وَالإِبِلَ وَالْمَتَاعَ وَالْحَوَائِطَ، ثُمَّ انْصَرَفْنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى وَادِي الْقُرَى، وَمَعَهُ عَبْدٌ لَهُ يُقَالُ لَهُ مِدْعَمٌ، أَهْدَاهُ لَهُ أَحَدُ بَنِي الضِّبَابِ، فَبَيْنَمَا هُوَ يَحُطُّ رَحْلَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِذْ جَاءَهُ سَهْمٌ عَائِرٌ حَتَّى أَصَابَ ذَلِكَ الْعَبْدَ، فَقَالَ النَّاسُ هَنِيئًا لَهُ الشَّهَادَةُ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بَلَى وَالَّذِي نَفْسِي بِيَدِهِ، إِنَّ الشَّمْلَةَ الَّتِي أَصَابَهَا يَوْمَ خَيْبَرَ مِنَ الْمَغَانِمِ لَمْ تُصِبْهَا الْمَقَاسِمُ لَتَشْتَعِلُ عَلَيْهِ نَارًا. فَجَاءَ رَجُلٌ حِينَ سَمِعَ ذَلِكَ مِنَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم بِشِرَاكٍ أَوْ بِشِرَاكَيْنِ، فَقَالَ هَذَا شَىْءٌ كُنْتُ أَصَبْتُهُ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم شِرَاكٌ أَوْ شِرَاكَانِ مِنْ نَارٍ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った：**私たちはハイバルを開いたが、戦利品として金も銀も得なかった。得たのは牛、ラクダ、品物、そして果樹園だけであった。**それから私たちはアッラーの使徒 ﷺ と共にワーディー・アル＝クラーへ向かった。使徒のもとにはミドアムという名の奴隷がいた。かれがアッラーの使徒 ﷺ の鞍を下ろしていると、突然どこからともなく矢が飛んできて、かれに当たった。人々は言った：「おめでとう、殉教だ！」アッラーの使徒 ﷺ は言われた：「**いや！わが魂をその御手に握られる御方にかけて、かれがハイバルの日に分配前の戦利品から取った外套は、必ずや火となってかれの上で燃えるであろう。**」これを聞いて、ある男が靴ひもを一本か二本持っ

て来て言った：「これは私が取ったものです」。アッラーの使徒 ﷺ は言われた：「**靴ひも一本か二本も、火から出たものだ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド ← ムアーウィヤ・ブン・アムル ← アブー・イスハーク・アル＝ファザーリー ← マーリク・ブン・アナス ← サウル・ブン・ザイド ← イブン・ムティーウの解放奴隷サーリム ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4234 番；第 6707 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 115 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4234

クルアーンは、財産の横領（グルール）について厳しく警告しています：「**横領する者は、復活の日に、その横領したものを持って来るであろう**」『イブン・カスィール注釈』3:161。

想像してみてください。アッラーの使徒 ﷺ に仕えている最中に殺され、人々が殉教者だと思った奴隷が、不正に取った**一枚の外套**のために火に包まれるのです。**靴ひも一本**でさえ「火から出たもの」と言われました。

今日の教訓：**公共の財産** — 会社のお金、政府の予算、モスクの基金 — はとても重い預かりものです。権利なしにそれをわずかでも取れば、火で警告されたグルールに含まれます。

現代のグルール

アッラーの使徒 ﷺ は言われました：「**われらがある仕事に任命した者が、針一本、あるいはそれより小さいものでも私たちから隠したなら、それはグルール（横領）であり、かれは復活の日にそれを持って来るであろう。**」（『サヒーフ・ムスリム』1833）。

今日、グルールは**賄賂、偽りの請求、資金の流用**、職場の物を私用に使うことなどの形で起こりえます。教訓：預かりものに「小さすぎる」ものはありません。針一本、靴ひも一本、事務所の紙一枚でもです。

飼いロバの肉

包囲中の飢えの中、教友たちは**飼いロバ**を屠って料理しました。するとアッラーの使徒 ﷺ から禁止が下りました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4217 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ مُقَاتِلٍ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، حَدَّثَنَا عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ عُمَرَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم نَهَى يَوْمَ خَيْبَرَ عَنْ لُحُومِ الْحُمُرِ الأَهْلِيَّةِ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ はハイバルの日に、飼いロバの肉（を食べること）を禁じられた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ムカーティル ← アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← ウバイドゥッラー・ブン・ウマル ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4217 番；第 4218〜4227 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1407 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4217

別の伝承では、アッラーの使徒 ﷺ は**ロバの肉が煮えたっている鍋をひっくり返す**よう命じられ、それは「リジス」（不浄）であると言われました（『サヒーフ・ブハーリー』4198〜4199）。教友たちは、空腹で肉がほとんど煮えていたにもかかわらず、すぐに従いました。

ハイバルからの規定	説明
飼いロバの肉	食べることは禁じられる（ブハーリー 4217；ムスリム 1407）
野生のロバ（ヒマール・ワフシー）	狩りの獲物であるため許される

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：113 / 522

ハイバルからの規定	説明
馬の肉	許される（ブハーリー 4219）
牙のある猛獣	食べることは禁じられる（ムスリム 1934）

教訓：空腹のときでも**すぐに従うこと**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

収穫折半の協定

ハイバルが開かれた後、その土地はムスリムのものとなりました。しかしアッラーの使徒 ﷺ は住民を追い出されませんでした。使徒は賢明な**経済協定**を結ばれたのです：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2285 番

حَدَّثَنَا مُوسَى بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا جُوَيْرِيَةُ بْنُ أَسْمَاءَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ أَعْطَى رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَيْبَرَ أَنْ يَعْمَلُوهَا وَيَزْرَعُوهَا وَلَهُمْ شَطْرُ مَا يَخْرُجُ مِنْهَا، وَأَنَّ ابْنَ عُمَرَ حَدَّثَهُ أَنَّ الْمَزَارِعَ كَانَتْ تُكْرَى عَلَى شَىْءٍ سَمَّاهُ نَافِعٌ لاَ أَحْفَظُهُ. وَأَنَّ رَافِعَ بْنَ خَدِيجٍ حَدَّثَ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم نَهَى عَنْ كِرَاءِ الْمَزَارِعِ. وَقَالَ عُبَيْدُ اللَّهِ عَنْ نَافِعٍ عَنِ ابْنِ عُمَرَ حَتَّى أَجْلاَهُمْ عُمَرُ.

訳：

アブドゥッラー（・ブン・ウマル）رضى الله عنهما は言った：**アッラーの使徒 ﷺ はハイバル（の土地）を（その住民に）任せ、かれらがそれを耕し、作物を植え、収穫の半分をかれらのものとされた。**イブン・ウマルは、かつて畑はナーフィウが述べたもの（伝承者は覚えていない）で貸し出されていたと語り、ラーフィウ・ブン・ハディージュは、預言者 ﷺ が（ある種の方法での）畑の貸借を禁じられたと語った。ウバイドゥッラーはナーフィウから、イブン・ウマルから伝えた：**（かれらはそのまま続けた）ウマルがかれらを立ち退かせるまで。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー・ブン・イスマーイール ← ジュワイリヤ・ブン・アスマー ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما；またラーフィウ・ブン・ハディージュ；およびウバイドゥッラー・ブン・ウマル ← ナーフィウ ← イブン・ウマル。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』賃貸の書、ハディース第 2285 番；第 2329 番、第 2338 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1551 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2285

この協定は、**ムサーカー**（果樹の場合）と**ムザーラア**（作物の場合）として知られています。地主が土地を耕作者に任せ、収穫を二人で分けるのです。ハイバルの住民は自分たちのナツメヤシ園の扱いに長けており、ムスリムは呼びかけと防衛に忙しかったのです。

協定の利点	説明
住民は自分の土地にとどまる	住まいと生計を失わない
技能が生かされる	熟練した農民が園を耕し続ける
収穫は公正に分けられる	半分は耕作者に、半分はムスリムに
取引に関するフィクフの基礎	ムサーカーとムザーラアが許される根拠

スィーラの注：アブドゥッラー・ブン・ラワーハの見積もり

イマーム・マーリクらは、**アブドゥッラー・ブン・ラワーハ** رضي الله عنه が毎季、ハイバルのナツメヤシの収穫を見積もるために遣わされたと伝えています。ハイバルの住民は、手加減してもらおうと女性たちの装身具でかれを買収しようとしました。かれは言いました：「**アッラーにかけて、私は被造物の中で最も愛する御方のもとから来た。あなたがたは私が最も嫌う者たちだ。だが、あなたがたへの嫌悪もあの御方への愛も、私をあなたがたに不公正にさせることはない。**」かれらは言いました：「この（公正）によってこそ、天と地は成り立っている。」

参照：
『イマーム・マーリクのムワッタア』ムサーカーの書；『ムスナド・アフマド』。

教訓：取引における公正は、ムスリムであろうとなかろうと、**すべての人**に適用されます。この協定はウマル رضي الله عنه の時代まで続き、ウマルはのちにかれらを移住させました（『サヒーフ・ブハーリー』2285）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：116 / 522

イスラーム経済における共同の原則

ハイバルの協定は、イスラーム経済における**利益とリスクの共有**という考え方の基礎となりました。ムサーカーとムザーラアでは、地主と耕作者が**ともにリスクを負います**。収穫が多ければ両者が得をし、少なければ両者が少なく受け取るのです。

同じ原則は今日、ムダーラバやムシャーラカのような**イスラーム金融**で用いられ、利子に基づく貸付と区別されています。教訓：経済の公正とは、**利益と損失を共に分かち合う**ことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サフィーヤ：捕虜から信者たちの母へ

ハイバルの捕虜の中に、ナディール族の指導者の娘**サフィーヤ・ビント・フヤイイ・ブン・アフタブ**がいました。父はクライザ族の出来事で殺され（第 13 巻）、夫はハイバルで殺されました。アッラーの使徒 ﷺ はかの女に選択を与え、かの女はイスラームを選びました。アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 5086 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادٌ، عَنْ ثَابِتٍ، وَشُعَيْبِ بْنِ الْحَبْحَابِ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَعْتَقَ صَفِيَّةَ، وَجَعَلَ عِتْقَهَا صَدَاقَهَا.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ はサフィーヤを解放し、その解放をかの女のマハル（婚資）とされた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ハンマード・ブン・ザイド ← サービト・アル＝ブナーニー と シュアイブ・ブン・アル＝ハブハーブ ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』婚姻の書、女奴隷の解放をそのマハルとした者の章、ハディース第 5086 番；第 371 番、第 4200 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1365 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:5086

アッラーの使徒 ﷺ はサフィーヤを奴隷にされず、**解放され**、その解放をマハルとして結婚されました。かの女は**信者たちの母（ウンマハート・アル＝ムウミニーン）**の一人となりました。これはかの女を尊び、民の指導者の娘としての地位を回復させるものでした。

ハフサに「ユダヤ教徒の娘」と呼ばれてサフィーヤが泣いたとき、アッラーの使徒 ﷺ はかの女を慰められました：**「まことにあなたは預言者（ハールーン عَلَيْهِ السَّلَامُ）**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：118 / 522

の子孫、おじは預言者（ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ）、そしてあなたは預言者の妻である。それなのに、かの女は何をあなたに誇るというのか。」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3894、アル＝アルバーニーはサヒーフと評価）。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は、すべてを失った女性を**尊ばれました**。

サフィーヤのための膝

アナス رضى الله عنه は、ハイバルからの帰り道、アッラーの使徒 ﷺ がラクダの上の自分の後ろにサフィーヤの席を用意され、それから**ラクダのそばに座って膝を差し出され**、サフィーヤはその膝に足を乗せてラクダに乗ったと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』4211）。

一国の指導者が、家族を失ったばかりの妻のために膝を低くしたのです。教訓：妻への**優しさと敬意**はアッラーの使徒 ﷺ のスンナであり、弱さのしるしではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジャアファルと船の人々

ハイバルが開かれた日は、長く待ちわびた一行の到着によって、いっそう喜ばしいものとなりました。**ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه と、十年以上前に**アビシニア**へ移住した教友たち（第 3 巻）がついに到着し、イエメンからのアブー・ムーサー・アル＝アシュアリーとその民も一緒でした。アブー・ムーサー رضى الله عنه は語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4230 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْعَلاَءِ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، حَدَّثَنَا بُرَيْدُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، عَنْ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ أَبِي مُوسَى - رضى الله عنه - قَالَ بَلَغَنَا مَخْرَجُ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَنَحْنُ بِالْيَمَنِ، فَخَرَجْنَا مُهَاجِرِينَ إِلَيْهِ أَنَا، وَأَخَوَانِ لِي أَنَا أَصْغَرُهُمْ، أَحَدُهُمَا أَبُو بُرْدَةَ، وَالآخَرُ أَبُو رُهْمٍ - إِمَّا قَالَ بِضْعٌ وَإِمَّا قَالَ - فِي ثَلاَثَةٍ وَخَمْسِينَ أَوِ اثْنَيْنِ وَخَمْسِينَ رَجُلاً مِنْ قَوْمِي، فَرَكِبْنَا سَفِينَةً، فَأَلْقَتْنَا سَفِينَتُنَا إِلَى النَّجَاشِيِّ بِالْحَبَشَةِ، فَوَافَقْنَا جَعْفَرَ بْنَ أَبِي طَالِبٍ فَأَقَمْنَا مَعَهُ حَتَّى قَدِمْنَا جَمِيعًا، فَوَافَقْنَا النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم حِينَ افْتَتَحَ خَيْبَرَ، وَكَانَ أُنَاسٌ مِنَ النَّاسِ يَقُولُونَ لَنَا - يَعْنِي لأَهْلِ السَّفِينَةِ - سَبَقْنَاكُمْ بِالْهِجْرَةِ، وَدَخَلَتْ أَسْمَاءُ بِنْتُ عُمَيْسٍ، وَهْىَ مِمَّنْ قَدِمَ مَعَنَا، عَلَى حَفْصَةَ زَوْجِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم زَائِرَةً، وَقَدْ كَانَتْ هَاجَرَتْ إِلَى النَّجَاشِيِّ فِيمَنْ هَاجَرَ، فَدَخَلَ عُمَرُ عَلَى حَفْصَةَ وَأَسْمَاءُ عِنْدَهَا، فَقَالَ عُمَرُ حِينَ رَأَى أَسْمَاءَ مَنْ هَذِهِ قَالَتْ أَسْمَاءُ بِنْتُ عُمَيْسٍ. قَالَ عُمَرُ الْحَبَشِيَّةُ هَذِهِ الْبَحْرِيَّةُ هَذِهِ قَالَتْ أَسْمَاءُ نَعَمْ. قَالَ سَبَقْنَاكُمْ بِالْهِجْرَةِ، فَنَحْنُ أَحَقُّ بِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنْكُمْ. فَغَضِبَتْ وَقَالَتْ كَلاَّ وَاللَّهِ، كُنْتُمْ مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يُطْعِمُ جَائِعَكُمْ، وَيَعِظُ جَاهِلَكُمْ، وَكُنَّا فِي دَارٍ أَوْ فِي أَرْضِ الْبُعَدَاءِ الْبُغَضَاءِ بِالْحَبَشَةِ، وَذَلِكَ فِي اللَّهِ وَفِي رَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم وَايْمُ اللَّهِ، لاَ أَطْعَمُ طَعَامًا، وَلاَ أَشْرَبُ شَرَابًا حَتَّى أَذْكُرَ مَا قُلْتَ لِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَنَحْنُ كُنَّا نُؤْذَى وَنُخَافُ، وَسَأَذْكُرُ ذَلِكَ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَأَسْأَلُهُ، وَاللَّهِ لاَ أَكْذِبُ وَلاَ أَزِيغُ وَلاَ أَزِيدُ عَلَيْهِ.

訳：

アブー・ムーサー رضى الله عنه は言った：**預言者 ﷺ が（移住のために）出発されたという知らせは、私たちがイエメンにいたときに届いた。私たちは使徒のもとへ移住しようと出発した — 私と二人の兄弟……そして私の民の五十数人と共に。私たちは船に乗ったが、船は私たちをアビシニアのナジャーシーのもとへ運んだ。そこで私たちはジャアファル・ブン・アビー・ターリブと出会い、共に暮らした。そしてついに皆で（マディーナへ）来て、預言者 ﷺ がハイバルを開かれたときにお会いしたのである。**ある人々は私たち（船の人々）に「私たちは移住であなたがたに先んじた」と言った。私たちと一緒に来たアスマー・ビント・ウマイスがハフサを訪ねていると、ウマルが入って来て言った：「私たちは移住であなたがたに先んじた。だから私たちの方が、あなたがたよりアッラーの使徒 ﷺ に近い権利がある」。アスマーは怒って言った：「**いいえ、アッラーにかけて！あなたがたはアッラーの使徒 ﷺ と共にいて、使徒はあなたがたの中の飢えた者に食べさせ、無知な者を諭しておられた。一方、私たちはアビシニアという遠く疎まれた地にいた — それはすべてアッラーとその使徒 ﷺ のためだったのです。**」かの女は、嘘も偽りも付け足しもせず、それを預言者 ﷺ にお伝えすると誓った。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝アラー ← アブー・ウサーマ ← ブライド・ブン・アブドゥッラー ← アブー・ブルダ ← アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4230〜4231 番；『サヒーフ・ムスリム』第 2502〜2503 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4230

「あなたがたには二つのヒジュラがある」

アスマー・ビント・ウマイスは、ウマルの言葉をアッラーの使徒 ﷺ にお伝えしました。使徒は言われました：「**かれは、あなたがた以上に私に近い権利があるわけではない。かれとその仲間には一つのヒジュラ（移住）があるが、あなたがた — 船の人々 — には二つのヒジュラがある。**」アスマーは言いました：アブー・ムーサーと船の人々が、このハディースについて尋ねに次々と私のもとに来ました。**この世のどんなものも、かれらをそれ以上に喜ばせはしなかった**のです（『サヒーフ・ブハーリー』4231）。

> **スィーラの注：「どちらがより嬉しいか分からない」**
>
> スィーラ書は、ジャアファルが到着したとき、アッラーの使徒 ﷺ がかれを抱きしめ、額に口づけして言われたと伝えています：「ハイバルが開かれたことと、ジャアファルが来たことと、どちらがより嬉しいか分からない」。この伝承は**一部の学者によってハサン（良好）と評価され**、スィーラ書でよく知られています。
>
> **参照：**
> アル＝ハーキム『補遺（アル＝ムスタドラク）』；アッ＝タバラーニー；イブン・ヒシャーム『預言者伝』。

教訓：アビシニアの人々の忍耐 — アッラーの使徒 ﷺ から遠く離れた異国での長い年月 — は**無駄にはなりませんでした**。アッラーとその使徒は、人々の目に見えない犠牲を評価されるのです。アスマーの言葉は、真実を誠実に守る**女性の勇気**をも示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルに着いたアブー・フライラ

ハイバルに着いたもう一人は、イエメンのダウス族の男で、のちにイスラーム史上**最も多くのハディースを伝えた者**となった**アブー・フライラ** رضي الله عنه です。かれ自身が言っています：「**私は、人々がハイバルを開いた後に、ハイバルにいるアッラーの使徒 ﷺ のもとに来た。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4237）。

アブー・フライラがアッラーの使徒 ﷺ と共にいたのは約 **4 年**だけでしたが、かれは **5,000 以上のハディース**を伝えました。かれはその秘密を説明しています：「人々はアブー・フライラが多く伝えすぎると言う……私たちの兄弟である移住者たちは市場での商売に忙しく、援助者たちは自分の財産に忙しかった。一方アブー・フライラは、**空腹のまま、いつもアッラーの使徒 ﷺ** のそばにいた」（『サヒーフ・ブハーリー』118）。

教訓：**短い期間**でも、心を尽くして用いれば大きな知識を実らせます。今日私たちが学ぶハディースの多くは、ハイバルに着いたこの人を通して届いたのです。

アブー・フライラの母のための祈り

アブー・フライラの母はまだイスラームに入っていませんでした。ある日、かの女がアッラーの使徒 ﷺ についてひどいことを言ったので、アブー・フライラは泣きながら来て、使徒に母のために祈ってほしいと頼みました。アッラーの使徒 ﷺ は祈られました：「**アッラーよ、アブー・フライラの母を導いてください。**」アブー・フライラが家に帰ると、母は身を清め、二つの信仰告白を唱えていました（『サヒーフ・ムスリム』2491）。

教訓：**親孝行**には、たとえ親が私たちの心を傷つけても、忍耐と愛情をもってその導きを祈ることも含まれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

毒入りの羊の肉

ハイバルが開かれた後、アッラーの使徒 ﷺ の暗殺が試みられました。一人のユダヤ教徒の女性**ザイナブ・ビント・アル＝ハーリス**（スィーラ書による）が、毒を盛った焼いた羊を贈ったのです。アブー・フライラ رضى الله عنه は伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3169 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، قَالَ حَدَّثَنِي سَعِيدٌ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا فُتِحَتْ خَيْبَرُ أُهْدِيَتْ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم شَاةٌ فِيهَا سُمٌّ فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم اجْمَعُوا إِلَىَّ مَنْ كَانَ هَا هُنَا مِنْ يَهُودَ. فَجُمِعُوا لَهُ فَقَالَ إِنِّي سَائِلُكُمْ عَنْ شَىْءٍ فَهَلْ أَنْتُمْ صَادِقِيَّ عَنْهُ. فَقَالُوا نَعَمْ. قَالَ لَهُمُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مَنْ أَبُوكُمْ. قَالُوا فُلاَنٌ. فَقَالَ كَذَبْتُمْ، بَلْ أَبُوكُمْ فُلاَنٌ. قَالُوا صَدَقْتَ. قَالَ فَهَلْ أَنْتُمْ صَادِقِيَّ عَنْ شَىْءٍ إِنْ سَأَلْتُ عَنْهُ فَقَالُوا نَعَمْ يَا أَبَا الْقَاسِمِ، وَإِنْ كَذَبْنَا عَرَفْتَ كَذِبَنَا كَمَا عَرَفْتَهُ فِي أَبِينَا. فَقَالَ لَهُمْ مَنْ أَهْلُ النَّارِ. قَالُوا نَكُونُ فِيهَا يَسِيرًا ثُمَّ تَخْلُفُونَنَا فِيهَا. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم اخْسَئُوا فِيهَا، وَاللَّهِ لاَ نَخْلُفُكُمْ فِيهَا أَبَدًا ـ ثُمَّ قَالَ ـ هَلْ أَنْتُمْ صَادِقِيَّ عَنْ شَىْءٍ إِنْ سَأَلْتُكُمْ عَنْهُ. فَقَالُوا نَعَمْ يَا أَبَا الْقَاسِمِ. قَالَ هَلْ جَعَلْتُمْ فِي هَذِهِ الشَّاةِ سُمًّا. قَالُوا نَعَمْ. قَالَ مَا حَمَلَكُمْ عَلَى ذَلِكَ. قَالُوا أَرَدْنَا إِنْ كُنْتَ كَاذِبًا نَسْتَرِيحُ، وَإِنْ كُنْتَ نَبِيًّا لَمْ يَضُرَّكَ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った：**ハイバルが開かれたとき、預言者 ﷺ に毒の入った（料理された）羊が贈られた。**預言者 ﷺ は言われた：「ここにいるユダヤ教徒たちを私のもとに集めなさい」。かれらが集められると、使徒はいくつか質問をされ、最後に尋ねられた：「**あなたがたはこの羊に毒を入れたのか**」かれらは「はい」と答えた。使徒は「何があなたがたをそうさせたのか」と尋ねられた。かれらは答えた：「**もしあなたが嘘つきなら、私たちはあなたから解放される。もしあなたが預言者なら、それはあなたを害さないだろうと思ったのです。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← サイード・アル＝マクブリー ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』人頭税と休戦の書、ハディース第 3169 番；第 4249 番、第 5777 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3169

かれらの答えは驚くべきものでした。毒は**預言者であるかどうかの試し**だったのです。本当に預言者なら、毒は害を与えないはずだというのです。別の伝承でアナスは、その女性が使徒のもとに連れて来られて「あなたを殺したかった」と言ったと述べています。使徒は「アッラーはあなたに私を害する力を与えられない」と言われました。教友たちが「かの女を殺しましょうか」と尋ねると、使徒は答えられました：「**いや。**」（『サヒーフ・ブハーリー』2617）。

スィーラの注：ビシュル・ブン・アル＝バラー

スィーラ書によれば、教友の一人**ビシュル・ブン・アル＝バラー・ブン・マアルール**もその肉を食べ、そのために亡くなりました。一部の伝承では、その女性はのちにビシュルの死のために**キサース（同害報復）**を受けたとされます。学者たちはこれらの伝承を調和させています：使徒はご自身に対する行為のためにはかの女を罰されませんでしたが、ビシュルの命のために刑が科されたのです。

参照：

『スナン・アビー・ダーウード』4509〜4512；イブン・ハジャル『バーリーの開示（ファトフ・アル＝バーリー）』。https://sunnah.com/abudawud:4512

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は、たとえ暗殺の企てであっても、ご自身に対する過ちは**赦されました**。しかし他者の権利は守られたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

生涯の終わりまで残った毒の影響

アッラーの使徒 ﷺ はその肉を少しかんだだけで吐き出されました。しかしその影響は体に残りました。ほぼ 4 年後、亡くなられる原因となった病の中で、アーイシャ رضى الله عنها は使徒がこう言われるのを聞きました：

「アーイシャよ、私はハイバルで食べたもののせいで、今も痛みを感じている。今こそ、その毒のために私の大動脈（アル＝アブハル）が断たれるのを感じる時だ。」（『サヒーフ・ブハーリー』4428）。

イブン・マスウード رضى الله عنه をはじめとする学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ がその毒の影響によって**殉教者**として亡くなられたと述べています。アッラーは使徒のために、預言者としての栄誉と殉教の栄誉をともに集められたのです。

項目	説明
奇跡	肉が使徒に毒入りであることを「告げた」（アブー・ダーウードの伝承）
守り	アッラーはその女性に使徒を殺す力を与えられなかった
長く続いた影響	生涯の終わりまで痛みを感じられた（4428）
栄誉	使徒は殉教者として亡くなられた（一部の学者の見解）

教訓：アッラーの使徒 ﷺ もまた、痛みを感じ、何年も試練の影響に耐えた**人間**でした。それでも使徒は生涯の終わりまで、忍耐をもってメッセージを伝え続けられたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ファダクとファイの財

ハイバル陥落の知らせが広まると、近くのオアシス**ファダク**の住民は**戦わずに降伏し**、土地の収穫の半分を条件に和平を求めました（スィーラ書）。戦いなしに得られた財は**ファイ**と呼ばれ、その規定は戦利品とは異なります：

「アッラーが町の住民から、その使徒に（戦わずに）返し与えられたものは、アッラーと使徒、近親者、孤児、貧者、旅人のものである」『イブン・カスィール注釈』59:7。

この節は、その知恵をはっきりと述べています：**「それがあなたがたの中の富裕な者たちの間だけで回るものとならないように」**。ファイの財は、アッラーの使徒 ﷺ の家族の必要にあてられ、残りは**公共の利益** — 貧者、孤児、旅人 — のために用いられました。

教訓：イスラームは初めから**経済の公正の原則**を定めています。財産は一握りの富裕者に集まってはならず、必要とする人々へと流れなければならないのです。

戦利品の分配

ハイバルの戦利品は、バドルの戦いの後に下された規定に従って分配されました：**「あなたがたが得た戦利品は、何であれその五分の一はアッラーと使徒のものであることを知れ」**『イブン・カスィール注釈』8:41。

五分の一（**フムス**）はアッラーとその使徒、そして節に述べられた人々のためのもので、五分の四は兵士たちに分配されました。イブン・ウマル رضى الله عنهما は、ハイバルの日にアッラーの使徒 ﷺ が**馬に二人分**、**騎乗者に一人分**の取り分を与えられたと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』4228）。

ハイバルの土地は二つに分けられました。半分は公共の必要と客人のために、残りの半分は**フダイビーヤの人々**に分配されました（『スナン・アビー・ダーウード』3010）。その影響は大きく、それまで援助者に頼っていた移住者たちが、自分の収入源を持つようになりました。アーイシャ رضى الله عنها は言いました：**「ハイバルが開かれたとき、私たちは『これでナツメヤシの実でお腹いっぱいになれる』と言った。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4242）。

教訓：兵士、馬、公共の利益、弱い人々 — **公正な分配の仕組み**が、勝利の恩恵を一握りの人ではなく社会全体に行き渡らせたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

宗教に強制なし

勝利の後、アッラーの使徒 ﷺ はハイバルの住民にイスラームを**強制されませんでした**。かれらは自分の宗教を保ち、土地を耕し、協定のもとで暮らしました。これは、アッラーの次の言葉の実践です：

「宗教には強制があってはならない。正に正しい道は迷誤から明らかに（分別）されている」『イブン・カスィール注釈』2:256。

アッラーの使徒 ﷺ がアリーに与えた指示 — **「イスラームへと呼びかけなさい」** — は呼びかけであって、強制ではありません。ハイバルの戦いは、マディーナに対する**軍事的脅威**を止めるためのもので、誰かに改宗を強いるためのものではありませんでした。サフィーヤのようにイスラームを選んだ人々は、自らの意思で選んだのです。

教訓：公正、守られた協定、そして**信教の自由** — これこそが勝利の後のイスラームの姿であり、ハイバルで示されたものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「ハイバルまで、私たちは満腹したことがなかった」

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は言いました：「**私たちはハイバルを開くまで、満腹したことがなかった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4243）。何年もの間、教友たちは窮乏の中で暮らしてきました — ハンダクでは腹に石を縛り（第 12 巻）、フダイビーヤでは飢えに耐えました — そしてついにアッラーはハイバルを通して糧を開かれたのです。

教訓：「本当に困難と共に安楽がある」（胸を広げる章 94:6）。窮乏の中での忍耐は、最後には**ゆとりによって報われ**、そしてゆとりは**感謝と誠実さ**によって試されるのです。

ハイバル協定の終わり

収穫折半の協定は、アッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクル رضى الله عنه の時代を通じて続きました。ウマル رضى الله عنه の時代には、ハイバルでアブドゥッラー・ブン・ウマルが襲われ、手足を脱臼させられるなど、いくつかの出来事が起こりました。ウマルはそこで、もとの協定にあった「アッラーが望まれる限り、あなたがたをとどめおく」という言葉に基づいて、かれらを移住させました（『サヒーフ・ブハーリー』2730）。

ウマル رضى الله عنه はかれらに、**果実の収穫の価値**を、お金、ラクダ、品物の形で支払いました（『サヒーフ・ブハーリー』2730）。教訓：協定を終えるときでさえ、相手の**財産の権利**は公正に支払われるのです。

ハイバルの物語の典拠

ハイバルの物語は、確かさの度合いが異なる三種類の典拠を通して私たちに届いています。本書は、読者が**何が確かか**、**何がよく知られているだけか**を分かるように、この三つを区別しています：

ハイバルの物語の典拠

クルアーン（5）

- 近い勝利と戦利品（48:18–21）
- 戦利品の横領の禁止（3:161）
- 戦利品の分配（8:41）
- ファイの財（59:6–7）
- 宗教に強制なし（2:256）

真正なハディース（10）

- 朝の「ハイバルは滅びた」
- アリーへの旗；目が癒える
- 赤いラクダにまさる導き
- 行いは最期によって決まる
- 外套と靴ひもは火から
- 飼いロバの肉の禁止
- 収穫折半の協定
- サフィーヤの解放
- ジャアファルと船の人々；二つのヒジュラ
- 毒入りの肉

スィーラ書（3）

- 砦の名と順序
- アリーが砦の門を持ち上げた話（弱い伝承）
- ファダクが戦わずに降伏

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：本書におけるハイバルの物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
近い勝利；グルール；フムス；ファイ；強制なし	クルアーン（48:18–21；3:161；8:41；59:6–7；2:256） — 確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	典拠と等級
「ハイバルは滅びた」；旗；アリー；最期；外套；ロバ	『サヒーフ・ブハーリー』4196〜4234 — 真正
収穫折半；サフィーヤ；ジャアファル；アブー・フライラ；毒	『サヒーフ・ブハーリー』2285、5086、4230〜4237、3169、4428 — 真正
マルハブはアリーに倒された	『サヒーフ・ムスリム』1807 — 真正
「預言者の子孫」；イブン・ラワーハの収穫の見積もり	『ジャーミウ・ティルミズィー』3894；『マーリクのムワッタア』 — サヒーフ／ハサン
砦の名；兵の数；ファダク；砦の門	スィーラ書 — よく知られる；砦の門の話は弱い

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

ハイバルからの帰路

これまでの章では、ハイバルそのものでの戦い、協定、出来事を語ってきました。この章では、ハイバルが開かれた後、アッラーの使徒 ﷺ と教友たちがふたたびウフドの山を目にするまでの旅をたどります。この旅には、ズィクル、礼拝、そして故郷への愛についての、真正に伝えられたいくつかの小さな教えがあります。

「あなたがたは耳の聞こえない者に呼びかけているのではない」

ハディース：タクビールの声を低くする

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がハイバルへ向かわれたとき、人々がある谷を登りながら声を張り上げてタクビールを唱えたと伝えています：「アッラーフ・アクバル、アッラーフ・アクバル、ラー・イラーハ・イッラッラー」。アッラーの使徒 ﷺ は言われました：「自分自身をいたわりなさい。あなたがたは耳の聞こえない者にも、不在の者にも呼びかけているのではない。あなたがたが呼びかけているのは、全てを聞き、近くにおられる御方であり、その御方はあなたがたと共におられる」。それから使徒はアブー・ムーサーに「ラー・ハウラ・ワラー・クウワタ・イッラー・ビッラー（アッラーによらなければ、いかなる力も強さもない）」という言葉を教え、それを楽園の宝の一つと呼ばれました。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』4205。

このハディースは、ズィクルの作法を教えています。アッラーは近くにおられ、全てを聞かれるので、叫ぶ必要はありません。また、軍事行動のさなかにあっても、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちに心の事柄を教え続けられたことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

日が昇るまで眠ってしまった夜

ハディース：逃した夜明けの礼拝

アブー・フライラ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がハイバルの遠征から戻られる途中、眠くなるまで夜通し進み、休むために止まられたと伝えています。使徒はビラールに「今夜、私たちのために見張っていなさい」と言われました。ビラールは定められただけ礼拝し、それから夜明けの方角を向いてラクダにもたれかかり、眠り込んでしまいました。アッラーの使徒 ﷺ を含め、誰も目を覚まさず、ついに日の光がかれらに当たりました。使徒はその場所から移るよう命じ、それから清めをして、ビラールにイカーマを唱えさせ、皆と共に夜明けの礼拝をされました。礼拝の後、使徒は「礼拝を忘れた者は、思い出したときにそれを行いなさい」と言われ、「われを念じるために礼拝を守れ」（ター・ハー章 20:14）を唱えられました。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』680。

学者たちはこの出来事を「ライラト・アッ＝タアリース」（夜の休息の夜）と呼んでいます。ここから、眠りや物忘れによって逃した礼拝は、思い出したらすぐに償わなければならないという規定が導かれます。また、意図せず眠ってしまうことは罪ではないことも示しています。アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、ウンマに教えるためにそれを経験されたのです。

ワーディー・アル＝クラーとタイマー

帰り道、アッラーの使徒 ﷺ はワーディー・アル＝クラーに立ち寄られました。ミドアムという奴隷が矢で殺され、使徒が戦利品から取られた外套について語られたのはそこでした（第 10 章）。スィーラ書によれば、ワーディー・アル＝クラーの住民は服従させられ、ハイバルと同様の協定を与えられました。一方タイマーの住民は戦わずに和平を求め、ジズヤ（人頭税）を払って自分たちの財産を保ちました（イブン・ヒシャーム；アル＝ワーキディー）。これらの詳細はスィーラ書によるもので、真正なハディースによるものではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「これは私たちを愛し、私たちも愛する山である」

ハディース：ウフドとマディーナの聖域

アッラーの使徒 ﷺ に仕えるためにハイバルへ出かけたアナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は、使徒が帰途につき、ウフドの山が見えてきたとき、こう言われたと伝えています：「これは私たちを愛し、私たちも愛する山である」。それから使徒はマディーナの方を指し示して祈られました：「アッラーよ、私はその二つの黒い溶岩原の間を聖域とします。イブラーヒームがマッカを聖域とされたように」。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』2889。

ウフドは 70 人の教友が殉教した場所です（第 10 巻）。それでもアッラーの使徒 ﷺ はそこを悲しみの山とは見ず、愛される山とされました。苦闘の思い出に満ちた場所を愛することは、イスラームが認める人の本性（フィトラ）の一部なのです。

時期	出来事	典拠
ハイバルへの出発	声を低くしたタクビール；「ラー・ハウラ・ワラー・クウワタ・イッラー・ビッラー」	『サヒーフ・ブハーリー』4205
ワーディー・アル＝クラー	ミドアムの死；戦利品から取った外套	『サヒーフ・ブハーリー』4234；スィーラ書
タイマー	戦わずに和平	スィーラ書
夜の行軍の中で	日が昇るまで眠る；礼拝の償い	『サヒーフ・ムスリム』680
ウフドを望む	「私たちを愛する山」；マディーナの聖域	『サヒーフ・ブハーリー』2889

教訓

ハイバルからの帰路は、勝利がアッラーの使徒 ﷺ を教育からそらすことはなかったと教えています。ズィクルは作法と共に教えられ、眠り込んだ過ちは法規定の教え

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：139 / 522

となり、ウフドの苦い思い出は愛へと変えられました。成功したムスリムも謙虚であり続け、礼拝を守り、苦闘の地を大切にするのです。

ハイバルからの法規定

ハイバルは戦場であっただけでなく、今日まで実践されているいくつかの規定が定められた場所でもあります。第 11 章と第 12 章では、飼いロバの肉と収穫折半の協定を扱いました。この章では、ハイバルの日に起きた、あるいはそれに関係する、真正に伝えられた他の規定をまとめます。

ムトア婚の禁止

ハディース：ハイバルの日の禁止

アリー・ブン・アビー・ターリブ رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がハイバルの日に女性とのムトア婚を禁じ、飼いロバの肉を食べることを禁じられたと伝えています。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』4216；『サヒーフ・ムスリム』1407 にも。

ムトア婚とは、一定の期間と一定の対価で結ばれ、その期間が終わると自動的に終わる結婚です。イスラームの初期に一定の状況で許されたことがありましたが、のちに禁じられました。サブラ・アル＝ジュハニーの伝承では、アッラーの使徒 ﷺ は、アッラーがそれを「復活の日まで」禁じられたと言われています（『サヒーフ・ムスリム』1406）。これがスンナとジャマーアの民（アフル・アッ＝スンナ・ワル＝ジャマーア）の立場です：ムトア婚は永久に禁じられています。

学者たちは、その禁止の時期について議論しています。サブラの伝承はマッカ解放に言及し、アリーの伝承はハイバルに言及しているからです。ある学者たちは、ハイバルで禁じられ、マッカ解放の際に一時的に許され、その後永久に禁じられたと考えます。また別の学者たちは、アリーの伝承の「ハイバルの日」はロバの肉の禁止だけを指すと考えます（イブン・ハジャル『バーリーの開示』）。この違いは時期についてであって、規定についてではありません。規定は変わらず禁止です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ニンニクとモスク

ハディース：「私たちのモスクに近づいてはならない」

イブン・ウマル رضى الله عنهما は、預言者 ﷺ がハイバルの遠征で言われたと伝えています：「この植物 — つまりニンニク — を食べた者は、私たちのモスクに近づいてはならない」。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』853；『サヒーフ・ムスリム』561 にも。

ニンニクを食べること自体は禁じられていません。禁じられているのは、他の人々や天使を不快にさせる匂いをさせてモスクに来ることです。学者たちは、たばこの匂いのように、礼拝者を不快にさせるあらゆる悪臭をこれに類推しています。

金とビーズの首飾り

ハディース：12 ディーナールで買った首飾り

ファダーラ・ブン・ウバイド رضى الله عنه は言いました：ハイバルの日、私は 12 ディーナールで首飾りを買った。そこには金とビーズがついていた。私がそれを分けてみると、金は 12 ディーナールより多かった。私がそのことを預言者 ﷺ に話すと、使徒は言われた：「分けるまでは売ってはならない」。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』1591。

このハディースは、金と金の交換は同じ重さでなければならないという規定の基礎となっています。金を含む混ざった品を金で売るなら、リバー（利息・不当利得）が生じないよう、金の部分が明らかでなければなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジャニーブのナツメヤシとジャムウのナツメヤシ

ハディース：「そうしてはならない」

アブー・サイード・アル＝フドリーとアブー・フライラ رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がハイバルに一人の男を任命し、その男が上質のジャニーブのナツメヤシを持って来たと伝えています。使徒は「ハイバルのナツメヤシはみなこのようなのか」と尋ねられました。かれは答えました：「いいえ、アッラーにかけて。私たちはこれを一升、（並のものを）二升と交換し、二升を三升と交換しています」。使徒は言われました：「そうしてはならない。混ざったナツメヤシをディルハムで売り、それからそのディルハムでジャニーブのナツメヤシを買いなさい」。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』2201、2202；『サヒーフ・ブハーリー』4244〜4245 にも。

ナツメヤシとナツメヤシのような、同じ種類のリバー物品の交換は、質が違っても、同じ量で、その場で行わなければなりません。アッラーの使徒 ﷺ はただ禁じるだけでなく、許された道を示されました。まずお金で売り、それから買うことです。

法規定のまとめ

規定	根拠	備考
ムトア婚は禁止	『サヒーフ・ブハーリー』4216；『サヒーフ・ムスリム』1406、1407	復活の日まで禁止
飼いロバの肉は禁止	『サヒーフ・ブハーリー』4216、4217	第 11 章
ニンニクを食べた後はモスクに行かない	『サヒーフ・ブハーリー』853	その食べ物自体は禁止ではない
金と金は同じ重さで	『サヒーフ・ムスリム』1591	リバーの規定の基礎
ナツメヤシとナツメヤシは同じ量で	『サヒーフ・ブハーリー』2201〜2202	お金で売り、それから買う

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

規定	根拠	備考
ムサーカーとムザーラア（収穫の分かち合い）	『サヒーフ・ブハーリー』2285	第 12 章
騎兵の取り分	『サヒーフ・ブハーリー』4228	第 19 章

教訓

ハイバルの規定は、結婚、食べ物、モスクの作法、売買にまで及んでいます。これは、イスラームの教えが日々の暮らしから切り離されたものではなく、戦場においてさえそうであることを示しています。ムスリムは、許されたことと禁じられたことが自分のあらゆる事柄に関わること、そしてアッラーの使徒 ﷺ が禁じられた道を閉ざすとき、常に許された道を開いてくださったことを学ぶのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルの戦いの人物

次の表は、ハイバルの物語の主な人物、その部族、そしてそれぞれの役割をまとめたものです。スィーラ書による情報ははっきりと示しています。

ムスリム側

人物	部族	役割	典拠
アリー・ブン・アビー・ターリブ	クライシュ族（ハーシム家）	旗の担い手；砦を開く	『サヒーフ・ブハーリー』4210
アーミル・ブン・アル＝アクワウ	アスラム族	行軍中に詩を吟じる；ハイバルで倒れる	『サヒーフ・ブハーリー』4196
サラマ・ブン・アル＝アクワウ	アスラム族	アーミルの詩とマルハブの話の伝承者	『サヒーフ・ムスリム』1807
マフムード・ブン・マスラマ	アウス	ハイバルで殉教	スィーラ書
ムハンマド・ブン・マスラマ	アウス	マフムードの兄弟；イブン・イスハークによればマルハブを倒した	スィーラ書
ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ	クライシュ族（ハーシム家）	船の人々と共にアビシニアから到着	『サヒーフ・ブハーリー』4230
アスマー・ビント・ウマイス	ハスアム族	ジャアファルの妻；「二つのヒジュラ」	『サヒーフ・ブハーリー』4230
アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー	アシュアル族（イエメン）	船の人々；タクビールの話の伝承者	『サヒーフ・ブハーリー』4205、4230
アブー・フライラ	ダウス族	ハイバルが開かれた後に到着	『サヒーフ・ブハーリー』4237

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	部族	役割	典拠
アブドゥッラー・ブン・ラワーハ	ハズラジュ	ハイバルのナツメヤシの収穫を見積もる	『マーリクのムワッタア』
ビシュル・ブン・アル＝バラー・ブン・マアルール	ハズラジュ族（サリマ家）	毒入りの肉を食べた後に亡くなる	スィーラ書
アナス・ブン・マーリク	ハズラジュ族（ナッジャール家）	アッラーの使徒 ﷺ の従者；多くのハイバルの話の伝承者	『サヒーフ・ブハーリー』2889

ハイバル側

人物	出自	役割	典拠
マルハブ	ハイバルのユダヤ教徒	砦の勇士；一騎打ちで倒される	『サヒーフ・ムスリム』1807
サフィーヤ・ビント・フヤイイ	ナディール族	解放された捕虜；信者たちの母	『サヒーフ・ブハーリー』5086
キナーナ・ブン・アッ＝ラビーウ	ナディール族	サフィーヤの夫；ハイバルで殺される	スィーラ書
ザイナブ・ビント・アル＝ハーリス	ハイバルのユダヤ教徒	毒入りの羊を贈った女性	『サヒーフ・ブハーリー』2617；名はスィーラ書による
サッラーム・ブン・ミシュカム	ナディール族	ザイナブの夫；ハイバルの指導者の一人	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：マルハブを倒したのは誰か

サラマ・ブン・アル＝アクワウによる『サヒーフ・ムスリム』1807 は、マルハブの頭に切りつけたのはアリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه であるとはっきり述べています。一方イブン・イスハークは、兄弟マフムードの死の報いとして、ムハンマド・ブン・マスラマがかれを倒したと伝えています。学者たちは、伝承経路がより強い『サヒーフ・ムスリム』の伝承を優先しています（イブン・ハジャル『バーリーの開示』；『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』）。

教訓

ハイバルにいた教友たちは、クライシュ、アウス、ハズラジュ、アスラム、ダウス、ハスアム、そしてイエメンのアシュアル族など、さまざまな部族の出身でした。イスラームはかれらを一つの列にまとめたのです。相手側では、もとは捕虜だったサフィーヤが信者たちの母となりました。これらの人物の物語は、栄誉が血筋ではなく、信仰と行いによって量られることを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルの昔と今

ハイバルは、サウジアラビアのマディーナ州、マディーナの北約 150 km にあります（Wikipedia「Khaybar」）。ハッラト・ハイバルと呼ばれる火山の溶岩地帯に囲まれたオアシスです。豊富な地下水がナツメヤシ園を肥沃にし、そのためにアッラーの使徒 ﷺ の時代には豊かな農業の中心地でした（第 1 章）。

考古学の発見

ギヨーム・シャルルーが率いるフランスとサウジアラビアの考古学調査は、かつてハイバルのオアシスを囲んでいた全長約 14.5 km の石の城壁を発見しました。これは青銅器時代、約 4,000 年前に築かれたものです。同じ調査団は、オアシスの中でアル＝ナターフという小さな町も見つけました。約 50 軒の家と最大 500 人ほどの住民がおり、紀元前 2400 年ごろに人が住み、約千年後に放棄されました。この研究は 2024 年に学術誌『PLOS ONE』に発表されました（ScienceAlert「Ancient Town From 4,000 Years Ago Found Hidden in Saudi Arabian Oasis」；Arab News）。

この発見は、アッラーの使徒 ﷺ の時代よりはるかに古く、ハイバルの戦いの約 2,700 年前のものです。第 5 章で語った砦ではありません。しかしそれは、ハイバルが太古の昔から人が住み、守りを固めたオアシスであったこと、そしてそこで城壁や砦を築く伝統がとても古いことを示しています。

当時の砦 — アッラーの使徒 ﷺ

スィーラ書は、ナーイム、アル＝カムース、アル＝ワティーフ、アッ＝スラーリムなどの砦の名を挙げています（第 5 章）。今日ハイバルには、地元の人々に「マルハブの砦」として知られる丘の上の古い要塞があります。しかし現在見られる建物は時代を経て何度も修復されており、それがアッラーの使徒 ﷺ の時代のままの建物であるとは確かめられません。そのため本書では、それぞれの砦の正確な位置を定めていません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

項目	説明	評価
位置	マディーナの北約 150 km	現在の地理
地形	ハッラト・ハイバル溶岩地帯の中のオアシス	地質
青銅器時代の城壁	約 14.5 km、約 4,000 年前	2024 年の考古学調査
アル＝ナターフの町	紀元前 2400 年ごろ；住民約 500 人	『PLOS ONE』2024 年
砦の名	ナーイム、アル＝カムース、アル＝ワティーフ、アッ＝スラーリム	スィーラ書
今日のマルハブの砦	丘の上の古い要塞；何度も修復	当初の建物かどうかは確かめられない

教訓

全長 14.5 km の城壁と堅固な砦も、アッラーの定めを防ぐことはできませんでした。クルアーンは、自分たちの砦がアッラーから自分たちを守ってくれると思っていた者たちのことを思い起こさせています（集合章 59:2）。考古学の発見は、文明が興っては去っていくこと、そして残るのはアッラーに受け入れられた行いだけであることを思い起こさせます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルの戦いの年表

次の表は、ハイバルの出来事を順に並べたものです。スィーラ書による日付はおおよそのもので、学者たちの間でいくつかに見解の違いがあります。

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 6 年ズル＝カアダ月	フダイビーヤの和約；勝利章が近い勝利を約束する	勝利章 48:18–20
ヒジュラ暦 6 年ズル＝ヒッジャ月	アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに戻り、数週間とどまる	スィーラ書
ヒジュラ暦 7 年ムハッラム月	フダイビーヤの人々と共にハイバルへ出発	イブン・イスハーク；多数派の見解
旅の途中	アーミル・ブン・アル＝アクワウの詩；声を低くしたタクビール	『サヒーフ・ブハーリー』4196、4205
最初の朝	「ハイバルは滅びた！」	『サヒーフ・ブハーリー』4197
数日間	砦が包囲され、一つずつ開かれる	スィーラ書
旗の日	アリーに旗が渡される；マルハブが倒される	『サヒーフ・ブハーリー』4210；『サヒーフ・ムスリム』1807
勝利の後	ロバの肉とムトア婚の禁止	『サヒーフ・ブハーリー』4216
勝利の後	収穫折半の協定	『サヒーフ・ブハーリー』2285
勝利の後	サフィーヤが解放され、妻となる	『サヒーフ・ブハーリー』5086
勝利の後	ジャアファルと船の人々が到着；アブー・フライラが到着	『サヒーフ・ブハーリー』4230、4237
勝利の後	羊の肉による毒殺の企て	『サヒーフ・ブハーリー』2617、3169

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
勝利の後	ファダクが戦わずに降伏	スィーラ書；集合章 59:6
帰途	ワーディー・アル＝クラー；タイマーとの和平	『サヒーフ・ブハーリー』4234；スィーラ書
帰途	日が昇るまで眠る；夜明けの礼拝を償う	『サヒーフ・ムスリム』680
マディーナに到着	「これは私たちを愛する山である」	『サヒーフ・ブハーリー』2889
毎季	アブドゥッラー・ブン・ラワーハがナツメヤシの収穫を見積もる	『マーリクのムワッタア』
ヒジュラ暦 11 年	アッラーの使徒 ﷺ が最後の病の中でハイバルの毒の影響に触れる	『サヒーフ・ブハーリー』4428
ウマルの時代	ハイバルの住民がタイマーとアリーハーへ移される	『サヒーフ・ブハーリー』2338、2730

教訓

この年表は、勝利章におけるアッラーの約束が、フダイビーヤのわずか数週間後に果たされたことを示しています。また、ある出来事の影響が長く続くこともあることを示しています。ハイバルの毒はアッラーの使徒 ﷺ の生涯の終わりまで感じられ、ハイバルの協定はウマル رضي الله عنه の時代まで続いたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルの戦いについてのよくある質問

1. ハイバルの戦いはいつ起きたのですか。

イブン・イスハークと多くのスィーラ学者によれば、ヒジュラ暦 7 年ムハッラム月、フダイビーヤから戻って数週間後です。イマーム・マーリクは、ヒジュラ暦 6 年であったとしています。イブン・ハジャルは、この違いはヒジュラ暦の年の始まりの数え方によるものだと説明しています（『バーリーの開示』）。

2. なぜフダイビーヤの人々だけがハイバルへ連れて行かれたのですか。

アッラーがハイバルの戦利品をかれらに約束されたからです（勝利章 48:15、20）。フダイビーヤに残留した者たちは同行を許されませんでした（第 15 巻、第 24 章）。アビシニアからの船の人々には、敬意のしるしとして取り分が与えられました。

3. マルハブを倒したのは誰ですか。

『サヒーフ・ムスリム』1807 はアリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه を挙げています。イブン・イスハークはムハンマド・ブン・マスラマを挙げています。学者たちは『サヒーフ・ムスリム』の伝承を優先しています（第 24 章）。

4. アリーが、何十人もの男でも持ち上げられない砦の門を持ち上げたというのは本当ですか。

この話はスィーラ書でよく知られていますが、ハディース批判の学者たちによれば、その伝承経路は弱いものです。アリー رضى الله عنه の勇気と栄誉は、旗についての真正なハディース（第 6 章）とマルハブとの一騎打ちによってすでに確立されており、弱い伝承に頼る必要はありません。

5. ムトア婚の規定は何ですか。

スンナとジャマーアの民によれば、復活の日まで禁止です。根拠は『サヒーフ・ブハーリー』4216 と『サヒーフ・ムスリム』1406 です（第 23 章）。

6. なぜハイバルの住民はそのまま住み続けることを許されたのですか。

ムスリムには、広大な園を耕すだけの人手がまだなかったからです。一方ハイバルの住民はナツメヤシ栽培の専門家でした。協定には、ムスリムが許す限りかれらはとどまれると定められていました（『サヒーフ・ブハーリー』2338；第 12 章）。

7. ハイバルの毒がアッラーの使徒 ﷺ の死の原因となったのですか。

最後の病の中で、使徒はアーイシャに、ハイバルで食べたものの痛みを今も感じていると言われました（『サヒーフ・ブハーリー』4428）。一部の学者はここから、アッラーが使徒のために預言者としての栄誉と殉教の栄誉をともに集められたと理解しています。しかし使徒の死は、やはり定められた寿命におけるアッラーの定めによるものです。

8. アビシニアからの船の人々は戦利品の取り分を受けたのですか。

はい。アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がかれらに取り分を与えられたこと、そしてハイバルの開城に居合わせなかった者には、かれら以外に誰にも取り分を与えられなかったことを述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3136）。

9. ニンニクは禁じられているのですか。

いいえ。禁じられているのは、その匂いをさせてモスクに来ることです（『サヒーフ・ブハーリー』853；第 23 章）。

10. なぜアッラーの使徒 ﷺ は、上質のナツメヤシ一升を並のナツメヤシ二升と交換することを禁じられたのですか。

ナツメヤシはリバー物品であり、ナツメヤシとの交換は同じ量でなければならないからです。使徒は許された道を示されました。お金で売り、それから買うことです（『サヒーフ・ブハーリー』2201）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

11. ハイバルとファダクの違いは何ですか。

ハイバルは戦いによって開かれたので、その財はガニーマ（戦利品）として戦利品章 8:41 に従って分配されました。ファダクは戦わずに降伏したので、その財はファイであり、集合章 59:6–7 によって定められています（第 18 章、第 19 章）。

12. 今日の私たちにとって、ハイバルの教訓は何ですか。

アッラーの約束は、忍耐する者に必ず果たされます。勝利には誠実さ、公正、そして規定への従順が伴わなければなりません。靴ひも一本、モスクでのニンニクの匂い、ナツメヤシの交換の仕方といった、小さく見える事柄においてもです。

教訓

これらの質問は、ハイバルの物語を、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、学者の見解を区別しながら読む必要があることを示しています。そうすることで、私たちは確かな教訓を得て、弱い話に頼らずにすむのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

ハイバルの戦いは、フダイビーヤの人々への**アッラーの約束の成就**です。厳しい条件を忍耐して受け入れた人々が、今や勝利と広い糧を受けました。しかし勝利の陰で、ハイバルは意図、誠実さ、従順、そして公正についても教えています。

教訓	ハイバルから学ぶ
アッラーの約束は果たされる	近い勝利（48:18）
導きはより尊い	「赤いラクダよりも良い」
アッラーとその使徒への愛	旗の担い手の資質
行いの最期	見かけにだまされない
公共の財産という預かりもの	外套と靴ひもは火から
すみやかな服従	ロバの肉の鍋がひっくり返される
取引の公正	収穫折半；イブン・ラワーハは賄賂を受け取らない
弱い立場の人を尊ぶ	サフィーヤは解放され、尊ばれた
犠牲は報われる	船の人々の二つのヒジュラ

私たちの暮らしの中のハイバル

私たち一人ひとりにも、開かなければならない「砦」があります — 怠け心、貪欲、自分本位な心です。ハイバルは、忍耐して努力し、靴ひも一本のような小さなことでも**預かりものを守り**、すべての人に**公正にふるまい**、人が導かれることを財産よりも高い目標とするよう教えています。

イン・シャー・アッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 17 巻** — ハイバルの後の出来事 — へと続きます。アッラーこそが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 16 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:256；イムラーン家章 3:161；戦利品章 8:41；勝利章 48:18–21；集合章 59:6–7）。https://tafsir.app/ibn-katheer/48/18

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』118、371、610、2285、2617、3169、4196、4197、4199、4202、4209、4210、4217、4228、4230、4231、4234、4237、4242、4428、5086、6607。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』561、1807、2405。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』3894；『スナン・アビー・ダーウード』3010、4512；『イマーム・マーリクのムワッタア』。https://sunnah.com

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— ハイバルの章。

アル＝ワーキディー『遠征の書（アル＝マガーズィー）』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— ハイバルの戦いの章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『バーリーの開示（ファトフ・アル＝バーリー）』— 遠征の書、ハイバルの遠征の章。

科学

Wikipedia「Harrat Khaybar」— サウジアラビア北西部の火山地帯。https://en.wikipedia.org/wiki/Harrat_Khaybar

Wikipedia「Battle of Khaybar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Khaybar

Wikipedia「Safiyya bint Huyayy」。https://en.wikipedia.org/wiki/Safiyya_bint_Huyayy

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

Wikipedia「Ja'far ibn Abi Talib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ja%27far_ibn_Abi_Talib

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4205（ハイバルへ向かう途中、声を低くしたタクビール）。https://sunnah.com/bukhari:4205

『サヒーフ・ムスリム』680（ハイバルからの帰路に眠り込む）。https://sunnah.com/muslim:680a

『サヒーフ・ブハーリー』2889（「これは私たちを愛する山である」）。https://sunnah.com/bukhari:2889

『サヒーフ・ブハーリー』4216；『サヒーフ・ムスリム』1406、1407（ムトア婚の禁止）。https://sunnah.com/bukhari:4216

『サヒーフ・ブハーリー』853（ニンニクとモスク）。https://sunnah.com/bukhari:853

『サヒーフ・ムスリム』1591（ハイバルの日の金とビーズの首飾り）。https://sunnah.com/muslim:1591b

『サヒーフ・ブハーリー』2201、2202（ジャニーブのナツメヤシ）。https://sunnah.com/bukhari:2201

『サヒーフ・ブハーリー』2338（ハイバルの住民がタイマーとアリーハーへ移される）。https://sunnah.com/bukhari:2338

ScienceAlert「Ancient Town From 4,000 Years Ago Found Hidden in Saudi Arabian Oasis」（2024 年）。https://www.sciencealert.com/ancient-town-from-4000-years-ago-found-hidden-in-saudi-arabian-oasis

Wikipedia「Khaybar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Khaybar

第三部

諸王への書簡

預言者伝（スィーラ）— 第 17 巻

「ムハンマド・ラスールッラー」の印章と、カイサル、キスラー、ナジャーシーへの呼びかけ — クルアーンと真正なハディースに基づいて

諸王への書簡

『預言者伝（スィーラ）』第 16 巻はハイバルの戦いを語り、北からの脅威が終わったときのことを描きました。いま、**フダイビーヤの休戦**が南の境を守り、ハイバルが北の境を守るなか、アッラーの使徒 ﷺ は宣教の新しい段階に入られます。イスラームの呼びかけを**アラビア半島の外へ**、世界の王たちと支配者たちへ届けることです。

使徒は書簡に押印するために「ムハンマド・ラスールッラー」と刻んだ**銀の指輪**を作り、教友たちを、ローマ皇帝**ヘラクレイオス**、ペルシャ皇帝**キスラー**、アビシニア王**ナジャーシー**、エジプトの長官**アル＝ムカウキス**、そしてアラブの王たちのもとへ遣わされました。王たちの応じ方はそれぞれでした — 敬意を示した者もいれば、書簡を引き裂いた者もおり、信仰した者もいました。本書は、クルアーンと真正なハディースに基づいてそれらの物語を語ります。

諸王への書簡の年表（ヒジュラ暦6〜9年）

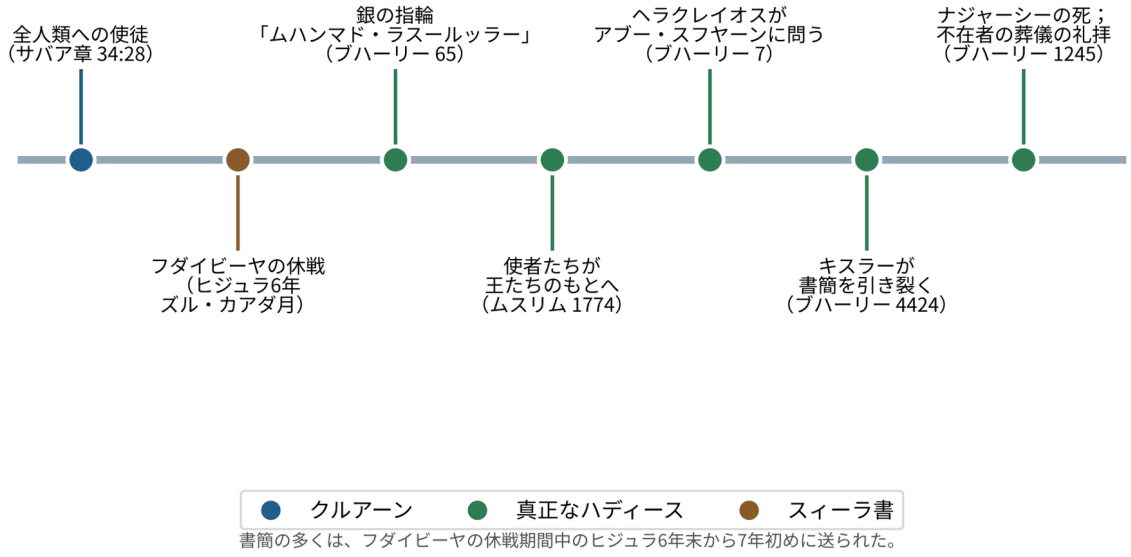


図 1：諸王への書簡の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

フダイビーヤの後：宣教の扉が開く

ヒジュラ **6 年ズル・カアダ月**のフダイビーヤの和約は、はじめは敗北のように見えましたが、アッラーはそれを「**明らかな勝利**」と名づけられました（勝利章 48:1）。その勝利の理由の一つは**平和**でした。約束された十年の間、人びとは戦いを恐れずに行き来し、商売をし、話し合うことができました。この平和の中で、宣教は急速に広がったのです。

イブン・ヒシャームが伝えるところでは、イマーム・アッ＝ズフリーは、フダイビーヤ以前に**イスラームにおいてこれより大きな勝利はなかった**と述べました。戦いが止むと人びとは出会ってイスラームについて語り合い、その後の二年間に、それ以前にイスラームに入った人数よりも多くの人びとが入信したからです。

スィーラの注：書簡が送られた時期

イブン・サアドは『**大伝記集（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）**』で、**ヒジュラ 6 年の終わり**にフダイビーヤから戻った後、アッラーの使徒 ﷺ が王たちに書簡を送られ、**ヒジュラ 7 年ムハッラム月**に六人の使者が同じ日に出発したと伝えています。オマーンの王たちへの書簡など一部は、その後ヒジュラ 8 年に送られました。

これらの日付は**スィーラ書の情報**です。真正なハディースから確かなことは、ヘラクレイオスへの書簡が**休戦期間中**、すなわちアッラーの使徒 ﷺ とクライシュとの休戦の間に送られたということです（『サヒーフ・ブハーリー』7）。

参照：
イブン・サアド『大伝記集』；イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『サヒーフ・ブハーリー』7。https://sunnah.com/bukhari:7

教訓：**平和は宣教の道を開きます。**イスラームは剣によって広まったのではなく、人びとが聞き、考え、選ぶ機会を与えられたことによって広まりました。道が開かれると、アッラーの使徒 ﷺ はすぐにそれを用いて、最も遠くにいる人びとにまで啓示を届けられました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

全人類への使徒

以前の預言者たちは自分の民にだけ遣わされたのに、なぜアッラーの使徒 ﷺ はローマとペルシャの王たちに書簡を書かれたのでしょうか。その答えはクルアーンにあります：

「われは、全人類への吉報の伝達者また警告者として、あなたを遣わした。だが人びとの多くは、それが分らない。」『イブン・カスィール注釈』34:28。

アッラーはまた、使徒にこう宣言するよう命じられました：**「人びとよ、わたしはアッラーの使徒として、あなたがた凡てに遣わされた者である」**『イブン・カスィール注釈』7:158。

アッラーの使徒 ﷺ ご自身も、この特別な点を、それ以前の預言者たちには与えられなかった**五つのこと**の一つとして挙げられました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 335 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ سِنَانٍ، قَالَ حَدَّثَنَا هُشَيْمٌ، ح قَالَ وَحَدَّثَنِي سَعِيدُ بْنُ النَّضْرِ، قَالَ أَخْبَرَنَا هُشَيْمٌ، قَالَ أَخْبَرَنَا سَيَّارٌ، قَالَ حَدَّثَنَا يَزِيدُ ـ هُوَ ابْنُ صُهَيْبٍ الْفَقِيرُ ـ قَالَ أَخْبَرَنَا جَابِرُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ أُعْطِيتُ خَمْسًا لَمْ يُعْطَهُنَّ أَحَدٌ قَبْلِي نُصِرْتُ بِالرُّعْبِ مَسِيرَةَ شَهْرٍ، وَجُعِلَتْ لِيَ الأَرْضُ مَسْجِدًا وَطَهُورًا، فَأَيُّمَا رَجُلٍ مِنْ أُمَّتِي أَدْرَكَتْهُ الصَّلاَةُ فَلْيُصَلِّ، وَأُحِلَّتْ لِيَ الْمَغَانِمُ وَلَمْ تَحِلَّ لأَحَدٍ قَبْلِي، وَأُعْطِيتُ الشَّفَاعَةَ، وَكَانَ النَّبِيُّ يُبْعَثُ إِلَى قَوْمِهِ خَاصَّةً، وَبُعِثْتُ إِلَى النَّاسِ عَامَّةً.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は、預言者 ﷺ が次のように言われたと伝えています：**「私には、私以前の誰にも与えられなかった五つのことが与えられた。私は一か月の道のりの距離まで（敵の心に生じる）畏怖によって助けられた。大地は私のためにモスクとされ、清めの手段とされた。だから私のウンマの誰であれ、礼拝の時が来たならば礼拝しなさい。戦利品は私には許されたが、私以前の誰にも許されなかっ**

た。私には執り成し（シャファーア）が与えられた。そして以前の預言者は自分の民にだけ遣わされたが、私はすべての人びとに遣わされた。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・スィナーン ← フシャイム；またサイード・ブン・アン＝ナドル ← フシャイム ← サイヤール ← ヤズィード・アル＝ファキール ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』タヤンムムの書、ハディース第 335 番；第 438 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 521 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:335

このハディースの教訓

このハディースは、王たちへの書簡が単なる政治的戦略ではなく、**預言者としての務めの一部**であったことを説明しています。預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ はイスラエルの子孫とフィルアウンに、預言者イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ はイスラエルの子孫に、預言者フード عَلَيْهِ السَّلَامُ はアード族に遣わされました — しかし預言者ムハンマド ﷺ は、どこにいようと、審判の日に至るまで、**すべての人間**に遣わされたのです。

それゆえ、状況が許すと、使徒は王たちがマディーナに来るのを待たれませんでした。かれらが理解する言葉で、かれらが尊ぶ礼儀をもって、**かれらのもとへ呼びかけを送られた**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

五つの特別な点 — アッラーの使徒 ﷺ

特別な点	その意味
一か月の道のりの距離まで畏怖によって助けられた	敵は出会う前に恐れる
大地がモスクとされ、清めの手段とされた	どこでも礼拝できる；タヤンムム
戦利品が許された	このウンマへの慈悲
執り成し（シャファーア）	審判の場での大いなる執り成し
すべての人びとに遣わされた	諸王への書簡の土台

第二の特別な点 — **大地がモスクとされたこと** — は普遍的な使命と深く結びついています。すべての人びとに遣わされた宗教には、**どこでも**行える礼拝が必要です。ローマの宮殿でも、アラビアの砂漠でも、アビシニアの森でも、ヌサンタラの島々でも。ムスリムは礼拝のために神殿や特別な場所を必要としないのです。

教訓：イスラームは一つの民族の宗教ではありません。今日の東南アジアのムスリムは、この**普遍的な使命の実り**です — 王たちへの書簡に始まり、その後商人や宣教者によって世界の隅々へと運ばれた呼びかけの実りなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

万有への慈悲

アッラーは、預言者ムハンマド ﷺ を遣わされたことを、すべてを包む一つの言葉で表されました：「**われは只万有への慈悲として、あなたを遣わしただけである。**」『イブン・カスィール注釈』21:107。

王たちへの書簡は脅しではなく**慈悲**でした。使徒はかれらに**安全**であるよう呼びかけ、信仰する啓典の民には**二倍の**報奨を約束し、もし背くならば、自分たちのせいで真理から妨げられた民の罪を負うことになると戒められました。これは征服者の命令ではなく、人を思いやる者の忠告です。

王と民への慈悲

当時の王たちは、民の宗教について絶対的な権力を持っていました。王が真理を受け入れれば民は自由にそれに従うことができ、王が拒めば民はしばしば妨げられました。それゆえアッラーの使徒 ﷺ は**王たちから始められた**のです。真理が下にまで届くよう、上の扉を開かれたのです。

この慈悲は、書簡が書かれた**方法**にも表れています。簡潔で明瞭、ビスミッラーで始まり、受け取る者の称号を尊び、安全を差し出しています。罵りもなく、戦いの脅しもありません。これこそ、人びとへの憐れみの心から生まれた宣教の模範です。

「ムハンマド・ラスールッラー」の銀の指輪

書簡が送られる前に、人びとの慣習を理解する**英知**を示す小さな出来事が、アッラーの使徒 ﷺ にありました。使徒の召使いアナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は語ります：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 65 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ مُقَاتِلٍ أَبُو الْحَسَنِ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، قَالَ أَخْبَرَنَا شُعْبَةُ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ كَتَبَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم كِتَابًا ـ أَوْ أَرَادَ أَنْ يَكْتُبَ ـ فَقِيلَ لَهُ إِنَّهُمْ لاَ يَقْرَءُونَ كِتَابًا إِلاَّ مَخْتُومًا. فَاتَّخَذَ خَاتَمًا مِنْ فِضَّةٍ نَقْشُهُ مُحَمَّدٌ رَسُولُ اللَّهِ. كَأَنِّي أَنْظُرُ إِلَى بَيَاضِهِ فِي يَدِهِ. فَقُلْتُ لِقَتَادَةَ مَنْ قَالَ نَقْشُهُ مُحَمَّدٌ رَسُولُ اللَّهِ قَالَ أَنَسٌ.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は言った：**預言者 ﷺ は一通の書簡を書かれた — あるいは書こうとされた — ところ、「かれら（王たち）は印章の押された書簡でなければ読みません」と言われた。そこで使徒は銀で指輪を作られ、それには**「ムハンマド・ラスールッラー」**と刻まれていた。私には今も、使徒の手にあるその白さが見えるようである。**シュウバは言った：私はカターダに尋ねた。「その刻印が『ムハンマド・ラスールッラー』だと言ったのは誰か。」かれは答えた。「アナスです。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ムカーティル ← アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← シュウバ ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』知識の書、ハディース第 65 番；第 2938 番、第 5872 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 2092 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:65

このハディースの教訓

当時の王たちは**印章のない書簡を読みませんでした**。印章のない書簡は正式なものではない、あるいは偽物かもしれないと見なされたからです。アッラーの使徒 ﷺ はその慣習を取るに足らないものとして退けず、書簡が受け取られ読まれるよう、**それに合わせられました**。シャリーアに反しない慣習は、宣教の益のために尊重することができるのです。

指輪の刻印にも深い意味があります：「**ムハンマド・ラスールッラー**」 — 王の称号でも部族の名でもなく、使徒が**アッラーの使徒**であるという告白です。押印された書簡はどれも、読まれる前にこのメッセージを運んでいました。差出人は服従を求める王ではなく、啓示を伝える使徒なのだと。

アナスは「**私には今も、使徒の手にあるその白さが見えるようである**」と言いました。忠実な召使いのこの思い出は、教友たちがアッラーの使徒 ﷺ の生活の細部まで見つめ、覚え、それを誠実に私たちへ伝えたことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

三行の刻印

アナス رضى الله عنه は、自身がバハレーンへ遣わされたとき、指輪の**刻印の並び方**についても説明しています。それはカリフ・アブー・バクル رضى الله عنه の時代のことでした：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3106 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ الأَنْصَارِيُّ، قَالَ حَدَّثَنِي أَبِي، عَنْ ثُمَامَةَ، عَنْ أَنَسٍ، أَنَّ أَبَا بَكْرٍ ـ رضى الله عنه ـ لَمَّا اسْتُخْلِفَ بَعَثَهُ إِلَى الْبَحْرَيْنِ، وَكَتَبَ لَهُ هَذَا الْكِتَابَ وَخَتَمَهُ، وَكَانَ نَقْشُ الْخَاتَمِ ثَلاَثَةَ أَسْطُرٍ مُحَمَّدٌ سَطْرٌ، وَرَسُولُ سَطْرٌ، وَاللَّهِ سَطْرٌ.

訳：

アナス رضى الله عنه は伝えています。**アブー・バクル رضى الله عنه がカリフに任じられると、かれ（アナス）をバハレーンへ遣わし、この書面を書いて押印した。指輪の刻印は三行で、「ムハンマド」が一行、「ラスール（使徒）」が一行、「アッラー」が一行であった。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アブドゥッラー・アル＝アンサーリー ← その父アブドゥッラー・ブン・アル＝ムサンナー ← スマーマ・ブン・アブドゥッラー ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』五分の一の書、ハディース第 3106 番；第 5878 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3106

学者たちは、この三行は**下から上へ**読むものだと説明しています。最上段に「アッラー」、次に「ラスール」、そして「ムハンマド」 — アッラーの御名を最も高い位置に置く礼儀としてです。イブン・ハジャルは『**ファトフ・アル＝バーリー**』でこの見解を挙げつつ、真正な伝承は三行であることだけを述べ、読む方向は定めていないと述べています。

同じ指輪は、アブー・バクル、次いでウマル、次いでウスマーン رضى الله عنه に用いられ、ウスマーンの時代に**アリースの井戸に落ちて**二度と見つかりませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』5879）。教訓：アッラーの使徒 ﷺ の印章は、使徒の逝去後も、ザカートや統治についてのカリフたちの書簡の中で、その務め **— 預かりものを届けること —** を果たし続けたのです。

すべての支配者への書簡

アッラーの使徒 ﷺ の書簡を受け取った王はどれほどいたのでしょうか。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、使徒の呼びかけの**広がり**を示す全体像を伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1774 番

حَدَّثَنِي يُوسُفُ بْنُ حَمَّادٍ الْمَعْنِيُّ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الأَعْلَى، عَنْ سَعِيدٍ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَنَسٍ، أَنَّ نَبِيَّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم كَتَبَ إِلَى كِسْرَى وَإِلَى قَيْصَرَ وَإِلَى النَّجَاشِيِّ وَإِلَى كُلِّ جَبَّارٍ يَدْعُوهُمْ إِلَى اللَّهِ تَعَالَى وَلَيْسَ بِالنَّجَاشِيِّ الَّذِي صَلَّى عَلَيْهِ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم.

訳：

アナス رضى الله عنه は伝えています。**アッラーの預言者 ﷺ は、キスラー、カイサル、ナジャーシー、そして権力を持つすべての支配者に書簡を書き、かれらをアッラーへと招かれた。 このナジャーシーは、預言者 ﷺ が葬儀の礼拝をささげたナジャーシーではない。**

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ユースフ・ブン・ハンマード・アル＝マアニー ← アブドゥル・アアラー ← サイード・ブン・アビー・アルーバ ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、不信仰の王たちへの預言者 ﷺ の書簡の章、ハディース第 1774 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1774

このハディースの教訓

「**権力を持つすべての支配者に**」という言葉は、書簡が二、三通ではなく、ローマとペルシャという**世界の大国**、そしてアラビア半島周辺の小さな支配者たちにまで及んだことを示しています。招くには大きすぎる者も小さすぎる者もいなかったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：169 / 522

このハディースはまた、この書簡を受け取った**ナジャーシー**は、**そのナジャーシーではない**、すなわち預言者 ﷺ が葬儀の礼拝をささげたナジャーシーではないと述べています。この大切な点は「もう一人のナジャーシー」の項で取り上げます。

教訓：宣教は**すべての人間の権利**です。権力ある者も招かれるべきであり、弱い者も訪ねられるべきです。アッラーの使徒 ﷺ は真理を受けるにふさわしい者を選り分けず、すべての人に伝えられました。導きはアッラーの御手にあります。

読み書きのできない預言者が王たちに書き送る

アッラーの使徒 ﷺ は読み書きをされませんでした。アッラーは仰せられます：「**あなたはこれ（クルアーン）以前に、どんな啓典も読まなかったし、またあなたの右手でそれを書きもしなかった**」『イブン・カスィール注釈』29:48。

しかし、宮殿に書記や哲学者を抱える皇帝たちに公式の書簡を送ったのは、この**読み書きのできない（ウンミー）**預言者だったのです。使徒が書簡の内容を**口述され**、書くことに長けた教友たちがそれを書き留めました。スィーラ書は、使徒の書記としてザイド・ブン・サービト、アリー・ブン・アビー・ターリブ、ムアーウィヤ・ブン・アビー・スフヤーン رضي الله عنه らを挙げています。

この「読み書きのできない預言者」という特徴そのものが、以前の啓典に記された徴の一つです：「**かれらは、自分たちの手元にある律法と福音の中に（その名と特徴が）記されている、読み書きのできない預言者である使徒に従う者たちである**」『イブン・カスィール注釈』7:157。

それゆえ、以前の啓典を知っていたヘラクレイオスは、アブー・スフヤーンをあれほど注意深く問いただしたのです。かれは、すでに知っていた**徴を探していた**のです。書簡は単なる紙ではなく、真理を見分けることのできる者に届いた**証拠**でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：170 / 522

六人の使者、六つの方向

書簡を運んだのは誰だったのでしょうか。スィーラ書は、注意深く選ばれた使者たちの名を挙げています — それぞれが向かう国にふさわしい人物でした。**弁の立つ**者、その国で**商売をした経験のある**者、そして傲慢な王に立ち向かう**勇気のある**者もいました。

使者たちと王たちの応じ方

使者	受取人	応じ方
ディフヤ・アル＝カルビー	ローマ皇帝ヘラクレイオス	敬意を示す；信仰せず
アブドゥッラー・ブン・フザーファ	ペルシャのキスラー	書簡を引き裂く
アムル・ブン・ウマイヤ・アッ＝ダムリー	アビシニアのナジャーシー	信仰（アスハマ）
ハーティブ・ブン・アビー・バルタア	エジプトのアル＝ムカウキス	敬意を示す；贈り物を送る
シュジャーウ・ブン・ワフブ	アル＝ハーリス・アル＝ガッサーニー	拒んで脅す
サリート・ブン・アムル	ヤマーマのハウザ	権力の分け前を求める
アル＝アラーウ・アル＝ハドラミー	バハレーンのアル＝ムンズィル・ブン・サーワー	信仰
アムル・ブン・アル＝アース	オマーンのジャイファルとアブド	信仰

使者の名と応じ方はスィーラ書（イブン・サアド、イブン・ヒシャーム、『ザード・アル＝マアード』）による。キスラーとカイサルへの書簡は『サヒーフ・ブハーリー』7と4424にもある。

図 2：使者、書簡の受取人、そしてかれらの応じ方（スィーラ書による）。

スィーラの注：使者たち — アッラーの使徒 ﷺ

イブン・サアドとイブン・ヒシャームは次のように挙げています：ヘラクレイオスへは**ディフヤ・アル＝カルビー**、キスラーへは**アブドゥッラー・ブン・フザーファ・アッ＝サフミー**、ナジャーシーへは**アムル・ブン・ウマイヤ・アッ＝ダムリー**、アル＝ムカウキスへは**ハーティブ・ブン・アビー・バルタア**、アル＝ハーリス・アル＝ガッサーニーへは**シュジャーウ・ブン・ワフブ・アル＝アサディー**、そしてヤマーマのハウザ・ブン・アリーへは**サリート・ブン・アムル・アル＝アーミリー**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

二人の名は真正なハディースで確かめられます。**ディフヤ**はボスラの長官に書簡を届け、それがヘラクレイオスに渡されました（ブハーリー 7）。**アブドゥッラー・ブン・フザーファ**はキスラーに書簡を届けました（ブハーリー 4424）。その他の名は、よく知られた**スィーラ書の情報**です。

参照：

イブン・サアド『大伝記集』；イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・アル＝カイイム『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』。

書簡はどこへ向かったのか

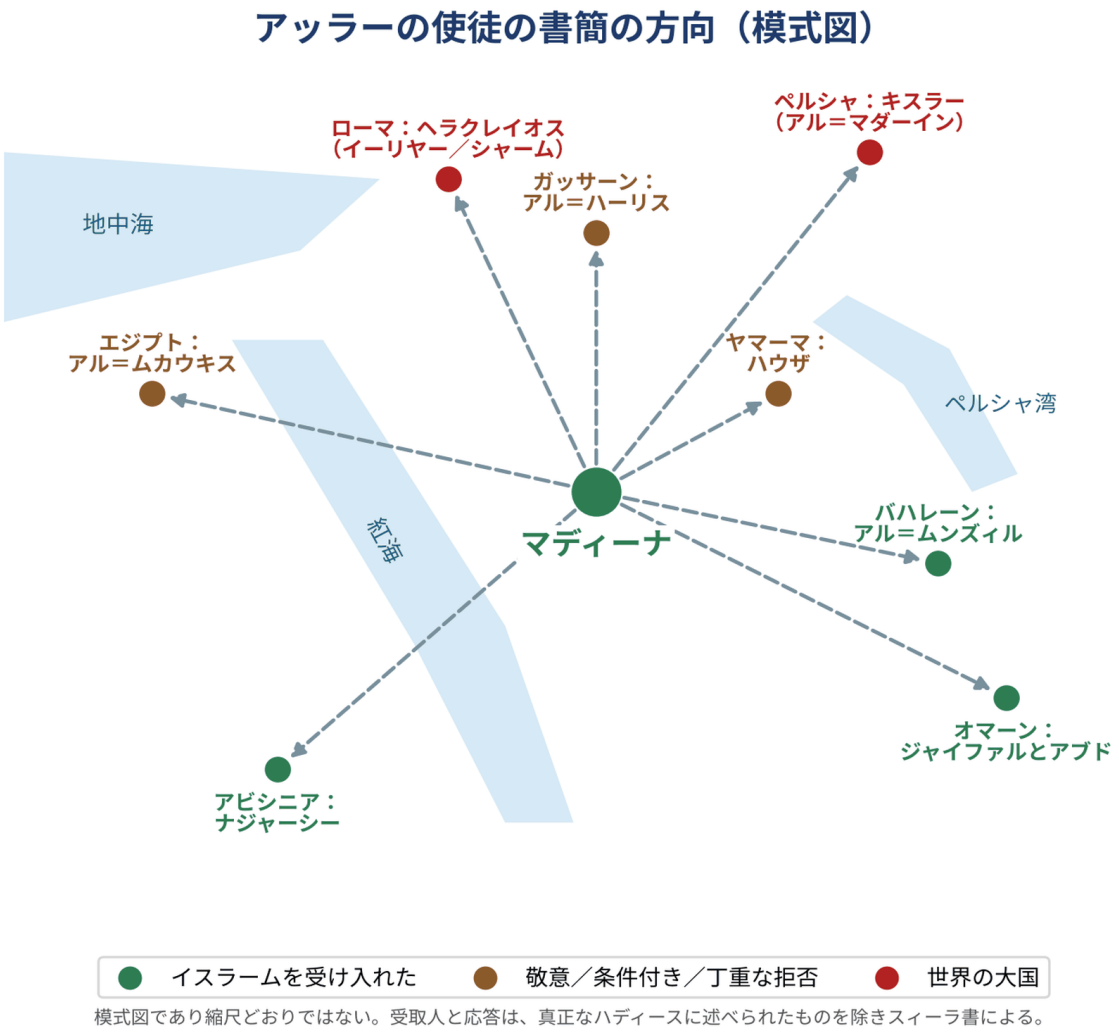


図 3：マディーナからのアッラーの使徒 ﷺ の書簡の方向（模式図）。

書簡はマディーナから、**北**（ローマとガッサーン）、**北東**（ペルシャ）、**西**（エジプト）、紅海を越えて**南**（アビシニア）、そして**東**（ヤマーマ、バハレーン、オマーン）へと向かいました。教訓：アッラーの使徒 ﷺ は、招く相手の言葉と文化を理解する**ふさわしい伝え手を選ばれた**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヘラクレイオスとローマの勝利

アッラーの使徒 ﷺ の書簡が届いたとき、ヘラクレイオスがどこにいたのかを理解するには、ある**クルアーンの予言**に戻る必要があります。ヒジュラの数年前、ペルシャはローマを打ち破り、シャーム、エルサレム、エジプトを奪いました。マッカの多神教徒たちは喜びました。火を拝むペルシャのほうが自分たちに近かったからです。そこでアッラーは下されました：

「**ビザンチンの民は打ち負かされた。**」『イブン・カスィール注釈』30:2。

「**だがかれらは、（この）敗北の後直ぐに勝つであろう**」『イブン・カスィール注釈』30:3。

「**数年の中に（勝利を得よう）**」『イブン・カスィール注釈』30:4。

その予言は現実となりました。ヘラクレイオスは反撃に出て、フダイビーヤの時期と重なる西暦 627〜628 年ごろに**ペルシャを打ち破りました。**イマーム・ブハーリーは、アッラーがペルシャ軍をかれから退けられたとき、**ヘラクレイオスは感謝のしるしとしてヒムスからイーリヤー（エルサレム）まで歩いた**と伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』2941）。アッラーの使徒 ﷺ の書簡がかれのもとに届いたのは、そのイーリヤーにおいてでした。

歴史の注：ローマ・ペルシャ戦争

西暦 602〜628 年の東ローマ（ビザンツ）帝国とサーサーン朝ペルシャの戦争は、両帝国の歴史の中でも最も長い戦争の一つでした。それはヘラクレイオスの勝利と西暦 628 年の和平で終わりました（Wikipedia「Byzantine–Sasanian War of 602–628」）。この戦争は二つの大国を疲れさせ — それから十年も経たないうちに、両国はイスラームの軍と向き合うことになったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヘラクレイオスの宮廷のアブー・スフヤーン

アッラーの使徒 ﷺ の書簡がイーリヤーに届くと、ヘラクレイオスは差出人が誰なのかを知ろうとしました。ちょうどそのとき — アッラーの定めにより — **アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ**が率いるクライシュの隊商がシャームにいました。かれは当時、アッラーの使徒 ﷺ の最大の敵でした。この話は、アブー・スフヤーン自身が、イスラームに入った何年も後に、イブン・アッバース رضي الله عنهما に語ったものです：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 7 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ الْحَكَمُ بْنُ نَافِعٍ، قَالَ أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عُتْبَةَ بْنِ مَسْعُودٍ، أَنَّ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ عَبَّاسٍ، أَخْبَرَهُ أَنَّ أَبَا سُفْيَانَ بْنَ حَرْبٍ أَخْبَرَهُ أَنَّ هِرَقْلَ أَرْسَلَ إِلَيْهِ فِي رَكْبٍ مِنْ قُرَيْشٍ ـ وَكَانُوا تُجَّارًا بِالشَّأْمِ ـ فِي الْمُدَّةِ الَّتِي كَانَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَادَّ فِيهَا أَبَا سُفْيَانَ وَكُفَّارَ قُرَيْشٍ، فَأَتَوْهُ وَهُمْ بِإِيلِيَاءَ فَدَعَاهُمْ فِي مَجْلِسِهِ، وَحَوْلَهُ عُظَمَاءُ الرُّومِ ثُمَّ دَعَاهُمْ وَدَعَا بِتَرْجُمَانِهِ فَقَالَ أَيُّكُمْ أَقْرَبُ نَسَبًا بِهَذَا الرَّجُلِ الَّذِي يَزْعُمُ أَنَّهُ نَبِيٌّ فَقَالَ أَبُو سُفْيَانَ فَقُلْتُ أَنَا أَقْرَبُهُمْ نَسَبًا. فَقَالَ أَدْنُوهُ مِنِّي، وَقَرِّبُوا أَصْحَابَهُ، فَاجْعَلُوهُمْ عِنْدَ ظَهْرِهِ. ثُمَّ قَالَ لِتَرْجُمَانِهِ قُلْ لَهُمْ إِنِّي سَائِلٌ هَذَا عَنْ هَذَا الرَّجُلِ، فَإِنْ كَذَبَنِي فَكَذِّبُوهُ. فَوَاللَّهِ لَوْلاَ الْحَيَاءُ مِنْ أَنْ يَأْثُرُوا عَلَىَّ كَذِبًا لَكَذَبْتُ عَنْهُ، ثُمَّ كَانَ أَوَّلَ مَا سَأَلَنِي عَنْهُ أَنْ قَالَ كَيْفَ نَسَبُهُ فِيكُمْ قُلْتُ هُوَ فِينَا ذُو نَسَبٍ. قَالَ فَهَلْ قَالَ هَذَا الْقَوْلَ مِنْكُمْ أَحَدٌ قَطُّ قَبْلَهُ قُلْتُ لاَ. قَالَ فَهَلْ كَانَ مِنْ آبَائِهِ مِنْ مَلِكٍ قُلْتُ لاَ. قَالَ فَأَشْرَافُ النَّاسِ يَتَّبِعُونَهُ أَمْ ضُعَفَاؤُهُمْ فَقُلْتُ بَلْ ضُعَفَاؤُهُمْ. قَالَ أَيَزِيدُونَ أَمْ يَنْقُصُونَ قُلْتُ بَلْ يَزِيدُونَ. قَالَ فَهَلْ يَرْتَدُّ أَحَدٌ مِنْهُمْ سَخْطَةً لِدِينِهِ بَعْدَ أَنْ يَدْخُلَ فِيهِ قُلْتُ لاَ. قَالَ فَهَلْ كُنْتُمْ تَتَّهِمُونَهُ بِالْكَذِبِ قَبْلَ أَنْ يَقُولَ مَا قَالَ قُلْتُ لاَ. قَالَ فَهَلْ يَغْدِرُ قُلْتُ لاَ، وَنَحْنُ مِنْهُ فِي مُدَّةٍ لاَ نَدْرِي مَا هُوَ فَاعِلٌ فِيهَا. قَالَ وَلَمْ تُمْكِنِّي كَلِمَةٌ أُدْخِلُ فِيهَا شَيْئًا غَيْرُ هَذِهِ الْكَلِمَةِ. قَالَ فَهَلْ قَاتَلْتُمُوهُ قُلْتُ نَعَمْ. قَالَ فَكَيْفَ كَانَ قِتَالُكُمْ إِيَّاهُ قُلْتُ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：175 / 522

الْحَرْبُ بَيْنَنَا وَبَيْنَهُ سِجَالٌ، يَنَالُ مِنَّا وَنَنَالُ مِنْهُ. قَالَ مَاذَا يَأْمُرُكُمْ قُلْتُ يَقُولُ اعْبُدُوا اللَّهَ وَحْدَهُ، وَلاَ تُشْرِكُوا بِهِ شَيْئًا، وَاتْرُكُوا مَا يَقُولُ آبَاؤُكُمْ، وَيَأْمُرُنَا بِالصَّلاَةِ وَالصِّدْقِ وَالْعَفَافِ وَالصِّلَةِ. فَقَالَ لِلتَّرْجُمَانِ قُلْ لَهُ سَأَلْتُكَ عَنْ نَسَبِهِ، فَذَكَرْتَ أَنَّهُ فِيكُمْ ذُو نَسَبٍ، فَكَذَلِكَ الرُّسُلُ تُبْعَثُ فِي نَسَبِ قَوْمِهَا، وَسَأَلْتُكَ هَلْ قَالَ أَحَدٌ مِنْكُمْ هَذَا الْقَوْلَ فَذَكَرْتَ أَنْ لاَ، فَقُلْتُ لَوْ كَانَ أَحَدٌ قَالَ هَذَا الْقَوْلَ قَبْلَهُ لَقُلْتُ رَجُلٌ يَأْتَسِي بِقَوْلٍ قِيلَ قَبْلَهُ، وَسَأَلْتُكَ هَلْ كَانَ مِنْ آبَائِهِ مِنْ مَلِكٍ فَذَكَرْتَ أَنْ لاَ، قُلْتُ فَلَوْ كَانَ مِنْ آبَائِهِ مِنْ مَلِكٍ قُلْتُ رَجُلٌ يَطْلُبُ مُلْكَ أَبِيهِ، وَسَأَلْتُكَ هَلْ كُنْتُمْ تَتَّهِمُونَهُ بِالْكَذِبِ قَبْلَ أَنْ يَقُولَ مَا قَالَ فَذَكَرْتَ أَنْ لاَ، فَقَدْ أَعْرِفُ أَنَّهُ لَمْ يَكُنْ لِيَذَرَ الْكَذِبَ عَلَى النَّاسِ وَيَكْذِبَ عَلَى اللَّهِ، وَسَأَلْتُكَ أَشْرَافُ النَّاسِ اتَّبَعُوهُ أَمْ ضُعَفَاؤُهُمْ فَذَكَرْتَ أَنَّ ضُعَفَاءَهُمُ اتَّبَعُوهُ، وَهُمْ أَتْبَاعُ الرُّسُلِ، وَسَأَلْتُكَ أَيَزِيدُونَ أَمْ يَنْقُصُونَ فَذَكَرْتَ أَنَّهُمْ يَزِيدُونَ، وَكَذَلِكَ أَمْرُ الإِيمَانِ حَتَّى يَتِمَّ، وَسَأَلْتُكَ أَيَرْتَدُّ أَحَدٌ سَخْطَةً لِدِينِهِ بَعْدَ أَنْ يَدْخُلَ فِيهِ فَذَكَرْتَ أَنْ لاَ، وَكَذَلِكَ الإِيمَانُ حِينَ تُخَالِطُ بَشَاشَتُهُ الْقُلُوبَ، وَسَأَلْتُكَ هَلْ يَغْدِرُ فَذَكَرْتَ أَنْ لاَ، وَكَذَلِكَ الرُّسُلُ لاَ تَغْدِرُ، وَسَأَلْتُكَ بِمَا يَأْمُرُكُمْ، فَذَكَرْتَ أَنَّهُ يَأْمُرُكُمْ أَنْ تَعْبُدُوا اللَّهَ، وَلاَ تُشْرِكُوا بِهِ شَيْئًا، وَيَنْهَاكُمْ عَنْ عِبَادَةِ الأَوْثَانِ، وَيَأْمُرُكُمْ بِالصَّلاَةِ وَالصِّدْقِ وَالْعَفَافِ. فَإِنْ كَانَ مَا تَقُولُ حَقًّا فَسَيَمْلِكُ مَوْضِعَ قَدَمَيَّ هَاتَيْنِ، وَقَدْ كُنْتُ أَعْلَمُ أَنَّهُ خَارِجٌ، لَمْ أَكُنْ أَظُنُّ أَنَّهُ مِنْكُمْ، فَلَوْ أَنِّي أَعْلَمُ أَنِّي أَخْلُصُ إِلَيْهِ لَتَجَشَّمْتُ لِقَاءَهُ، وَلَوْ كُنْتُ عِنْدَهُ لَغَسَلْتُ عَنْ قَدَمِهِ. ثُمَّ دَعَا بِكِتَابِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الَّذِي بَعَثَ بِهِ دِحْيَةُ إِلَى عَظِيمِ بُصْرَى، فَدَفَعَهُ إِلَى هِرَقْلَ فَقَرَأَهُ فَإِذَا فِيهِ بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ. مِنْ مُحَمَّدٍ عَبْدِ اللَّهِ وَرَسُولِهِ إِلَى هِرَقْلَ عَظِيمِ الرُّومِ. سَلاَمٌ عَلَى مَنِ اتَّبَعَ الْهُدَى، أَمَّا بَعْدُ فَإِنِّي أَدْعُوكَ بِدِعَايَةِ الإِسْلاَمِ، أَسْلِمْ تَسْلَمْ، يُؤْتِكَ اللَّهُ أَجْرَكَ مَرَّتَيْنِ، فَإِنْ تَوَلَّيْتَ فَإِنَّ عَلَيْكَ إِثْمَ الأَرِيسِيِّينَ وَ{يَا أَهْلَ الْكِتَابِ تَعَالَوْا إِلَى كَلِمَةٍ سَوَاءٍ بَيْنَنَا وَبَيْنَكُمْ أَنْ لاَ نَعْبُدَ إِلاَّ اللَّهَ وَلاَ نُشْرِكَ بِهِ شَيْئًا وَلاَ يَتَّخِذَ بَعْضُنَا بَعْضًا أَرْبَابًا مِنْ دُونِ اللَّهِ فَإِنْ تَوَلَّوْا فَقُولُوا اشْهَدُوا بِأَنَّا مُسْلِمُونَ} قَالَ أَبُو سُفْيَانَ فَلَمَّا قَالَ مَا قَالَ، وَفَرَغَ مِنْ قِرَاءَةِ الْكِتَابِ كَثُرَ عِنْدَهُ الصَّخَبُ، وَارْتَفَعَتِ الأَصْوَاتُ وَأُخْرِجْنَا، فَقُلْتُ

لأَصْحَابِي حِينَ أَخْرَجَنَا لَقَدْ أَمِرَ أَمْرُ ابْنِ أَبِي كَبْشَةَ، إِنَّهُ يَخَافُهُ مَلِكُ بَنِي الأَصْفَرِ. فَمَا زِلْتُ مُوقِنًا أَنَّهُ سَيَظْهَرُ حَتَّى أَدْخَلَ اللَّهُ عَلَيَّ الإِسْلاَمَ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما は、アブー・スフヤーン・ブン・ハルブがかれに語ったことを伝えています：**ヘラクレイオスは、アッラーの使徒 ﷺ とアブー・スフヤーンおよびクライシュの不信仰者たちとの休戦期間中に、シャームで商いをしていたクライシュの一行と共にかれを呼び寄せた。**ヘラクレイオスはローマの高官たちに囲まれた宮廷にかれらを呼び、尋ねた。「預言者だと名乗っているこの男に、血筋が最も近いのは誰か。」アブー・スフヤーンは「私です」と答えた。ヘラクレイオスは、かれが嘘をついたら否定させるために、仲間たちをかれの背後に立たせた。アブー・スフヤーンは言った：**「アッラーにかけて、嘘つきと言われる恥がなければ、私はかれについて嘘をついただろう。」**ヘラクレイオスは、その血筋（高貴である）、以前に同じことを唱えた者がいたか（いない）、先祖に王がいたか（いない）、その従う者は誰か（弱い人々）、増えているか（増えている）、嫌になって離れた者がいるか（いない）、以前に嘘をついたことがあるか（ない）、約束を破るか（破らない）、かれと戦ったか（はい、勝ったり負けたりした）、そしてかれが何を命じているかを尋ねた：**「アッラーだけを崇め、何ものもかれに並べず、あなたがたの父祖たちの言うことを捨てよ。そして私たちに礼拝し、真実を語り、慎み深くし、親族の絆を保つよう命じています。」**ヘラクレイオスはそれぞれの答えを説明し、言った：**「あなたの言うことが本当なら、かれは私のこの両足が立つ所を支配するであろう……もし私がかれのもとにいたなら、かれの足を洗うであろう。」**それからかれはアッラーの使徒 ﷺ の書簡を読んだ：**「慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。アッラーのしもべであり使徒であるムハンマドから、ローマの長ヘラクレイオスへ。導きに従う者に平安あれ。さて、私はあなたをイスラームの呼びかけへと招く。**イスラームに入りなさい、そうすればあなたは安全である。**アッラーはあなたに二倍の報奨を与えられるであろう。もし背くなら、あなたは民（アリースィーユーン）の罪を負う。『啓典の民よ、わたしたちとあなたがたとの間の共通のことばに来なさい……』（イムラーン家章 3:64）。」**アブー・スフヤーンは言った：かれが読み終えると、声が騒がしくなり、私たちは外に出された。

私は仲間たちに言った。「アブー・カブシャの子（ムハンマド）の事は大きくなった。バヌー・アル＝アスファル（ローマ）の王までもがかれを恐れている。」**私はかれが勝つと確信し続けた。ついにアッラーが私の心にイスラームを入れてくださるまで。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン・アル＝ハカム・ブン・ナーフィウ ← シュアイブ・ブン・アビー・ハムザ ← アッ＝ズフリー ← ウバイドゥッラー・ブン・アブドゥッラー・ブン・ウトバ ← アブドゥッラー・ブン・アッバース ← アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』啓示の始まりの書、ハディース第 7 番（アブー・スフヤーンの言葉まで引用）；第 2941 番、第 4553 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1773 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:7

このハディースの教訓

このハディースは『サヒーフ・ブハーリー』の**第 7 番のハディース**で、イマーム・ブハーリーはこれを「啓示の始まりの書」に置きました。それは驚くべき証言です。**敵の証言** — 皇帝の前で、まだ信仰しておらず使徒を悪く言いたくてたまらなかった敵自身による、アッラーの使徒 ﷺ の真実についての証言なのです。

アブー・スフヤーンは、**嘘つきと言われる恥**が嘘をつくことを妨げたと認めています。アラブにとって嘘は大きな恥でした。そのため、かれの答えは敵の口から出たものであっても、**正直な証拠**となったのです — アッラーの使徒 ﷺ の人柄についての証拠に。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・スフヤーン：敵から教友へ

このハディースのアブー・スフヤーンの最後の言葉は、深く心を打ちます：「**私はかれが勝つと確信し続けた。ついにアッラーが私の心にイスラームを入れてくださるまで。**」その確信はヘラクレイオスの宮廷で始まりましたが、イスラームがかれの心に入ったのは、およそ**二年後**、ヒジュラ 8 年のマッカ征服のときでした（『サヒーフ・ブハーリー』4280）。

マッカ征服の日、アッラーの使徒 ﷺ はかれを尊んで言われました：「**アブー・スフヤーンの家に入る者は安全である**」（『サヒーフ・ムスリム』1780）。ウフドとアフザーブでクライシュを率いて使徒と戦った男は、ついに教友となり、その息子ヤズィードとムアーウィヤはシャーム — ヘラクレイオス自身の土地 — の解放のために戦ったのです。

教訓：誰の導きについても**あきらめてはなりません**。今日の敵は明日の友かもしれず、今日の正直な証言は、後に芽生える信仰の種となるかもしれません。

ヘラクレイオスの十の問い

ヘラクレイオスは単なる皇帝ではなく、**以前の啓典を知る者**でもありました。かれの問いは、自分が知っていた預言者の徴を確かめるために、注意深く組み立てられていました。アブー・スフヤーンの答えを聞いた後、ヘラクレイオス自身がそれぞれの問いの意味を説明しました：

問いとアブー・スフヤーンの答え	ヘラクレイオスの説明
血筋は？ — 高貴	使徒たちはその民の高貴な血筋から遣わされる
以前に同じことを唱えた者は？ — いない	いたなら、前の者をまねているのかもしれない
先祖に王は？ — いない	いたなら、父祖の王国を求めているのかもしれない
嘘をついたことは？ — ない	人に嘘をつかない者が、アッラーについて嘘をつくことはない
従う者は？ — 弱い人々	弱い人々こそ使徒たちに従う者である
増えているか、減っているか？ — 増えている	信仰とは、完成するまでそういうものである
嫌になって離れた者は？ — いない	信仰とは、その甘美さが心にしみ込むとそういうものである
約束を破るか？ — 破らない	使徒たちとはそういうもので、裏切らない
かれと戦ったか？ — はい、勝ったり負けたり	使徒たちはそのように試され、最後の結末はかれらのものとなる
何を命じているか？ — 唯一神信仰、礼拝、誠実、慎み、親族の絆	本当なら、かれは私の足が立つ所を支配するであろう

ヘラクレイオスのこの説明は、同じハディースの完全な文に伝えられています（『サヒーフ・ブハーリー』7）。その試験がいかに**理にかなっていた**かを見てください。権力を求める嘘つきなら、王家の出であり、嘘をつき、裏切り、その従う者

はかれの正体を知れば去っていくでしょう。そのどれも**起こらなかった**のです、アッラーの使徒 ﷺ には。

信仰の甘美さ

ヘラクレイオスの言葉の中で最も美しいものの一つは、「**信仰とは、その甘美さが心と混じり合うとそういうものである**」という言葉です。信仰の甘美さを味わった者は、たとえ拷問されても、嫌になってそれを捨てることはありません。それは、マッカのビラール、ヤースィルの家族、そして弱い教友たちに見られたことでした。

アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、**信仰の甘美さ**をもたらす三つのことを説明されました。アッラーとその使徒が他の何よりも愛しいこと、ある人をアッラーのために愛すること、そして火に投げ込まれるのを嫌うように不信仰に戻ることを嫌うことです（『サヒーフ・ブハーリー』16）。

「イスラームに入りなさい、そうすれば安全です」

アッラーの使徒 ﷺ のヘラクレイオスへの書簡は、完璧な**宣教の書簡**の模範です。簡潔ですが、その一語一語に目的があります。その構成を見てみましょう：

書簡の部分	その意味
ビスミッラーヒッラフマーニッラヒーム	アッラーの御名で始める
アッラーのしもべであり使徒であるムハンマドから	「しもべ」が先：謙虚さと唯一神信仰
ローマの長ヘラクレイオスへ	受け取る者の地位を尊ぶ
導きに従う者に平安あれ	非ムスリムにふさわしい挨拶
イスラームに入りなさい、そうすれば安全である	明確な呼びかけと安全の約束
アッラーは二倍の報奨を与えられる	イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ とムハンマド ﷺ
民（アリースィーユーン）の罪	民に対する指導者の責任
イムラーン家章 3:64	啓典の民との共通点

書簡は、啓典の民を共通点へと招く節で結ばれています：「**啓典の民よ、わたしたちとあなたがたとの間の共通のことば（の下）に来なさい。わたしたちはアッラーにだけ仕え（る）**」『イブン・カスィール注釈』3:64。

アッラーの使徒 ﷺ は違いから始めず、**共通点**から始められました。ヘラクレイオスはアッラーと預言者たちを信じるキリスト教徒でした。賢明な宣教は**合意できる土台の上に築き**、その後で意見の分かれる点を説明するのです。

二倍の報奨

「**二倍の報奨**」の約束は、別のハディースで説明されています。二つの報奨を受ける三種類の人の一人は、**自分の預言者を信じ、その後ムハンマド ﷺ** を信じた啓典の

民の人です（『サヒーフ・ブハーリー』97）。イスラームは、啓典の民の自分たちの預言者への信仰を無効にするのではなく、それを完成させるのです。

ヘラクレイオスとその王座

ヘラクレイオスはどう決断したのでしょうか。『サヒーフ・ブハーリー』7 の完全な文は、イマーム・アッ＝ズフリーが伝える、イーリヤーの総督**イブン・アン＝ナートゥール**の伝承によってこの話を続けています。ヘラクレイオスは**ヒムス**へ行き、ローマの高官たちを自分の宮殿の一つに招きました。かれは扉をすべて閉めるよう命じ、それから言いました：「**ローマの人々よ、あなたがたは成功と導きを望み、あなたがたの王国が続くことを望むか。それならこの預言者に忠誠を誓いなさい。**」

高官たちは野生のロバのように扉へ向かって**逃げ出しました**が、扉はすべて閉ざされていました。ヘラクレイオスはかれらの拒絶を見て、その信仰をあきらめると言いました：「**かれらを私のもとへ連れ戻せ。**」そして言いました：「**さきほどの私の言葉は、あなたがたの宗教への堅さを試すために言ったのであり、私はそれを見た。**」かれらはかれにひれ伏し、かれに満足しました（『サヒーフ・ブハーリー』7）。

スィーラの注：イブン・アン＝ナートゥールの伝承の位置づけ

このハディースの最後の部分は預言者 ﷺ の言葉ではなく、アッ＝ズフリーがシャームのキリスト教徒の高官イブン・アン＝ナートゥールから伝えた**歴史の伝え**です。イマーム・ブハーリーはそれを話の続きとして収めました。イブン・ハジャルは『**ファトフ・アル＝バーリー**』で、アッ＝ズフリーはイブン・アン＝ナートゥールがイスラームに入った後にそれを聞いたか、あるいは信頼できる仲介者を通して聞いたと説明しています。

ヘラクレイオスがひそかに信仰したかどうかについて、学者たちの**意見は分かれています**。この伝承から明らかなのは、かれが**自分の王座を優先した**ということで、ハディースは「これがヘラクレイオスの事の結末であった」という言葉で結ばれています。かれの心の事はアッラーに委ねられます。

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』7；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』啓示の始まりの書。https://sunnah.com/bukhari:7

この教訓は非常に深いものです：**真理を知ることは、それを受け入れることと同じではありません。**ヘラクレイオスは預言者の徴を見分け、アッラーの使徒 ﷺ の足を洗うとまで言いましたが、**権力への愛**がかれを妨げました。反対に、当時敵であったアブー・スフヤーンは、ついにこう言いました：「**アッラーが私の心にイスラームを入れてくださった。**」導きは、アッラーがお望みの者に与えられる賜物なのです。

書簡を引き裂いたキスラー

ヘラクレイオスが敬意をもって書簡を迎えたのに対し、ペルシャ皇帝**キスラー**は正反対の応じ方をしました。当時のキスラーは**ホスロー2 世（パルヴィーズ）**で、何世紀も続いた帝国の支配者であり、自らを神に等しい者と見なしていました。イブン・アッバース رضي الله عنهما は語ります：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4424 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ، حَدَّثَنَا يَعْقُوبُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، حَدَّثَنَا أَبِي، عَنْ صَالِحٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، أَنَّ ابْنَ عَبَّاسٍ، أَخْبَرَهُ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بَعَثَ بِكِتَابِهِ إِلَى كِسْرَى مَعَ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ حُذَافَةَ السَّهْمِيِّ، فَأَمَرَهُ أَنْ يَدْفَعَهُ إِلَى عَظِيمِ الْبَحْرَيْنِ، فَدَفَعَهُ عَظِيمُ الْبَحْرَيْنِ إِلَى كِسْرَى، فَلَمَّا قَرَأَهُ مَزَّقَهُ ـ فَحَسِبْتُ أَنَّ ابْنَ الْمُسَيَّبِ قَالَ ـ فَدَعَا عَلَيْهِمْ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَنْ يُمَزَّقُوا كُلَّ مُمَزَّقٍ.

訳：

イブン・アッバース رضي الله عنهما は伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ は、アブドゥッラー・ブン・フザーファ・アッ＝サフミーに書簡を持たせてキスラーのもとへ遣わし、それをバハレーンの長官に渡すよう命じられた。バハレーンの長官はそれをキスラーに渡した。キスラーはそれを読むと、引き裂いた。**（イブン・シハーブは言った：イブン・アル＝ムサイイブがこう言ったと思う：）**そこでアッラーの使徒 ﷺ は、かれらがずたずたに引き裂かれるよう祈られた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク・ブン・イブラーヒーム ← ヤアクーブ・ブン・イブラーヒーム ← その父イブラーヒーム・ブン・サアド ← サーリフ・ブン・カイサーン ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウバイドゥッラー・ブン・アブドゥッラー ← イブン・アッバース رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、キスラーとカイサルへの預言者 ﷺ の書簡の章、ハディース第 4424 番；第 64 番、第 2939 番、第 7264 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4424

このハディースの教訓

キスラーは怒って**書簡を引き裂きました** — アッラーの使徒 ﷺ の書簡を。スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ の名がかれの名より先に書かれていたことに激怒したといいます。傲慢な皇帝にとって、アラビアの砂漠の一人の男からの書簡は侮辱だったのです。

アッラーの使徒 ﷺ は軍を送って報復されませんでした。使徒は、書簡が引き裂かれたように、かれらの王国が引き裂かれるよう**アッラーに祈られた**のです。その祈りは、続く章で見るように、驚くべき形でかなえられました。

教訓：**真理を拒む傲慢さ**は滅びをもたらします。アッラーは高慢な者たちについて仰せられます：「われは地上で不当に高慢な者たちを、わが印から背かせるであろう」（高壁章 7:146）。ヘラクレイオスは少なくとも耳を傾けましたが、キスラーはまったく聞こうとしなかったのです。

イエメンのバーザーンとキスラーの死

書簡が引き裂かれた後の話は、私たちが引用した真正なハディースには見られませんが、スィーラ書や歴史書でよく知られて伝えられています。その位置づけを明らかにしたうえで述べます：

スィーラの注：イエメン総督バーザーン

イブン・サアドとアッ＝タバリーは、キスラーがイエメンの総督**バーザーン**に、アッラーの使徒 ﷺ を自分のもとへ連れて来るため二人の男を送るよう命じたと伝えています。かれらがマディーナに着くと、アッラーの使徒 ﷺ はかれらに待つよう求め、それから告げられました：「**わが主は今夜、あなたがたの主人を殺された。その息子シールーヤがかれを殺したのだ。**」

二人の使者は戻ってその知らせをバーザーンに伝えました。間もなく、父の死を確かめるシールーヤからの書簡が届きました。そこで**バーザーンとイエメンのペルシャ人たちはイスラームに入りました。**この伝承はスィーラ書でよく知られていますが、その一部の伝承経路はムルサル（途中の伝承者が欠けている）です。

参照：

イブン・サアド『大伝記集』；アッ＝タバリー『諸使徒と諸王の歴史』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

歴史の注：ホスロー2 世の失墜

イスラーム以外の歴史資料も、**ホスロー2 世がその息子カワード 2 世（シールーヤ）によって廃位され**、西暦 628 年 2 月に、その数日後に殺されたことを記録しています（Wikipedia「Khosrow II」）。その後四年の間に、ペルシャは**十人以上の王と女王**によって次々と治められました — その王国はまさに「引き裂かれた」のです。

アッラーの使徒 ﷺ は、ペルシャがキスラーの娘を支配者に立てたと聞いたとき、こう言われました：「**自分たちの事を女性に委ねる民は成功しない**」（『サヒーフ・ブハーリー』4425） — 使徒がペルシャの動きを注意深く見ておられたことを示すハ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：189 / 522

ディースです。学者たちは、このハディースの意味を国家の最高指導者という文脈で論じています。

「かれの後にキスラーはいない」

アッラーの使徒 ﷺ は祈られただけではありません。二つの大帝国の**未来を告げられ**、しかも驚くべき確かさをもってそうされたのです：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3121 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ، سَمِعَ جَرِيرًا، عَنْ عَبْدِ الْمَلِكِ، عَنْ جَابِرِ بْنِ سَمُرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِذَا هَلَكَ كِسْرَى فَلاَ كِسْرَى بَعْدَهُ، وَإِذَا هَلَكَ قَيْصَرُ فَلاَ قَيْصَرَ بَعْدَهُ، وَالَّذِي نَفْسِي بِيَدِهِ، لَتُنْفَقَنَّ كُنُوزُهُمَا فِي سَبِيلِ اللَّهِ.

訳：

ジャービル・ブン・サムラ رضى الله عنه は言った：アッラーの使徒 ﷺ は言われた：「**キスラーが滅びれば、その後にキスラーはいない。カイサルが滅びれば、その後にカイサルはいない。**わが魂をその御手に握る御方にかけて、二人の宝はきっとアッラーの道のために費やされるであろう。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク・ブン・イブラーヒーム ← ジャリール・ブン・アブドゥル・ハミード ← アブドゥル・マリク・ブン・ウマイル ← ジャービル・ブン・サムラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』五分の一の書、ハディース第 3121 番；第 3618〜3619 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 2919 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3121

このハディースの教訓

この言葉が語られたとき、ローマとペルシャは**世界の二大強国**であり、ムスリムはマディーナの小さな共同体にすぎませんでした。しかし二十年も経たないうちに、この予言は現実となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：191 / 522

出来事	年
カーディスィーヤの戦い；ペルシャ軍が敗れる	ヒジュラ 15 年 / 西暦 636 年
アル＝マダーイン（キスラーの都）の開城	ヒジュラ 16 年 / 西暦 637 年
ニハーワンドの戦い、「勝利の中の勝利」	ヒジュラ 21 年 / 西暦 642 年
最後のキスラー、ヤズデギルド 3 世が殺される	ヒジュラ 31 年 / 西暦 651 年
ヤルムークの戦い；ローマがシャームを去る	ヒジュラ 15 年 / 西暦 636 年

キスラーの宝についてのアッラーの使徒 رضى الله عنه の予言を聞いたアディー・ブン・ハーティム ﵁ は、後にこう言いました：「**私は、フルムズの子キスラーの宝を開いた者たちの一人であった**」（『サヒーフ・ブハーリー』3595）。その宝は、ウマル رضى الله عنه の時代にアッラーの道のために費やされました。

ではカイサルはどうでしょうか。ローマのカイサルの称号は、コンスタンティノープルで何世紀も続きました。アン＝ナワウィーが『**サヒーフ・ムスリム注釈**』で伝えるところでは、イマーム・アッ＝シャーフィイーはその意味を、**イラクにもうキスラーはなく、シャームにもうカイサルはいない**と説明しました — そしてそのとおりになりました。ヤルムークの後、ヘラクレイオスはシャームを永遠に去ったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

預言者の証としての予言

アフザーブの連合軍に追い詰められたばかりの小さな国の指導者が、**世界の二大帝国の宝**が自分の従う者たちによってアッラーの道のために費やされると、確信をもって誓うところを想像してみてください。当時のどんな政治の分析家も、それを予想しなかったでしょう。しかし、それは告げられたとおりに起こり、まだ生きていた教友たちがそれを目撃したのです。

これはアッラーの約束の成就です：「**かれこそは、導きと真理の教えをもって使徒を遣わされ、凡ての教えの上にそれを顕現される御方である**」『イブン・カスィール注釈』48:28。

教訓：現実となったアッラーの使徒 ﷺ の予言は、歴史によって確かめることのできる**預言者の証**です。それはまた、**物質的な力は永遠ではない**ことも教えています。無敵に見えた帝国も、アッラーがお望みになれば崩れるのです。

ナジャーシー：誰も虐げない王

キスラーが書簡を引き裂いたのに対し、アビシニア（エチオピア）の王**ナジャーシー**は最も気高い応じ方をしました。**アスハマ**という名のこのナジャーシーは、ムスリムにとって見知らぬ人ではありませんでした。その約十五年前、かれはクライシュの迫害からアビシニアへ移住した**教友たちを保護した**のです。

スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ が最初の移住先にアビシニアを選ばれたのは、そこに**誰も虐げない王**がいたからでした。クライシュが教友たちの引き渡しを求めてアムル・ブン・アル＝アースを送ったとき、ジャアファル・ブン・アビー・ターリブがマルヤム章を読み上げると、ナジャーシーはひげが濡れるほど泣き、預言者イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ と預言者ムハンマド ﷺ がもたらしたものは**同じ源から出ている**と言いました。

イブン・カスィールが述べるように、一部の注釈学者はこの節をナジャーシーとアビシニアの司祭たちに結びつけています：「**あなたはかれらが、使徒に下されたものを聞く時、…涙を目に溢れさせるのを見るであろう**」『イブン・カスィール注釈』5:83。

スィーラの注：ナジャーシーへの書簡

イブン・サアドは、アッラーの使徒 ﷺ のナジャーシーへの書簡は**アムル・ブン・ウマイヤ・アッ＝ダムリー**が届けたと伝えています。ナジャーシーはそれを敬意をもって受け取り、それを目の上に当て、王座から降りて、**イスラームに入ったことを宣言しました**。

ナジャーシーはまた、アッラーの使徒 ﷺ の代理として、**ウンム・ハビーバとの婚姻の契約**を結びました。アビシニアにいたアブー・スフヤーンの娘であり、ナジャーシーは使徒に代わって婚資（マハル）を支払いました（『スナン・アビー・ダーウード』2107、アル＝アルバーニーはサヒーフと判定）。かれはまた、ジャアファルと教友たちを船で送り返し、かれらはハイバルに到着しました（第 16 巻）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参照：

イブン・サアド『大伝記集』；『スナン・アビー・ダーウード』2107。
https://sunnah.com/abudawud:2107

一人の王のための葬儀の礼拝

スィーラ書によれば、ナジャーシー・アスハマは**ヒジュラ 9 年**に亡くなりました。かれはアッラーの使徒 ﷺ に会ったことがなく、紅海の向こうの何千キロも離れた所に住んでいました。しかしアッラーは**その日のうちに**、その死を使徒に知らせられたのです。アブー・フライラ رضي الله عنه は語ります：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1245 番

حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، قَالَ حَدَّثَنِي مَالِكٌ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ الْمُسَيَّبِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم نَعَى النَّجَاشِيَّ فِي الْيَوْمِ الَّذِي مَاتَ فِيهِ، خَرَجَ إِلَى الْمُصَلَّى، فَصَفَّ بِهِمْ وَكَبَّرَ أَرْبَعًا.

訳：

アブー・フライラ رضي الله عنه は伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ は、ナジャーシーが亡くなったその日にその死を告げられた。使徒は礼拝所（ムサッラー）へ出て、人々と列を整え、四回タクビールを唱えられた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イスマーイール・ブン・アビー・ウワイス ← マーリク・ブン・アナス ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← サイード・ブン・アル＝ムサイイブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』葬儀の書、ハディース第 1245 番；第 1333 番、第 3880 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 951 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1245

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما は、その日のアッラーの使徒 ﷺ の言葉を、ナジャーシーの**本当の名**も含めて伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3877 番

حَدَّثَنَا أَبُو الرَّبِيعِ، حَدَّثَنَا ابْنُ عُيَيْنَةَ، عَنِ ابْنِ جُرَيْجٍ، عَنْ عَطَاءٍ، عَنْ جَابِرٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم حِينَ مَاتَ النَّجَاشِيُّ مَاتَ الْيَوْمَ رَجُلٌ صَالِحٌ، فَقُومُوا فَصَلُّوا عَلَى أَخِيكُمْ أَصْحَمَةَ.

訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った：ナジャーシーが亡くなったとき、預言者 ﷺ は言われた：「**今日、一人の正しい人が亡くなった。立って、あなたがたの兄弟アスハマのために礼拝しなさい。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アッ＝ラビーウ・アッ＝ザフラーニー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← イブン・ジュライジュ ← アターウ・ブン・アビー・ラバーフ ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アンサールの美徳の書、ナジャーシーの死の章、ハディース第 3877 番；『サヒーフ・ムスリム』第 952 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3877

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ はかれを「**あなたがたの兄弟**」、「**正しい人**」と呼ばれました。別の伝承では、使徒は言われました：「**あなたがたの兄弟のために赦しを請いなさい**」（『サヒーフ・ブハーリー』3880）。使徒に一度も会ったことのないアビシニアの王が、マディーナの教友たちの兄弟となったのです — **イスラームの兄弟愛**は、民族も肌の色も国境も越えるのです。

不在者のための葬儀の礼拝

この出来事は、**不在者のための葬儀の礼拝（サラート・アル＝ガーイブ）** — 別の場所で亡くなったムスリムのための葬儀の礼拝 — の根拠となりました。シャーフィイー派とハンバリー派の学者は一般にそれを認めていますが、他の一部の学者は、ナジャーシーのように**自国で誰も礼拝をささげる者がいない**場合に限っています。イブン・アル＝カイイムは『**ザード・アル＝マアード**』で後者の見解に傾いています。

アッラーの使徒 ﷺ は**礼拝所へ出て**、列を整え、四回タクビールを唱えられました — 通常の葬儀の礼拝と同じです。これは、ナジャーシーが使徒のもとでいかに高い位置にあったか、そして最も弱かった時にムスリムを守った**人の恩を**使徒がいかに重んじられたかを示しています。

イブン・カスィールは、一部の人々がアビシニアの王のために礼拝することを疑問視したとき、この節がナジャーシーについて下されたという伝承を挙げています：**「本当に啓典の民の中にも、アッラーを信じ、またあなたがたに下されたものを信じる者がいる」**『イブン・カスィール注釈』3:199。

もう一人のナジャーシー

アナス رضى الله عنه のハディース（『サヒーフ・ムスリム』1774）の一句に戻りましょう：「**このナジャーシーは、預言者 ﷺ が葬儀の礼拝をささげたナジャーシーではない。**」これはどういう意味でしょうか。

学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が**二人のナジャーシー**に書簡を書かれたと説明しています。一人目は、信仰して葬儀の礼拝をささげられた**アスハマ**です。アスハマの死後、アッラーの使徒 ﷺ は**その後継のナジャーシー**にも書簡を書き、イスラームへと招かれました — ムスリムの伝承でアナスが述べているのはこの書簡で、まだ信仰していない王たちへの書簡と並べて挙げられているからです。イブン・アル＝カイイムとイブン・ハジャルがこの説明を述べています。

スィーラ書は、二人目のナジャーシーがイスラームに入ったとは記録していません。この細部は**ハディース伝承者たちの綿密さ**を示しています。アナスは、同じ称号を持つ二人の王を読者が混同しないようにしたのです。教訓：**正確に伝えること**は、知識という預かりものの一部なのです。

エジプトの長官アル＝ムカウキス

当時エジプトはローマの支配下にあり、アレクサンドリアにいたその長官は**アル＝ムカウキス**と呼ばれていました。かれへの書簡の話は『サヒーフ・ブハーリー』や『サヒーフ・ムスリム』には見られませんが、スィーラ書で広く伝えられています：

スィーラの注：アレクサンドリアのハーティブ・ブン・アビー・バルタア

イブン・サアドとイブン・アブドゥル・ハカムは、**ハーティブ・ブン・アビー・バルタア**がアッラーの使徒 ﷺ の書簡をアル＝ムカウキスに届けたと伝えています。アル＝ムカウキスはそれを敬意をもって受け取り、象牙の箱にしまい、丁重な書簡で返答しました。かれは、預言者がまだ現れることを認めましたが、**イスラームには入りませんでした**。

かれは**贈り物**をアッラーの使徒 ﷺ に送りました。その中には、二人の女奴隷**マーリヤ**とその姉妹**スィーリーン**、衣服、そして後に**ドゥルドゥル**と名づけられた白いラバがありました。コプト人マーリヤは、**イブラーヒーム**の母となりました。アッラーの使徒 ﷺ の息子です。アル＝ムカウキスの本当の身元については、歴史家の間で意見が分かれています。

参照：

イブン・サアド『大伝記集』；イブン・アブドゥル・ハカム『エジプト征服史』；イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』。

Wikipedia「Muqawqis」。https://en.wikipedia.org/wiki/Muqawqis

イブラーヒーム、すなわちマーリヤから生まれたアッラーの使徒 ﷺ の息子の存在は、真正なハディースによって確かめられています。イブラーヒームが幼くして亡くなったとき、アッラーの使徒 ﷺ は涙を流して言われました：「**目は涙を流し、心は悲しむ。しかし私たちは、私たちの主がお喜びになることしか口にしない。イブラーヒームよ、本当に私たちはあなたとの別れを深く悲しんでいる**」（『サヒーフ・ブハーリー』1303）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：200 / 522

アッラーの使徒 ﷺ はエジプトについても遺言されました：「**あなたがたはエジプトを開くであろう……その住民によくしなさい。かれらには保護の権利と親族のつながりがあるからである**」（『サヒーフ・ムスリム』2543）。学者たちは、その「親族のつながり」とは、**ハージャル** — 預言者イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ の母 — と、イブラーヒームの母**マーリヤ**を指すと説明しています — 二人ともエジプトの出身でした。

アラブの王たち：ガッサーン、ヤマーマ、バハレーン、オマーン

大国のほかに、アッラーの使徒 ﷺ は半島の辺境にいる**アラブの王や支配者たち**にも書簡を書かれました。かれらの応じ方はさまざまで、これらの話は**スィーラ書**に由来します：

支配者と使者	応じ方（スィーラ書）
アル＝ハーリス・ブン・アビー・シャミル・アル＝ガッサーニー（シャーム） — シュジャーウ・ブン・ワフブ	激怒して書簡を投げ捨て、マディーナを攻めると脅した
ハウザ・ブン・アリー・アル＝ハナフィー（ヤマーマ） — サリート・ブン・アムル	権力の分け前を求めたが拒まれ、間もなく死去
アル＝ムンズィル・ブン・サーワー（バハレーン） — アル＝アラーウ・アル＝ハドラミー	多くの民と共にイスラームに入った
ジャイファルとアブド・ブン・アル＝ジュランダー（オマーン） — アムル・ブン・アル＝アース	話し合いの後にイスラームに入った；ヒジュラ 8 年

スィーラの注：ハウザと権力の要求

イブン・サアドは、ヤマーマの支配者ハウザが、従うならば**権力の一部**を与えてほしいと求める返書を送ったと伝えています。アッラーの使徒 ﷺ はそれを拒まれました。この事は**権力の取引のためのものではない**からです。ハウザはその後間もなく亡くなりました。ヤマーマは後に、嘘つきムサイリマが現れた地となりました。

参照：
イブン・サアド『大伝記集』；イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バハレーンとザカートの書簡

イスラームに入ったバハレーンの人々は、その後**ザカートの規定**についての書簡を受け取りました。アブー・バクルによってバハレーンへ遣わされたアナス رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ の指輪で押印された書簡を携えていました（『サヒーフ・ブハーリー』3106）。ラクダ、羊、銀のザカートの割合についてのその内容は、『サヒーフ・ブハーリー』1454 に伝えられています。宣教の書簡は、**行政とシャリーアの**書簡へと変わったのです。

教訓：宣教に対する人々の応じ方は**国の強さによるのではありません**。バハレーンとオマーンの小さな王たちは信仰し、大帝国の皇帝たちは拒みました。導きは権力によってではなく、真理を受け入れる**心の備え**によって量られるのです。

スマーマ・ブン・ウサール：品性にとらえられた指導者

ヤマーマの指導者**スマーマ・ブン・ウサール**の話は、指導者たちへの宣教のもう一つの方法を示しています。書簡によってではなく、**品性**によってです。アブー・フライラ رضى الله عنه は語ります：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4372 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، قَالَ حَدَّثَنِي سَعِيدُ بْنُ أَبِي سَعِيدٍ، أَنَّهُ سَمِعَ أَبَا هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ بَعَثَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم خَيْلاً قِبَلَ نَجْدٍ، فَجَاءَتْ بِرَجُلٍ مِنْ بَنِي حَنِيفَةَ يُقَالُ لَهُ ثُمَامَةُ بْنُ أُثَالٍ، فَرَبَطُوهُ بِسَارِيَةٍ مِنْ سَوَارِي الْمَسْجِدِ، فَخَرَجَ إِلَيْهِ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ مَا عِنْدَكَ يَا ثُمَامَةُ. فَقَالَ عِنْدِي خَيْرٌ يَا مُحَمَّدُ، إِنْ تَقْتُلْنِي تَقْتُلْ ذَا دَمٍ، وَإِنْ تُنْعِمْ تُنْعِمْ عَلَى شَاكِرٍ، وَإِنْ كُنْتَ تُرِيدُ الْمَالَ فَسَلْ مِنْهُ مَا شِئْتَ. حَتَّى كَانَ الْغَدُ ثُمَّ قَالَ لَهُ مَا عِنْدَكَ يَا ثُمَامَةُ. قَالَ مَا قُلْتُ لَكَ إِنْ تُنْعِمْ تُنْعِمْ عَلَى شَاكِرٍ. فَتَرَكَهُ حَتَّى كَانَ بَعْدَ الْغَدِ، فَقَالَ مَا عِنْدَكَ يَا ثُمَامَةُ. فَقَالَ عِنْدِي مَا قُلْتُ لَكَ. فَقَالَ أَطْلِقُوا ثُمَامَةَ، فَانْطَلَقَ إِلَى نَخْلٍ قَرِيبٍ مِنَ الْمَسْجِدِ فَاغْتَسَلَ ثُمَّ دَخَلَ الْمَسْجِدَ فَقَالَ أَشْهَدُ أَنْ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ، وَأَشْهَدُ أَنَّ مُحَمَّدًا رَسُولُ اللَّهِ، يَا مُحَمَّدُ وَاللَّهِ مَا كَانَ عَلَى الأَرْضِ وَجْهٌ أَبْغَضَ إِلَىَّ مِنْ وَجْهِكَ، فَقَدْ أَصْبَحَ وَجْهُكَ أَحَبَّ الْوُجُوهِ إِلَىَّ، وَاللَّهِ مَا كَانَ مِنْ دِينٍ أَبْغَضَ إِلَىَّ مِنْ دِينِكَ، فَأَصْبَحَ دِينُكَ أَحَبَّ الدِّينِ إِلَىَّ، وَاللَّهِ مَا كَانَ مِنْ بَلَدٍ أَبْغَضُ إِلَىَّ مِنْ بَلَدِكَ، فَأَصْبَحَ بَلَدُكَ أَحَبَّ الْبِلاَدِ إِلَىَّ، وَإِنَّ خَيْلَكَ أَخَذَتْنِي وَأَنَا أُرِيدُ الْعُمْرَةَ، فَمَاذَا تَرَى فَبَشَّرَهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَمَرَهُ أَنْ يَعْتَمِرَ، فَلَمَّا قَدِمَ مَكَّةَ قَالَ لَهُ قَائِلٌ صَبَوْتَ. قَالَ لاَ، وَلَكِنْ أَسْلَمْتُ مَعَ مُحَمَّدٍ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، وَلاَ وَاللَّهِ لاَ يَأْتِيكُمْ مِنَ الْيَمَامَةِ حَبَّةُ حِنْطَةٍ حَتَّى يَأْذَنَ فِيهَا النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った：**預言者 ﷺ はナジュドの方へ騎兵を遣わされた。**

かれらはバヌー・ハニーファの一人の男、ヤマーマの住民の長であるスマーマ・ブン・

ウサールを連れて来て、モスクの柱の一つに縛りつけた。預言者 ﷺ はかれのもとへ出て来て尋ねられた。「スマーマよ、あなたには何があるか。」かれは答えた。「ムハンマドよ、私には良いものがあります。もし私を殺すなら、血の報いを求められる者を殺すことになります。もし恩を施すなら、恩を知る者に恩を施すことになります。もし財産を望むなら、求めてください。」使徒は二日目と三日目にも尋ね、そして言われた：「**スマーマを放しなさい。**」スマーマは近くのナツメヤシ園へ行って沐浴し、モスクに入って二つの信仰告白を唱え、こう言った：「**ムハンマドよ、アッラーにかけて、かつて地上にあなたの顔ほど私が憎んだ顔はありませんでした。それが今では、あなたの顔は私にとって最も愛しい顔となりました……**」かれがマッカに着くと、ある者が言った。「あなたは背教したのか。」かれは答えた。「いいえ、私はアッラーの使徒ムハンマド ﷺ と共にイスラームに入ったのです。**アッラーにかけて、預言者 ﷺ が許されるまで、ヤマーマからは小麦一粒もあなたがたのもとに届かないであろう。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← アル＝ライス・ブン・サアド ← サイード・ブン・アビー・サイード・アル＝マクブリー ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、バヌー・ハニーファの使節とスマーマ・ブン・ウサールのハディースの章、ハディース第 4372 番；『サヒーフ・ムスリム』第 1764 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4372

このハディースの教訓

スマーマは捕らえられ、三日間モスクに縛られていました。そこでかれはムスリムの生活を**自分の目で見た**のです。かれらの礼拝、かれらの品性、そしてアッラーの使徒 ﷺ のかれへの扱いを。それからかれは**無条件で解放されました。**その寛大さは、かれを縛っていた縄よりも強くかれの心をとらえたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：205 / 522

かれの言葉に注目してください。**最も憎んでいた**顔、宗教、国が、**最も愛しいもの**となったのです。これが宣教における品性の力です。スマーマはその後、ヤマーマからマッカへの小麦の供給を止め、クライシュはアッラーの使徒 ﷺ に懇願しました — そしてスィーラ書によれば、使徒は、敵であってもマッカの住民への**憐れみ**から、供給を再開するようかれに求められたのです。

捕虜への扱い

クルアーンは捕虜によくする人々を称えています：「**またかれらは、かれ（アッラー）を愛するために、貧者と孤児と捕虜に食物を与える**」『イブン・カスィール注釈』76:8。

スマーマは捕虜であり敵でしたが、食べ物を与えられ、拷問されず、毎日丁寧に尋ねられました。アッラーの使徒 ﷺ はかれにイスラームを強いることなく、**かれを解放され**、自由になってから、かれは自ら進んでイスラームを選んだのです。これこそ、**宗教に強制はない**ことの証です。

教訓：最も効果のある宣教は、ときに言葉を必要としません。無力な者への、さらには敵への**寛大な心**は、固く閉ざされた心を開くことができるのです。

英知をもって招きなさい

アッラーの使徒 ﷺ のすべての書簡と使者は、アッラーが示された一つの方法に従っていました：「**英知と良い話し方で、（凡ての者を）あなたの主の道に招け**」『イブン・カスィール注釈』16:125。

そしてアッラーは、宣教者の務めの範囲を明らかにされました：「**仮令かれらが背き去るにしても、あなたの務めは、只（啓示を）かれらに伝えるだけである**」『イブン・カスィール注釈』3:20。

これらの節は、アッラーの使徒 ﷺ が誰にも強制されなかった理由を説明しています。使徒の務めは**はっきりと伝えること**であり、導きはアッラーのものです。キスラーは書簡を引き裂き、ヘラクレイオスは王座を選び、アル＝ムカウキスは贈り物を送りました — そしてアッラーの使徒 ﷺ は、かれらに信仰を強いるために戦いを起こされはしませんでした。

同時にアッラーは、啓示を**余すところなく**伝えるよう命じられました：「**使徒よ、あなたの主から、あなたに下された（啓示）を宣べ伝えなさい**」『イブン・カスィール注釈』5:67。

英知の要素	書簡の中の例
慣習を理解する	王は印章のない書簡を読まないので印章の指輪を作った
伝え手を選ぶ	ローマへはディフヤ、エジプトへはハーティブ
共通点から始める	啓典の民への 3:64 の節
称号を尊ぶ	「ローマの長」「コプトの長」
簡潔で明瞭	「イスラームに入りなさい、そうすれば安全である」
強制しない	書簡が拒まれても戦いはしない

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

指導者へのやさしい言葉

指導者への宣教の礼儀は、アッラーが預言者ムーサーとハールーン عَلَيْهِ السَّلَامُ に教えられたものです：「**あなたがた両人は、フィルアウンの許に行け。本当にかれは法外に振舞っている**」『イブン・カスィール注釈』20:43。

「**だがかれに優しく話しなさい。恐らくかれは訓戒を受け入れ、また（アッラーを）畏れるであろう**」『イブン・カスィール注釈』20:44。

自らを神と称したフィルアウンでさえ**やさしい言葉**で招かれるべきであったなら、他の王たちはなおさらです。アッラーの使徒 ﷺ の書簡はこの礼儀に従っていました。罵りも侮辱もなく、明確な呼びかけと地位への敬意だけがありました。

私たちへの教訓：指導者、上司、あるいは権力ある人に忠告するときは、**英知と礼儀**をもって行わなければなりません。乱暴に伝えられた真理は、その中身ではなく伝え方のせいで、しばしば拒まれてしまうのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

諸王への書簡の伝承の出典

王たちへの書簡の話は、確かさの度合いの異なる三種類の出典を通して私たちに届いています。本書は、読者が**何が確かで**、**何がよく知られているのか**がわかるよう、その三つを区別しています：

諸王への書簡の物語の典拠

クルアーン（6）

- 全人類への使徒（34:28；7:158）
- 万有への慈悲（21:107）
- 啓典の民との共通のことば（3:64）
- ローマの勝利（30:2–4）
- 英知をもって招く（16:125）
- 務めは伝えることだけ（3:20；5:67）

真正なハディース（8）

- すべての人びとに遣わされた
- 「ムハンマド・ラスールッラー」の銀の指輪
- すべての支配者への書簡
- ヘラクレイオスがアブー・スフヤーンに問う；書簡の内容
- キスラーが書簡を引き裂く
- その後にキスラーもカイサルもいない
- ナジャーシーのための不在者の葬儀の礼拝
- スマーマ・ブン・ウサール

スィーラ書（4）

- 一日に六人の使者
- アル＝ムカウキスとその贈り物
- アラブの王たち：ガッサーン、ヤマーマ、バハレーン、オマーン
- 息子の手によるキスラーの死

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：本書における諸王への書簡の話の出典の位置づけ。

物語	典拠と等級
すべての人への使徒；慈悲；共通のことば；ローマ；英知	クルアーン（34:28；7:158；21:107；3:64；30:2–4；16:125） — 確実

物語	典拠と等級
五つの特別な点；指輪；ヘラクレイオス；キスラー	『サヒーフ・ブハーリー』335、65、3106、7、4424、3121 — サヒーフ
すべての支配者への書簡；もう一人のナジャーシー	『サヒーフ・ムスリム』1774 — サヒーフ
不在者のための礼拝；スマーマ	『サヒーフ・ブハーリー』1245、3877、4372 — サヒーフ
ナジャーシーを通じたウンム・ハビーバとの婚姻	『スナン・アビー・ダーウード』2107 — サヒーフ
使者の名；バーザーン；アル＝ムカウキス；アラブの王たち	スィーラ書 — よく知られる；一部はムルサル

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

アッラーの使徒 ﷺ の使者たち：かれらは誰か

第 6 章では使者たちの名と旅の方向を挙げました。この章では、かれらをもっと身近に知ります。どの部族の出身か、どんな長所があったか、そしてその生涯はどのように終わったか。使者の選び方は偶然ではありませんでした。一人ひとりが、向かう国にふさわしい何かを携えていたのです。

使者	部族	遣わされた先	その他の情報
ディフヤ・ブン・ハリーファ・アル＝カルビー	カルブ族（クダーア）	ボスラの長官を通じてヘラクレイオスへ	『サヒーフ・ブハーリー』7 で確認；美しい容貌で知られる
アブドゥッラー・ブン・フザーファ・アッ＝サフミー	クライシュ、バヌー・サフム	バハレーンの長官を通じてキスラーへ	『サヒーフ・ブハーリー』4424 で確認；アビシニアへ移住した経験がある
アムル・ブン・ウマイヤ・アッ＝ダムリー	バヌー・ダムラ（キナーナ族）	ナジャーシー	スィーラ書
ハーティブ・ブン・アビー・バルタア	ラフム族の出身；バヌー・アサド・ブン・アブドゥル・ウッザー（クライシュ）の同盟者	アル＝ムカウキス	バドルの戦いの参加者；スィーラ書
シュジャーウ・ブン・ワフブ・アル＝アサディー	バヌー・アサド・ブン・フザイマ；バヌー・アブド・シャムスの同盟者	アル＝ハーリス・アル＝ガッサーニー	バドルの戦いの参加者；スィーラ書
サリート・ブン・アムル・アル＝アーミリー	クライシュ、バヌー・アーミル・ブン・ルアイイ	ハウザ・ブン・アリー（ヤマーマ）	アビシニアへ移住した経験がある；スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使者	部族	遣わされた先	その他の情報
アル＝アラーウ・ブン・アル＝ハドラミー	ハドラマウトの出身；バヌー・ウマイヤの同盟者	アル＝ムンズィル・ブン・サーワー（バハレーン）	後にバハレーンの総督となる；スィーラ書
アムル・ブン・アル＝アース	クライシュ、バヌー・サフム	ジャイファルとアブド（オマーン）	ヒジュラ 8 年にイスラームに入る；後にエジプトを開く

最初の二人の名は真正なハディースで確かめられています。他は、よく知られたスィーラ書の情報です（イブン・サアド『大伝記集』；イブン・ヒシャーム；イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』）。各使者の部族は、イブン・ハジャルの『アル＝イサーバ』などの人物伝の書から取っています。

ディフヤ・アル＝カルビー：教友たちが見慣れた顔

ハディース：人の姿のジブリール

ウンム・サラマ رضي الله عنها は、自分が預言者 ﷺ と一緒にいたとき、ジブリールが預言者のもとに来たと伝えています。ジブリールは使徒と話し、それから去りました。預言者 ﷺ はウンム・サラマに尋ねられました。「これは誰か。」かの女は答えました。「ディフヤです。」ウンム・サラマは、預言者 ﷺ がジブリールについて告げる説教を聞くまで、その人をディフヤ以外の者だとは思わなかったと言いました。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』3634。

このハディースは、ディフヤの姿がマディーナで多くの人に知られていたことを示しています。かれはまた、シャームに近い北方に住むカルブ族の出身で、そこへ商いに行くことに慣れていました。容貌が美しく、弁が立ち、ローマの国をよく知る使者は、皇帝の前に立つのにふさわしい選択だったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブドゥッラー・ブン・フザーファ：問うことを恐れなかった教友

ハディース：「あなたの父はフザーファである」

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、ある日アッラーの使徒 ﷺ が説教をして「私に尋ねなさい」と言われたと伝えています。するとアブドゥッラー・ブン・フザーファが立ち上がって尋ねました。「私の父は誰ですか。」使徒は答えられました。「あなたの父はフザーファである。」

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』93。

イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、一部の人々がかれの血筋を疑っていたためにアブドゥッラーは尋ねたのであり、アッラーの使徒 ﷺ の答えが人々の前でかれの心を安らがせたと説明しています。問うことを恐れなかったこの教友こそが、後に、当時最も傲慢な皇帝キスラーの前に立ったのです。

スィーラの注：ローマに捕らえられたアブドゥッラー・ブン・フザーファ

イブン・アサーキルの『ダマスカス史』などの歴史書は、カリフ・ウマル رضى الله عنه の時代に、アブドゥッラー・ブン・フザーファがローマ軍に捕らえられたと伝えています。ローマの王はイスラームを捨てるようかれを脅しましたが、かれは拒みました。最後に王は、アブドゥッラーが自分の頭に口づけするなら解放しようと言いました。アブドゥッラーは、ムスリムの捕虜全員を一緒に解放するという条件で同意し、王はそれを果たしました。この話がウマルに届くと、ウマルは、すべてのムスリムはアブドゥッラーの頭に口づけすべきだと言い、自らそれを始めました。

この話は歴史書からのもので、その伝承経路については学者たちの議論があり、真正なハディースの書には見られません。

使者は殺されない

ハディース：使者の不可侵

ヌアイム・ブン・マスウード・アル＝アシュジャイー رضى الله عنه は、ムサイリマの二人の使者がかれの書簡を持って来たと伝えています。アッラーの使徒 ﷺ はかれらに尋ねられました。「あなたがた二人はどう考えるか。」かれらは答えました。「私たちもかれの言うとおりに言います。」使徒は言われました。「アッラーにかけて、使者は殺されないということがなければ、私はあなたがた二人の首をはねたであろう。」

等級：アル＝ハーキム（『アル＝ムスタドラク』）がサヒーフと判定 — 『スナン・アビー・ダーウード』2761。

今日、外交特権として知られるこの原則を、アッラーの使徒 ﷺ は偽預言者の使者に対してさえ守られました。反対に、使徒自身の使者たちは、いつも同じ扱いを受けたわけではありませんでした。スィーラ書によれば、使徒の使者アル＝ハーリス・ブン・ウマイル・アル＝アズディーはシュラフビール・ブン・アムル・アル＝ガッサーニーに殺され、その出来事がムウタの戦いの原因となりました（第 19 巻）。

アッラーの使徒 ﷺ は、マディーナに来た使者たちも尊ばれました。使徒の最後の遺言の一つはこうです：「私がしていたように、使節団に贈り物をしなさい」（『サヒーフ・ブハーリー』3053）。

教訓

使者はそれぞれの長所によって選ばれました。ディフヤはシャームを知り、アブドゥッラー・ブン・フザーファは勇敢で、ハーティブは話し上手、アムル・ブン・アル＝アースは交渉に長けていました。宣教でもどんな務めでも、ふさわしい人をふさわしい場所に置く必要があります。使者は遣わした者の名誉を背負っています。だから伝え手の品性は、伝える中身と同じほど大切なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

支配者たちからの贈り物

第 17 章では、スィーラ書によるアル＝ムカウキスの贈り物、コプト人マーリヤやラバのドゥルドゥルについて述べました。この章では、真正なハディースに伝えられている、非ムスリムの支配者たちからの他の贈り物と、かれらから贈り物を受け取ることの規定をまとめます。

ハディース：アイラの王からの白いラバ

アブー・フマイド・アッ＝サーイディー رضي الله عنه は言った：私たちはタブークの戦いで預言者 ﷺ と共に出かけた。アイラの王は預言者 ﷺ に白いラバを贈り、使徒に外套（ブルダ）を着せた。使徒はかれのために、その国に対するかれの支配を保つ協定の書面を書かれた。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』3161。

ハディース：ウカイディルからの絹の外衣

アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は、厚い絹の外衣が預言者 ﷺ に贈られたと伝えています。使徒は（男性の）絹を禁じておられました。人々はそれを見て驚きました。使徒は言われました。「ムハンマドの魂をその御手に握る御方にかけて、天国のサアド・ブン・ムアーズのハンカチは、これよりもすばらしい。」同じ伝承の中で、それを贈ったのはドゥーマの支配者ウカイディルであったと述べられています。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』2615；2616 にも。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：217 / 522

ハディース：断られた贈り物

イヤード・ブン・ヒマール رضى الله عنه は預言者 ﷺ にラクダを一頭贈りました。使徒は尋ねられました。「あなたはイスラームに入ったか。」かれは答えました。「まだです。」使徒は言われました。「本当に私は、多神教徒の贈り物を受け取ることを禁じられている。」

等級：アル＝アルバーニーによればハサン・サヒーフ — 『スナン・アビー・ダーウード』3057；『ジャーミウ・ティルミズィー』1577 にも。

これらの伝承を調和させる

イマーム・ブハーリーは『サヒーフ』の中に「多神教徒からの贈り物を受け取ること」という章を設け、アイラの王とウカイディルのハディースを収めました。イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、受け取るハディースと断るハディースを学者たちが調和させるいくつかの方法を挙げています。心を和らげ、関係を深めるなど益をもたらす場合には贈り物を受け取り、真理を妨げる恩義を感じさせるおそれがある場合や、贈り主がムスリムと戦っている場合には断る、というものです。また一部の学者は、イヤードのハディースの禁止はより早い時期のもので、その後許されたと考えています。

贈り物	贈り主	典拠と等級
白いラバと外套（ブルダ）	アイラの王（タブーク、ヒジュラ 9 年）	『サヒーフ・ブハーリー』3161 — サヒーフ
厚い絹の外衣	ドゥーマの支配者ウカイディル	『サヒーフ・ブハーリー』2615 — サヒーフ
マーリヤ、スィーリーン、衣服、ラバのドゥルドゥル	エジプトのアル＝ムカウキス	スィーラ書 — よく知られる
ラクダ（断られた）	イスラーム以前のイヤード・ブン・ヒマール	『スナン・アビー・ダーウード』3057 — ハサン・サヒーフ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

イスラームは、非ムスリムとの良い関係の扉を閉ざしません。アッラーの使徒 ﷺ は王たちの贈り物を受け取り、協定の書面で応え、使者たちを尊ばれました。しかし贈り物で原則を買うことはできません。贈り物が心を真理から縛りつける道具とされるなら、それは断られます。目を見張る絹の外衣でさえ、天国のより大きな恵みを思い起こさせるものにすぎなかったのです。

書記たちと書簡の言語

アッラーの使徒 ﷺ は読み書きのできない預言者でした（第 5 章）が、整った文書の役所を築かれました。啓示の書記、書簡の書記、協定の書記、そして通訳がいました。この章では、ペンの陰にいた人々を見ていきます。

ハディース：ユダヤ人の文字を学んだザイド・ブン・サービト

ザイド・ブン・サービト رضي الله عنه は言った：アッラーの使徒 ﷺ は、使徒のためにユダヤ人の文字を学ぶよう私に命じられた。使徒は言われた。「アッラーにかけて、私は自分の書簡についてユダヤ人を信用しない。」そこで半月もたたないうちに、私はそれを習得した。その後、使徒がユダヤ人に書かれるときは私がかれらに書き、かれらが使徒に書いて来るときは私がその書簡を使徒に読んで差し上げた。

等級：ハサン — 『ジャーミウ・ティルミズィー』2715。イマーム・ブハーリーも、裁きの書の「裁判官のための通訳」の章で、その意味を注記（タアリーク）の形で述べている。

半月のうちに、一人のアンサールの若者が、宣教と国の安全のために外国語の文字を習得したのです。ザイドのこの熱意こそが、後にアブー・バクル رضي الله عنه の時代に、クルアーンを集める信頼された人物にかれをしたのです。

ヘラクレイオスの宮廷の通訳

アッラーの使徒 ﷺ の書簡はアラビア語で書かれていました。ヘラクレイオスの宮廷では、アブー・スフヤーンとの対話は通訳を通して行われました。ヘラクレイオスは通訳を呼び、問いと答えのすべてがその通訳を通して伝えられたのです（『サヒーフ・ブハーリー』7）。これは、双方が互いの言葉を尊重し、メッセージが正確に届いたことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

書記たち — アッラーの使徒 ﷺ

書記	伝えられている務め	典拠
ザイド・ブン・サービト	啓示；ユダヤ人への書簡	『ジャーミウ・ティルミズィー』2715；『サヒーフ・ブハーリー』4986
アリー・ブン・アビー・ターリブ	フダイビーヤの和約を書く	『サヒーフ・ブハーリー』2699（第 15 巻）
ムアーウィヤ・ブン・アビー・スフヤーン	イスラームに入った後の書記	『サヒーフ・ムスリム』2501
ウバイイ・ブン・カアブ	啓示	スィーラ書
アブドゥッラー・ブン・アル＝アルカム	王や支配者への書簡	スィーラ書

『サヒーフ・ムスリム』2501 のハディースでは、アブー・スフヤーンがイスラームに入った後に三つのことを願い出ており、その一つは息子ムアーウィヤをアッラーの使徒 ﷺ のそばの書記にすることで、使徒はそれを聞き入れられました。より詳しい書記の一覧はスィーラ書にあり、イブン・アル＝カイイムの『ザード・アル＝マアード』などは二十を超える名を挙げています。

教訓

普遍的な宣教には技能が必要です。書くこと、読むこと、そして他の人々の言葉を理解することです。アッラーの使徒 ﷺ は、大切な事を信頼できない者に頼ることを許されず、自ら人を育てられました。今日のウンマにとって、言葉とコミュニケーションの技能を学ぶことは、イスラームを伝えるという預かりものの一部なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

今日発見されている書簡の写本

多くの読者がこう尋ねます。アッラーの使徒 ﷺ の書簡の原本は今も残っているのか、と。使徒の書簡とされる写本のいくつかは、実際に今日展示されています。しかしその真正性には議論があり、本書は慎重にそれを取り上げます。

歴史の注：アル＝ムカウキスへの書簡

近代の歴史記録によれば、アル＝ムカウキスへの書簡を含む一枚の皮紙が、西暦 1858 年、エジプトのアフミームにある古いキリスト教修道院で、コプト語の書物の間から発見されました。それはフランスの東洋学者によって持ち出され、後にスルタン・アブデュルメジト 1 世が買い取りました。今日それは、イスタンブールのトプカプ宮殿博物館の聖遺物の部門に保管されています。

参照：Wikipedia「Al-Muqawqis」；Wikipedia「Seal of Muhammad」。

このほか、バハレーンのアル＝ムンズィル・ブン・サーワーへの書簡やナジャーシーへの書簡とされる写本も近代の研究で公刊されており、オマーンの王たちへの書簡とされるものは、それがヒジュラ 8 年に書かれたと見なすオマーン国立博物館に展示されています。

写本	今日の所在	評価
アル＝ムカウキスへの書簡	イスタンブール、トプカプ宮殿博物館	見解が分かれるもの
アル＝ムンズィル・ブン・サーワーへの書簡	近代の研究で公刊	見解が分かれるもの
ナジャーシーへの書簡	近代の研究で公刊	見解が分かれるもの
オマーンの王たちへの書簡	オマーン国立博物館	見解が分かれるもの
キスラーへの書簡	キスラーが引き裂いた（『サヒーフ・ブハーリー』4424）	—

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

研究者たちの見解

ムハンマド・ハミードゥッラー博士などのムスリム研究者の一部は、これらの写本を調べ、文字、素材、内容をスィーラの伝承と比べたうえで、その一部は本物かもしれないと考えました。一方、近代の歴史家の一部は、写本の伝来の経緯がはっきりせず、そのような文字は後の人がまねて書くこともできるとして、その真正性を疑っています。

トプカプの写本の印章は三行に並んでおり、『サヒーフ・ブハーリー』3106（第 4 章）にあるアッラーの使徒 ﷺ の指輪の特徴に似ていると言う人もいます。しかし、指輪の特徴はよく知られていてまねることができるため、この類似だけでは真正性の証明にはなりません。それゆえ本書は、どの写本についても真正であると断定しません。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ の書簡についての私たちの信仰は、博物館にある一枚の皮紙に頼るものではありません。私たちはそれを、『サヒーフ・ブハーリー』7 や『サヒーフ・ムスリム』1774 のように、途切れない伝承経路で伝えられた真正なハディースによって知っているのです。写本は関心と実感を深めてくれるかもしれませんが、宗教を守るのは遺物ではなく、伝承経路と知識なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

諸王への書簡の年表

この表は、このシリーズの出来事とその結末を並べたものです。スィーラ書の日付はおおよそのもので、出典によって違いがあります。

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 6 年ズル＝カアダ月	フダイビーヤの和約；休戦が始まる	『サヒーフ・ブハーリー』2731
ヒジュラ 6 年末	「ムハンマド・ラスールッラー」の銀の指輪が作られる	『サヒーフ・ブハーリー』65；時期はスィーラ書による
ヒジュラ 7 年ムハッラム月	六人の使者が同じ日に出発	イブン・サアド
ヒジュラ 7 年	イーリヤーでアブー・スフヤーンがヘラクレイオスに問いただされる	『サヒーフ・ブハーリー』7
ヒジュラ 7 年	キスラーが書簡を引き裂く；祈り — アッラーの使徒	『サヒーフ・ブハーリー』4424
ヒジュラ 7 年	ナジャーシー・アスハマが書簡を受け取る；ウンム・ハビーバとの婚姻	『スナン・アビー・ダーウード』2107；スィーラ書
ヒジュラ 7 年	アレクサンドリアのハーティブ；アル＝ムカウキスの贈り物	スィーラ書
ヒジュラ 7 年	アル＝ハーリス・アル＝ガッサーニーが激怒；ハウザが権力を求める	スィーラ書
ヒジュラ 8 年	バハレーンのアル＝ムンズィルとオマーンの王たちがイスラームに入る	スィーラ書
ヒジュラ 8 年ラマダーン月	マッカ征服の際にアブー・スフヤーンがイスラームに入る	『サヒーフ・ブハーリー』4280
ヒジュラ 9 年ラジャブ月	タブークの際、アイラの王とウカイディルが贈り物をする	『サヒーフ・ブハーリー』3161、2615

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
ヒジュラ 9 年	ナジャーシー・アスハマの死；不在者のための葬儀の礼拝	『サヒーフ・ブハーリー』1245、3877
ヒジュラ 10 年	ムサイリマの使者は殺されなかった	『スナン・アビー・ダーウード』2761
ヒジュラ 15〜16 年	ヤルムークとアル＝マダーイン；キスラーの宝が開かれる	歴史；『サヒーフ・ブハーリー』3121、3595
西暦 1858 年	アル＝ムカウキスへの書簡の写本がアフミームで発見される	近代の歴史

研究者たちが論じている点が一つあります。イスラーム以外の歴史資料は、ホスロー2 世が西暦 628 年 2 月、つまり通常の計算ではヒジュラ 7 年ムハッラム月より前に廃位されたと述べています。一部の研究者は、キスラーへの書簡は他の六人の使者より早く送られた、あるいはスィーラ書の日付はおおよそのものだと考えています。真正なハディース自体は、その日付を述べていません。

教訓

フダイビーヤからタブークまでのおよそ三年のうちに、イスラームの呼びかけはローマ、ペルシャ、アビシニア、エジプト、そしてアラビア半島全体に届きました。計画と誠実さと忍耐をもって努力がなされるとき、その実りは人の予想を超えることがあるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

諸王への書簡についてのよくある質問

1. アッラーの使徒 ﷺ の書簡を受け取った支配者は何人ですか。

真正なハディースは、使徒がキスラー、カイサル、ナジャーシー、そして「権力を持つすべての支配者」に書簡を書かれたと述べています（『サヒーフ・ムスリム』1774）。スィーラ書は、少なくとも八人の支配者の名を挙げています（第 6 章と第 22 章）。

2. 書簡は何語で書かれましたか。

アラビア語です。ヘラクレイオスは通訳を通してアブー・スフヤーンと話しました（『サヒーフ・ブハーリー』7；第 24 章）。

3. 指輪はなぜ金ではなく銀だったのですか。

金はムスリムの男性が身につけることを禁じられているからです。アッラーの使徒 ﷺ は禁じられる前に金の指輪をはめておられましたが、その後それを捨てて銀の指輪をはめられました（『サヒーフ・ブハーリー』5865、5866）。

4. ヘラクレイオスはイスラームに入りましたか。

学者たちの意見は分かれています。『サヒーフ・ブハーリー』7 から明らかなのは、かれが王座を優先したということで、かれの心の事はアッラーに委ねられます（第 11 章）。

5. 葬儀の礼拝がささげられたナジャーシーは、『サヒーフ・ムスリム』1774 で書簡を受け取ったナジャーシーと同じですか。

いいえ。アナスは、そのハディースのナジャーシーは葬儀の礼拝がささげられたナジャーシーではないと明言しています。葬儀の礼拝がささげられたのはアスハマです（『サヒーフ・ブハーリー』3877；第 16 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6. アッラーの使徒 ﷺ は書簡を拒んだ王と戦われましたか。

書簡を拒んだことだけを理由に戦われたことはありません。キスラーは書簡を引き裂きましたが、使徒はただ祈られただけでした。スィーラ書によれば、ムウタでのローマとの戦いは、使徒の使者が殺された後に起こりました（第 22 章；第 19 巻）。

7. ムスリムは非ムスリムから贈り物を受け取ってもよいのですか。

よいのです。アッラーの使徒 ﷺ はアイラの王とウカイディルの贈り物を受け取られました（『サヒーフ・ブハーリー』3161）。宗教に害をもたらすおそれがある場合には断ります（第 23 章）。

8. ヘラクレイオスへの書簡にある「アリースィーユーン」とは誰のことですか。

イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、それは農民や一般の民を意味すると説明しています。もしヘラクレイオスがかれらを真理から妨げるなら、かれがその罪を負うことになるのです（第 10 章）。

9. トプカプ博物館の書簡は本物ですか。

研究者の間で議論があります。本書はそれを断定せず、真正な伝承に依拠しています（第 25 章）。

10. アブー・スフヤーンはなぜヘラクレイオスの前で嘘をつかなかったのですか。

一行の者たちに自分が嘘をついたと報告されるのを恥じたと、かれ自身が認めています（『サヒーフ・ブハーリー』7）。アラブにとって嘘は大きな恥でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：227 / 522

11.「かれの後にキスラーはいない」という予言はなぜ大切なのですか。

それはムスリムがまだ小さな共同体だったときに語られ、二十年も経たないうちに現実となったからです。それは歴史によって確かめることのできる預言者の証です（『サヒーフ・ブハーリー』3121；第 14 章）。

12. 今日、これらの書簡の教訓をどう実践すればよいのですか。

イスラームを簡潔かつ明瞭に、相手が理解する言葉で、招く相手の地位を尊びながら伝えること、そして人々への生きた「書簡」となる品性をもつことによってです（第 20 章と第 28 章）。

教訓

これらの質問は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、近代の歴史研究、そして学者の見解を区別することの大切さを示しています。そうすることで、私たちは確かな教訓を受け取り、一つひとつの情報をあるべき場所に置くことができるのです。

教訓と結び

諸王への書簡は、イスラームがアラビア半島から世界の舞台へ**踏み出した**瞬間でした。「ムハンマド・ラスールッラー」と押印された数枚の書簡によって、唯一神信仰の呼びかけは、ローマ、ペルシャ、アビシニア、エジプトの宮殿にまで届いたのです。

教訓	諸王への書簡から
すべての人々への啓示	「私はすべての人びとに遣わされた」
英知ある宣教	印章の指輪、ふさわしい使者、3:64 の節
敵が証言した誠実さ	ヘラクレイオスへのアブー・スフヤーンの答え
受け入れを伴わない知識	ヘラクレイオスは王座を選んだ
傲慢は滅びをもたらす	キスラーとその王国は引き裂かれた
国境のない兄弟愛	「あなたがたの兄弟アスハマのために礼拝しなさい」
品性が心をとらえる	スマーマは解放され、そして信仰した
務めは伝えることだけ	強制はない；導きはアッラーのもの

私たちの暮らしの中の書簡

今日、私たちが皇帝に書簡を書くことはありませんが、誰もが自分なりの方法で「使者」となることができます — 職場での**品性**、取引での**誠実さ**、そして宗教の異なる隣人への**良い言葉**によって。アッラーの使徒 ﷺ の書簡のように、私たちの宣教も、簡潔で、明瞭で、敬意に満ち、憐れみから生まれるものでなければなりません。

イン・シャー・アッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 18 巻** — 諸王への書簡の後の出来事 — へと続きます。アッラーこそが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 17 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（イムラーン家章 3:20、3:64、3:199；食卓章 5:67、5:83；蜜蜂章 16:125；ビザンチン章 30:2–4；サバア章 34:28）。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/64

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』7、16、65、97、335、1245、1303、1454、2941、3106、3121、3595、3877、3880、4372、4424、4425、5879。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1773、1774、2543。https://sunnah.com/muslim

『スナン・アビー・ダーウード』2107。https://sunnah.com/abudawud:2107

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— アッラーの使徒 ﷺ の使者たちの章。

イブン・サアド『大伝記集』— アッラーの使徒 ﷺ の書簡の章；アッ＝タバリー『諸使徒と諸王の歴史』。

イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』— 預言者 ﷺ の書簡と使者の節。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— 諸王への書簡の章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』— 啓示の始まりの書；アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』。

一般の歴史

Wikipedia, “Heraclius”. https://en.wikipedia.org/wiki/Heraclius

Wikipedia, “Khosrow II”. https://en.wikipedia.org/wiki/Khosrow_II

Wikipedia「Ashama ibn Abjar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ashama_ibn_Abjar

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

Wikipedia「Muqawqis」。https://en.wikipedia.org/wiki/Muqawqis

Wikipedia「Byzantine–Sasanian war of 602–628」。https://en.wikipedia.org/wiki/Byzantine%E2%80%93Sasanian_war_of_602%E2%80%93628

Wikipedia「Muhammad's letters to the heads of state」。https://en.wikipedia.org/wiki/Muhammad%27s_letters_to_the_heads_of_state

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』3634（ディフヤの姿のジブリール）。https://sunnah.com/bukhari:3634

『サヒーフ・ブハーリー』93（アブドゥッラー・ブン・フザーファが父について尋ねる）。https://sunnah.com/bukhari:93

『スナン・アビー・ダーウード』2761（使者は殺されない）。https://sunnah.com/abudawud:2761

『サヒーフ・ブハーリー』3053（使節団への贈り物）。https://sunnah.com/bukhari:3053

『サヒーフ・ブハーリー』3161（アイラの王の贈り物）。https://sunnah.com/bukhari:3161

『サヒーフ・ブハーリー』2615、2616（ウカイディルからの外衣）。https://sunnah.com/bukhari:2615

『スナン・アビー・ダーウード』3057（多神教徒の贈り物を断る）。https://sunnah.com/abudawud:3057

『ジャーミウ・ティルミズィー』2715（ユダヤ人の文字を学んだザイド・ブン・サービト）。https://sunnah.com/tirmidhi:2715

Wikipedia「Al-Muqawqis」（トプカプの書簡の写本）。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Muqawqis

Wikipedia「Seal of Muhammad」。https://en.wikipedia.org/wiki/Seal_of_Muhammad

第四部

カダーのウムラ

預言者伝（スィーラ）— 第 18 巻

実現した夢とマッカでの三日間 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

カダーのウムラ

『預言者伝（スィーラ）』第 15 巻は、アッラーの使徒 ﷺ と 1,400 人の教友がフダイビーヤでマッカに入ることを**阻まれ**、重い心でその地でイフラームを解いた様子を語りました。和約の条件の一つは、ムスリムはその年は帰り、**翌年にウムラを行うために戻ってくる**というものでした。

本巻は、**カダーのウムラ**を語ります。ちょうど一年後、ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月に行われたウムラです。アッラーの使徒 ﷺ が聖なるマスジドに入るという夢は実現し、ムスリムたちはクライシュの目の前で**ラマル**をしながらタワーフを行い、アブドゥッラー・ブン・ラワーハは詩を詠み、ハムザの娘という一人の孤児は身を寄せる場所を得、そしてアッラーの使徒 ﷺ は**マイムーナ**と結婚されました。

カダーのウムラの年表（ヒジュラ7年ズル・カアダ月）

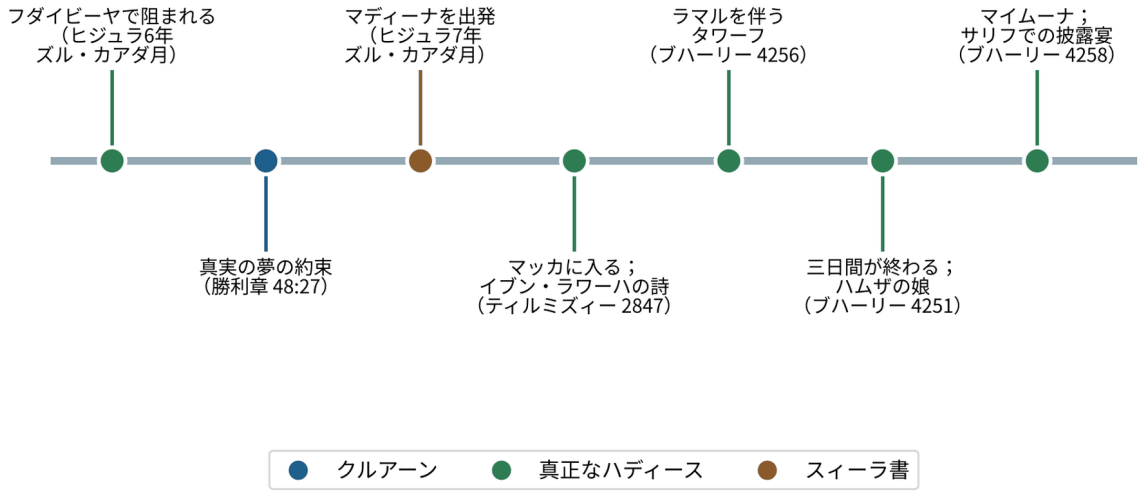


図 1：カダーのウムラの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

フダイビーヤの一年後

両方の出来事に加わったアブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は、フダイビーヤの物語と翌年のウムラを、一つの簡潔なハディースにまとめています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4252 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ رَافِعٍ، حَدَّثَنَا سُرَيْجٌ، حَدَّثَنَا فُلَيْحٌ، ح وَحَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْحُسَيْنِ بْنِ إِبْرَاهِيمَ، قَالَ حَدَّثَنِي أَبِي، حَدَّثَنَا فُلَيْحُ بْنُ سُلَيْمَانَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَرَجَ مُعْتَمِرًا، فَحَالَ كُفَّارُ قُرَيْشٍ بَيْنَهُ وَبَيْنَ الْبَيْتِ، فَنَحَرَ هَدْيَهُ، وَحَلَقَ رَأْسَهُ بِالْحُدَيْبِيَةِ، وَقَاضَاهُمْ عَلَى أَنْ يَعْتَمِرَ الْعَامَ الْمُقْبِلَ، وَلاَ يَحْمِلَ سِلاَحًا عَلَيْهِمْ إِلاَّ سُيُوفًا، وَلاَ يُقِيمَ بِهَا إِلاَّ مَا أَحَبُّوا، فَاعْتَمَرَ مِنَ الْعَامِ الْمُقْبِلِ، فَدَخَلَهَا كَمَا كَانَ صَالَحَهُمْ، فَلَمَّا أَنْ أَقَامَ بِهَا ثَلاَثًا أَمَرُوهُ أَنْ يَخْرُجَ، فَخَرَجَ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は次のように伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ はウムラのために出発されたが、クライシュの不信者たちが使徒と聖殿の間を阻んだ。使徒はフダイビーヤで犠牲の動物を屠って頭を剃り、翌年ウムラを行うこと、剣のほかは武器を携えないこと、かれらが同意した期間だけマッカに滞在することを条件に、かれらと和約を結ばれた。 そこで使徒は翌年ウムラを行い、かれらとの約束どおりマッカに入られた。** 使徒が三日間滞在されると、かれらは退去を求め、使徒は出て行かれた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ラーフィウ ← スライジュ・ブン・アン＝ヌウマーン ← フライフ・ブン・スライマーン；またムハンマド・ブン・アル＝フサイン・ブン・イブラーヒーム ← その父アル＝フサイン・ブン・イブラーヒーム ← フライフ・ブン・スライマーン ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4252 番；第 2701 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4252

このハディースの教訓

このハディースは二つのことを示しています。第一に、アッラーの使徒 ﷺ **和約のすべての条件を守られた**のです。鞘に収めた剣のほかは武器を持たず、求められると三日後きっかりに退去されました。第二に、クライシュもまた、前年には激しく拒んだムスリムの入城を**認め**ざるを得なかったのです。

フダイビーヤで悲しんだ教友たちは、いま自分たちの**忍耐の英知**を目にしました。ウマル رضي الله عنه はかつてこう尋ねました：「あなたは、私たちが聖殿に行ってタワーフをすると言われたではありませんか。」アッラーの使徒 ﷺ は答えられました：**「今年行くと言ったか。……あなたは必ずそこへ行き、タワーフをするのだ」**（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。その約束が、いま果たされたのです。

出来事に満ちた一年

出来事	時期（おおよそ）
フダイビーヤの和約	ヒジュラ暦 6 年ズル＝カアダ月
勝利章の啓示	帰り道
諸王への書簡	ヒジュラ 6 年末 – 7 年初め
ハイバルの戦い	ヒジュラ 7 年ムハッラム月
ジャアファルと船の一行がアビシニアから帰還	ハイバル征服のとき
カダーのウムラ	ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月

一年のうちに、ムスリムの状況は**すっかり変わりました**。かつて重い心でフダイビーヤから帰った人びとが、いまはハイバルを開き、世界の王たちに呼びかけ、数を増した共同体として戻ってきたのです。『預言者伝』第 15・16・17 巻は、これらの出来事を詳しく語っています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真実の夢

フダイビーヤからの帰途、アッラーは使徒の夢を真実とする節を下されました：**「本当にアッラーは、使徒のためにかれの夢を真実になされた。もしアッラーが御望みなら、あなたがたは、安心して必ず聖なるマスジドに入る」**『イブン・カスィール注釈』48:27。

この節にはきわめて具体的な描写があります：**「あなたがたの頭を剃り、または（髪を）短く刈り込んで。何も恐れることはないのである。」**まさにこれがカダーのウムラで起きたことです。かれらは聖なるマスジドに入り、タワーフをし、サアイを行い、そして三日間の安全のうちに、剃髪または散髪によって**イフラームを解いた**のです。

この節はさらにこう述べます：**「かれはあなたがたが知らないことを知っておられる。それればかりか、かれは手近な一つの勝利を許された。」**イブン・カスィールは、この手近な勝利とは**フダイビーヤの和約とハイバル**であると説明しています。一年の延期は敗北ではなく、勝利に次ぐ勝利への道を開いたのです。

預言者の夢は啓示である

アーイシャ رضى الله عنها は、アッラーの使徒 ﷺ への啓示の始まりは**真実の夢**であり、夢に見たことはすべて夜明けの光のように現実となったと語っています（『サヒーフ・ブハーリー』3）。それゆえ教友たちは、その夢が必ず真実となると確信していました。問題はただ**いつ**かということだけでした。

教訓：**アッラーの約束は必ず果たされる。**ただし、かれが定められた時にです。私たちはしばしばすぐに結果を求めますが、アッラーは延期の背後にある英知を知っておられます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

四つのウムラ — アッラーの使徒 ﷺ

アッラーの使徒 ﷺ は生涯に何回ウムラを行われたのでしょうか。アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه がこの問いに答えており、その答えはカダーのウムラをより大きな流れの中に位置づけています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1778 番

حَدَّثَنَا حَسَّانُ بْنُ حَسَّانٍ، حَدَّثَنَا هَمَّامٌ، عَنْ قَتَادَةَ، سَأَلْتُ أَنَسًا ـ رضى الله عنه ـ كَمِ اعْتَمَرَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم قَالَ أَرْبَعٌ عُمْرَةُ الْحُدَيْبِيَةِ فِي ذِي الْقَعْدَةِ، حَيْثُ صَدَّهُ الْمُشْرِكُونَ، وَعُمْرَةٌ مِنَ الْعَامِ الْمُقْبِلِ فِي ذِي الْقَعْدَةِ، حَيْثُ صَالَحَهُمْ، وَعُمْرَةُ الْجِعْرَانَةِ إِذْ قَسَمَ غَنِيمَةَ أُرَاهُ حُنَيْنٍ. قُلْتُ كَمْ حَجَّ قَالَ وَاحِدَةً.

訳：

カターダは言った。私はアナス رضي الله عنه に尋ねた：「預言者 ﷺ は何回ウムラをされましたか。」かれは答えた：「**四回です。多神教徒たちに阻まれたズル・カアダ月のフダイビーヤのウムラ、**かれらと和約を結ばれた翌年のズル・カアダ月のウムラ、**戦利品を分配されたときのジイラーナのウムラ — たしかフナインの戦いのときです。**」私は尋ねた：「ハッジは何回されましたか。」かれは答えた：「**一回です。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ハッサーン・ブン・ハッサーン ← ハンマーム・ブン・ヤフヤー ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ウムラの書、預言者 ﷺ が何回ウムラをされたかの章、ハディース第 1778 番；第 1779–1780 番、4148 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1253 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1778

このハディースの教訓

ウムラ	年と説明
1. フダイビーヤのウムラ	ヒジュラ 6 年ズル・カアダ月 — 阻まれ、フダイビーヤでイフラームを解く
2. カダーのウムラ	ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月 — 三日間にわたり遂行
3. ジイラーナのウムラ	ヒジュラ 8 年ズル・カアダ月 — フナインの後
4. ハッジと共に行ったウムラ	ヒジュラ 10 年ズル・ヒッジャ月 — 別離の巡礼

学者たちは、**フダイビーヤのウムラも一回のウムラとして**数えます。完遂はされませんでしたが、かれらの意図と努力の報奨はすでに記録されたからです。これは、アッラーが結果だけでなく**意図と真剣さ**を評価されることを示しています。

興味深いことに、**すべて**の単独のウムラ — アッラーの使徒ﷺが行われたもの — は、聖月の一つである**ズル・カアダ月**に行われました。ジャーヒリーヤ時代、クライシュはハッジの月にウムラを行うことを悪いことと考えていましたが、アッラーの使徒ﷺは自らの行いによってその考えを打ち消されたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウムラとハッジ：共通点と相違点

項目	ウムラとハッジ
時期	ウムラ：一年中いつでも；ハッジ：ハッジの月のみ
共通の柱	イフラーム、タワーフ、サアイ、剃髪または散髪
ハッジに加わるもの	アラファでの立礼、ムズダリファとミナでの宿泊、投石
規定	ハッジは生涯に一度の義務；ウムラは義務または強く推奨されるスンナ（見解が分かれる）

ウムラはしばしば「**小巡礼**」と呼ばれます。一年中いつでも行うことができ、だからこそアッラーの使徒 ﷺ はハッジの季節を待たずにズル・カアダ月に戻ることができたのです。ウムラの法的位置づけには見解の相違があり、シャーフィイー派とハンバル派は生涯に一度の義務とし、マーリク派とハナフィー派は強く推奨されるスンナとしています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

聖月には聖月

イブン・カスィールと注釈学者たちは、イブン・アッバースらの伝承として、この節がカダーのウムラに関わることを伝えています：「**聖月には聖月**」『イブン・カスィール注釈』2:194。

その意味はこうです。ヒジュラ 6 年のズル・カアダ月に、クライシュは聖月の中でムスリムを聖殿から**阻みました**。そこでアッラーは、翌年のズル・カアダ月、ムスリムがマッカに**入った**ときをその代わりとされたのです。聖月には聖月で報いられ、阻まれたウムラは完全なウムラによって**償われた**のです。

スィーラの注：このウムラの名称

このウムラにはいくつかの名前があります：**ウムラ・アル＝カダー**（償いのウムラ、または合意のウムラ）、**ウムラ・アル＝カディーヤ**（和約の取り決めのウムラ）、**ウムラ・アル＝キサース**（報いのウムラ、2:194 の節にちなむ）、そして**ウムラ・アッ＝スルフ**（和平のウムラ）です。アル＝バラーウのハディースにある「カダー」という語は、書き記された**合意**を指しています：「これはムハンマドが合意（カダー）したことである。」

学者たちは、フダイビーヤのウムラが阻まれたためにこのウムラを**償う義務があった**のか、それとも新しいウムラなのかについて意見が分かれています。イブン・アル＝カイイムは『**ザード・アル＝マアード**』において、これが「カダー」と呼ばれるのは償いの義務のためではなく、**和約**のためであるという見解に傾いています。

参照：

イブン・カスィール『タフスィール』（雌牛章 2:194）；イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』。https://tafsir.app/ibn-katheer/2/194

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナからの旅

ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月、アッラーの使徒 ﷺ は、フダイビーヤに参加した人びとを含む教友たちとともにマディーナを出発されました。一行はマディーナの人びとのミーカートである**ズル・フライファ**でイフラームに入り、南のマッカへと進みました。

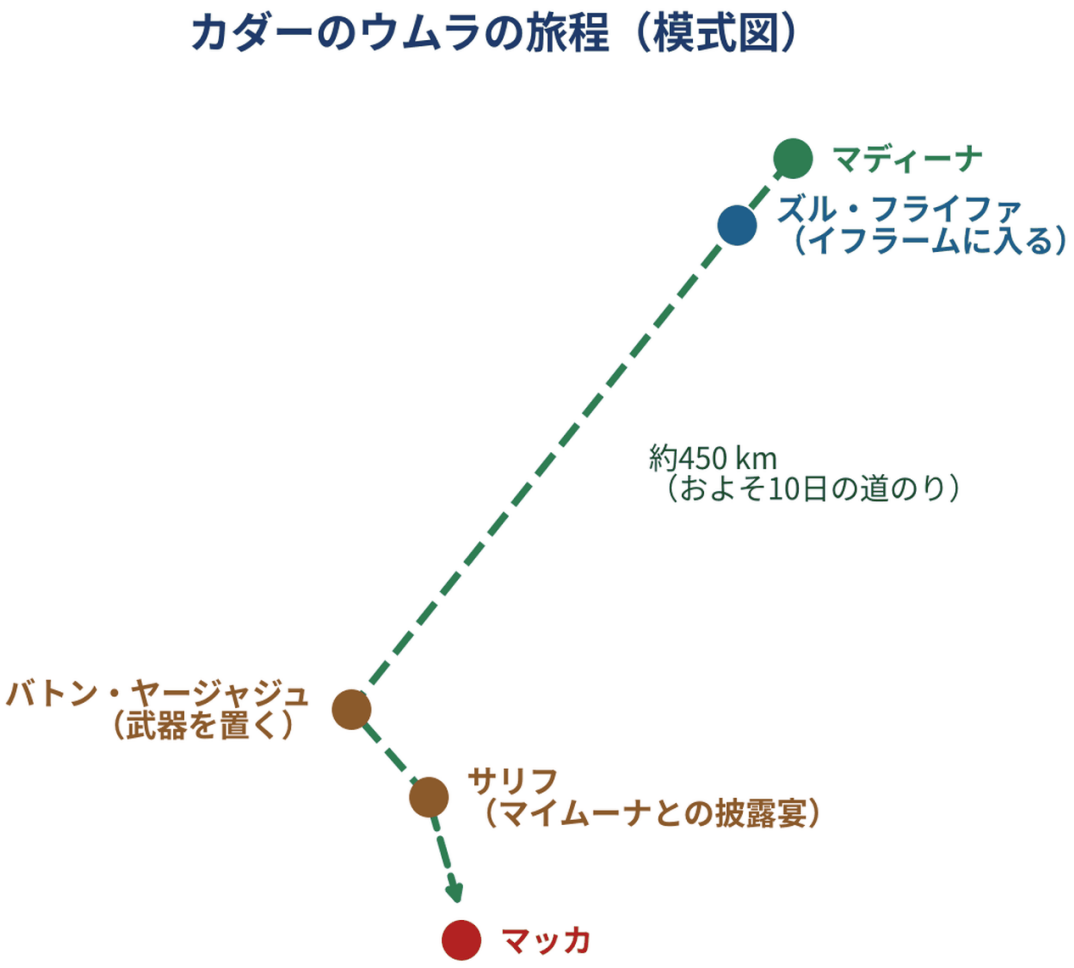


図 2：カダーのウムラの旅程（模式図）。

スィーラの注：一行と武器

イブン・サアドとアル＝ワーキディーは、一行がおよそ **2,000 人**で、**60 頭の犠牲のラクダ**を連れていたと伝えています。クライシュが和約を裏切るかもしれないと懸念されたアッラーの使徒 ﷺ は武器を携え、聖域の近くの**バトン・ヤージャジュに置いて**、およそ 200 人の教友に守らせました。一行は和約の条件どおり、**鞘に収めた剣**だけを携えてマッカに入りました。

これらの数字と地名は**スィーラ書の情報**です。真正であるのは、「剣のほかは武器を携えない」（『サヒーフ・ブハーリー』4252）、「鞘に収めた剣のほかは」（『サヒーフ・ブハーリー』4251）という条件です。

参照：
イブン・サアド『大伝記集』；アル＝ワーキディー『マガーズィー』；イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』。

教訓：**警戒しつつ約束を守る**。アッラーの使徒 ﷺ は条件を破られませんでしたが、裏切りの可能性に対して油断もされませんでした。誠実さと英知は、ともに歩むのです。

マッカの入口でのイブン・ラワーハの詩

待ちわびた瞬間が訪れました。アッラーの使徒 ﷺ はラクダに乗ってマッカに入られ、タルビヤを唱える教友たちに囲まれていました。その前を、アンサールの著名な詩人**アブドゥッラー・ブン・ラワーハ** رضي الله عنه が歩いていました。アナス رضي الله عنه は語っています：

ハディース — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 2847 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مَنْصُورٍ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، أَخْبَرَنَا جَعْفَرُ بْنُ سُلَيْمَانَ، حَدَّثَنَا ثَابِتٌ، عَنْ أَنَسٍ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم دَخَلَ مَكَّةَ فِي عُمْرَةِ الْقَضَاءِ وَعَبْدُ اللَّهِ بْنُ رَوَاحَةَ بَيْنَ يَدَيْهِ يَمْشِي وهو يَقُولُ خَلُّوا بَنِي الْكُفَّارِ عَنْ سَبِيلِهِ الْيَوْمَ نَضْرِبْكُمْ عَلَى تَنْزِيلِهِ ضَرْبًا يُزِيلُ الْهَامَ عَنْ مَقِيلِهِ وَيُذْهِلُ الْخَلِيلَ عَنْ خَلِيلِهِ فَقَالَ لَهُ عُمَرُ يَا ابْنَ رَوَاحَةَ بَيْنَ يَدَيْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَفِي حَرَمِ اللَّهِ تَقُولُ الشِّعْرَ فَقَالَ لَهُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم خَلِّ عَنْهُ يَا عُمَرُ فَلَهِيَ أَسْرَعُ فِيهِمْ مِنْ نَضْحِ النَّبْلِ.

訳：

アナス رضي الله عنه は伝えています。**預言者 ﷺ はカダーのウムラでマッカに入られ、アブドゥッラー・ブン・ラワーハがその前を歩きながら、こう詩を詠んだ：「不信者の子らよ、かれの道をあけよ。今日われらは、その啓示（クルアーン）のゆえにおまえたちを打つ……」**ウマルはかれに言った：「イブン・ラワーハよ、アッラーの使徒 ﷺ の前で、アッラーの聖域で、詩を詠むのか。」すると預言者 ﷺ は言われた：**「ウマルよ、かれにさせておけ。まことにそれは、かれらにとって矢を射るよりも速く届くのだ。」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イスハーク・ブン・マンスール ← アブドゥッラッザーク ← ジャアファル・ブン・スライマーン ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』礼儀の書、詩の朗誦に関する伝承の章、ハディース第 2847 番；『スナン・アン＝ナサーイー』第 2873 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— イマーム・ティルミズィーは「ハサン・サヒーフ・ガリーブ」と評価し、シャイフ・アルバーニーはサヒーフと評価した。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:2847

このハディースの教訓

ウマル رضى الله عنه は、聖域で、またアッラーの使徒 ﷺ の前で詩を詠むのはふさわしくないと案じました。しかし使徒はそれを許されました。その詩は**真理を守り**、敵の士気をくじくもの — 「矢よりも速くかれらに届く」ものだったからです。良い詩は、宣教における**言葉の武器**なのです。

スィーラの注：イブン・ラワーハか、カアブ・ブン・マーリクか

イマーム・ティルミズィーはこのハディースの後に、詩を詠んだのは**カアブ・ブン・マーリク**であったという見解を挙げています。イブン・ラワーハはムウタで殉教していたから、というのがその理由です。しかしイブン・ハジャルは『**ファトフ・アル＝バーリー**』において、その理由は**正確ではない**と説明しています。ムウタの戦い（ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月）はカダーのウムラの**後**に起きたからです。したがって、イブン・ラワーハと述べる伝承が正しいのです。

参照：

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2847；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』遠征の書。https://sunnah.com/tirmidhi:2847

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イスラームにおける詩

イスラームは詩を全面的に否定しているわけではありません。アッラーの使徒 ﷺ は言われました：「**まことに詩の中には英知がある**」（『サヒーフ・ブハーリー』6145）。また使徒は、自らの詩人ハッサーン・ブン・サービト رضي الله عنه に言われました：「**かれらの詩に応えよ。ジブリールがあなたと共にいる**」（『サヒーフ・ブハーリー』3213）。

イスラームにおける詩の基準は**その内容**です。真理と英知と信仰の擁護を含む詩は称賛され、嘘と罵りと罪を含む詩は非難されます。今日でも、良い**ナシード、詩、韻文**は、マッカの入口でのイブン・ラワーハの詩のように、効果的な宣教の手段となりえます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの使徒を守る ﷺ

和約があったとはいえ、教友たちは油断しませんでした。アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضي الله عنه は、かれらがいかに**取り囲んで**アッラーの使徒 ﷺ をお守りしたか、使徒がタワーフとサアイを行われたときのことを語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4255 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ إِسْمَاعِيلَ بْنِ أَبِي خَالِدٍ، سَمِعَ ابْنَ أَبِي أَوْفَى، يَقُولُ لَمَّا اعْتَمَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم سَتَرْنَاهُ مِنْ غِلْمَانِ الْمُشْرِكِينَ وَمِنْهُمْ، أَنْ يُؤْذُوا رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم.

訳：

イスマーイール・ブン・アビー・ハーリドは、イブン・アビー・アウファー رضي الله عنه がこう言うのを聞いた：「**アッラーの使徒 ﷺ がウムラを行われたとき、私たちは多神教徒の若者たちやかれらから使徒をお守りし、かれらがアッラーの使徒 ﷺ を傷つけないようにした。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アブドゥッラー・アル＝マディーニー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4255 番；第 1600 番、1791 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4255

当時のマッカはまだ多神教徒の支配下にあり、かれらの若者の中には石を投げたり使徒を傷つけようとしたりする者がいたかもしれません。教友たちは**生きた盾**となり、いかにアッラーの使徒 ﷺ を愛し、守っていたかを示しました。教訓：**アッラーの使徒** ﷺ への愛は言葉だけではなく、犠牲と守りである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：247 / 522

「ヤスリブの熱病に弱められた」

マッカの多神教徒はムスリムと衝突しませんでした。かれらはマッカ周辺の**丘に出て行き**、とくに北側のクアイキアーン山から見物しました。かれらはムスリムが**弱っている**という噂を広めていました。イブン・アッバース رضى الله عنهما は語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4256 番

حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادٌ ـ هُوَ ابْنُ زَيْدٍ ـ عَنْ أَيُّوبَ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ جُبَيْرٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَصْحَابُهُ فَقَالَ الْمُشْرِكُونَ إِنَّهُ يَقْدَمُ عَلَيْكُمْ وَفْدٌ وَهَنَتْهُمْ حُمَّى يَثْرِبَ. وَأَمَرَهُمُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَنْ يَرْمُلُوا الأَشْوَاطَ الثَّلاَثَةَ، وَأَنْ يَمْشُوا مَا بَيْنَ الرُّكْنَيْنِ، وَلَمْ يَمْنَعْهُ أَنْ يَأْمُرَهُمْ أَنْ يَرْمُلُوا الأَشْوَاطَ كُلَّهَا إِلاَّ الإِبْقَاءُ عَلَيْهِمْ. وَزَادَ ابْنُ سَلَمَةَ عَنْ أَيُّوبَ عَنْ سَعِيدِ بْنِ جُبَيْرٍ عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ قَالَ لَمَّا قَدِمَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لِعَامِهِ الَّذِي اسْتَأْمَنَ قَالَ ارْمُلُوا لِيَرَى الْمُشْرِكُونَ قُوَّتَهُمْ، وَالْمُشْرِكُونَ مِنْ قِبَلِ قُعَيْقِعَانَ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った：**アッラーの使徒 ﷺ と教友たちが到着すると、多神教徒たちは言った：「ヤスリブの熱病に弱められた一行がおまえたちのところにやって来る。」 そこで預言者 ﷺ はかれらに、三周は小走り（ラマル）をし、二つの隅の間は普通に歩くよう命じられた。**すべての周回で小走りをするよう命じられなかったのは、ひとえにかれらへの憐れみからであった。ハンマード・ブン・サラマの伝承では、安全が保障された年に預言者 ﷺ が到着されると、こう言われた：**「小走りをせよ。多神教徒たちにあなたがたの力を見せるために」**。そのとき多神教徒たちはクアイキアーン山の方にいた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：スライマーン・ブン・ハルブ ← ハンマード・ブン・ザイド ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← サイード・ブン・ジュバ

イル ← イブン・アッバース رضى الله عنهما；またハンマード・ブン・サラマがアイユーブから同じ経路で付け加えている。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4256 番；第 1602 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1266 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4256

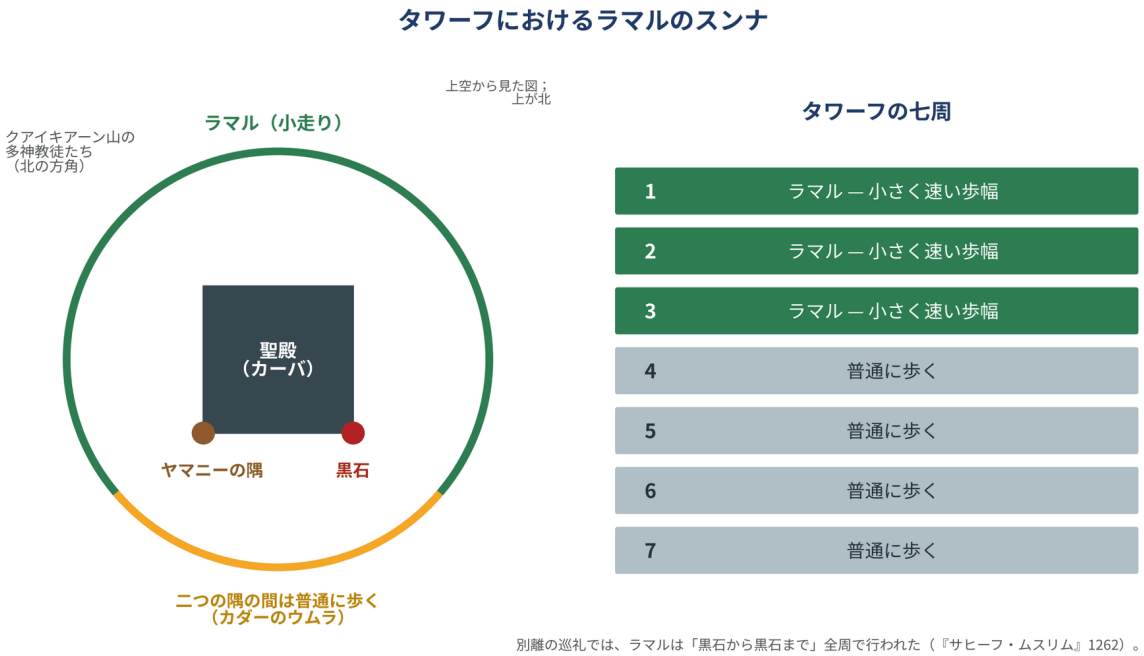


図 3：タワーフにおけるラマルのスンナ。

ヤスリブの熱病は実際に存在しました。アーイシャ رضى الله عنها は、ムハージルーンがマディーナに着いたとき、アブー・バクルとビラール رضى الله عنهما が熱病にかかり、アッラーの使徒 ﷺ がこう祈られたと伝えています：「**アッラーよ、私たちがマッカを愛したように、あるいはそれ以上に、マディーナを愛させてください。そしてその熱病をジュフファに移してください**」（『サヒーフ・ブハーリー』1889）。クライシュはムスリムがまだ弱っていると思いましたが、かれらは間違っていたのです。

マディーナ：熱病から祝福へ

マディーナのためのアッラーの使徒 ﷺ の祈りは聞き届けられました。使徒はまたこう祈られました：「**アッラーよ、マッカに与えられた祝福の二倍をマディーナにお与えください**」（『サヒーフ・ブハーリー』1885）。かつて熱病で知られた町は、すべてのムスリムに**愛される**町となったのです。

「ヤスリブの熱病」というクライシュの嘲りに対する答えは**ラマル**、すなわち速く力強い足取りでした。教訓：かつて経験した弱さは、弱いままでいる理由にはならない。祈りと忍耐と努力によって、**弱さは力に変わりうる**のです。

今日まで続くラマルのスンナ

アッラーの使徒 ﷺ は、サファーとマルワの間のサアイでも**小走りをされました**。イブン・アッバース رضى الله عنهما はその目的を簡潔に説明しています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4257 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدٌ، عَنْ سُفْيَانَ بْنِ عُيَيْنَةَ، عَنْ عَمْرٍو، عَنْ عَطَاءٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ إِنَّمَا سَعَى النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بِالْبَيْتِ وَبَيْنَ الصَّفَا وَالْمَرْوَةِ لِيُرِيَ الْمُشْرِكِينَ قُوَّتَهُ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った：「**預言者 ﷺ が聖殿のタワーフとサファーとマルワの間のサアイで小走りをされたのは、ひとえに多神教徒たちに自らの力を見せるためであった。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・サラーム ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← アターウ・ブン・アビー・ラバーフ ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4257 番；第 1649 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1266 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4257

このハディースの教訓

ラマルは本来、敵に**力を見せる**ためのものでした。アッラーの使徒 ﷺ はまた、ヤマニーの隅と黒石の間 — クアイキアーンの多神教徒から**見えない**部分 — では普通に歩くよう教友たちに命じられました。疲れた者への**憐れみ**からです。

本来の理由がなくなっても、ラマルはなお定められているのでしょうか。ウマル رضى الله عنه はかつて言いました：「**ラマルが私たちに何の必要があろう。私たちは多**

神教徒にそれを見せただけであり、アッラーはかれらを滅ぼされた。」そして続けて言いました：「**それは預言者 ﷺ がなさったことであり、私たちはそれをやめたくない**」（『サヒーフ・ブハーリー』1605）。さらに別離の巡礼では、マッカがすでに開かれていたにもかかわらず、アッラーの使徒 ﷺ は最初の三周で**黒石から黒石まで全周**ラマルをされました（『サヒーフ・ムスリム』1262）。

ラマル：今日のための簡単な手引き

項目	規定と方法
誰が	男性のみ；女性はラマルをしない
いつ	サアイを伴うタワーフ：ウムラのタワーフと到着のタワーフ
周回	最初の三周；残りの四周は普通に歩く
方法	歩幅を小さく速く、胸を張って、跳ねずに
混雑	混雑しているときは無理をしない；カーバの近くは義務ではない

この手引きは、マナースィク（巡礼儀礼）に関する法学書の多数派の見解をまとめたものです。教訓：本来の理由がなくなっても私たちはアッラーの使徒 ﷺ のスンナに従います。それは最初の世代の奮闘を**思い起こさせ**、そして**使徒に従うこと自体が崇拝行為**だからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サファーとマルワ

タワーフの後、アッラーの使徒 ﷺ と教友たちはサファーとマルワの間でサアイを行いました。アッラーはこう言われています：「**本当にサファーとマルワは、アッラーの聖蹟の中である**」『イブン・カスィール注釈』2:158。

なぜこの節は、サアイをしても「罪ではない」と述べているのでしょうか。アーイシャ رضى الله عنها は、アンサールの一部が、ジャーヒリーヤ時代に両丘の上に偶像があったため、サファーとマルワの間のサアイを**ためらっていた**と説明しています。そこでアッラーはかれらの迷いを取り除くためにこの節を下され、アッラーの使徒 ﷺ は両丘の間のサアイを**定められた**のです（『サヒーフ・ブハーリー』1643）。

ある母の足跡

サアイは**ハージャル**を思い起こさせます。預言者イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ の母であるかの女は、わが子のために水を求めてサファーとマルワの間を七度走り、ついにアッラーはザムザムの水を湧き出させられました。イブン・アッバース رضى الله عنهما はこの物語をアッラーの使徒 ﷺ から伝えており、使徒は言われました：「**それが、人びとが両丘の間を行き来するサアイである**」（『サヒーフ・ブハーリー』3364）。

カダーのウムラで、ムスリムたちはハージャル — 弱くともアッラーに身を委ねた一人の母 — の足跡を走り、多神教徒に**力**を示しました。本当の力は、数や武器からではなく、**アッラーへの信頼**から生まれるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウマルと黒石

タワーフの各周回は**黒石**から始まり、黒石で終わります。アッラーの使徒 ﷺ はそれに口づけされるか、それを指し示されました。何年も後、ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه は、ムスリムが**なぜ**そうするのかをはっきりと説明しました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1597 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ كَثِيرٍ، أَخْبَرَنَا سُفْيَانُ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ، عَنْ عَابِسِ بْنِ رَبِيعَةَ، عَنْ عُمَرَ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّهُ جَاءَ إِلَى الْحَجَرِ الأَسْوَدِ فَقَبَّلَهُ، فَقَالَ إِنِّي أَعْلَمُ أَنَّكَ حَجَرٌ لاَ تَضُرُّ وَلاَ تَنْفَعُ، وَلَوْلاَ أَنِّي رَأَيْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يُقَبِّلُكَ مَا قَبَّلْتُكَ.

訳：

アービス・ブン・ラビーアは伝えている。**ウマル رضى الله عنه は黒石のところに来てそれに口づけし、こう言った：「私は、おまえがただの石であり、害も益も与えないことを知っている。もし預言者 ﷺ がおまえに口づけされるのを見ていなかったなら、私はおまえに口づけしなかっただろう。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・カスィール ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← アル＝アアマシュ ← イブラーヒーム・アン＝ナハイー ← アービス・ブン・ラビーア ← ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ハッジの書、黒石に関する伝承の章、ハディース第 1597 番；『サヒーフ・ムスリム』第 1270 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1597

このハディースの教訓

ウマルのこの言葉は、深い**タウヒード（唯一神信仰）の教え**です。ジャーヒリーヤのアラブは石を崇拝し、ウマル自身もかつてそうでした。いまかれは、黒石は**益も**

害も与えないと明言しています。かれがそれに口づけするのは、ただ**アッラーの使徒**ﷺに従うためであり、石の力のためではないのです。

これが崇拝行為と迷信の違いです。崇拝行為とは**アッラーの命令とその使徒のスンナへの服従**であり、迷信とは物に力があると信じることです。カダーのウムラのムスリムたちは、聖殿の石ではなく、**聖殿の主**を崇拝したのです。

聖殿：人びとのための最初の家

アッラーは、かれらが訪れた家の位置づけを明らかにされています：「**本当に人々のために最初に建立された家は、バッカのそれで、それは生けるもの凡てへの祝福であり導きである**」『イブン・カスィール注釈』3:96。

「**その中には、明白な印があり、イブラーヒームが礼拝に立った場所がある。また誰でもその中に入る者は、平安が与えられる**」『イブン・カスィール注釈』3:97。

聖殿は、預言者イブラーヒームと預言者イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ によって、**アッラーだけを崇拝する**ために建てられました。しかしカダーのウムラのとき、その周りにはまだクライシュの**数百の偶像**がありました。アッラーの使徒 ﷺ は、多神崇拝に囲まれたタウヒードの家でタワーフをされましたが、偶像には手を触れられませんでした。それは**まだその時ではなく**、和約は尊重されなければならなかったからです。

およそ一年後、マッカ征服のときに、アッラーの使徒 ﷺ は聖なるマスジドに入り、カーバの周りの 360 の偶像を打ち倒しながらこう唱えられました：「**真理は来たり、虚偽は消え去った**」（『サヒーフ・ブハーリー』4287）。カダーのウムラは、その勝利の**前の一歩**だったのです。

マカーム・イブラーヒーム

タワーフの後には、マカーム・イブラーヒームの後ろで二ラクアの礼拝をすることが推奨されます。アッラーはこう言われています：「**イブラーヒームの立処を、あなたがたの礼拝の場としなさい**」『イブン・カスィール注釈』2:125。

ウマル رضى الله عنه は言いました：「**私は三つのことで主の御心と一致した**」。その第一は、かれがマカーム・イブラーヒームを礼拝の場とするよう提案し、この節が下されたことでした（『サヒーフ・ブハーリー』402）。マカーム・イブラーヒームとは、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ がカーバを建てたときに立った石です。タワーフをするすべての人に、その場所におけるタウヒードの起源を思い起こさせる**一人の預言者の足跡**なのです。

三日間だけ

ムスリムたちは合意どおり**三日間**マッカに滞在しました。その三日間、マッカの人びとはムスリムの**品性** — 集団礼拝、清潔さ、落ち着き、互いへの思いやり — を自分の目で見ました。期間が終わると、クライシュはアリー رضى الله عنه のもとに使いを送って退去を求め（『サヒーフ・ブハーリー』4251）、アッラーの使徒 ﷺ は**ただちに出て行かれました**（『サヒーフ・ブハーリー』4252）。

アッラーは、相手が約束を守る限り、ムスリムも約束を守るよう命じられています：「**それでかれらがあなたがたに誠実である間は、あなたがたもかれらに誠実であれ。本当にアッラーは主を畏れる者を愛でられる**」『イブン・カスィール注釈』9:7。

> **スィーラの注：もっと長く滞在したいというアッラーの使徒 ﷺ の申し出**
>
> イブン・イスハークとアル＝ワーキディーは、四日目にフワイティブ・ブン・アブドゥル・ウッザーとスハイル・ブン・アムルが来て、使徒に退去を求めたと伝えています。アッラーの使徒 ﷺ は、マッカでマイムーナとの**結婚の披露宴を開き**、かれらを食事に招こうと申し出られました。かれらは拒みました：「**おまえの食事など要らない。われらの土地から出て行け。**」アッラーの使徒 ﷺ は反論されることなく出て行かれました。
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝』；アル＝ワーキディー『マガーズィー』。

教訓：**敵との間でも約束を守る。**アッラーの使徒 ﷺ には留まる力がありましたが、誠実さを選ばれました。これが後に、フザーア族を攻撃してフダイビーヤの和約を**破った**クライシュとの違いとなり、マッカ征服の原因となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハムザの娘：「おじさま！」

ムスリムの一行がマッカを出るとき、とても心を打つ出来事が起こりました。一人の幼い女の子 — **ハムザ・ブン・アブドゥル・ムッタリブ** رضى الله عنه の娘で、ハムザはウフドで殉教したアッラーの使徒 ﷺ のおじです — が、一行を追って走ってきたのです。アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه は語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4251 番

حَدَّثَنِي عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ مُوسَى، عَنْ إِسْرَائِيلَ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الْبَرَاءِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا اعْتَمَرَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فِي ذِي الْقَعْدَةِ، فَأَبَى أَهْلُ مَكَّةَ أَنْ يَدَعُوهُ يَدْخُلُ مَكَّةَ، حَتَّى قَاضَاهُمْ عَلَى أَنْ يُقِيمَ بِهَا ثَلاَثَةَ أَيَّامٍ، فَلَمَّا كَتَبُوا الْكِتَابَ كَتَبُوا، هَذَا مَا قَاضَى عَلَيْهِ مُحَمَّدٌ رَسُولُ اللَّهِ. قَالُوا لاَ نُقِرُّ بِهَذَا، لَوْ نَعْلَمُ أَنَّكَ رَسُولُ اللَّهِ مَا مَنَعْنَاكَ شَيْئًا، وَلَكِنْ أَنْتَ مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ. فَقَالَ أَنَا رَسُولُ اللَّهِ، وَأَنَا مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ. ثُمَّ قَالَ لِعَلِيٍّ امْحُ رَسُولَ اللَّهِ. قَالَ عَلِيٌّ لاَ وَاللَّهِ لاَ أَمْحُوكَ أَبَدًا. فَأَخَذَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْكِتَابَ، وَلَيْسَ يُحْسِنُ يَكْتُبُ، فَكَتَبَ هَذَا مَا قَاضَى مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ لاَ يُدْخِلُ مَكَّةَ السِّلاَحَ، إِلاَّ السَّيْفَ فِي الْقِرَابِ، وَأَنْ لاَ يَخْرُجَ مِنْ أَهْلِهَا بِأَحَدٍ، إِنْ أَرَادَ أَنْ يَتْبَعَهُ، وَأَنْ لاَ يَمْنَعَ مِنْ أَصْحَابِهِ أَحَدًا، إِنْ أَرَادَ أَنْ يُقِيمَ بِهَا. فَلَمَّا دَخَلَهَا وَمَضَى الأَجَلُ أَتَوْا عَلِيًّا فَقَالُوا قُلْ لِصَاحِبِكَ اخْرُجْ عَنَّا، فَقَدْ مَضَى الأَجَلُ. فَخَرَجَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَتَبِعَتْهُ ابْنَةُ حَمْزَةَ تُنَادِي يَا عَمِّ يَا عَمِّ. فَتَنَاوَلَهَا عَلِيٌّ، فَأَخَذَ بِيَدِهَا وَقَالَ لِفَاطِمَةَ ـ عَلَيْهَا السَّلاَمُ ـ دُونَكِ ابْنَةَ عَمِّكِ. حَمَلَتْهَا فَاخْتَصَمَ فِيهَا عَلِيٌّ وَزَيْدٌ وَجَعْفَرٌ. قَالَ عَلِيٌّ أَنَا أَخَذْتُهَا وَهْىَ بِنْتُ عَمِّي. وَقَالَ جَعْفَرٌ ابْنَةُ عَمِّي وَخَالَتُهَا تَحْتِي. وَقَالَ زَيْدٌ ابْنَةُ أَخِي. فَقَضَى بِهَا النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لِخَالَتِهَا وَقَالَ الْخَالَةُ بِمَنْزِلَةِ الأُمِّ. وَقَالَ لِعَلِيٍّ أَنْتَ مِنِّي وَأَنَا مِنْكَ. وَقَالَ لِجَعْفَرٍ أَشْبَهْتَ خَلْقِي وَخُلُقِي. وَقَالَ لِزَيْدٍ أَنْتَ أَخُونَا وَمَوْلاَنَا. وَقَالَ عَلِيٌّ أَلاَ تَتَزَوَّجُ بِنْتَ حَمْزَةَ. قَالَ إِنَّهَا ابْنَةُ أَخِي مِنَ الرَّضَاعَةِ.

訳：

アル＝バラーウ رضى الله عنه は和約の物語（第 15 巻で語られた）を伝えた後、こう言った：**使徒がマッカに入られ、（三日の）期間が過ぎると、かれらはアリーのもとに来て言った：「あなたの仲間に言ってくれ。期間は終わった、われらの土地から出て行け、と。」そこで預言者 ﷺ は出発された。するとハムザの娘が「おじさま！おじさま！」と呼びながら後を追ってきた。**アリーはかの女を引き取り、手を取って、ファーティマに言った：「あなたのおじの娘を連れて行きなさい。」するとアリー、ザイド、ジャアファルがかの女をめぐって言い争った。アリーは言った：「私が引き取った。それにかの女は私のおじの娘だ。」ジャアファルは言った：「かの女は私のおじの娘で、かの女の母方のおばは私の妻だ。」ザイドは言った：「かの女は私の兄弟の娘だ。」**そこで預言者 ﷺ は、かの女を母方のおばに託すとの裁定を下し、こう言われた：**「母方のおばは母と同じ立場である。」**使徒はアリーに言われた：**「あなたは私に属し、私はあなたに属する。」**ジャアファルには：**「あなたは容姿も性格も私に似ている。」**ザイドには：**「あなたは私たちの兄弟であり、私たちのマウラー（盟友）である。」**アリーは尋ねた：「ハムザの娘を娶られてはいかがですか。」使徒は答えられた：**「かの女は私の乳兄弟の娘だ。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイドゥッラー・ブン・ムーサー ← イスラーイール・ブン・ユーヌス ← アブー・イスハーク・アッ＝サビーイー ← アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4251 番；第 2699 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4251

このハディースの教訓

多神教徒の中でマッカに暮らす一人の孤児を思い浮かべてください。父は四年前に殉教していました。親族がやって来たのを見て、かの女は「**おじさま！おじさま！**」と呼びながら走りました。おそらく父の甥であるアッラーの使徒 ﷺ を呼んでいたのでしょう。かの女は、自分を愛してくれる人びとと**一緒に行きたかった**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

スィーラの注：ハムザの娘とは誰か

イブン・ハジャルは『**ファトフ・アル＝バーリー**』において、かの女の名は**ウマーラ**であり、ほかにウマーマ、あるいはファーティマとする伝承もあると述べています。母は**サルマー・ビント・ウマイス**で、ジャアファル・ブン・アビー・ターリブの妻**アスマー・ビント・ウマイス**の姉妹でした。だからジャアファルは「かの女の母方のおばは私の妻だ」と言ったのです。

参照：

イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』遠征の書、カダーのウムラの章。
https://sunnah.com/bukhari:4251

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハムザ：殉教した父

この幼い子の父**ハムザ・ブン・アブドゥル・ムッタリブ** رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ のおじで、「**アッラーの獅子**」と呼ばれた人です。かれはヒジュラ 3 年のウフドの戦いで殉教しました。ワフシーが投げ槍で討ったことは、ワフシー自身が入信後に語っています（『サヒーフ・ブハーリー』4072）。

アッラーの使徒 ﷺ はハムザを「**殉教者たちの長**」と呼ばれました。これはアル＝ハーキムの伝承で、アルバーニーがサヒーフと評価しています（『真正伝承集（アッ＝スィルスィラ・アッ＝サヒーハ）』374）。ゆえにハムザの娘を養うことは、一人の殉教者の**犠牲を尊ぶ**ことでした。教友たちが争ったのは憐れみからだけでなく、その父の**功績を重んじた**からでもあったのです。

「母方のおばは母と同じ」

三人の高潔な男性が、一人の孤児を**養う**ことをめぐって争いました。財産をめぐる争いではなく、責任をめぐる争いです。それぞれが自分の根拠を述べました：

申し出た人	その根拠
アリー・ブン・アビー・ターリブ	かの女は私のいとこ；最初に引き取ったのは私
ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ	かの女は私のいとこ；かの女の母方のおばは私の妻
ザイド・ブン・ハーリサ	かの女は私の兄弟の娘（ハムザは私の義兄弟）

アッラーの使徒 ﷺ は、イスラーム法学における**ハダーナ（子どもの養育）の規定**の基礎となる一つの原則によって裁定されました：「**母方のおばは母と同じ立場である。**」子どもの母がいなかったため、母方のおばアスマー・ビント・ウマイスに養育の優先権があったのです。そしてアスマーはジャアファルの妻でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハダーナ：愛情を受ける子どもの権利

学者たちは、幼い子どもの養育においては、その優しさと忍耐のゆえに**女性**が優先されると説明しています。アッラーの使徒 ﷺ は、離婚されたある母親にこう言われました：「**あなたが再婚しない限り、あなたのほうがその子に対してより権利がある**」（『スナン・アビー・ダーウード』2276、ハサン）。母の次に最も権利がある者の一人が、母方のおばです。

ハダーナの規定の目的は**子どもの利益**であって、大人の利益ではありません。アッラーの使徒 ﷺ は、引き取ったのがアリーであってもかれには与えず、ハムザの義兄弟であってもザイドには与えられませんでした。使徒は、孤児の女の子にとって**最もふさわしい家** — 母方のおばの家 — を選ばれたのです。

私たちへの教訓：家族や社会の中の**孤児**は、放っておかれるのではなく、養うことを競われるべき存在です。アッラーの使徒 ﷺ は、人差し指と中指を示しながら言われました：「**私と孤児を養う者は、天国でこのようである**」（『サヒーフ・ブハーリー』5304）。

三人の教友への三つの称賛

裁定はジャアファルに下されましたが、アッラーの使徒 ﷺ はアリーとザイドを落胆したまま帰らせることはされませんでした。使徒は**一人ひとり**を、時代を超えてかれらの誉れとなる言葉で称賛されたのです：

教友	アッラーの使徒の称賛 ﷺ
アリー	「あなたは私に属し、私はあなたに属する」
ジャアファル	「あなたは容姿も性格も私に似ている」
ザイド	「あなたは私たちの兄弟であり、私たちのマウラーである」

これが**賢明な指導力**です。公正な裁定を下した後、権利を得られなかった側の心を、誠実な称賛によっていたわるのです。裁定が兄弟愛を断ち切ることはありませんでした。教友たちは、より遠くではなく、より近い心で帰って行ったのです。

その後まもなく、ジャアファルとザイド رضى الله عنهما はともに**ムウタで殉教し**（ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月）、アリー رضى الله عنه は後に第四代カリフとなりました。その日のアッラーの使徒 ﷺ の称賛は、かれらの何人かにとって甘美な**最後の思い出**となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

乳兄弟

アリー رضى الله عنه はその後、かの女が成人したらアッラーの使徒 ﷺ が**娶られる**よう提案しました。使徒は答えられました：「**かの女は私の乳兄弟の娘だ。**」ハムザ رضى الله عنه はアッラーの使徒 ﷺ のおじであるだけでなく、**乳兄弟**でもあったのです。二人はともに、アブー・ラハブの女奴隷スワイバの乳で育てられました。

クルアーンは、結婚が禁じられた者を挙げ、その中に授乳による関係も含めています：「**兄弟の女児、姉妹の女児、授乳した乳母、同乳の姉妹**」『イブン・カスィール注釈』4:23。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がハムザの娘についてこう言われたと伝えています：「**かの女は私には許されない。血縁によって禁じられるものは、授乳によっても禁じられる。かの女は私の乳兄弟の娘だ**」（『サヒーフ・ブハーリー』2645）。

科学の注：母乳と家族の絆

イスラームは**授乳**を、結婚を禁じる家族の絆の一つとしています。現代科学によれば、母乳は単なる栄養ではありません。母乳には免疫細胞や**幹細胞**を含む**生きた細胞**、そして赤ちゃんの免疫系の発達を助ける抗体が含まれています（Witkowska-Zimny & Kaminska-El-Hassan, 2017, Cellular & Molecular Biology Letters）。母乳は文字どおり、乳を飲む子の**体をつくる**のです — 授乳を血縁のような関係とするシャリーアの英知にかなっています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス

カダーのウムラの旅の中で、アッラーの使徒 ﷺ は**マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス・アル＝ヒラーリーヤ** رضى الله عنها と結婚されました。かの女はマッカに住む寡婦で、**ウンム・アル＝ファドル**の姉妹でした。ウンム・アル＝ファドルはアッラーの使徒 ﷺ のおじアル＝アッバースの妻です。かの女の甥であるイブン・アッバース رضى الله عنهما は伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4258 番

حَدَّثَنَا مُوسَى بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا وُهَيْبٌ، حَدَّثَنَا أَيُّوبُ، عَنْ عِكْرِمَةَ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، قَالَ تَزَوَّجَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مَيْمُونَةَ وَهْوَ مُحْرِمٌ، وَبَنَى بِهَا وَهْوَ حَلاَلٌ وَمَاتَتْ بِسَرِفَ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った：「**預言者 ﷺ はイフラーム中にマイムーナと結婚され、イフラームを解いてからかの女と結ばれた。そしてマイムーナはサリフで亡くなった。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー・ブン・イスマーイール ← ウハイブ・ブン・ハーリド ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← イクリマ ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4258 番；第 4259 番（イブン・イスハークの付加：「カダーのウムラにおいて」）、1837 番、5114 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4258

このハディースの教訓

イマーム・ブハーリーはこのハディースをカダーのウムラの章に置き、またかれが引用するイブン・イスハークの伝承には次のようにあります：「**預言者 ﷺ はカダーのウムラにおいてマイムーナと結婚された**」（『サヒーフ・ブハーリー』4259）。スィーラの学者たちによれば、マイムーナは**最後の妻**として、アッラーの使徒 ﷺ に娶られた人です。

スィーラの注：マイムーナの家族

スィーラ書は、マイムーナが広い親族関係をもっていたと述べています。姉妹には**ウンム・アル＝ファドル**（アル＝アッバースの妻）、**ルバーバ・アッ＝スグラー**（ハーリド・ブン・アル＝ワリードの母）がおり、異父姉妹に**アスマー・ビント・ウマイス**と**サルマー・ビント・ウマイス**がいました。つまりかの女は、イブン・アッバースと**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**の母方のおばだったのです。もとの名は**バッラ**でしたが、アッラーの使徒 ﷺ が「祝福された者」を意味するマイムーナに改められました。

この結婚は、**親しい関係を築き**、アッラーの使徒 ﷺ をクライシュの大家族やヒラール族と結びつけました。一部のスィーラ学者によれば、これはハーリド・ブン・アル＝ワリードの心をイスラームへと和らげた要因の一つでもありました。

参照：

イブン・サアド『大伝記集』；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』。

Wikipedia「Maymunah bint al-Harith」。https://en.wikipedia.org/wiki/Maymunah_bint_al-Harith

信者たちの母

この結婚により、マイムーナは信者たちの母の一人となりました：「**かれの妻たちはかれらの母である**」『イブン・カスィール注釈』33:6。

アッラーの使徒 ﷺ の妻たちは**共同体の教師**でした。家庭生活、清潔、そして家でのアッラーの使徒 ﷺ の礼拝についての多くの規定が、かの女たちを通して私たちに伝わっています。マイムーナ自身も、**大浄（グスル）**の仕方 — アッラーの使徒 ﷺ のなさり方 — を詳しく伝えています。使徒は足を除いて礼拝のときのように小浄をし、陰部と汚れを洗い、全身に水を注ぎ、それから場所を移して足を洗われました（『サヒーフ・ブハーリー』249）。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ の結婚には**宣教と教育の目的**がありました。マイムーナを通して、使徒の私生活に関する知識が守られ、後の世代 — 共同体の偉大な学者となった甥のイブン・アッバースを含む — に伝えられたのです。

イフラーム中か、その後か

イブン・アッバースの伝承は、アッラーの使徒 ﷺ が**イフラーム中に**結婚されたと述べています。しかし、自らの結婚について最もよく知るマイムーナ自身は、異なることを伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1411 番

حَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ آدَمَ، حَدَّثَنَا جَرِيرُ بْنُ حَازِمٍ، حَدَّثَنَا أَبُو فَزَارَةَ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ الأَصَمِّ، حَدَّثَتْنِي مَيْمُونَةُ بِنْتُ الْحَارِثِ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم تَزَوَّجَهَا وَهُوَ حَلاَلٌ قَالَ وَكَانَتْ خَالَتِي وَخَالَةَ ابْنِ عَبَّاسٍ.

訳：

ヤズィード・ブン・アル＝アサンムは言った。マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス رضى الله عنها は私にこう語った。**アッラーの使徒 ﷺ は、イフラームを解いた状態（ハラール）のときにかの女と結婚された。**ヤズィードは言った：**マイムーナは私の母方のおばであり、イブン・アッバースの母方のおばでもあった。**

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← ヤフヤー・ブン・アーダム ← ジャリール・ブン・ハーズィム ← アブー・ファザーラ ← ヤズィード・ブン・アル＝アサンム ← マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス رضى الله عنها。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』婚姻の書、イフラーム中の者の婚姻の禁止の章、ハディース第 1411 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1411

このハディースの教訓

学者たちは、この二つの伝承を慎重に調和させました。**多数派の学者**（マーリク派、シャーフィイー派、ハンバル派）は、使徒が**イフラームを解いた状態で**結婚されたとするマイムーナの伝承を採っています。その理由はいくつかあります：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：270 / 522

多数派の根拠	説明
当事者本人	マイムーナ自身が伝えている
結婚の使い	アブー・ラーフィウは自分が二人の間の使いであり、使徒はハラールであったと述べている（ティルミズィー 841）
明確な禁止	「イフラーム中の者は結婚してはならず、結婚させてもならない」（ムスリム 1409）
イブン・アッバースの年齢	当時まだ幼く、十歳ほどであった

一方ハナフィー派は、イブン・アッバースの伝承を採り、イフラーム中の婚姻契約を許容しています。この相違は、欲望ではなく伝承の吟味から生まれた**正当な見解の相違**の一例です。合意されているのは、イフラーム中に**妻と交わること**は禁じられているということです。

教訓：真正な伝承同士が異なって見えるとき、学者たちは**一方を安易に退けることはせず**、誰が最もよく知っているか、その文脈、そして他の証拠を比較衡量します。私たちは、知識に基づくすべての見解を尊重します。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サリフでの披露宴

クライシュは、マッカで披露宴を開くというアッラーの使徒 ﷺ の申し出を拒みました。そこでムスリムの一行は出発し、アッラーの使徒 ﷺ はマッカの北およそ十マイルの**サリフ**という場所で**マイムーナと結ばれました。**

スィーラの注：サリフでの始まりと終わり

スィーラ書は、**アブー・ラーフィウ** — アッラーの使徒 ﷺ のマウラー — が、マイムーナをマッカからサリフへ連れて来るために残され、そこで使徒がかの女と結ばれたと伝えています。

イブン・アッバースは真正なハディースの中でこう言っています：「**そしてマイムーナはサリフで亡くなった**」（『サヒーフ・ブハーリー』4258）。歴史家によれば、マイムーナは**ヒジュラ 51 年**ごろに亡くなり、サリフに葬られました — 信者たちの母としての生活を始めた**まさにその場所**です。甥のヤズィード・ブン・アル＝アサンムは、かの女が婚礼の天幕が張られた場所に葬られたと述べています。

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』4258；イブン・サアド『大伝記集』；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』。https://sunnah.com/bukhari:4258

マイムーナは**敬虔で、親族の絆を大切にする**女性として知られていました。イブン・サアドが伝えるところでは、アーイシャ رضى الله عنها はかの女についてこう言いました：「**まことにかの女は、私たちの中で最もアッラーを畏れ、最も親族の絆を大切にする人でした。**」かの女は多くのハディースを伝えており、とくにアッラーの使徒 ﷺ の家庭生活と礼拝に関するものが多いのです。

教訓：クライシュに拒まれても、アッラーの使徒 ﷺ は別の場所で披露宴を開き、**妻を尊重されました。**他人の拒絶が、許された喜びを損なうことはないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウムラの後：ハーリドとアムルの入信

カダーのウムラは、マッカの人びとの心に大きな印象を残しました。かつて追放されたムスリムたちが、**力と規律と高潔な品性**をもって戻ってきたのを目にしたのです。数か月後の**ヒジュラ 8 年サファル月**、クライシュの三人の名士がイスラームに入るためにマディーナへやって来ました。

スィーラの注：ハーリド、アムル、そしてウスマーン・ブン・タルハ

スィーラ書によれば、すでにムスリムとなってカダーのウムラに参加していたハーリドの兄弟**アル＝ワリード・ブン・アル＝ワリード**が、ハーリドに手紙を書きました。アッラーの使徒 ﷺ がかれについて「ハーリドはどこにいるのか。かれのような者がイスラームを知らずにいるはずがない」と尋ねられたからです。その手紙がハーリドの心を動かしました。

ハーリド・ブン・アル＝ワリード、**アムル・ブン・アル＝アース**、そして**ウスマーン・ブン・タルハ**（カーバの鍵の管理者）は、途中で出会い、ともにマディーナへやって来ました。アッラーの使徒 ﷺ はかれらを喜んで迎えられました。この伝承はスィーラ書で広く知られています（アル＝ワーキディー、イブン・サアド）。

参照：

アル＝ワーキディー『マガーズィー』；イブン・サアド『大伝記集』；イブン・カスィール『始まりと終わり（アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ）』。

アムル・ブン・アル＝アースの入信は真正なハディースに伝えられています。かれは忠誠を誓うために手を差し出したとき、その手を引っ込め、自分の罪が赦されることを条件として求めました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました：「**イスラームはそれ以前のものを消し去り、ヒジュラはそれ以前のものを消し去り、ハッジはそれ以前のものを消し去ることを、あなたは知らないのか**」（『サヒーフ・ムスリム』121）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハーリドは後に「**サイフッラー」— アッラーの剣**と呼ばれました。そう呼んだのはアッラーの使徒 ﷺ で、ムウタの戦いのときのことです（『サヒーフ・ブハーリー』4262）。教訓：崇拝におけるムスリムの**品性と堅固さ**は、最も頑なな敵に対する最も効果的な宣教となりうるのです。

私たちの生活の中のウムラ

アッラーは命じられています：「**アッラーのために、巡礼〔ハッジ〕と小巡礼〔オムラ〕を全うしなさい**」『イブン・カスィール注釈』2:196。

「**アッラーのために**」という言葉が鍵です。フダイビーヤで阻まれた教友たちは絶望しませんでした。かれらは一年後に戻り、アッラーのためにウムラを**全うした**のです。アッラーの使徒 ﷺ はその報奨を説明されました：「**ウムラから次のウムラまでは、その間の罪の償いとなる。そして受け入れられたハッジ（ハッジ・マブルール）の報いは天国のほかにない**」（『サヒーフ・ブハーリー』1773）。

ウムラの行	カダーのウムラとのつながり
ミーカートでのイフラーム	ズル・フライファでイフラームに入る
タルビヤ	タルビヤとイブン・ラワーハの詩とともにマッカに入る
七周のタワーフ	最初の三周でラマル
サファーとマルワのサアイ	力を見せるために小走りする
剃髪または散髪	「あなたがたの頭を剃り、または（髪を）短かく刈り込んで」（48:27）

まだ機会に恵まれない人のために

ヌサンタラ（東南アジアの島嶼部）の多くのムスリムは、何年もお金を貯めてウムラに備えますが、健康や経済、順番待ちのために**延期**を余儀なくされる人もいます。フダイビーヤとカダーのウムラの物語は希望を与えてくれます：実行が遅れても、**誠実な意図はアッラーのもとに記録される**のです。阻まれた教友たちも報奨を得ており、アッラーはかれの定められた時に道を開かれました。

すでにウムラを果たした人にとって、カダーのウムラは、ウムラが観光ではなく**服従の旅**であることを思い出させます。一歩一歩スンナに従い、聖域で品性を守り、より良い人間となって帰ること — 教友たちが帰ってマッカの人びとに深い印象を残したように。

カダーのウムラの出典

カダーのウムラの物語は、確かさの度合いが異なる三種類の出典を通して私たちに届いています。本書は、読者が**何が確実で**、**何が広く知られているだけか**を区別できるよう、三者を分けて示しています：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カダーのウムラの物語の出典

クルアーン（6）

- 真実の夢（48:27）
- 聖月には聖月（2:194）
- ハッジとウムラを全うせよ（2:196）
- サファーとマルワ（2:158）
- 約束を守る（9:7）
- 授乳による婚姻禁止（4:23）

真正なハディース（8）

- 翌年のウムラ；三日間
- アッラーの使徒の四つのウムラ
- 「ヤスリブの熱病」へのラマル
- 嫌がらせからの護衛
- イブン・ラワーハの詩
- ハムザの娘；「母方のおばは母と同じ」
- マイムーナとの結婚
- ウマルと黒石

スィーラ書（4）

- 一行の人数と犠牲の動物
- バトン・ヤージャジュの武器
- サリフでの披露宴
- その後のハーリドとアムルの入信

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明したうえで述べている。

図 4：本書におけるカダーのウムラの物語の出典の位置づけ。

物語	典拠と等級
夢；聖月；サファーとマルワ；和約；授乳	クルアーン（48:27；2:194；2:158；9:7；4:23）— 確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	典拠と等級
三日間；四つのウムラ；ラマル；護衛	『サヒーフ・ブハーリー』4252、1778、4256、4257、4255 — サヒーフ（真正）
ハムザの娘；マイムーナ；黒石	『サヒーフ・ブハーリー』4251、4258、1597；『サヒーフ・ムスリム』1411 — サヒーフ（真正）
イブン・ラワーハの詩	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2847 — ハサン・サヒーフ
一行の人数；バトン・ヤージャジュ；披露宴；ハーリド	スィーラ書 — よく知られる

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

カダーのウムラの背後にあるクルアーンの節

これまでの章では、クルアーンの節を物語の順に一つずつ取り上げてきました。この章ではそれらを一つの表にまとめ、マディーナでの夢から三日後のマッカ退去まで、クルアーンがこの出来事の一歩一歩にどのように寄り添っているかを見渡せるようにします。

節	要旨	カダーのウムラとのつながり
勝利章 48:27	使徒の夢が真実とされる：安心して聖なるマスジドに入り、剃髪・散髪する	果たされた約束（第 2 章）
雌牛章 2:194	聖月には聖月；神聖なものには同等の報いがある	ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月がヒジュラ 6 年ズル・カアダ月に代わる（第 4 章）
雌牛章 2:196	アッラーのためにハッジとウムラを全うせよ；妨げられた者の規定	フダイビーヤと翌年のウムラ（第 20 章・第 24 章）
雌牛章 2:158	サファーとマルワはアッラーの聖蹟の一つ	このウムラでのサアイ（第 9 章）
雌牛章 2:125	マカーム・イブラーヒームを礼拝の場とせよ	タワーフの後のマカームの後ろでの礼拝（第 11 章）
イムラーン家章 3:96–97	人びとのための最初の家；そこに入る者は安全である	待ちこがれた聖殿（第 11 章）
悔悟章 9:7	かれらが誠実である間は、あなたがたも誠実であれ	三日後きっかりの退去（第 12 章）
婦人章 4:23	結婚が禁じられた女性（授乳による関係を含む）	ハムザの娘（第 15 章）
巡礼章 22:25	人びとを聖なるマスジドから妨げる者への非難	前年のクライシュによる妨害の背景
雌牛章 2:217	アッラーの道と聖なるマスジドから妨げることはより重大な罪である	前年のクライシュによる妨害の背景

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

節	要旨	カダーのウムラとのつながり
勝利章 48:25	かれらこそ信仰を拒み、あなたがたを聖なるマスジドから妨げた者である	フダイビーヤ（第 15 巻）

すべての人びとのための聖なるマスジド

アッラーは聖なるマスジドについてこう言われています：「われが人びとのために建立した聖なるマスジド — そこの居住者であろうと、外来者であろうと」（巡礼章 22:25）。ヒジュラ 6 年のクライシュは、まるで自分たちが聖殿の所有者で、望む者を誰でも締め出せるかのようにふるまいました。カダーのウムラは、この節の真実を取り戻しました。聖殿はアッラーのものであり、そのしもべたちにはそこを訪れる権利があるのです。

イブン・カスィールはその注釈で、この節が人びとを聖なるマスジドから妨げる者を非難しており、そこで崇拝する権利については地元の住民も外来者も等しいことを強調していると説明しています。この教訓は今日も生きています。クランタンからモロッコまで、世界中の巡礼者がカーバの前に一列に並んで立つのです。

教訓

クルアーンは出来事を語るだけでなく、それを通して共同体を導きます。出来事の前には希望を与え、その最中には規定を定め、その後には英知を明らかにするのです。クルアーンとともにスィーラを読むことで、物語は生き生きとし、導きを伴うものとなります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カダーのウムラの人物たち

カダーのウムラの物語には多くの名前が登場します。下の表は、かれらを部族と情報の出典とともにまとめたものです。真正なハディースに名前が出てくる人物と、スィーラ書にのみ名前が見える人物とを区別しています。

人物	部族	出来事での役割	典拠
アブドゥッラー・ブン・ラワーハ	ハズラジュ族（アンサール）	マッカの入口で詩を詠む	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2847
アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー	アスラム族	タワーフ中、多神教徒の嫌がらせからアッラーの使徒 ﷺ を守った者の一人	『サヒーフ・ブハーリー』4255
アリー・ブン・アビー・ターリブ	クライシュ族、ハーシム家	ハムザの娘を引き取る；フダイビーヤの和約を書き記す	『サヒーフ・ブハーリー』4251
ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ	クライシュ族、ハーシム家	ハムザの娘の養育権を与えられる	『サヒーフ・ブハーリー』4251
ザイド・ブン・ハーリサ	カルブ族（クダーア）；アッラーの使徒のマウラー ﷺ	ハムザの娘の養育権を求める	『サヒーフ・ブハーリー』4251
ハムザの娘（ウマーラ）	クライシュ族、ハーシム家	「おじさま！」と呼んだ孤児	『サヒーフ・ブハーリー』4251；名前：『ファトフ・アル＝バーリー』
アスマー・ビント・ウマイス	ハスアム族	ジャアファルの妻；ハムザの娘の母方のおば	『サヒーフ・ブハーリー』4251；伝記書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	部族	出来事での役割	典拠
マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス	ヒラール・ブン・アーミル族	この旅の中でアッラーの使徒 ﷺ と結婚	『サヒーフ・ブハーリー』4258
アブー・ラーフィウ	アッラーの使徒のマウラー ﷺ	マイムーナの結婚の使い	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』841
イブン・アッバース	クライシュ族、ハーシム家	マイムーナの甥；ラマルと結婚の物語の伝承者	『サヒーフ・ブハーリー』4256、4258
ウマル・ブン・アル＝ハッターブ	クライシュ族、アディー家	黒石で「おまえはただの石だ」	『サヒーフ・ブハーリー』1597
スハイル・ブン・アムルとフワイティブ・ブン・アブドゥル・ウッザー	クライシュ、バヌー・アーミル・ブン・ルアイイ	三日後にムスリムの退去を求めに来る	名前：スィーラ書（イブン・イスハーク）；出来事：『サヒーフ・ブハーリー』4251
ムハンマド・ブン・マスラマ	アウス族（アンサール）	一行の先頭で騎兵隊を率いる	スィーラ書（アル＝ワーキディー）

イブン・アビー・アウファー：アッラーの使徒を囲む人の盾 ﷺ

ハディース：私たちはアッラーの使徒をお守りした ﷺ

アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がウムラを行われたとき、教友たちが多神教徒とその若者たちから使徒を守り、かれらが使徒を傷つけないようにしたと語っています。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』4255、カダーのウムラの章。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

和約と安全の保障があっても、教友たちは油断しませんでした。マッカはまだ多神教徒の支配下にあり、かれらの中には愚かなふるまいをする者がいたかもしれないため、タワーフ中のアッラーの使徒 ﷺ を囲んだのです。ここには二つのことが結びついています。和約を完全に守ることと、賢明に警戒することです。

教訓

この表のどの人物にも役割があります — 詩人、守り手、孤児の養い手、使い、伝承者。カダーのウムラが成功したのは、一人ひとりが自分の務めを果たしたからです。家族も、モスクも、社会も同じです。誰もが誠実に自分の役割を担うとき、成功が訪れるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

礼拝行為が妨げられたとき：イフサールとイフラームの条件付け

フダイビーヤとカダーのウムラは、ハッジとウムラの法学における重要な章、すなわちイフサールの章を生み出しました。イフサールとは、イフラームに入った人が礼拝行為を完遂することを妨げられた状態です。アッラーはこう言われています：「もしあなたがたが妨げられたならば、容易に得られる供物を（送りなさい）」（雌牛章 2:196）。

この章は、今日のムスリムの生活にとても身近なものです。ヌサンタラの多くの巡礼者が、ビザの却下、旅の途中での病気、事故、あるいは COVID-19 の流行時のような国境封鎖によって、妨げられた経験をもっています。

アッラーの使徒 ﷺ のスンナを手引きとして

ハディース：「アッラーの使徒 ﷺ のスンナで十分ではないか」

サーリム・ブン・アブドゥッラーは、アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما がこう言ったと伝えています：「アッラーの使徒 ﷺ のスンナで、あなたがたには十分ではないか。あなたがたの誰かがハッジを妨げられたなら、（行けるのであれば）聖殿のタワーフとサファーとマルワの間のサアイをし、それからすべてのことからイフラームを解き、翌年ハッジを行って犠牲を捧げるか、それが見つからなければ斎戒をしなさい。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』1810、妨げられた者（アル＝ムフサル）の書。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディース：骨折、あるいは足が不自由になった者

アル＝ハッジャージュ・ブン・アムル・アル＝アンサーリー رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えています：「（骨が）折れた者、あるいは足が不自由になった者は、イフラームが解けたことになり、翌年ハッジをする義務がある。」

等級：アルバーニーによればサヒーフ（真正）— 『スナン・アビー・ダーウード』1862。

条件付きのイフラーム

ハディース：ドゥバーア・ビント・アッ＝ズバイル

アーイシャ رضي الله عنها は、アッラーの使徒 ﷺ がドゥバーア・ビント・アッ＝ズバイルを訪ねて尋ねられたと伝えています：「ハッジをしたいのか。」かの女は答えた：「アッラーにかけて、私は具合が悪いのです。」使徒は言われた：「ハッジをして、条件をつけなさい。こう言いなさい：アッラーよ、あなたが私を引き止められる所が、私がイフラームを解く所です。」

ドゥバーアは、アッラーの使徒 ﷺ のいとこであるアッ＝ズバイル・ブン・アブドゥル・ムッタリブの娘で、アル＝ミクダード・ブン・アル＝アスワドの妻でした。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』5089；『サヒーフ・ムスリム』1207 にも。

このハディースは、イフラームの意図を表明する際に条件をつける「イシュティラート」の慣行の根拠となっています。病気の人や妨げられることを恐れる人は、意図を表明するときにこう言うことができます：「アッラーフンマ・マヒッリー・ハイスゥ・ハバスタニー」（アッラーよ、あなたが私を引き止められる所が、私がイフラームを解く所です）。本当に妨げられた場合、イシュティラートを認める見解によれば、その人は犠牲（ダム）なしにイフラームを解きます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

法学者たちの見解のまとめ

問題	見解	根拠／備考
何がイフサールとみなされるか	多数派：敵による妨害。ハナフィー派：病気やその他の原因も含む。シャーフィイー派：条件をつけていない限り、病気はイフサールとみなさない	2:196；フダイビーヤ；ドゥバーアのハディース
犠牲（ハディ）を屠る	多数派によれば、イフラームを解く前に義務	「容易に得られる供物を（送りなさい）」（2:196）
屠る場所	シャーフィイー派：フダイビーヤのように、妨げられた場所で。ハナフィー派：聖域で	フダイビーヤでの預言者ﷺの行い
やり直し（カダー）は義務か	シャーフィイー派とマーリク派：その行が任意のものであれば義務ではない；イスラームの義務としてのハッジは残る。ハナフィー派：やり直しは義務	法学書；『ファトフ・アル＝バーリー』妨げられた者の書
イシュティラート（条件付きのイフラーム）	シャーフィイー派とハンバル派は認める；ハナフィー派とマーリク派は考慮しない	『サヒーフ・ブハーリー』5089；『サヒーフ・ムスリム』1207

この表は、イブン・ルシュドの『ビダーヤト・アル＝ムジュタヒド』やイブン・クダーマの『アル＝ムグニー』などの比較法学書から一般的な内容をまとめたものです。実際の事例については、巡礼者はムタウウィフ（巡礼案内人）、巡礼の指導者、または権威あるムフティーに相談してください。

教訓

イスラームは、しもべに能力を超えたことを課しません。誠実な意図をもちながら妨げられた人は、その報奨を失いません。定められた方法でイフラームを解き、次の機会を待つのです — 教友たちが一年待ち、戻ってカダーのウムラを果たしたように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マイムーナの家：イブン・アッバースの学び舎

カダーのウムラの旅の中でのアッラーの使徒 ﷺ とマイムーナ رضى الله عنها との結婚（第 16 章）は、大きな知識の扉を開きました。マイムーナはアブドゥッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما の母方のおばでした。このハーシム家の若者は、おばの家 — それはアッラーの使徒 ﷺ の家でもありました — に自由に出入りし、そこで観察し、尋ね、学んだのです。

おばの家での一夜

ハディース：イブン・アッバース、マイムーナの家に泊まる

アブドゥッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما は、預言者 ﷺ の妻であり自分の母方のおばであるマイムーナの家に泊まったことを語っています。アッラーの使徒 ﷺ は眠り、夜中に起きて顔から眠気をぬぐい、イムラーン家章の最後の十節を読み、小浄をして礼拝に立たれました。イブン・アッバースも起きて使徒の左側に立つと、使徒はかれの耳をつかんで右側に移されました。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』183；『サヒーフ・ムスリム』763 にも。

この一夜から、学者たちは多くの規定を導き出しました。一人の後続者はイマームの右側に立つこと、夜に起きたときにイムラーン家章の最後を読むことがスンナであること、そしてアッラーの使徒 ﷺ の夜の礼拝の仕方です。注意深く見ていた一人の子どもが、時代を超えて共同体の知識の源となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「クルアーンの解釈者」を形づくった祈り

ハディース：「アッラーよ、かれに啓典を教えてください」

イブン・アッバース رضي الله عنهما は言った：アッラーの使徒 ﷺ は私を抱きしめて言われた：「アッラーよ、かれに啓典（クルアーン）を教えてください。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』75。別の伝承では、使徒はこう祈られた：「アッラーよ、かれに宗教の理解をお与えください」（『サヒーフ・ブハーリー』143）。

この祈りは聞き届けられました。イブン・アッバースは後に「トゥルジュマーン・アル＝クルアーン」（クルアーンの解釈者）、「ヒブル・アル＝ウンマ」（共同体の学者）と呼ばれるようになりました。かれの解釈は、今日に至るまで注釈学者たちの主要な典拠となっています。その知識の一部は、おばマイムーナの家で始まったのです。

マイムーナの知恵：アラファの日の一杯の乳

ハディース：使徒はアラファの日に斎戒されていたか

マイムーナ رضي الله عنها は、人びとが預言者 ﷺ はアラファの日に斎戒されているのかどうか迷っていたと伝えています。そこでかの女は、使徒が立礼をされているところへ一杯の乳を届け、使徒は人びとが見ている前でそれを飲まれました。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』1989；『サヒーフ・ムスリム』1124 にも。

マイムーナは議論したり声高に尋ねたりせず、一つの賢明な行動で人びとの迷いを解きました。このハディースから学者たちは、アラファで立礼するハッジの巡礼者には、祈りに力を尽くせるよう斎戒は推奨されないという規定を導き出しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

生涯にわたる知識の守り手

イブン・ハジャルの『アル＝イサーバ』やアッ＝ザハビーの『スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー』などの伝記書は、マイムーナがいくつものハディースを伝えたと述べています。その中には、アッラーの使徒 ﷺ の大浄の仕方に関するもの（『サヒーフ・ブハーリー』249；第 16 章）があります。もう一人の甥ヤズィード・ブン・アル＝アサンムもかの女から伝えており、その中にはかの女自身の結婚に関するハディース（『サヒーフ・ムスリム』1411；第 17 章）も含まれています。

イブン・アッバースが述べているように（『サヒーフ・ブハーリー』4258）、マイムーナはアッラーの使徒 ﷺ と結婚したのと同じ場所、サリフで亡くなりました。没年は伝記書の中で見解が分かれていますが、よく知られた見解はヒジュラ 51 年です。

教訓

家は最初の学び舎です。崇拝と知識に満ちた家は、学識ある世代を育てます。両親、祖父母、おじやおばは皆、家族の子どもたちの教師となることができます — マイムーナがイブン・アッバースにとってそうであったように。

年表：フダイビーヤからムウタへ

下の表は、カダーのウムラをより大きな出来事の流れの中に位置づけるものです。真正なハディースに記されていない日付は、スィーラ書（イブン・イスハーク、アル＝ワーキディー、イブン・サアド）によるもので、おおよそのものです。

時期（おおよそ）	出来事	典拠
ヒジュラ暦 6 年ズル＝カアダ月	ムスリムがフダイビーヤで阻まれ、和約が結ばれる	『サヒーフ・ブハーリー』2731
帰り道	勝利章が下され、アッラーの使徒の夢が真実とされる 🕋	勝利章 48:27
ヒジュラ 6 年末 – 7 年初め	諸王への書簡	第 17 巻
ヒジュラ 7 年ムハッラム月	ハイバルの戦い；ジャアファルと船の一行がアビシニアから帰還	第 16 巻
ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月	一行がカダーのウムラのためにマディーナを出発	『サヒーフ・ブハーリー』4252；スィーラ書
ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月	武器をバトン・ヤージャジュに置く；タルビヤと詩とともに一行がマッカに入る	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2847；スィーラ書
マッカでの第一日	ラマルとイドティバーウを伴うタワーフ；サアイ；剃髪	『サヒーフ・ブハーリー』4256、4257
マッカでの三日間	ムスリムがマッカに滞在；マイムーナとの結婚	『サヒーフ・ブハーリー』4252、4258
三日の後	クライシュが退去を求める；ハムザの娘が一行の後を追う	『サヒーフ・ブハーリー』4251
帰り道	サリフで披露宴が行われ、結婚が完了する	『サヒーフ・ブハーリー』4258；スィーラ書
ヒジュラ 7 年ズル・ヒッジャ月	一行がマディーナに帰還	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期（おおよそ）	出来事	典拠
ヒジュラ 8 年サファル月	ハーリド・ブン・アル＝ワリード、アムル・ブン・アル＝アース、ウスマーン・ブン・タルハが入信	『サヒーフ・ムスリム』121；スィーラ書
ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月	ムウタの戦い；ザイドとジャアファルが殉教；ハーリドが「サイフッラー」と呼ばれる	『サヒーフ・ブハーリー』4262；第 19 巻
ヒジュラ 8 年ラマダーン月	マッカ征服	『サヒーフ・ブハーリー』4287；第 20 巻

教訓

二年足らずのうちに、状況はフダイビーヤでの妨害からマッカ征服へと変わりました。カダーのウムラはその道のりの真ん中にあります — 大きな変化はしばしば、忍耐と服従を通して段階的に訪れるという印です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カダーのウムラに関するよくある質問

1. なぜこのウムラは「アル＝カダー」と呼ばれるのですか。

フダイビーヤの和約における合意（カディーヤ）に基づいて行われたからです。ウムラ・アル＝カディーヤ、アル＝キサース、アッ＝スルフとも呼ばれます（第 4 章）。ブハーリーはその章を「ウムラ・アル＝カダー」と名づけています。

2. このウムラには何人が参加したのですか。

スィーラ書は、フダイビーヤに参加した人びとやそのほかの人を含めて、およそ 2,000 人と述べています（第 5 章）。この数字はスィーラ書によるもので、真正なハディースによるものではありません。

3. なぜ教友たちはラマルをしたのですか。

ヤスリブの熱病で弱っていると思っていた多神教徒たちに、力を見せるためです（『サヒーフ・ブハーリー』4256；第 7–8 章）。

4. ラマルは今日でも推奨されていますか。

はい。男性については、ウムラまたはハッジの最初のタワーフで、最初の三周に行います。アッラーの使徒 ﷺ は、マッカがすでに開かれていた別離の巡礼でもそれを行われました（『サヒーフ・ムスリム』1262；第 8 章）。女性にはラマルは推奨されていません。

5. アッラーの使徒 ﷺ はイフラーム中にマイムーナと結婚されたのですか。

イブン・アッバースはそうだと言いますが、マイムーナ自身とアブー・ラーフィウは、使徒はすでにイフラームを解いておられたと言います。多数派の学者は、自分のことを最もよく知る当事者としてマイムーナの伝承を優先します（『サヒーフ・ムスリム』1411；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』841；第 17 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6. ハムザの娘の養育権を得たのは誰ですか。

ジャアファルです。その妻アスマー・ビント・ウマイスが、その子の母方のおばだったからです。アッラーの使徒 ﷺ は言われました：「母方のおばは母と同じ立場である」（『サヒーフ・ブハーリー』4251；第 14 章）。

7. なぜアッラーの使徒 ﷺ はハムザの娘を娶られなかったのですか。

ハムザは使徒の乳兄弟であり、その娘は結婚が禁じられた乳兄弟の娘だったからです（『サヒーフ・ブハーリー』2645；第 15 章）。

8. ムスリムは強かったのに、なぜ三日後に退去したのですか。

それが和約の条件だったからです。アッラーの使徒 ﷺ は約束を完全に守られました（『サヒーフ・ブハーリー』4252；第 12 章）。約束を守ることは信仰の一部です。

9. 今日、ウムラの完遂を妨げられた人の規定は何ですか。

各法学派の詳細に従い、犠牲（ダム）を屠って剃髪または散髪をすることでイフラームを解きます。条件付きでイフラームに入っていた場合は、イシュティラートを認める法学派によれば、ダムなしにイフラームを解きます（第 24 章）。

10. ハーリド・ブン・アル＝ワリードはカダーのウムラを目撃したのですか。

スィーラ書によれば、ハーリドはムスリムを見たくないためにマッカを離れ、その後、兄弟のアル＝ワリード・ブン・アル＝ワリードがかれに手紙を書きました。かれはその数か月後に入信しました（第 19 章）。これはスィーラ書の伝承です。

11. アブドゥッラー・ブン・ラワーハとはどのような人ですか。

ハズラジュ族出身のアンサールの教友で、アッラーの使徒 ﷺ の詩人であり、アカバの誓いのナキーブ（代表）の一人です。マッカで詩を詠んだ数か月後、ムウタで第三の司令官として殉教しました（第 6 章；第 19 巻）。

12. カダーのウムラから私たちが学ぶ主な教訓は何ですか。

アッラーの約束は確かであること；忍耐は実を結ぶこと；困難であっても約束を守ること；スンナに従って崇拝行為を守ること；そして良い品性が最も効果的な宣教となることです（第 28 章）。

教訓

これらの質問は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、そして法学者の見解を区別することの大切さを示しています。そうすることで、私たちは確かな教訓を得、正当な見解の相違を尊重することができるのです。

教訓と結び

カダーのウムラは**約束の成就**です — 使徒の夢におけるアッラーの約束と、フダイビーヤの和約におけるアッラーの使徒 ﷺ のクライシュへの約束の。短い三日間の中で、それは忍耐、力、服従、公正、そして思いやりを教えています。

教訓	カダーのウムラから
アッラーの約束は確か	真実の夢は一年後に実現した
忍耐は実を結ぶ	フダイビーヤで阻まれた人びとが、いま安心して入る
約束を守る	三日後きっかりの退去
共同体の力	「ヤスリブの熱病」に応えるラマル
純粋なタウヒード	ウマル：「おまえはただの石だ」
孤児への愛情	三人の教友がハムザの娘を養うことを競う
公正と英知	「母方のおばは母と同じ」と三つの称賛
宣教としての品性	その後のハーリドとアムルの入信

私たちの生活の中のカダーのウムラ

私たちは誰もが自分の「フダイビーヤ」をもっています — 延期された夢、まだ聞き届けられない祈り、妨げられた計画。カダーのウムラは、**絶望しないこと**、困難であっても約束を守ること、そしてアッラーが最善の時に扉を開いてくださると信じることを教えてくれます。

インシャーアッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは**第 19 巻** — カダーのウムラの後の出来事 — へと続きます。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存じです）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 18 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（雌牛章 2:158、2:194、2:196；イムラーン家章 3:96–97；婦人章 4:23；悔悟章 9:7；勝利章 48:27）。https://tafsir.app/ibn-katheer/48/27

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』3、1597、1605、1643、1773、1778、1889、2645、2731、3364、4251、4252、4255、4256、4257、4258、4259、4262、4287、5304。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』121、1262、1409、1411。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』841、2847；『スナン・アビー・ダーウード』2276。https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）— カダーのウムラの章。

アル＝ワーキディー『遠征の書（アル＝マガーズィー）』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』— カダーのウムラの節。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー：サヒーフ・ブハーリー注釈』— 遠征の書、カダーのウムラの章；『アル＝イサーバ』。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— カダーのウムラの章。

科学

Witkowska-Zimny, M. & Kaminska-El-Hassan, E. (2017). Cells of human breast milk. Cellular & Molecular Biology Letters, 22, 11. https://doi.org/10.1186/s11658-017-0042-4

一般の歴史

Wikipedia「First Pilgrimage」。https://en.wikipedia.org/wiki/First_Pilgrimage

Wikipedia「Maymunah bint al-Harith」。https://en.wikipedia.org/wiki/Maymunah_bint_al-Harith

Wikipedia「Abd Allah ibn Rawahah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abd_Allah_ibn_Rawahah

Wikipedia「Black Stone」。https://en.wikipedia.org/wiki/Black_Stone

Wikipedia「Umrah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Umrah

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4255（ウムラの際に教友たちがアッラーの使徒 ﷺ を守る）。https://sunnah.com/bukhari:4255

『サヒーフ・ブハーリー』1810（イブン・ウマル：妨げられた者の規定）。https://sunnah.com/bukhari:1810

『スナン・アビー・ダーウード』1862（イフラーム中の骨折や足の不自由）。https://sunnah.com/abudawud:1862

『サヒーフ・ブハーリー』5089（ドゥバーア・ビント・アッ＝ズバイル：条件付きのイフラーム）。https://sunnah.com/bukhari:5089

『サヒーフ・ムスリム』1207（条件付きのイフラーム）。https://sunnah.com/muslim:1207

『サヒーフ・ブハーリー』183（イブン・アッバース、マイムーナの家に泊まる）。https://sunnah.com/bukhari:183

『サヒーフ・ブハーリー』75（イブン・アッバースのための祈り）。https://sunnah.com/bukhari:75

『サヒーフ・ブハーリー』143（「かれに宗教の理解をお与えください」という祈り）。https://sunnah.com/bukhari:143

『サヒーフ・ブハーリー』1989（マイムーナとアラファの日の一杯の乳）。https://sunnah.com/bukhari:1989

Wikipedia「Maymunah bint al-Harith」。https://en.wikipedia.org/wiki/Maymunah_bint_al-Harith

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

第五部

ムウタの戦い

預言者伝（スィーラ）— 第 19 巻

三人の指揮官、一本の旗、そしてアッラーの剣 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

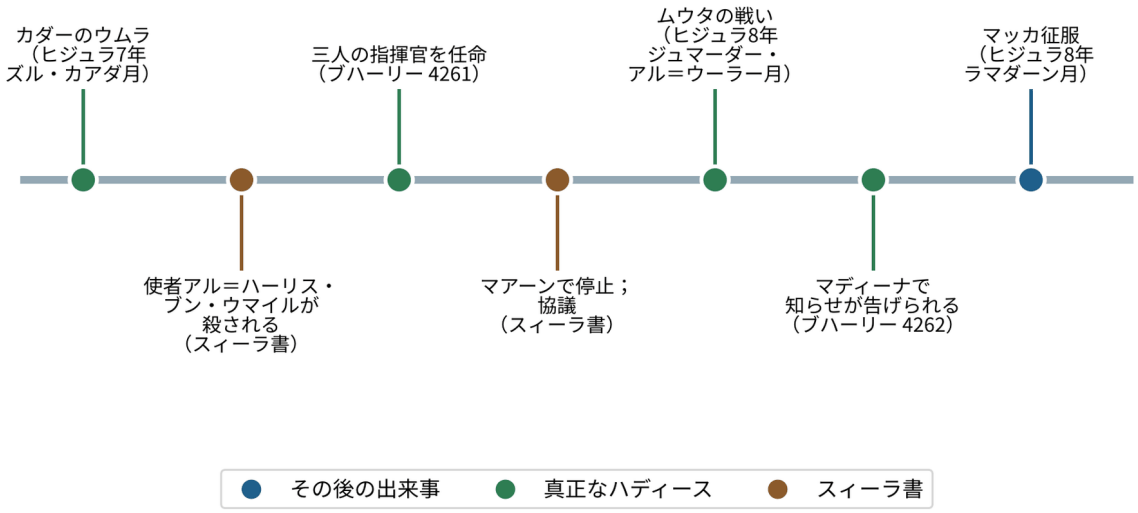
© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムウタの戦い

『預言者伝（スィーラ）』第 18 巻は、カダーのウムラを語りました。ムスリムたちは安全にマッカに入り、ラマルをしながらタワーフを行い、安らかな心でマディーナに帰りました。しかし、その安らぎは長くは続きませんでした。数か月後の**ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月**、**三千人**の部隊がマディーナを出て北へ — 東ローマ帝国（ビザンツ）の領土であるシャームの地へ — 向かったのです。

本巻は**ムウタの戦い**を語ります。ムスリム軍が当時の世界の大国と初めて向き合った戦いです。アッラーの使徒 ﷺ は**三人の指揮官を一度に**任命されました。三人は一人また一人と殉教し、やがて旗は、入信してまだ数か月の**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**の手に渡り、アッラーはかれの手によって軍を救われました。一方マディーナでは、アッラーの使徒 ﷺ が、**知らせが届く前に**、目に涙を浮かべながら戦場の出来事を語られたのです。

ムウタの戦いの年表



戦いはヒジュラ8年ジュマーダー・アル＝ウーラー月（西暦629年9月ごろ）、マッカ征服の四か月前に起きた。

図 1：ムウタの戦いの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報 — 敵軍の人数、演説や詩など — は、その多くが連続した伝承経路なしに伝えられているため、茶色の「スィーラの注」の枠に入れている。

カダーのウムラの後

フダイビーヤの和約の後、アッラーの使徒 ﷺ は、第 17 巻で語ったように、アラビア半島周辺の王や支配者たちに宣教の書簡を送られました。使者を敬意をもって迎えた者もいれば、拒んだ者もいました。しかし使者を殺すことは、当時のすべての民族の慣習において**きわめて重大な違反**でした。

スィーラの注：殺された使者

イブン・サアドとアル＝ワーキディーによれば、アッラーの使徒 ﷺ は**アル＝ハーリス・ブン・ウマイル・アル＝アズディー**に書簡を託してブスラーの支配者のもとへ遣わされました。かれはムウタでローマに従うガッサーンのアラブ人官吏**シュラフビール・ブン・アムル・アル＝ガッサーニー**に捕らえられ、殺されました。かれはアッラーの使徒 ﷺ の使者の中で殺された唯一の人であり、この出来事がムウタへの派兵の主な原因とされています。

この話は**スィーラ書の情報**であり、使者の名を詳しく伝える真正なハディースはありません。しかし現代の歴史家も、アッラーの使徒 ﷺ の使者の一人がシュラフビールの命令で殺されたことを記録しています。

参照：

イブン・サアド『大伝記集（タバカート）』；アル＝ワーキディー『遠征記（マガーズィー）』。

Wikipedia「Shurahbil ibn Amr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Shurahbil_ibn_Amr

教訓：イスラームは**使者を尊重し**、その権利が侵されたときには正義を求めます。アッラーの使徒 ﷺ ご自身も、たとえ使者が心を傷つける言葉を携えてきても、決して使者を殺されませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

一度の任命で三人の指揮官

アッラーの使徒 ﷺ は一つの部隊を整え、**それまでになかったこと**をされました。指揮官を一人ではなく、順番に三人任命されたのです。その戦いに加わったアブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما はこう伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4261 番

أَخْبَرَنَا أَحْمَدُ بْنُ أَبِي بَكْرٍ، حَدَّثَنَا مُغِيرَةُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ سَعِيدٍ، عَنْ نَافِعٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ أَمَّرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي غَزْوَةِ مُوتَةَ زَيْدَ بْنَ حَارِثَةَ، فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِنْ قُتِلَ زَيْدٌ جَعْفَرٌ، وَإِنْ قُتِلَ جَعْفَرٌ فَعَبْدُ اللَّهِ بْنُ رَوَاحَةَ. قَالَ عَبْدُ اللَّهِ كُنْتُ فِيهِمْ فِي تِلْكَ الْغَزْوَةِ فَالْتَمَسْنَا جَعْفَرَ بْنَ أَبِي طَالِبٍ، فَوَجَدْنَاهُ فِي الْقَتْلَى، وَوَجَدْنَا مَا فِي جَسَدِهِ بِضْعًا وَتِسْعِينَ مِنْ طَعْنَةٍ وَرَمْيَةٍ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما はこう伝えています。アッラーの使徒 ﷺ はムウタの戦いでザイド・ブン・ハーリサを指揮官に任じ、アッラーの使徒 ﷺ はこう言われた。「**もしザイドが殺されたら、ジャアファル。もしジャアファルが殺されたら、アブドゥッラー・ブン・ラワーハ。**」アブドゥッラー（・ブン・ウマル）は言った。「わたしはその戦いでかれらと共にいた。わたしたちはジャアファル・ブン・アビー・ターリブを探し、殺された者たちの中にかれを見つけた。**そしてかれの体に、九十を超える槍と矢の傷跡を見つけた。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・アビー・バクル ← アル＝ムギーラ・ブン・アブドゥッラフマーン ← アブドゥッラー・ブン・サイード ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4261 番。

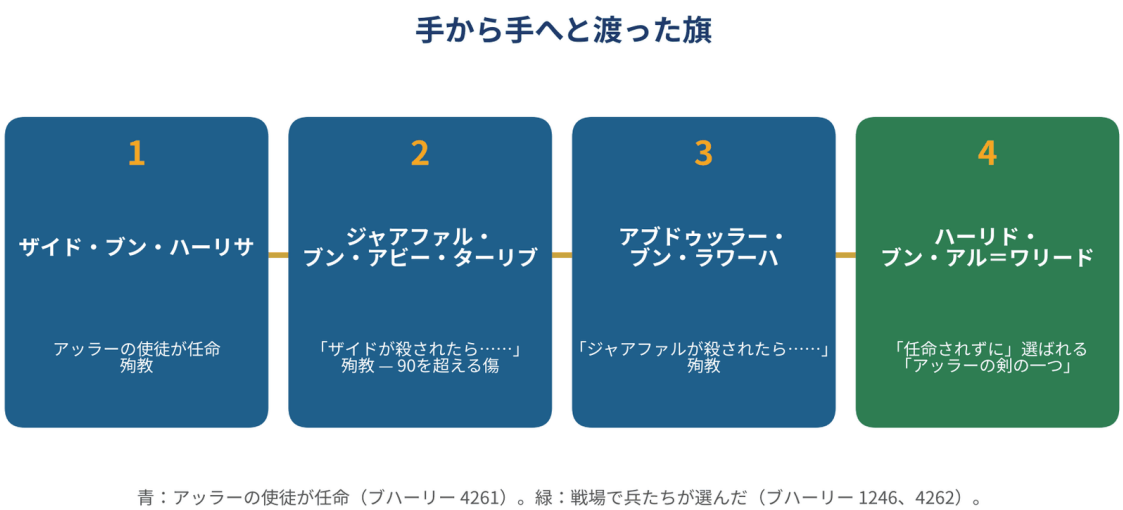
等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4261

このハディースの教訓

この交代制の任命は**周到な計画**を示しています。戦場の最中に指揮官を失った部隊は混乱しかねませんが、順番が明確であれば、兵士一人ひとりが誰に従うべきかを知っています。またこれは、アッラーの使徒 ﷺ が**激しい戦い**を予想しておられたことも示しています。

スィーラの学者たちは、教友の中にはこの任命を三人が皆殉教するという**暗示**と理解した者がいたと述べています。そして実際にそうなりました。イブン・ウマル自身、九十を超える傷を負ったジャアファルの遺体を目にしました。このハディースはまた、**指導者は条件付きで後継者を定めることができる** — 「もし某が殺されたら、某」 — という法学上の根拠にもなっています。



青：アッラーの使徒が任命（ブハーリー 4261）。緑：戦場で兵たちが選んだ（ブハーリー 1246、4262）。

図 2：ムウタで手から手へと渡った旗。

ザイド・ブン・ハーリサ：指揮にふさわしい人

最初の指揮官は**ザイド・ブン・ハーリサ** رضي الله عنه でした。ハディージャがアッラーの使徒 ﷺ に贈ったかつての奴隷で、自分の家族のもとに帰るよりも使徒のそばに留まることを選んだ人です。かれは**クルアーンの中で名前がはっきりと挙げられている**唯一の教友です：

「**ザイドがかの女（妻）との関係を絶ったとき……**」（部族連合章 33:37） — 『イブン・カスィール注釈』33:37。

クライシュやアンサールの有力者を含む軍勢の指揮官に、かつての奴隷を任命したことは、イスラームにおける**平等についての大きな教訓**です。人の価値は家柄ではなく、敬虔さと能力で測られます。のちにその息子ウサーマの指揮権に異議を唱える人びとが現れたとき、アッラーの使徒 ﷺ は父と子の二人を擁護されました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3730 番

حَدَّثَنَا خَالِدُ بْنُ مَخْلَدٍ، حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ، قَالَ حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ دِينَارٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ بَعَثَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بَعْثًا، وَأَمَّرَ عَلَيْهِمْ أُسَامَةَ بْنَ زَيْدٍ، فَطَعَنَ بَعْضُ النَّاسِ فِي إِمَارَتِهِ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِنْ تَطْعُنُوا فِي إِمَارَتِهِ فَقَدْ كُنْتُمْ تَطْعُنُونَ فِي إِمَارَةِ أَبِيهِ مِنْ قَبْلُ، وَايْمُ اللَّهِ، إِنْ كَانَ لَخَلِيقًا لِلإِمَارَةِ، وَإِنْ كَانَ لَمِنْ أَحَبِّ النَّاسِ إِلَىَّ، وَإِنَّ هَذَا لَمِنْ أَحَبِّ النَّاسِ إِلَىَّ بَعْدَهُ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضي الله عنهما はこう伝えています。預言者 ﷺ は一つの部隊を送り、ウサーマ・ブン・ザイドをその指揮官に任じられた。すると一部の人びとがかれの指揮権に異議を唱えた。そこで預言者 ﷺ は言われた。「**あなたがたがかれの指揮権に異議を唱えるなら、以前にもかれの父の指揮権に異議を唱えていた。**アッラーにかけて、かれ（ザイド）は確かに指揮にふさわしかった。**そしてかれはわたしが最も愛**

する人びとの一人であった。そしてこの者（ウサーマ）は、かれの後でわたしが最も愛する人びとの一人である。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ハーリド・ブン・マフラド ← スライマーン・ブン・ビラール ← アブドゥッラー・ブン・ディーナール ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友たちの美徳の書、ザイド・ブン・ハーリサの美徳の章、ハディース第 3730 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3730

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、ザイドが「**確かに指揮にふさわしかった**」と誓われました。この賛辞は、教友たちを最もよく知る方からのものです。ムウタでザイドはそれを証明しました。はるかに大きな軍勢を前にしても**退くことなく**、殉教するまで最前線で旗を掲げ続けたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：306 / 522

ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ：貧しい人びとの友

二人目の指揮官は**ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه でした。アッラーの使徒 ﷺ のいとこであり、アリーの兄です。かれはアビシニアに移住したムスリムたちを率い、マルヤム章の節を唱えてナジャーシー王の前で語り、ハイバルが開かれたころ — ムウタのおよそ一年前 — にマディーナに戻ったばかりでした。アッラーの使徒 ﷺ はかれにこう言われたことがあります。**「あなたは容姿も性格もわたしに似ている」**（『サヒーフ・ブハーリー』2699）。

高貴な家柄にもかかわらず、ジャアファルは**貧しい人びとへの愛**で知られていました。飢えのあまり腹に石を押し当てたこともあるアブー・フライラ رضى الله عنه は、こう語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3708 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ أَبِي بَكْرٍ، حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ بْنِ دِينَارٍ أَبُو عَبْدِ اللَّهِ الْجُهَنِيُّ، عَنِ ابْنِ أَبِي ذِئْبٍ، عَنْ سَعِيدٍ الْمَقْبُرِيِّ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ النَّاسَ، كَانُوا يَقُولُونَ أَكْثَرَ أَبُو هُرَيْرَةَ. وَإِنِّي كُنْتُ أَلْزَمُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِشِبَعِ بَطْنِي، حَتَّى لاَ آكُلُ الخَمِيرَ، وَلاَ أَلْبَسُ الحَبِيرَ، وَلاَ يَخْدُمُنِي فُلاَنٌ وَلاَ فُلاَنَةُ، وَكُنْتُ أُلْصِقُ بَطْنِي بِالحَصْبَاءِ مِنَ الجُوعِ، وَإِنْ كُنْتُ لأَسْتَقْرِئُ الرَّجُلَ الآيَةَ هِيَ مَعِي كَيْ يَنْقَلِبَ بِي فَيُطْعِمَنِي، وَكَانَ أَخْيَرَ النَّاسِ لِلْمِسْكِينِ جَعْفَرُ بْنُ أَبِي طَالِبٍ، كَانَ يَنْقَلِبُ بِنَا فَيُطْعِمُنَا مَا كَانَ فِي بَيْتِهِ، حَتَّى إِنْ كَانَ لَيُخْرِجُ إِلَيْنَا العُكَّةَ الَّتِي لَيْسَ فِيهَا شَيْءٌ، فَنَشُقُّهَا فَنَلْعَقُ مَا فِيهَا.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه はこう伝えています。人びとは「アブー・フライラはあまりに多く伝えすぎる」と言う。わたしは腹を満たす程度のものだけでアッラーの使徒 ﷺ のそばにいつもいた。発酵させたパンも食べず、模様のある衣も着ず、わたしに仕える男も女もいなかった。わたしは飢えのあまり腹を小石に押し当てたこともあり、自分

がすでに知っている節を誰かに読んでもらうよう頼んだこともある。その人がわたしを家に連れて行き、食べ物をくれるようにと。**そして貧しい者に最も親切な人はジャアファル・ブン・アビー・ターリブであった。**かれはわたしたちを家に連れて行き、家にあるものは何でも食べさせてくれた。空になったバターの革袋まで出してきたので、わたしたちはそれを裂いて、中に残ったものをなめたほどであった。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・アビー・バクル ← ムハンマド・ブン・イブラーヒーム・ブン・ディーナール・アル＝ジュハニー ← イブン・アビー・ズィッブ ← サイード・アル＝マクブリー ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友たちの美徳の書、ジャアファル・ブン・アビー・ターリブの美徳の章、ハディース第 3708 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3708

このハディースの教訓

ジャアファルは貧しい人びとを家に連れ帰り、**家にあるものは何でも**食べさせました。空のバター袋まで裂いて、残りをなめられるようにしたのです。このような気前のよさは、富からではなく**広い心**から生まれます。学者たちは、この性質のゆえにジャアファルは**アブー・アル＝マサーキーン** — 貧しい人びとの父 — と呼ばれたと述べています。

アブドゥッラー・ブン・ラワーハ：出発前の涙

三人目の指揮官は**アブドゥッラー・ブン・ラワーハ** رضى الله عنه でした。ハズラジュ族出身のアンサールで、アカバの誓約の代表者（ナキーブ）の一人であり、カダーのウムラのときにマッカの門で詩を響かせた詩人です（第 18 巻）。軍が出発しようとするとき、人びとは別れを告げ、かれらが無事に帰るよう祈りました。イブン・ラワーハは泣きました。

スィーラの注：なぜイブン・ラワーハは泣いたのか

イブン・イスハークによれば、なぜ泣くのかと問われたイブン・ラワーハは、この世を愛するから泣くのではなく、火獄についてのアッラーの御言葉を思い出したからだと答えました。「あなたがたの中で、そこに至らない者は一人もいない」（マルヤム章 19:71）。「そこに至った後、どのようにしてそこから出られるのか、わたしにはわからない。」そしてかれは**赦しと殉教**を願う詩を詠みました。

この伝承は**スィーラ書の情報**（イブン・イスハーク、連続した伝承経路なし）です。しかしその意味は、イブン・ラワーハに広く知られたアッラーへの畏れと一致しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

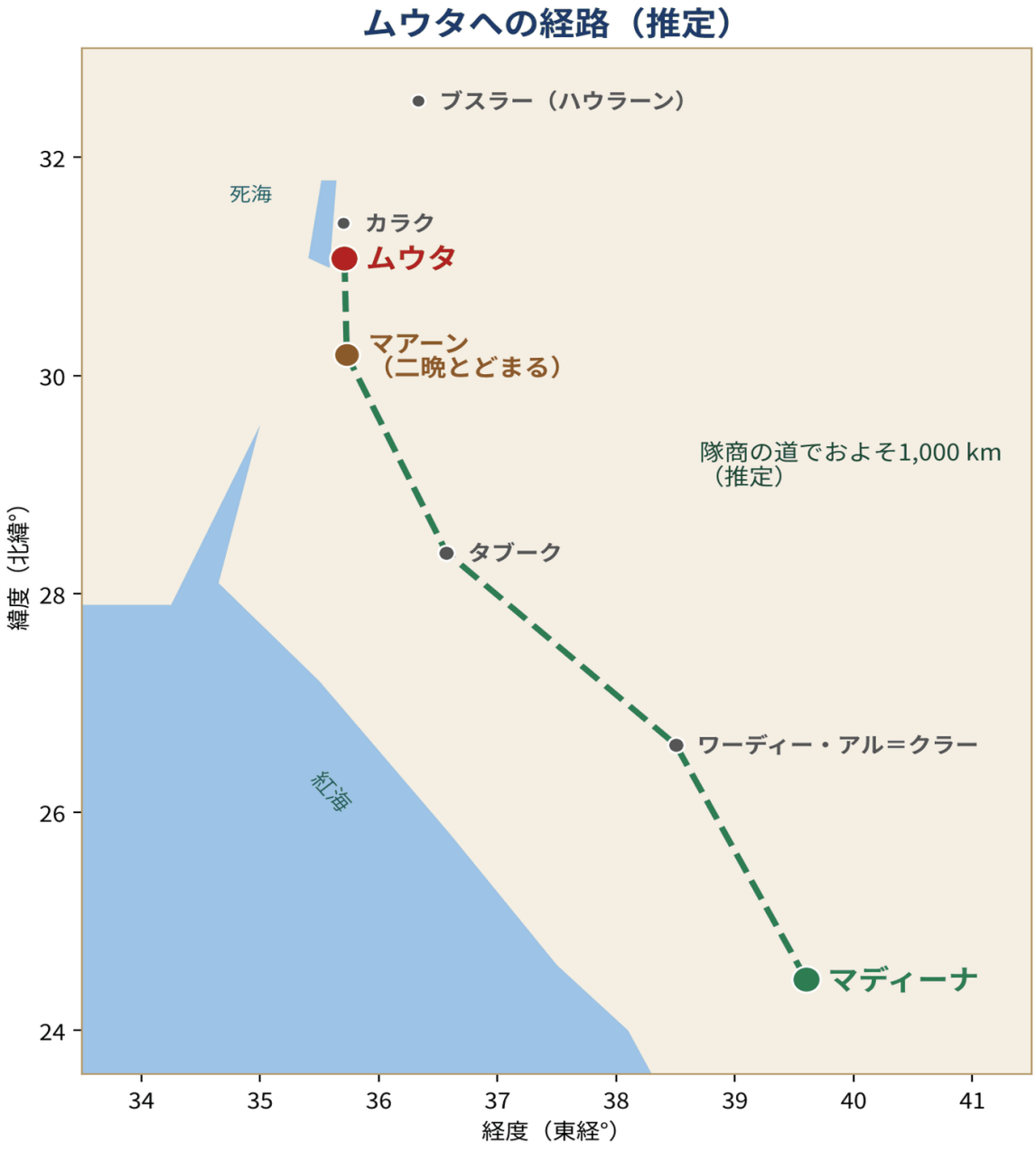
かれを震え上がらせた節はこれです。「**あなたがたの中で、そこに至らない者は一人もいない**」。イブン・カスィールは、ここでの「至る」についての学者の見解 — すなわち火獄の上に架けられた橋を渡ること — を説明しています。『イブン・カスィール注釈』19:71。

教訓：信仰者が戦いに出るのは、**自分が清いと確信しているからではなく**、アッラーの慈悲に望みをかけつつ、その懲罰を畏れているからです。それが**ハウフ**（畏れ）と**ラジャー**（希望）の均衡です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

シャームの地への道のり

三千人の軍勢は、隊商の道に沿って北へ進みました。ワーディー・アル＝クラー、タブーク周辺を経て、今日のヨルダン南部にある**マアーン**に至りました。ムウタは死海の東の高原、**カラク**の町の近くにあります。



町の位置は現代の座標による；経路はシャームへの隊商路に基づく推定。マアーンはスィーラ書による。

図 3：ムウタへの経路（推定）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：軍の見送り

スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ は軍をマディーナの外、**サニーヤト・アル＝ワダーウ**と呼ばれる所まで見送り、アッラーを畏れること、裏切らないこと、子ども・女性・老人・礼拝所の修道士を殺さないこと、木を切り倒したり建物を壊したりしないことを命じられました。

このような戦争の作法についての命令は、真正なハディースに**一般的に確立している**ものです。例えば、女性と子どもを殺すことの禁止（『サヒーフ・ブハーリー』3015）や、指揮官たちへの訓示（『サヒーフ・ムスリム』1731）です。ただし、ムウタの日の具体的な言葉はスィーラ書の伝承です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アル＝ワーキディー『遠征記（マガーズィー）』。

隊商の道でマディーナからムウタまでは、およそ**千キロメートル**あります。砂漠の灼熱の太陽の下、何週間もかかる旅です。この軍勢は財産を奪うために出たのではなく、一人の使者の血に対して**正義を求め**、宣教の尊厳を守るために出たのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：311 / 522

マアーンでの協議

マアーンに着いたムスリム軍は、驚くべき知らせを受けました。ローマ軍とそのアラブ同盟部族が、予想よりも**はるかに大きな**規模で集結していたのです。

スィーラの注：二晩の協議

イブン・イスハークは、ヘラクレイオスがバルカー地方のマアーブに**10万**のローマ兵とともにおり、さらにラフム、ジュザーム、バフラー、バリーなどのアラブ部族から**10万**が加わっていたと伝えています。教友たちはマアーンで二晩協議し、アッラーの使徒ﷺに手紙を書いて援軍か指示を求めようと提案する者もいました。

そのときアブドゥッラー・ブン・ラワーハが語りました。**「わが民よ、アッラーにかけて、あなたがたが嫌っているものこそ、あなたがたが求めて出てきたもの — 殉教 — である。わたしたちは人数や力や多さで人と戦うのではない。アッラーがわたしたちを尊くしてくださった宗教によって戦うのだ。さあ進もう！ それは二つの善のどちらかだ。勝利か、殉教か。」**人びとは「アッラーにかけて、イブン・ラワーハの言う通りだ」と言い、前進しました。

20 万という数はイブン・イスハークの伝承であり（アル＝ワーキディーは 10 万とする）、多くの現代の歴史家によって**誇張が大きすぎる**と考えられています。イブン・ラワーハの演説もスィーラ書の伝承です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

Wikipedia「Battle of Mu’tah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Mu%27tah

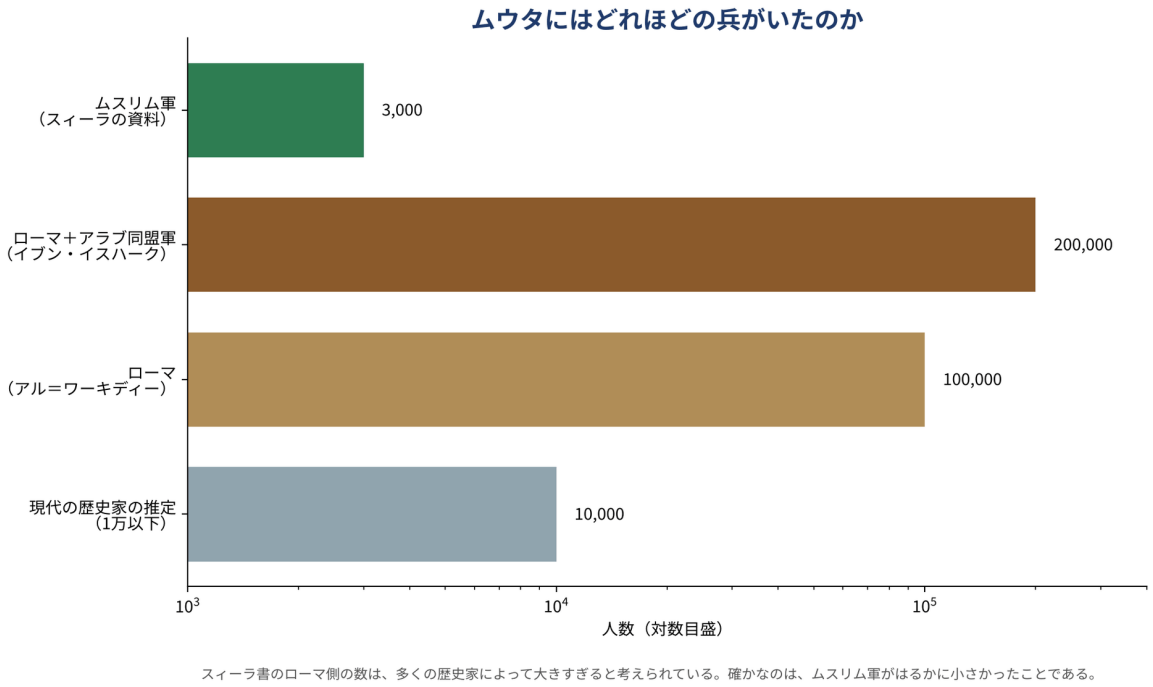


図 4：諸資料によるムウタの兵力。

実際の数がどうであれ、一つの点は一致しています。ムスリム軍は**はるかに小さく**、本拠地から遠く離れ、訓練された帝国軍と向き合っていたということです。前進するという決断は、この世の計算だけによるものではなく、**信仰**による決断でした。

「少数の集団が……」

イブン・ラワーハの言葉は、ジャールートと向き合ったタールートの軍を思い起こさせます。アッラーに会うことを確信していた人びとはこう言いました。「**アッラーの御許しにより、少数の集団が多数の集団に打ち勝ったことがいくたびあったことか**」（雌牛章 2:249） — 『イブン・カスィール注釈』2:249。

イブン・カスィールは、勝利は数や装備によるのではなく、**アッラーの助け**と**忍耐**によると説明しています。この節はムスリムに計算なしに無謀に行動せよと命じているのではありません。責任が明らかになったとき、敵の数が信仰ある心を揺るがすべきではない、ということを強調しているのです。

アッラーはまた、敵と出会ったときの作法を教えておられます。「**あなたがたが敵の一団と会ったときは、しっかりと踏みとどまり、アッラーを多く念じなさい**」（戦利品章 8:45） — 『イブン・カスィール注釈』8:45。

そして続く節で。「**互いに争ってはならない。そうすればあなたがたは気力を失い、力は去るであろう**」（戦利品章 8:46） — 『イブン・カスィール注釈』8:46。

マアーンで教友たちは意見を異にしましたが、**分裂はしませんでした**。協議の後、かれらは指導者の決定のもとに一つになりました。これが戦利品章の実践です。自由に話し合い、決定がなされたら従い、しっかりと立つのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジャアファル：前面に受けた五十の傷

二つの軍がムウタで相まみえました。**ザイド・ブン・ハーリサ**はアッラーの使徒 ﷺ の旗を掲げて最前線で戦い、体を槍に貫かれて殉教しました。旗は定められた通り、ただちに**ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ**が取りました。

戦いの後、アブドゥッラー・ブン・ウマル رضي الله عنهما はジャアファルの遺体のそばに立ち、その傷を数えました。ハディース第 4261 番でかれは**九十を超える**槍と矢の傷跡と述べていますが、次の伝承では五十と述べています — そして、きわめて意味深い一つの詳細を添えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4260 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ، حَدَّثَنَا ابْنُ وَهْبٍ، عَنْ عَمْرٍو، عَنِ ابْنِ أَبِي هِلاَلٍ، قَالَ وَأَخْبَرَنِي نَافِعٌ، أَنَّ ابْنَ عُمَرَ، أَخْبَرَهُ أَنَّهُ، وَقَفَ عَلَى جَعْفَرٍ يَوْمَئِذٍ وَهُوَ قَتِيلٌ، فَعَدَدْتُ بِهِ خَمْسِينَ بَيْنَ طَعْنَةٍ وَضَرْبَةٍ، لَيْسَ مِنْهَا شَيْءٌ فِي دُبُرِهِ. يَعْنِي فِي ظَهْرِهِ.

訳：

ナーフィウは、イブン・ウマル رضي الله عنهما がかれに次のように告げたと伝えています。その日、ジャアファルが倒れたとき、かれはジャアファルのそばに立った。「**わたしはかれの体に五十の刺し傷と打ち傷を数えた。**そのうち一つとして背中側にあるものはなかった。」— すなわち、背や後ろ側には一つもなかったということです。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・イーサー ← アブドゥッラー・ブン・ワハブ ← アムル・ブン・アル＝ハーリス ← サイード・ブン・アビー・ヒラール；かれは言った。そしてわたしにナーフィウが告げた。 ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4260 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4260

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：315 / 522

このハディースの教訓

「**そのうち一つとして背中側にあるものはなかった。**」ジャアファルの傷はすべて体の前面にありました。かれが敵に**決して背を向けなかった**しるしです。イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』の中で、数の違い（五十と九十余り）は、前者が槍や剣の傷だけを数え、後者が矢の傷も含めて数えたためか、あるいはそれぞれが体の異なる部分を数えたためであろうと説明しています。

スィーラの注：ジャアファルとその馬

アブー・ダーウードは（第 2573 番）、ムウタに居合わせたバヌー・ムッラ族の一人の男からこう伝えています。「**アッラーにかけて、ジャアファルが赤毛の馬から降り、その馬の足の腱を切り、それから殺されるまで戦った姿が、今も目に浮かぶようだ。**」この行為は、退かないという決意を示しています。

アブー・ダーウード自身はこの伝承を「強くない」と述べていますが、アルバーニー師は**ハサン（良好）**と評価しています。スィーラ書はまた、ジャアファルが右手で旗を持ち、それが切り落とされると左手で持ち、それも切り落とされると両腕で抱きかかえたと伝えていますが、これは**真正なハディースには見られない**詳細です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』— 遠征の書、ムウタの戦いの章。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

二つの翼を持つ者

ジャアファルは、妻の**アスマー・ビント・ウマイス**と、アビシニアで生まれた幼い子どもたちを残して、若くして殉教しました。しかしアッラーは、失われたものを永遠の栄誉で置き換えられました。教友たちは、かれに与えられた呼び名を知っていました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4264 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ أَبِي بَكْرٍ، حَدَّثَنَا عُمَرُ بْنُ عَلِيٍّ، عَنْ إِسْمَاعِيلَ بْنِ أَبِي خَالِدٍ، عَنْ عَامِرٍ، قَالَ كَانَ ابْنُ عُمَرَ إِذَا حَيَّا ابْنَ جَعْفَرٍ قَالَ السَّلاَمُ عَلَيْكَ يَا ابْنَ ذِي الْجَنَاحَيْنِ.

訳：

アーミル（アッ＝シャアビー）は言いました。イブン・ウマル رضى الله عنهما はジャアファルの息子に挨拶するとき、こう言った。「**アッサラーム・アライカ・ヤー・イブナ・ズィル＝ジャナーハイン — 二つの翼を持つ方の息子よ、あなたに平安あれ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アビー・バクル・アル＝ムカッダミー ← ウマル・ブン・アリー・アル＝ムカッダミー ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← アーミル・アッ＝シャアビー ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4264 番；第 3709 番（ジャアファル・ブン・アビー・ターリブの美徳の章）にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4264

このハディースの教訓

ズル＝ジャナーハイン — 二つの翼を持つ者。イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、この呼び名は、アッラーがムウタで切り落とされたジャアファルの両手を**二つの翼**に置き換え、かれはそれで楽園を天使たちと共に飛んでいる、と

いう伝承に基づくと説明しています。イブン・ウマル رضي الله عنهما は、父への敬意から、その息子アブドゥッラー・ブン・ジャアファルにこの呼び名で挨拶したのです。

スィーラの注：ジャアファルの翼についての伝承

アッラーの使徒 ﷺ が、ジャアファルが二つの翼で天使たちと共に楽園を飛んでいるのを見られたと伝える伝承がいくつかあります。『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』（第 3763 番）や、アル＝ハーキム、アッ＝タバラーニーの伝承などです。その伝承経路はハディース学者の間で議論されていますが、経路が多いことから、イブン・ハジャルのように互いに補強し合うと評価する学者もいます。

確実に真正なのは、『サヒーフ・ブハーリー』にあるイブン・ウマルの行い、すなわちジャアファルの息子を「二つの翼を持つ方の息子」と呼んだことです。これは、この呼び名が教友たちの間でよく知られていたことを示しています。

参照：

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』ジャアファルの美徳の章；『アル＝イサーバ（教友識別の書）』。

教訓：かつて貧しい人びとに食べ物を与えた手、そしてのちに切り落とされるまで旗を握り続けた手を、アッラーは**楽園の翼**で置き換えられました。アッラーのために捧げたものは決して失われません。より永遠の場所へと**移される**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イブン・ラワーハ：「わが魂よ……」

ジャアファルが倒れると、旗は**アブドゥッラー・ブン・ラワーハ**が取りました。真正なハディースは簡潔に「それからイブン・ラワーハが取り、かれも倒れた」と述べています（『サヒーフ・ブハーリー』4262）。スィーラ書は、かれの最期の時をさらに詳しく伝えています。

スィーラの注：「わが魂よ……」

イブン・イスハークは、イブン・ラワーハが馬に乗ったまま旗を取り、**少しためらいを覚えた**と伝えています。そこでかれは詩で自分自身に語りかけました。その意味はこうです。**「わが魂よ、わたしは誓う。おまえは降りて（戦わ）ねばならない — 喜んでであれ、いやいやであれ。人びとは叫び声を上げ、戦いの備えをした。なぜおまえは楽園を嫌っているように見えるのか。」**そしてかれは馬を降り、殉教するまで戦いました。

この詩は連続した伝承経路のない**スィーラ書の伝承**です。しかしそれは、きわめて人間らしいものを描いています。偉大な教友が**自分の中の恐れと戦い**、それに打ち勝ったのです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ラワーハは、マッカの門で詩によって人びとの心を奮い立たせた詩人でした。ムウタでは、詩を使って**自分自身の心を奮い立たせた**のです。これこそ最も繊細なジハード、**ジハード・アン＝ナフス** — 心が重くても、アッラーが喜ばれることを自分に強いて行うこと — です。

アッラーの使徒 ﷺ は自制する人についてこう言われました。**「強い者とは格闘で強い者ではない。強い者とは、怒ったときに自分を抑えられる者である」**（『サヒーフ・ブハーリー』6114）。戦場で恐れを抑えることも、同じ強さです。

アッラーの剣の一つ

任命された三人の指揮官は倒れました。アッラーの使徒 ﷺ は四人目の指揮官を定めておられませんでした。その危機の瞬間、軍は**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**を選びました。ウフドでクライシュの騎兵を率いてムスリムを攻撃した人物であり、ムウタのわずか数か月前にイスラームに入信した人です。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1246 番

حَدَّثَنَا أَبُو مَعْمَرٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَارِثِ، حَدَّثَنَا أَيُّوبُ، عَنْ حُمَيْدِ بْنِ هِلاَلٍ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَخَذَ الرَّايَةَ زَيْدٌ فَأُصِيبَ، ثُمَّ أَخَذَهَا جَعْفَرٌ فَأُصِيبَ، ثُمَّ أَخَذَهَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ رَوَاحَةَ فَأُصِيبَ ـ وَإِنَّ عَيْنَىْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَتَذْرِفَانِ ـ ثُمَّ أَخَذَهَا خَالِدُ بْنُ الْوَلِيدِ مِنْ غَيْرِ إِمْرَةٍ فَفُتِحَ لَهُ

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه はこう伝えています。預言者 ﷺ は言われた。「**ザイドが旗を取り、倒れた。それからジャアファルが取り、倒れた。それからアブドゥッラー・ブン・ラワーハが取り、倒れた**」 — そのときアッラーの使徒 ﷺ の両目からは涙が流れていた — 「**それからハーリド・ブン・アル＝ワリードが**任命されることなく**それを取り、かれによって勝利が開かれた。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・マアマル ← アブドゥルワーリス・ブン・サイード ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← フマイド・ブン・ヒラール ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』葬儀の書、死者の家族に自ら訃報を伝える人の章、ハディース第 1246 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1246

このハディースの教訓

「**任命されることなく**」（ミン・ガイリ・イムラ）— ハーリドはアッラーの使徒 ﷺ によって任命されたのではなく、戦場で教友たちによって選ばれました。イブン・ハジャルは、このハディースが、任命された指導者がいなくなり事態が切迫したときには、公益のために**集団が指導者を選ぶことができる**という根拠であり、その行為はアッラーの使徒 ﷺ によって認められた、と述べています。

スィーラの注：ハーリドはどのように選ばれたのか

イブン・イスハークは、イブン・ラワーハが倒れた後、旗を**サービト・ブン・アクラム**（バリー族出身、アジュラーン家の同盟者）が取り、こう叫んだと伝えています。「ムスリムたちよ、あなたがたの中から一人の男を選ぶことに合意せよ！」人びとは「あなただ」と言いました。かれは「わたしはそうしない」と言いました。そこで人びとはハーリド・ブン・アル＝ワリードを選ぶことに合意しました。

この詳細は**スィーラ書の伝承**です。真正なのは、ハーリドが「任命されることなく」旗を取り、かれによって勝利が開かれたということです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

サービト・ブン・アクラムの態度に注目してください。かれは旗を手にしていましたが、**地位を争いませんでした**。戦いの知識においてより適した人にそれを委ねたのです。これがイスラームにおける指導の作法です。地位は誇りではなく、預かりものなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

折れた九本の剣

ハーリドの指揮のもとでの戦いは、どれほど激しかったのでしょうか。かれ自身が、短いけれどもすべてを物語る一文で語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4265 番

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ إِسْمَاعِيلَ، عَنْ قَيْسِ بْنِ أَبِي حَازِمٍ، قَالَ سَمِعْتُ خَالِدَ بْنَ الْوَلِيدِ، يَقُولُ لَقَدِ انْقَطَعَتْ فِي يَدِي يَوْمَ مُوتَةَ تِسْعَةُ أَسْيَافٍ، فَمَا بَقِيَ فِي يَدِي إِلاَّ صَفِيحَةٌ يَمَانِيَةٌ.

訳：

カイス・ブン・アビー・ハーズィムは言いました。わたしはハーリド・ブン・アル＝ワリード رضي الله عنه がこう言うのを聞いた。「**ムウタの日、わたしの手の中で九本の剣が折れた。わたしの手に残ったのは、イエメン製の幅広の剣一本だけであった。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム・アル＝ファドル・ブン・ドゥカイン ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← カイス・ブン・アビー・ハーズィム ← ハーリド・ブン・アル＝ワリード رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4265 番；第 4266 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4265

このハディースの教訓

九本の剣が折れたのです — 一日のうちに、一人の男の手で。持ちこたえたのはイエメン製の幅広の剣（サフィーハ・ヤマーニーヤ）一本だけでした。イブン・ハジャルは、これは**戦いがいかに激しかったか**、そしてハーリド自身がいかに多くの敵と向き合ったかを示していると説明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：ハーリドの戦略

アル＝ワーキディーと何人かの歴史家によれば、ハーリドは夕方まで戦い、その夜**隊列を組み替えました**。右翼を左に、前列を後ろに入れ替え、一部の兵には後方で砂ぼこりを立てるよう命じたのです。朝になると、ローマ軍は新しい顔ぶれを見て、マディーナから援軍が来たと思い込みました。かれらはおじけづき、ハーリドは**ムスリム軍を無事に撤退させる**ことに成功しました。

この戦略の詳細は**スィーラ書の情報**であり、真正なハディースには述べられていません。歴史家たちはその細部について意見が分かれていますが、ハーリドが軍の大部分を救ったという点では一致しています。

参照：

アル＝ワーキディー『遠征記（マガーズィー）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

Wikipedia「Khalid ibn al-Walid」。https://en.wikipedia.org/wiki/Khalid_ibn_al-Walid

ウフドでハーリドは、その軍事的才能をムスリムに**敵対して**用いました。ムウタでは、同じ才能がかれらを**救うために**用いられました。イスラームは人の才能を捨てるのではなく、**その向きを変え**、善へと導くのです。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「ジャーヒリーヤ（無明時代）に最も優れていた者は、（宗教を）理解すれば、イスラームにおいても最も優れている」（『サヒーフ・ブハーリー』3493）。

知らせより先の知らせ

シャームの地、千キロメートル以上離れた所で戦いが行われている間、アッラーの使徒 ﷺ はマディーナにおられました。速い馬も、使者も、通信の手段もありません。それでも使徒は説教壇に上り、いま起きていることを告げられたのです：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4262 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ وَاقِدٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ زَيْدٍ، عَنْ أَيُّوبَ، عَنْ حُمَيْدِ بْنِ هِلاَلٍ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم نَعَى زَيْدًا وَجَعْفَرًا وَابْنَ رَوَاحَةَ لِلنَّاسِ، قَبْلَ أَنْ يَأْتِيَهُمْ خَبَرُهُمْ فَقَالَ أَخَذَ الرَّايَةَ زَيْدٌ فَأُصِيبَ، ثُمَّ أَخَذَ جَعْفَرٌ فَأُصِيبَ، ثُمَّ أَخَذَ ابْنُ رَوَاحَةَ فَأُصِيبَ ـ وَعَيْنَاهُ تَذْرِفَانِ ـ حَتَّى أَخَذَ الرَّايَةَ سَيْفٌ مِنْ سُيُوفِ اللَّهِ حَتَّى فَتَحَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ.

訳：

アナス رضى الله عنه は、預言者 ﷺ が、ザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハの死を**かれらについての知らせが届く前に**人びとに告げられたと伝えています。使徒は言われた。「**ザイドが旗を取り、倒れた。それからジャアファルが取り、倒れた。それからイブン・ラワーハが取り、倒れた**」 — 使徒の両目からは涙が流れていた — 「**ついに旗はアッラーの剣の一つ**が取り、**アッラーはかれらに勝利を与えられた。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ワーキド ← ハンマード・ブン・ザイド ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← フマイド・ブン・ヒラール ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4262 番；第 1246、2798、3063、3757 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4262

このハディースの教訓

このハディースには明らかな**奇跡**が含まれています。アッラーの使徒 ﷺ は、三人の指揮官の死を正確な順序で、そしてハーリドによる勝利を、知らせが届く**前に**告げられたのです。学者たちはこれを預言者性のしるし（ダラーイル・アン＝ヌブーワ）の一つに数えています。その知識は啓示によってしか得られないからです。

このハディースはまた、ハーリドに永遠の呼び名を与えました。「**アッラーの剣の一つ**」（サイフン・ミン・スユーフィッラー）。サイフッラー（アッラーの剣）という呼び名は、ムウタで — ムスリムとしてのハーリドの最初の戦いで — 生まれたのです。

知らせを伝えるときのアッラーの使徒 ﷺ のご様子にも注目してください。「**使徒の両目からは涙が流れていた。**」ウンマの最も強い指導者は、教友たちに対して最も優しい心を持つ方でもあったのです。

マダディーの男と指揮官への服従

ムウタの軍には、**マダディー**（援軍の兵）としてイエメンから来た一人の男がいました。アウフ・ブン・マーリク رضى الله عنه はアブー・ダーウードの伝承（第 2719 番、アルバーニーは真正と評価）の中で、この男は剣一本しか持っていなかったと語っています。かれは屠ったラクダの皮で盾を作りました。戦いの中で、金で飾られた鞍と武器を持つ赤毛の馬に乗ったローマ兵が、ムスリムに激しく襲いかかりました。マダディーの男は岩の陰に隠れ、その馬の足の腱を切り、その兵を討ち取りました。

指揮官であったハーリドは、その敵の持ち物（サラブ）があまりに多いと考えて取り上げました。イマーム・ムスリムはその後の出来事を伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1753 番

وَحَدَّثَنِي أَبُو الطَّاهِرِ، أَحْمَدُ بْنُ عَمْرِو بْنِ سَرْحٍ أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ وَهْبٍ، أَخْبَرَنِي مُعَاوِيَةُ بْنُ صَالِحٍ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ جُبَيْرٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَوْفِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ قَتَلَ رَجُلٌ مِنْ حِمْيَرَ رَجُلاً مِنَ الْعَدُوِّ فَأَرَادَ سَلَبَهُ فَمَنَعَهُ خَالِدُ بْنُ الْوَلِيدِ وَكَانَ وَالِيًا عَلَيْهِمْ فَأَتَى رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَوْفُ بْنُ مَالِكٍ فَأَخْبَرَهُ فَقَالَ لِخَالِدٍ مَا مَنَعَكَ أَنْ تُعْطِيَهُ سَلَبَهُ. قَالَ اسْتَكْثَرْتُهُ يَا رَسُولَ اللَّهِ. قَالَ ادْفَعْهُ إِلَيْهِ. فَمَرَّ خَالِدٌ بِعَوْفٍ فَجَرَّ بِرِدَائِهِ ثُمَّ قَالَ هَلْ أَنْجَزْتُ لَكَ مَا ذَكَرْتُ لَكَ مِنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَسَمِعَهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَاسْتَغْضَبَ فَقَالَ لاَ تُعْطِهِ يَا خَالِدُ لاَ تُعْطِهِ يَا خَالِدُ هَلْ أَنْتُمْ تَارِكُونَ لِي أُمَرَائِي إِنَّمَا مَثَلُكُمْ وَمَثَلُهُمْ كَمَثَلِ رَجُلٍ اسْتَرْعَى إِبِلاً أَوْ غَنَمًا فَرَعَاهَا ثُمَّ تَحَيَّنَ سَقْيَهَا فَأَوْرَدَهَا حَوْضًا فَشَرِعَتْ فِيهِ فَشَرِبَتْ صَفْوَهُ وَتَرَكَتْ كَدَرَهُ فَصَفْوُهُ لَكُمْ وَكَدَرُهُ عَلَيْهِمْ.

訳：

アウフ・ブン・マーリク رضى الله عنه はこう伝えています。ヒムヤル（族）の一人の男が敵を一人殺し、その敵の持ち物（サラブ）を取ろうとしたが、かれらの指揮官であったハーリド・ブン・アル＝ワリードがそれを阻んだ。アウフ・ブン・マーリクはアッラーの使徒 ﷺ のもとに来てそのことを告げた。使徒はハーリドに「何がおまえにそのサラ

ブをかれに与えることを妨げたのか」と尋ねられた。ハーリドは「多すぎると思ったのです、アッラーの使徒よ」と答えた。使徒は「かれに渡しなさい」と言われた。するとハーリドがアウフのそばを通ったとき、アウフはかれの外衣を引っぱって「わたしがアッラーの使徒 ﷺ について言ったことを果たしたではないか」と言った。アッラーの使徒 ﷺ はそれを聞いて怒り、こう言われた。**「かれに与えるな、ハーリドよ！ かれに与えるな、ハーリドよ！** あなたがたは、わたしが任命した指揮官たちを（非難の的として）放っておくつもりか。**あなたがたとかれらのたとえは、ラクダか羊を預かって放牧する男のようなものだ。かれは放牧し、水を飲ませる時を待って、それらを水場に連れて行く。動物たちは澄んだ水を飲み、濁った水を残す。澄んだものはあなたがたのものとなり、濁ったものはかれらが負うのである。」**

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブー・アッ＝ターヒル・アフマド・ブン・アムル・ブン・サルフ ← アブドゥッラー・ブン・ワハブ ← ムアーウィヤ・ブン・サーリフ ← アブドゥッラフマーン・ブン・ジュバイル・ブン・ヌファイル ← その父ジュバイル・ブン・ヌファイル ← アウフ・ブン・マーリク・アル＝アシュジャイー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、殺した者が殺された者の持ち物を受ける権利の章、ハディース第 1753a 番。アブー・ダーウードの伝承（第 2719 番）では、アウフはこの出来事がムウタの戦いで起きたと述べています。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1753a

このハディースの教訓

このハディースは、釣り合いのとれた二つの教訓を教えています。**第一に**、兵士の権利は守られます。アッラーの使徒 ﷺ はハーリドにサラブを返すよう命じられました。**第二に**、アウフがその決定を使って人前でハーリドに恥をかかせたとき、アッラーの使徒 ﷺ はそれを**取り消され**、「あなたがたは、わたしが任命した指揮官たちを（非難の的として）放っておくつもりか」と言われたのです。

このハディースの水場のたとえは、とても美しいものです。民は**澄んだ水**（良いもの）を得、指導者は**濁った水**（重荷と非難）を負います。ですから民は、あざけり

によって指導者の重荷を増やしてはなりません。忠告はしてよいが、作法をもって。権利を求めてよいが、相手の尊厳を傷つけずに。

涙を流されたアッラーの使徒 ﷺ

ついに公式の知らせがマディーナに届きました。アーイシャ رضى الله عنها は、そのときのアッラーの使徒 ﷺ の家の様子をこう描いています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4263 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَهَّابِ، قَالَ سَمِعْتُ يَحْيَى بْنَ سَعِيدٍ، قَالَ أَخْبَرَتْنِي عَمْرَةُ، قَالَتْ سَمِعْتُ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ تَقُولُ لَمَّا جَاءَ قَتْلُ ابْنِ حَارِثَةَ وَجَعْفَرِ بْنِ أَبِي طَالِبٍ وَعَبْدِ اللَّهِ بْنِ رَوَاحَةَ ـ رضى الله عنهم ـ جَلَسَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يُعْرَفُ فِيهِ الْحُزْنُ ـ قَالَتْ عَائِشَةُ ـ وَأَنَا أَطَّلِعُ مِنْ صَائِرِ الْبَابِ ـ تَعْنِي مِنْ شَقِّ الْبَابِ ـ فَأَتَاهُ رَجُلٌ فَقَالَ أَىْ رَسُولَ اللَّهِ إِنَّ نِسَاءَ جَعْفَرٍ قَالَ وَذَكَرَ بُكَاءَهُنَّ، فَأَمَرَهُ أَنْ يَنْهَاهُنَّ قَالَ فَذَهَبَ الرَّجُلُ ثُمَّ أَتَى فَقَالَ قَدْ نَهَيْتُهُنَّ. وَذَكَرَ أَنَّهُ لَمْ يُطِعْنَهُ قَالَ فَأَمَرَ أَيْضًا فَذَهَبَ ثُمَّ أَتَى فَقَالَ وَاللَّهِ لَقَدْ غَلَبْنَنَا. فَزَعَمَتْ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ فَاحْثُ فِي أَفْوَاهِهِنَّ مِنَ التُّرَابِ قَالَتْ عَائِشَةُ فَقُلْتُ أَرْغَمَ اللَّهُ أَنْفَكَ، فَوَاللَّهِ مَا أَنْتَ تَفْعَلُ، وَمَا تَرَكْتَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنَ الْعَنَاءِ.

訳：

アムラは言いました。わたしはアーイシャ رضى الله عنها がこう言うのを聞いた。イブン・ハーリサ、ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ、アブドゥッラー・ブン・ラワーハ رضى الله عنهم が殺されたという知らせが届いたとき、**アッラーの使徒 ﷺ は座られ、そのお顔には悲しみがはっきりと表れていた。**アーイシャは言った。わたしは戸のすき間からのぞいていた。すると一人の男が来て「アッラーの使徒よ、ジャアファルの（家の）女たちが.....」と言い、かの女たちが泣いていることを告げた。使徒はかの女たちをやめさせるよう命じられた。男は行き、また来て「やめさせました」と言い、しかしかの女たちが従わなかったことを告げた。使徒は再び命じられた。男は行き、また来て「アッラーにかけて、かの女たちにはかないません」と言った。アーイシャによれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**それなら、かの女たちの口に土をまきなさい。**」アーイシャは言った。わたしは（その男に）言った。「アッラーがあなたを辱められますよう

に！ アッラーにかけて、あなたは（命じられたことを）しなかったし、アッラーの使徒 ﷺ を煩わしさから解放することもしなかった。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← アブドゥルワッハーブ・アッ＝サカフィー ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝アンサーリー ← アムラ・ビント・アブドゥッラフマーン ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、シャームの地におけるムウタの戦いの章、ハディース第 4263 番；第 1299 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4263

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ は**座られ、そのお顔には悲しみがはっきりと表れていました。**悲しみは信仰の弱さのしるしではありません。生きた心のしるしです。イマーム・ブハーリーは同じハディースを葬儀の書の「災難に遭ったとき、座って悲しみが表れた人」の章にも置いています（第 1299 番）。

しかし使徒は**泣き叫ぶ哀悼**（ニヤーハ） — 叫び、嘆き、死者のことを大げさに言い立てて泣くこと — を禁じられました。学者たちは、「かの女たちの口に土をまきなさい」という指示は、哀悼の禁止が**いかに厳しいか**を示すための表現であり、文字どおり実行するための命令ではないと説明しています。涙を流して泣くことは許されますが、泣き叫ぶ哀悼は許されません。

クルアーンは災難のときの正しい態度を教えています。**「本当にわたしたちはアッラーのもの。かれの御許にわたしたちは帰ります」**（雌牛章 2:156） — 『イブン・カスィール注釈』2:156。

そしてかれらへの報いを。**「これらの者の上にこそ、主からの祝福と慈悲が下る」**（雌牛章 2:157） — 『イブン・カスィール注釈』2:157。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：330 / 522

ジャアファルの家族のための食事

ジャアファルの家では、アスマー・ビント・ウマイスが、まだ幼い子どもたちと共に夫の死の知らせを受けました。アッラーの使徒 ﷺ は弔意を述べるだけでなく、ご自身の家族に**実際的な指示**を与えられました：

ハディース — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 998 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مَنِيعٍ، وَعَلِيُّ بْنُ حُجْرٍ، قَالاَ حَدَّثَنَا سُفْيَانُ بْنُ عُيَيْنَةَ، عَنْ جَعْفَرِ بْنِ خَالِدٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ جَعْفَرٍ، قَالَ لَمَّا جَاءَ نَعْيُ جَعْفَرٍ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم اصْنَعُوا لأَهْلِ جَعْفَرٍ طَعَامًا فَإِنَّهُ قَدْ جَاءَهُمْ مَا يَشْغَلُهُمْ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・ジャアファル رضى الله عنهما はこう伝えています。ジャアファルの死の知らせが届いたとき、預言者 ﷺ は言われた。「**ジャアファルの家族のために食事を作りなさい。**かれらには、かれらを忙しくさせることが起きたのだから。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・ブン・マニーウとアリー・ブン・フジュル ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← ジャアファル・ブン・ハーリド ← その父ハーリド・ブン・サーラ ← アブドゥッラー・ブン・ジャアファル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』葬儀の書、死者の家族のために作られる食事の章、ハディース第 998 番；アブー・ダーウード第 3132 番にも。

等級： ハサン（良好） — イマーム・ティルミズィーはハサンと評価；アブー・ダーウード（第 3132 番）も伝え、アルバーニー師もハサンと評価。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:998

このハディースの教訓

これが弔問における**スンナ**です。隣人や親族が死者の家族のために食事を用意するのです。家族は災難に追われ、料理をする余裕がないからです。イマーム・ティルミズィーは、一部の学者がこれを勧めており、それはイマーム・シャーフィイーの

見解でもあると記しています。逆の慣行 — 死者の家族に客のための食事を用意させること — は、このハディースの精神に反します。

アブドゥッラー・ブン・ジャアファルはまた、アブー・ダーウードの伝承（第 4192 番、アルバーニーは真正と評価）の中で、アッラーの使徒 ﷺ がジャアファルの家族に**三日間**の猶予を与え、それからかれらのもとに来て、こう言われたと語っています。「**今日の後は、わたしの兄弟のために泣いてはならない。**」使徒はジャアファルの子どもたちを連れて来させ — 「わたしたちはひな鳥のように使徒のもとに連れて来られた」 — 床屋を呼んで、かれらの頭を剃らせました。

この三日間は、妻以外の者にとっての**服喪の規定** — 三日を超えないこと — の根拠となっています。アッラーの使徒 ﷺ が孤児たちの頭を剃らせたのは、**新しい始まり**のしるしであり、また使徒ご自身がかれらの面倒を見るというしるしでした。孤児への愛情は言葉で終わるのではなく、行いとなって表れるのです。

「いや、かれらは生きている」

ムウタで倒れたザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハ、そして他の教友たちはどうなったのでしょうか。クルアーンははっきりと答えています：

イムラーン家章 3:169–171

وَلَا تَحْسَبَنَّ ٱلَّذِينَ قُتِلُوا۟ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ أَمْوَٰتًۢا ۚ بَلْ أَحْيَآءٌ عِندَ رَبِّهِمْ يُرْزَقُونَ ﴿١٦٩﴾

「アッラーの道のために殺害された者を、死んだと思ってはならない。いや、かれらは主の御許で扶養されて、生きている。」

فَرِحِينَ بِمَآ ءَاتَىٰهُمُ ٱللَّهُ مِن فَضْلِهِۦ وَيَسْتَبْشِرُونَ بِٱلَّذِينَ لَمْ يَلْحَقُوا۟ بِهِم مِّنْ خَلْفِهِمْ أَلَّا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿١٧٠﴾

「かれらはアッラーの恩恵により、授かったものに満悦し、かれらのあとに続く（生き残った）人たちのために喜んでいる。その（生き残った）人たちは恐れもなく憂いもないと。」

يَسْتَبْشِرُونَ بِنِعْمَةٍ مِّنَ ٱللَّهِ وَفَضْلٍ وَأَنَّ ٱللَّهَ لَا يُضِيعُ أَجْرَ ٱلْمُؤْمِنِينَ ﴿١٧١﴾

「アッラーの御恵みと恩恵を喜び、またアッラーが信者への報奨を、決してむだにされないことを喜んでいる。」

訳：三田了一 — quran.com/3:169-171

教友たち自身も、この節の意味を尋ねたことがあります。アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ の答えを伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1887 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ يَحْيَى، وَأَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ كِلاَهُمَا عَنْ أَبِي مُعَاوِيَةَ، ح وَحَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، أَخْبَرَنَا جَرِيرٌ، وَعِيسَى بْنُ يُونُسَ، جَمِيعًا عَنِ الأَعْمَشِ، ح وَحَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ

اللَّهِ بْنِ نُمَيْرٍ، - وَاللَّفْظُ لَهُ - حَدَّثَنَا أَسْبَاطٌ، وَأَبُو مُعَاوِيَةَ قَالاَ حَدَّثَنَا الأَعْمَشُ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ مُرَّةَ، عَنْ مَسْرُوقٍ، قَالَ سَأَلْنَا عَبْدَ اللَّهِ عَنْ هَذِهِ الآيَةِ، { وَلاَ تَحْسَبَنَّ الَّذِينَ قُتِلُوا فِي سَبِيلِ اللَّهِ أَمْوَاتًا بَلْ أَحْيَاءٌ عِنْدَ رَبِّهِمْ يُرْزَقُونَ} قَالَ أَمَا إِنَّا قَدْ سَأَلْنَا عَنْ ذَلِكَ فَقَالَ أَرْوَاحُهُمْ فِي جَوْفِ طَيْرٍ خُضْرٍ لَهَا قَنَادِيلُ مُعَلَّقَةٌ بِالْعَرْشِ تَسْرَحُ مِنَ الْجَنَّةِ حَيْثُ شَاءَتْ ثُمَّ تَأْوِي إِلَى تِلْكَ الْقَنَادِيلِ فَاطَّلَعَ إِلَيْهِمْ رَبُّهُمُ اطِّلاَعَةً فَقَالَ هَلْ تَشْتَهُونَ شَيْئًا قَالُوا أَىَّ شَىْءٍ نَشْتَهِي وَنَحْنُ نَسْرَحُ مِنَ الْجَنَّةِ حَيْثُ شِئْنَا فَفَعَلَ ذَلِكَ بِهِمْ ثَلاَثَ مَرَّاتٍ فَلَمَّا رَأَوْا أَنَّهُمْ لَنْ يُتْرَكُوا مِنْ أَنْ يُسْأَلُوا قَالُوا يَا رَبِّ نُرِيدُ أَنْ تَرُدَّ أَرْوَاحَنَا فِي أَجْسَادِنَا حَتَّى نُقْتَلَ فِي سَبِيلِكَ مَرَّةً أُخْرَى. فَلَمَّا رَأَى أَنْ لَيْسَ لَهُمْ حَاجَةٌ تُرِكُوا.

訳：

マスルークは言いました。わたしたちはアブドゥッラー（・ブン・マスウード）にこの節について尋ねた。「アッラーの道のために殺された者を、死んだものと思ってはならない。いや、かれらは主の御許で生きており、糧を与えられている」（イムラーン家章 3:169）。かれは言った。わたしたちは以前このことについて（アッラーの使徒 ﷺ に）尋ねた。すると使徒は言われた。**「かれらの魂は緑の鳥の腹の中にあり、その鳥たちには玉座に吊るされた灯火がある。鳥たちは楽園の中を望むままに自由に飛び回り、それからその灯火に戻る。**そのとき主はかれらを見て、『何か望むものはあるか』と仰せになる。かれらは『楽園の中を望むままに自由にしているのに、これ以上何を望みましょう』と答える。アッラーはかれらに三度そうなさる。問われ続けることを悟ると、かれらは言う。**『主よ、わたしたちの魂をわたしたちの体に戻してください。もう一度あなたの道のために殺されるために。』**アッラーは、かれらに何の必要もないことを御覧になると、かれらをそのままにされる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承（複数の経路）：ヤフヤー・ブン・ヤフヤーとアブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← アブー・ムアーウィヤ；またイスハーク・ブン・イブラーヒーム ← ジャリール・ブン・アブドゥルハミードとイーサー・ブン・ユーヌス ← アル＝アアマシュ；またムハンマド・ブン・アブドゥッラー・ブン・ヌマイル ← アスバート・ブン・ムハンマドとアブー・ムアーウィヤ ← アル＝アアマシュ ← アブドゥッラー・ブン・ムッラ ← マスルーク・ブン・アル＝アジュダウ ← アブドゥッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』統治の書、殉教者の魂が楽園にあることの説明の章、ハディース第 1887 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1887

このハディースの教訓

殉教者たちの生は**特別なバルザフ（中間界）の生**であり、この世の生とも、普通の死者の生とも異なります。イブン・カスィールは、信仰者の魂は一般に楽園にあるが、殉教者の魂は**緑の鳥の中に宿り**、楽園で自由にしているという栄誉を与えられていると説明しています。

別の節もこう強調しています。「**いや、かれらは生きている。だがあなたがたはそれに気付かない**」（雌牛章 2:154） — 『イブン・カスィール注釈』2:154。

殉教者たちの願い

イブン・マスウードのハディースでは、殉教者たちはアッラーの道で**もう一度殺されるために**この世に戻してほしいと願いました。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه も、似た言葉を伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2817 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، قَالَ سَمِعْتُ قَتَادَةَ، قَالَ سَمِعْتُ أَنَسَ بْنَ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ مَا أَحَدٌ يَدْخُلُ الْجَنَّةَ يُحِبُّ أَنْ يَرْجِعَ إِلَى الدُّنْيَا وَلَهُ مَا عَلَى الأَرْضِ مِنْ شَىْءٍ، إِلاَّ الشَّهِيدُ، يَتَمَنَّى أَنْ يَرْجِعَ إِلَى الدُّنْيَا فَيُقْتَلَ عَشْرَ مَرَّاتٍ، لِمَا يَرَى مِنَ الْكَرَامَةِ.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。「**楽園に入った者で、たとえ地上のすべてのものを持っていたとしても、この世に戻りたいと願う者は一人もいない。**ただ殉教者だけは別である。**かれは、自分が見た栄誉のゆえに、この世に戻って十回殺されることを願うのである。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← グンダル（ムハンマド・ブン・ジャアファル） ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージュ ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、戦士がこの世に戻ることを願うことの章、ハディース第 2817 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2817

このハディースの教訓

楽園の住人は、たとえこの世のすべてを与えられても、この世に戻りたいとは願いません — **ただ殉教者だけは別です。**かれが見た栄誉のゆえです。これがムウタの教

友たちの勇気を説明しています。かれらはアッラーの道での死を損失ではなく、**栄誉への扉**と見ていたのです。

部族連合章 33:23

مِّنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ رِجَالٞ صَدَقُواْ مَا عَٰهَدُواْ ٱللَّهَ عَلَيۡهِۖ فَمِنۡهُم مَّن قَضَىٰ نَحۡبَهُۥ وَمِنۡهُم مَّن يَنتَظِرُۖ وَمَا بَدَّلُواْ تَبۡدِيلٗا ٢٣

「信者の中には、アッラーと結んだ約束に忠実であった人びとが（多く）いたのである。或る者はその誓いを果し、また或る者は（なお）待っている。かれらは少しも（その信念を）変えなかった。」

訳：三田了一 — quran.com/33:23

この節はムウタの教友たちを的確に描いています。ザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハは**誓いを果たし**、ハーリドや他の人びとは**その時を待ち**ました — そして「かれらは（その約束を）少しも変えない」のです。

注：殉教の美徳についてのハディースは、正当な指導のもとでの正当なジハード — アッラーの言葉を高めることを意図し、シャリーアが定める戦争の作法を守るもの — について述べたものです。一般市民への暴力や、シャリーアに反する個人の行動の口実にすることは決してできません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

勝利か、撤退か

ムウタは勝利だったのでしょうか、敗北だったのでしょうか。この問いは昔から歴史家の間で論じられてきました。アッラーの使徒 ﷺ ご自身はこう言われました。**「ついにアッラーはかれらに勝利を与えられた」**（『サヒーフ・ブハーリー』4262）、そして**「かれによって勝利が開かれた」**（『サヒーフ・ブハーリー』1246）。

見解	根拠
勝利（ファトフ）	アッラーの使徒 ﷺ の言葉；小さな軍が大帝国から無事に生還
成功した撤退	ハーリドが敵に追撃されることなく軍を救った
戦場の一部での勝利	敵も退いたとする伝承がある
敗北（ローマ側の資料）	ビザンツの資料は自軍の勝利とみなしている

スィーラの注：「逃げた者たちよ！」

イブン・イスハークは、軍がマディーナに帰ったとき、一部の人びとがかれらに土を投げつけて「逃げた者たち（フッラール）よ、アッラーの道から逃げたのか！」と言ったと伝えています。するとアッラーの使徒 ﷺ は言われました。**「かれらは逃げた者たちではない。アッラーが望まれるなら、再び攻め返す者たち（クッラール）である。」**

この伝承は伝承経路に疑義のある**スィーラ書の情報**です。賢明な撤退は戦場からの逃亡ではないことを示すためによく引かれます。これは、「戦術のために」退く者を除外している戦利品章 8:16 のアッラーの御言葉と合致しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ムウタの戦いの章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

Wikipedia「Battle of Mu'tah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Mu%27tah

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

戦いの結果についての見方がどうであれ、ムウタの影響はきわめて大きなものでした。三千人がローマに立ち向かったことで、北方のアラブ諸部族はムスリムを**一目置くべき勢力**と見なすようになりました。四か月後にマッカは開かれ、その数年後にはハーリド自身がヤルムークの戦いでムスリム軍を率い、シャームにおけるローマの支配に終止符を打ったのです。

ウサーマ：受け継がれた旗

ザイド・ブン・ハーリサはムウタで倒れましたが、かれの物語はそこで終わりませんでした。その息子**ウサーマ・ブン・ザイド** رضي الله عنهما はアッラーの使徒 ﷺ の家で育ち、「**アッラーの使徒の愛する者の、愛する息子**」（アル＝ヒッブ・イブン・アル＝ヒッブ）と呼ばれました。ムウタからおよそ三年後、生涯の最後の日々に、アッラーの使徒 ﷺ はシャームの地へ向かう部隊を整え、当時まだごく若かったウサーマをその指揮官に任じられました。

かつてザイドの指揮権に異議を唱えたように、一部の人びとはこの任命にも異議を唱えました。アッラーの使徒 ﷺ の答えは第 3 章ですでに読みました。「**アッラーにかけて、かれ（ザイド）は確かに指揮にふさわしかった……そしてこの者（ウサーマ）は、かれの後でわたしが最も愛する人びとの一人である**」（『サヒーフ・ブハーリー』3730；第 4469 番も参照）。

スィーラの注：ムウタの地へ向かったウサーマの部隊

イブン・サアドとスィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ はウサーマに、**アル＝バルカー**地方 — 父がムウタで倒れた地域 — まで軍を率いるよう命じられました。部隊はアッラーの使徒 ﷺ が病に倒れ亡くなられたために出発が遅れましたが、その後アブー・バクル رضي الله عنه は、一部の教友が延期を提案したにもかかわらず、カリフとしての最初の務めとしてその派遣を実行しました。

この目的地と出来事の詳細は**スィーラ書の情報**です。真正なのは、ウサーマの任命と、アッラーの使徒 ﷺ によるかれの擁護です。

参照：

イブン・サアド『大伝記集（タバカート）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

Wikipedia「Usama ibn Zayd」。https://en.wikipedia.org/wiki/Usama_ibn_Zayd

教訓：父の犠牲は**無駄ではありません**。ムウタでザイドの手から落ちた旗は、その息子によって再び掲げられました。アッラーの使徒 ﷺ は、殉教者の家族を大切にし、

ふさわしい若い世代には、たとえ若くても機会を与えるようウンマに教えられたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

今日のムウタ

今日、ムウタはヨルダンの**カラク県**にある町で、その名は**ムウタ大学**に残されています。近くのアル＝マザール地区には、ムウタの殉教者たち — ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ、ザイド・ブン・ハーリサ、アブドゥッラー・ブン・ラワーハなど — のものとされる霊廟とモスクの複合施設があります。

スィーラの注：アル＝マザールの霊廟

歴史資料によれば、元の霊廟は 13 世紀にマムルーク朝のスルタン**バイバルス**の命によって建てられ、1930 年代に再建され、現在の複合施設は 1997 年に建てられました。ザイド・ブン・ハーリサの墓はジャアファルの墓と同じ敷地内にあり、アブドゥッラー・ブン・ラワーハの墓はその近くにあります。

墓参りは、来世を思い起こし、死者のために祈るためのスンナです。しかし学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が教えられた作法 — 挨拶をし、かれらのために祈ること — に従い、**墓に眠る人に何かを願い求めることなく**墓参りをするよう注意を促しています。

参照：

Wikipedia「Mausoleum of Ja'far ibn Abi Talib」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Mausoleum_of_Ja%27far_ibn_Abi_Talib
Wikipedia「Mausoleum of Abdullah ibn Rawahah」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Mausoleum_of_Abdullah_ibn_Rawahah

墓参りの作法は、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が教えられました。**「信仰者とムスリムの住まいの人びとよ、あなたがたに平安あれ。わたしたちも、アッラーが望まれるなら、あなたがたに続くであろう。わたしはアッラーに、わたしたちとあなたがたの安寧を願う」**（『サヒーフ・ムスリム』975）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムウタの戦いの物語の出典

これまでの巻と同様に、本書のムウタの物語は、まず**真正なハディース**の上に組み立てられ、そのうえで、はっきりと区別した**スィーラ書の伝承**で補っています。

出来事	典拠
三人の指揮官の任命	『サヒーフ・ブハーリー』4261
体の前面に受けたジャアファルの傷	『サヒーフ・ブハーリー』4260、4261
「二つの翼を持つ者」という呼び名	『サヒーフ・ブハーリー』4264、3709
任命されずに旗を取ったハーリド	『サヒーフ・ブハーリー』1246
折れた九本の剣	『サヒーフ・ブハーリー』4265、4266
届く前に告げられた知らせ	『サヒーフ・ブハーリー』4262
マダディーの男とサラブの話	『サヒーフ・ムスリム』1753；アブー・ダーウード 2719
アッラーの使徒 ﷺ の悲しみ；泣き叫ぶ哀悼の禁止	『サヒーフ・ブハーリー』4263、1299
ジャアファルの家族のための食事	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998（ハサン）
殺された使者；敵の人数；マアーンでの演説	スィーラ書（イブン・イスハーク、アル＝ワーキディー）
イブン・ラワーハの詩；ハーリドの戦略；「クッラール」	スィーラ書

本書は、イスラーイーリーヤート（ユダヤ・キリスト教由来の伝承）や明らかに捏造された伝承を**含めていません**。スィーラ書の伝承は、その位置づけを明記したうえで、歴史像を補うものとして示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ザート・アッ＝サラースィルの遠征：ムウタの後

ムウタの戦いは、軍がマディーナに帰ったことで終わったわけではありませんでした。半島北部のアラブ諸部族 — 特にシャームの国境地帯に住み、ローマと同盟していたクダーア族 — は、いまや新しい目でムスリムを見ていました。そのうちの一部がマディーナを攻撃するために集結していると伝えられました。ムウタからおよそ一か月後、アッラーの使徒 ﷺ はかれらに向けて一つの部隊を送られました。これがザート・アッ＝サラースィルの遠征として知られるものです。

スィーラの注：アムル・ブン・アル＝アースの部隊

イブン・イスハーク、イブン・サアド、アル＝ワーキディーによれば、この遠征はヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝アーヒラ月に行われました。アッラーの使徒 ﷺ は、わずか数か月前に入信したアムル・ブン・アル＝アースを、およそ三百人の指揮官に任じられました。ザート・アッ＝サラースィルという名は、ワーディー・アル＝クラーの向こう、ジュザーム族の地にあるアッ＝サルサルという泉に由来するとされます。

スィーラ書によれば、アムルが選ばれたのは、かれの父方の祖母がクダーア族の一つであるバリー族の出身で、その血縁がかれらの心を和らげると期待されたためでした。敵が多いことを知ったアムルは援軍を求め、アッラーの使徒 ﷺ はアブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフをおよそ二百人とともに送られました。その中にはアブー・バクルとウマル رضي الله عنهما も含まれていました。

この日付、人数、地名の詳細はスィーラ書の情報です。真正なのは、アムル・ブン・アル＝アースがザート・アッ＝サラースィルの軍の指揮官であったことです（『サヒーフ・ブハーリー』4358）。

参考：イブン・ヒシャーム『預言者伝』 — ザート・アッ＝サラースィルの遠征；イブン・サアド『大伝記集（タバカート）』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』ザート・アッ＝サラースィルの遠征の章。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

誰が誰を率いるのか

アブー・ウバイダが到着すると、一つの問題が生じました。誰が礼拝を導き、部隊を率いるのか。スィーラ書によれば、アムルは、アブー・ウバイダは自分への援軍として来たのだから自分が指揮官だと言いました。温和なことで知られる教友アブー・ウバイダは、アッラーの使徒 ﷺ が互いに争わないよう命じられたと言って、それを受け入れました。こうしてアムルが礼拝を導き、その後ろにアブー・バクル、ウマル、アブー・ウバイダが立ったのです。

この話はスィーラ書の伝承ですが、その意味は、任命された指導者に従うことについての真正なハディースと一致しています。またそれは、ある任務の指揮は、その任務に最もふさわしい人に委ねられるということも教えています — たとえその後ろに、地位や入信の早さにおいてより優れた人びとが立っていたとしても。

「あなたが最も愛する人は誰ですか」

ハディース：ザート・アッ＝サラースィルの後のアムルの問い

アブー・ウスマーン・アン＝ナフディーは、アッラーの使徒 ﷺ がアムル・ブン・アル＝アースをザート・アッ＝サラースィルの軍の指揮官として遣わされたと伝えています。アムルは言いました。わたしは使徒のもとに行き、「人びとの中で、あなたが最も愛する人は誰ですか」と尋ねた。使徒は「アーイシャだ」と答えられた。わたしは「男性の中では？」と尋ねた。使徒は「その父だ」と答えられた。わたしは「その次は誰ですか」と尋ねた。使徒は「ウマルだ」と答えられた。そして使徒はさらに何人かの男性の名を挙げられた。わたしは、自分が最後に置かれるのではないかと恐れて黙ってしまった。

等級：真正（サヒーフ）— 『サヒーフ・ブハーリー』4358、ザート・アッ＝サラースィルの遠征の章；『サヒーフ・ブハーリー』3662 にも。

アムルは指揮官に任命されたばかりで、その下にはアブー・バクルとウマルが立っていました。自分には特別な地位があるという思いが心をよぎったのかもしれませ

ん。アッラーの使徒 ﷺ の答えは、すべてを正しい位置に置きました。一つの部隊を率いる任命は、アッラーの使徒 ﷺ の心における位置や、アッラーの御許での位置とは同じではないのです。アムルが、自分の気恥ずかしさも含めてこの話を自ら語ったという正直さは、ハディースを伝える教友たちの誠実さを示しています。

厳寒の夜のタヤンムム

ハディース：「あなたがた自身を殺してはならない」

アムル・ブン・アル＝アース رضي الله عنه は言いました。ザート・アッ＝サラースィルの戦いのとき、わたしはひどく寒い夜にジュヌブ（大汚れ）の状態になった。水を浴びれば死んでしまうのではないかと恐れた。そこでわたしはタヤンムムをし、仲間たちを率いてファジュルの礼拝をした。かれらがそのことを預言者 ﷺ に話すと、使徒は「アムルよ、あなたはジュヌブのまま仲間を率いて礼拝したのか」と尋ねられた。わたしは水を浴びられなかった理由を告げ、こう言った。わたしはアッラーがこう仰せになるのを聞きました。「あなたがた自身を殺してはならない。本当にアッラーは、あなたがたに慈悲深くあられる」（婦人章 4:29）。するとアッラーの使徒 ﷺ は笑われ、何も言われなかった。

等級：アルバーニーによれば真正（サヒーフ） — 『スナン・アビー・ダーウード』334、清浄の書。

アッラーの使徒 ﷺ が笑われ、黙っておられたことを、学者たちはタクリール — アムルのイジュティハード（独自の判断）が正しかったという承認 — とみなしています。このハディースは、ひどく冷たい水を使えば明らかな害が生じると恐れ、それを温める手段もない人はタヤンムムをしてよいという根拠になっています。またそれは、入信したばかりの教友がすでにクルアーンを理解し、それを用いてイジュティハードを行っていたことも示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：火を焚くことの禁止

スィーラ書によれば、アムルは夜に火を焚くことを兵に禁じ、勝利したときも敵を追撃することを許しませんでした。アッラーの使徒 ﷺ に尋ねられると、かれは、敵に味方の人数の少なさを見られることを恐れ、また敵兵が待ち伏せのために隠れていることを恐れたのだと説明しました。アッラーの使徒 ﷺ はかれの計画をほめられました。

この話はスィーラ書や一部のハディース書に、議論のある伝承経路で伝えられています。真正なハディースとしてではなく、アムルの軍事的な賢明さを示す話として紹介しています。

教訓

ムウタの後、アッラーの使徒 ﷺ は北の国境を無防備なままにはされませんでした。最もふさわしい人が率いる部隊を送り、求められれば援軍を与え、地位は尊さの尺度ではないことを教えられました。イスラームはまた、人に能力以上の負担を課しません。命が危険にさらされる状況では、アッラーが用意された軽減（ルフサ）があるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハバトの部隊と海辺の大魚

同じ時期の遠征として一部のスィーラ学者が挙げるもう一つの話が、サイフ・アル＝バフル（海岸）の遠征、よりよく知られた名ではジャイシュ・アル＝ハバト — 「ハバトの葉の軍」 — です。この話は、それに加わったジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما によって、真正な伝承経路で伝えられています。

ハディース：木の葉を食べた軍

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما は言いました。預言者 ﷺ は、クライシュの隊商を見張るため、アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフの指揮のもとに三百人の騎乗兵を送られた。わたしたちは半月の間海辺にとどまり、ひどい飢えに襲われて、ハバトの木の葉を食べるほどだった。そのためこの部隊はジャイシュ・アル＝ハバトと名付けられた。やがて海が、アル＝アンバルと呼ばれる一頭の生き物をわたしたちのもとに打ち上げた。わたしたちは半月の間それを食べ、その脂を体に塗って、体は元の強さを取り戻した。

等級：真正（サヒーフ） — 『サヒーフ・ブハーリー』4361、サイフ・アル＝バフルの遠征の章。

ハディース：「アッラーがあなたがたのために出された糧を食べなさい」

ジャービルからの別の伝承では、アブー・ウバイダがその生き物の骨を一本立てると、騎乗した者がその下を通り抜けたといいます。かれらがマディーナに帰り、預言者 ﷺ にそのことを話すと、使徒は言われました。「食べなさい。（それは）アッラーがあなたがたのために出された糧である。もし少しでも持っているなら、わたしたちにも食べさせなさい。」そこで何人かが少し差し上げると、使徒はそれを召し上がりました。

等級：真正（サヒーフ） — 『サヒーフ・ブハーリー』4362。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：この出来事はいつ起きたのか

イブン・サアドと一部のスィーラ学者は、この遠征をヒジュラ 8 年ラジャブ月、すなわちムウタとザート・アッ＝サラースィルの後に置いています。しかしイブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、この部隊の目的 — クライシュの隊商の見張り — から見て、フダイビーヤの和約より前の出来事であると説明しています。和約の後、クライシュの隊商は安全で、妨げられることはなかったからです。

本書がここでこの話を取り上げるのは、一部のスィーラ書がムウタの後に置いているからであり、またその教訓がこの時期に送られた部隊と深く関わっているからです。正確な時期については意見が分かれています。

アブー・ウバイダ：兵と共に飢えた指揮官

この話は、アブー・ウバイダが兵と苦しみを分かち合う指揮官であったことを示しています。ジャービルからの別の伝承では、部隊の食糧が集められて少しずつ分けられ、一人一日なつめやし一粒になったと伝えられています。指揮官は部下より多くは食べませんでした。だからこそアッラーの使徒 ﷺ は、アブー・ウバイダを「アミーン・アル＝ウンマ」— このウンマで最も信頼できる人 — と呼ばれたのです。

海からの糧

アッラーは仰せになります。その意味は、海の獲物とその食物は、あなたがたと旅する者たちのための糧として、あなたがたに許されている、ということです（食卓章 5:96）。アッラーの使徒 ﷺ も海についてこう言われました。「その水は清浄であり、その死んだものは合法である」（『スナン・アビー・ダーウード』83、アルバーニーによれば真正；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』69 にも）。

教友たちは、その生き物が死んだ状態で見つかったため、はじめはためらいました。アブー・ウバイダも最初は「死肉だ」と言いましたが、その後、自分たちはアッラーの使徒 ﷺ の使いであり、やむを得ない状況にあるとイジュティハードしました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

帰還すると、アッラーの使徒 ﷺ はそれを許されただけでなく、ご自身でも召し上がりました。これは、それがやむを得ない場合だけでなく、無条件に合法であることを示しています。大多数の学者は、死んだ海の生き物は合法であるとしています。ハナフィー派には、浮いて死んだ魚について独自の細かな見解があります。

教訓

木の葉を食べるほどの飢えも、この部隊の服従を揺るがせませんでした。そしてアッラーは、思いもよらない所から糧を下されました。信頼できる指揮官は苦しみを分かち合い、アッラーが与えられた糧は皆で分かち合われました — マディーナのアッラーの使徒 ﷺ の皿に届くまで。

ムウタの戦いの人物たち

これまでの章では、三人の指揮官とハーリド・ブン・アル＝ワリードの話を詳しく述べました。下の表は、ムウタの物語とその前後の出来事に登場する他の人物を、その部族と情報源とともにまとめたものです。真正なハディースに名前が出てくる人物と、スィーラ書にだけ名前が出てくる人物とを区別しています。

人物	部族	役割	典拠
ザイド・ブン・ハーリサ	カルブ族（クダーア）；アッラーの使徒のマウラー ﷺ	第一の指揮官；殉教	『サヒーフ・ブハーリー』4261
ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ	クライシュ族ハーシム家；いとこ — アッラーの使徒 ﷺ	第二の指揮官；「二つの翼を持つ者」	『サヒーフ・ブハーリー』4261、4264
アブドゥッラー・ブン・ラワーハ	ハズラジュ族（アンサール）	第三の指揮官；詩人	『サヒーフ・ブハーリー』4261
ハーリド・ブン・アル＝ワリード	クライシュ族マフズーム家	任命されずに旗を取った；「アッラーの剣」	『サヒーフ・ブハーリー』4262、4265
サービト・ブン・アクラム	バリー族（クダーア）；アンサールのアジュラーン家の同盟者	しばらく旗を持ち、指揮官を選ぶよう呼びかけた	スィーラ書（イブン・イスハーク）
アブドゥッラー・ブン・ウマル	クライシュ族、アディー家	戦いに参加；ジャアファルの傷を数えた	『サヒーフ・ブハーリー』4260、4261
アウフ・ブン・マーリク・アル＝アシュジャイー	アシュジャウ族（ガタファーン）	マダディーの男とサラブの話の目撃者	『サヒーフ・ムスリム』1753；アブー・ダーウード 2719
マダディーの男	ヒムヤル（イエメン）	ローマの騎兵を討ち、サラブを求めた	『サヒーフ・ムスリム』1753

人物	部族	役割	典拠
アスマー・ビント・ウマイス	ハスアム族	ジャアファルの妻；夫の殉教の知らせを受けた	伝記書；アブー・ダーウード 4192
アブドゥッラー・ブン・ジャアファル	クライシュ族、ハーシム家	ジャアファルの息子；弔問の話の伝承者	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998；アブー・ダーウード 4192
ウサーマ・ブン・ザイド	カルブ族（クダーア）	ザイドの息子；のちにシャームの地への指揮官に任命	『サヒーフ・ブハーリー』3730、4469
アル＝ハーリス・ブン・ウマイル・アル＝アズディー	アズド族	殺されたアッラーの使徒 ﷺ の使者	スィーラ書（イブン・サアド、アル＝ワーキディー）
シュラフビール・ブン・アムル・アル＝ガッサーニー	ガッサーン族	使者を殺した、ローマ配下のアラブ人官吏	スィーラ書
クトバ・ブン・カターダ・アル＝ウズリー	ウズラ族（クダーア）	右翼を指揮；ローマのアラブ同盟軍の長マーリク・ブン・ザーフィラを討った	スィーラ書（イブン・イスハーク）
アムル・ブン・アル＝アース	クライシュ、バヌー・サフム	ムウタの一か月後のザート・アッ＝サラースィル遠征の指揮官	『サヒーフ・ブハーリー』4358
アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフ	クライシュ族アル＝ハーリス・ブン・フィフル家	ザート・アッ＝サラースィルに援軍を率いた；ジャイシュ・アル＝ハバトの指揮官	『サヒーフ・ブハーリー』4361；スィーラ書

興味深い親族関係

これらの人物の間には、注目に値する親族関係がいくつかあります。ジャアファルはアリー・ブン・アビー・ターリブの兄で、二人ともアッラーの使徒 ﷺ のいとこです。かれらの父アブー・ターリブが使徒のおじだからです。ザイド・ブン・ハーリサは、養子縁組が廃止される前のアッラーの使徒 ﷺ の養子であり、ウサーマはその息子です。ハーリド・ブン・アル＝ワリードの母ルバーバ・アッ＝スグラー・ビント・アル＝ハーリスは、マイムーナ・ビント・アル＝ハーリスの姉妹です。したがって、カダーのウムラのときにアッラーの使徒 ﷺ と結婚したマイムーナは、ハーリドの母方のおばにあたります。

アスマー・ビント・ウマイスは、マイムーナの異父姉妹（同じ母を持つ姉妹）です。ジャアファルの殉教後、アスマーはアブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضي الله عنه と結婚し、アブー・バクルの死後はアリー・ブン・アビー・ターリブ رضي الله عنه と結婚しました — イブン・ハジャルの『アル＝イサーバ』などの伝記書による。

スィーラの注：ムウタの殉教者たち

スィーラ書は、ムウタでのムスリムの殉教者の数をおよそ八人から十二人としています — ムハージルーンから四人、残りはアンサールです。イブン・ヒシャームはその名を列挙しており、その中にはザイド・ブン・ハーリサ、ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ、アブドゥッラー・ブン・ラワーハ、マスウード・ブン・アル＝アスワド、ワハブ・ブン・サアド・ブン・アビー・サルフがいます。完全な名簿は資料によって異なります。

敵軍の規模に比べてこの殉教者の数が少ないことは、ハーリドが軍を救うことに成功したという歴史家たちの根拠の一つとなっています。

参考：イブン・ヒシャーム『預言者伝』 — ムウタの殉教者の章；Wikipedia「Battle of Mu'tah」。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：353 / 522

教訓

ムウタでは、カルブ族出身の元奴隷、ハーシム家の貴人、アンサールの詩人、入信したばかりのマフズーム家の武将、そして剣一本しか持たないイエメンからのマダディーの男が、肩を並べて立ちました。イスラームはかれらを一本の旗のもとに一つにしたのです。かれらの尊さは部族にではなく、信仰と犠牲にありました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムウタとその後の遠征から導かれる法規定

ムウタの戦いとその後に送られた部隊は、学者たちがハディース書や法学書で論じてきた多くの法規定を残しました。下の表は、その中で最も重要なものを、根拠と、本書でそれを論じている章とともにまとめたものです。

規定	根拠	章
指導者は条件付きで後継者を定めることができる	『サヒーフ・ブハーリー』4261	2
任命された指導者がいないときは、集団が公益のために指導者を選ぶことができる	『サヒーフ・ブハーリー』1246	12
戦術としての撤退は戦場からの逃亡ではない	戦利品章 8:15–16	20、27
サラブ（討ち取った敵の持ち物）はそれを討った者の権利であり、指導者は尊重されねばならない	『サヒーフ・ムスリム』1753	15
普通の方法で死を知らせること（ナアイ）は許される；泣き叫ぶ哀悼（ニヤーハ）は禁じられる	『サヒーフ・ブハーリー』1246、4263	14、16
死者の家族のために食事を用意することが推奨される	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998；アブー・ダーウード 3132	17
夫以外の者のための服喪は三日を超えない	『スナン・アビー・ダーウード』4192；『サヒーフ・ブハーリー』1280	17
命を脅かすほどの極寒のためのタヤンムム	『スナン・アビー・ダーウード』334；婦人章 4:29	24
死んだ海の生き物は合法である	食卓章 5:96；『サヒーフ・ブハーリー』4362；アブー・ダーウード 83	25

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

規定	根拠	章
困難なときに指揮官が兵と食糧を分かち合う	『サヒーフ・ブハーリー』4361 とその伝承	25

退却か、逃亡か

アッラーは仰せになります。その意味は、信仰する者たちよ、あなたがたが進撃してくる不信者たちと出会ったときは、かれらに背を向けてはならない。その日に背を向ける者は — 戦術のため、あるいは他の部隊に合流するためでない限り — アッラーの怒りを受けて帰る、ということです（戦利品章 8:15–16）。

イブン・カスィールはその注釈で、この節の例外には、隊列を立て直すため、あるいは他のムスリム部隊に合流するために退く者が含まれると説明しています。これこそがハーリドがムウタで行ったことです。かれは逃げたのではなく、軍を救い、ムスリム軍の拠点であるマディーナに連れ帰ったのです。「アッラーはかれらに勝利を与えられた」（『サヒーフ・ブハーリー』4262）というアッラーの使徒 ﷺ の言葉は、かれらが逃げたといういかなる非難も退けています。

許されるナアイと禁じられるナアイ

アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、説教壇の上でザイド、ジャアファル、イブン・ラワーハの死を人びとに告げられました。イマーム・ブハーリーはこのハディースを、葬儀の書の、死者の家族に訃報を伝える人についての章に置いています（第 1246 番）。学者たちは、葬儀の礼拝、弔問、祈りのために死を知らせることは許されると説明しています。禁じられているのは、ジャーヒリーヤ式のナアイ — 叫び声や泣き叫ぶ哀悼、死者を誇ることを伴って死を触れ回ること — です。

上の表は一般的な要約です。各規定の詳細と学派間の意見の違いについては、イブン・ハジャルの『ファトフ・アル＝バーリー』やアン＝ナワウィーの『サヒーフ・ムスリム注釈』などのハディース注釈書を参照してください。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓

スィーラは、ただ思い出すための物語ではなく、実践するための法の源でもあります。遠くシャームの地で起きた一つの戦いが、指導、戦争、弔問、清め、食べ物についての指針を生み出し、わたしたちは今日までそれを実践しているのです。

年表：ムウタからマッカ征服へ

下の表は、ムウタの戦い前後の出来事を時系列に並べたものです。これらの日付の多くはスィーラ書によるおおよそのものであり、一部には異論があります。

時期（おおよそ）	出来事	典拠
ヒジュラ 8 年初め	ハーリド・ブン・アル＝ワリード、アムル・ブン・アル＝アース、ウスマーン・ブン・タルハが入信	スィーラ書；『サヒーフ・ムスリム』121（アムルの入信）
ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月以前	アル＝ハーリス・ブン・ウマイル・アル＝アズディーがシュラフビール・アル＝ガッサーニーに殺される	スィーラ書（イブン・サアド）
ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月	三千人の軍がマディーナを出発；三人の指揮官を任命	『サヒーフ・ブハーリー』4261；スィーラ書
ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月	マアーンでの二晩の協議	スィーラ書（イブン・イスハーク）
ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月（西暦 629 年 9 月ごろ）	ムウタでの戦い；三人の指揮官が殉教；ハーリドが旗を取る	『サヒーフ・ブハーリー』1246、4262
同じ日	アッラーの使徒 ﷺ が、知らせが届く前にマディーナでその出来事を告げる	『サヒーフ・ブハーリー』4262
知らせが届いた後	ジャアファルの家族のための食事；泣き叫ぶ哀悼の禁止	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998；『サヒーフ・ブハーリー』4263
三日後	アッラーの使徒 ﷺ がジャアファルの子どもたちを訪ね、頭を剃らせる	『スナン・アビー・ダーウード』4192

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期（おおよそ）	出来事	典拠
マディーナへの帰還	一部の人びとが軍を「フッラール（逃げた者たち）」と呼ぶ；アッラーの使徒 ﷺ はかれらを「クッラール（攻め返す者たち）」と呼ぶ	スィーラ書（伝承経路に疑義あり）
ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝アーヒラ月	アムル・ブン・アル＝アース率いるザート・アッ＝サラースィルの遠征	『サヒーフ・ブハーリー』4358；スィーラ書
ヒジュラ 8 年ラジャブ月（異説あり）	イブン・サアドによる、アブー・ウバイダ率いるジャイシュ・アル＝ハバト	『サヒーフ・ブハーリー』4361；『ファトフ・アル＝バーリー』
ヒジュラ 8 年シャアバーン月	クライシュの同盟者バクル族がフザーア族を襲う — フダイビーヤの和約が破られる	スィーラ書（第 20 巻）
ヒジュラ 8 年ラマダーン月	マッカ征服	第 20 巻・第 21 巻
ヒジュラ 11 年サファル月	ウサーマ・ブン・ザイドがアル＝バルカーへの軍の指揮官に任命される	『サヒーフ・ブハーリー』4469；スィーラ書
ヒジュラ 15 年（西暦 636 年）	ヤルムークの戦い；シャームが開かれる — ハーリドは主要な指揮官の一人	一般の歴史

教訓

この年表は、ヒジュラ 8 年がいかに出来事に満ちていたかを示しています。一年足らずの間に、ムスリムはローマと向き合い、北へいくつもの部隊を送り、そしてマッカを開きました。ムウタは終わりではなく、アラビア半島とシャームの地における大きな変化の始まりだったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムウタの戦いに関するよくある質問

1. ムウタはどこにありますか？

ムウタは死海の東の高原にある町で、今日のヨルダンのカラク県にあります。隊商の道でマディーナからおよそ千キロメートルです（第 6 章と第 22 章；Wikipedia「Mu'tah」）。

2. アッラーの使徒 ﷺ が参加されなかったのに、なぜ「ガズワ（遠征）」と呼ばれるのですか？

通常、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が参加された戦いはガズワと呼ばれ、使徒が参加されなかった部隊はサリーヤまたはバアスと呼ばれます。しかしイマーム・ブハーリーは、部隊の大きさと出来事の重要性から、その章を「ムウタの戦い（ガズワ）」と名付けました。スィーラ学者たちは両方の用語を使っています。

3. 両軍の兵力はどれほどでしたか？

スィーラ書によれば、ムスリム軍はおよそ三千人でした。敵の数は、アル＝ワーキディーは 10 万、イブン・イスハークは 20 万としています。これらの数は連続した伝承経路のないスィーラ書の伝承であり、多くの現代の歴史家は大きすぎると考えています。確かなのは、ムスリム軍がはるかに小さかったということです（第 7 章）。

4. 殉教者は何人でしたか？

スィーラ書は、三人の指揮官を含めておよそ八人から十二人としています。この少なさは、ハーリドが軍を救うことに成功したことを示しています（第 26 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. なぜアッラーの使徒 ﷺ は三人の指揮官を一度に任命されたのですか？

指揮官が倒れても部隊が混乱しないようにするためです。このハディースは、条件付きの任命が許されることの根拠でもあります（『サヒーフ・ブハーリー』4261；第 2 章）。

6. なぜハーリドはアッラーの使徒 ﷺ に任命されなかったのですか？

ハーリドは入信してまだ数か月でした。かれは三人の指揮官が倒れた後に戦場で兵たちに選ばれ、アッラーの使徒 ﷺ はかれを「アッラーの剣の一つ」と呼ぶことでその選択を認められました（『サヒーフ・ブハーリー』4262；第 12 章と第 14 章）。

7. ジャアファルの手が切り落とされた話は真正ですか？

ジャアファルが右手で旗を持ち、それが切り落とされると左手で持ったという詳細は、スィーラ書の伝承です。真正なのは、かれの傷がすべて体の前面にあったこと（『サヒーフ・ブハーリー』4260）と、イブン・ウマルが用いた「二つの翼を持つ者」という呼び名（『サヒーフ・ブハーリー』4264）です（第 9 章と第 10 章）。

8. ムウタは敗北だったのですか？

アッラーの使徒 ﷺ は「ついにアッラーはかれらに勝利を与えられた」と言われました（『サヒーフ・ブハーリー』4262）。歴史家たちは、それが勝利だったのか、成功した撤退だったのか、引き分けだったのかについて意見が分かれています。一部のビザンツの資料はローマの勝利とみなし、その指揮官をテオドロスとしています（第 20 章；Wikipedia「Battle of Mu'tah」）。

9. 戦場から退くことは大罪ですか？

戦場から逃げることは大罪ですが、アッラーは戦術のため、あるいは他の部隊に合流するために退く者を除外されています（戦利品章 8:15–16；第 27 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

10. 人の死を知らせてもよいのですか？

アッラーの使徒 ﷺ がムウタの殉教者たちの死を告げられたように、葬儀の礼拝、弔問、祈りのためであれば許されます。禁じられているのは、泣き叫ぶ哀悼とジャーヒリーヤ式のやり方です（『サヒーフ・ブハーリー』1246、4263；第 27 章）。

11. 水が冷たすぎる場合、タヤンムムをしてもよいのですか？

アムル・ブン・アル＝アースのハディースは、冷たい水を使えば本当に害があると恐れ、それを温める手段もない人はタヤンムムをしてよいという根拠です（『スナン・アビー・ダーウード』334；第 24 章）。その条件の詳細は法学書で論じられており、単に面倒だとか不快だというだけでは当てはまりません。

12. ムウタとシャームの開放にはどんな関係がありますか？

ムウタはムスリム軍とローマとの最初の衝突でした。およそ三年後、アッラーの使徒 ﷺ はウサーマをアル＝バルカーへの指揮官に任じられ（第 21 章）、その数年後には、ハーリド自身がシャームの地を開いたヤルムークの戦いの主要な指揮官の一人となりました。

教訓

これらの質問は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、そして歴史家の見解を区別することを思い出させてくれます。そうすることで、わたしたちはムウタから確かな教訓を得、意見が分かれる事柄には寛容な心で向き合うことができるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

ムウタの戦いは、**最後の一滴の血までの忠誠**の物語です。三人の指揮官は背を向けることなく一人また一人と倒れ、入信したばかりの一人のムスリムが、軍を救う「アッラーの剣」となりました。

教訓	ムウタの戦いから
綿密な計画	順番に任命された三人の指揮官
イスラームにおける平等	元奴隷が有力者たちを率いた
勇気と不動	ジャアファルの傷はすべて前面にあった
自分自身とのジハード	イブン・ラワーハは自分を説得して前進した
善へと向けられた才能	ハーリド：ウフドからムウタへ
指導者を尊重すること	「あなたがたはわたしの指揮官たちを放っておくつもりか」
泣き叫ばずに悲しむ	アッラーの使徒 ﷺ の涙；ニヤーハの禁止
災難に遭った家族を支える	ジャアファルの家族のための食事；孤児たち

わたしたちの生活の中のムウタ

わたしたちは戦場で旗を持つことはないかもしれません。しかし、わたしたち一人ひとりは、家庭で、職場で、社会で、**預かりもの**を手にしています。ムウタは、それをしっかりと握り、時が来ればよりふさわしい人に委ね、試練が来ても**背を向けない**ことを教えてくれます。

インシャーアッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**第 20 巻**へと続きます — **マッカ征服**の始まりです。クライシュがいかにしてフダイビーヤの和約を破り、アッラーの使徒 ﷺ がいかにしてアラビア半島がかつて見たことのない最大の軍を整えられたのかを語ります。アッラーこそが最もよく知っておられます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 19 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:154–157、2:249；イムラーン家章 3:169–171；戦利品章 8:45–46；マルヤム章 19:71；部族連合章 33:23、33:37）。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/169

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1246、1299、2699、2817、3015、3493、3708、3709、3730、4260、4261、4262、4263、4264、4265、4266、6114。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』975、1731、1753、1887。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』998、3763；『スナン・アビー・ダーウード』2573、2719、3132、4192。https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— ムウタの戦いの章。

アル＝ワーキディー『遠征の書（アル＝マガーズィー）』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

イブン・カスィール『始まりと終わり』— ムウタの戦い；イブン・アル＝カイイム『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』— 遠征の書、ムウタの戦いの章；『アル＝イサーバ（教友識別の書）』。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— ムウタの戦いの章。

一般の歴史

Wikipedia「Battle of Mu’tah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Mu%27tah

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

Wikipedia「Zayd ibn Haritha」。https://en.wikipedia.org/wiki/Zayd_ibn_Haritha

Wikipedia「Ja'far ibn Abi Talib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ja%27far_ibn_Abi_Talib

Wikipedia「Abd Allah ibn Rawaha」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abd_Allah_ibn_Rawaha

Wikipedia「Khalid ibn al-Walid」。https://en.wikipedia.org/wiki/Khalid_ibn_al-Walid

Wikipedia「Mausoleum of Ja'far ibn Abi Talib」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Mausoleum_of_Ja%27far_ibn_Abi_Talib

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4358（ザート・アッ＝サラースィルの指揮官アムル・ブン・アル＝アース）。https://sunnah.com/bukhari:4358

『サヒーフ・ブハーリー』3662（アッラーの使徒 ﷺ が最も愛した人は誰か）。https://sunnah.com/bukhari:3662

『スナン・アビー・ダーウード』334（寒い夜のアムルのタヤンムム）。https://hadithunlocked.com/abudawud:334

『サヒーフ・ブハーリー』4361（ジャイシュ・アル＝ハバト）。https://sunnah.com/bukhari:4361

『サヒーフ・ブハーリー』4362（「アッラーがあなたがたのために出された糧を食べなさい」）。https://sunnah.com/bukhari:4362

『スナン・アビー・ダーウード』83（「その水は清浄であり、その死んだものは合法である」）。https://sunnah.com/abudawud:83

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』69（海：その水は清浄である）。https://sunnah.com/tirmidhi:69

『サヒーフ・ブハーリー』1280（服喪の期間）。https://sunnah.com/bukhari:1280

Wikipedia「Raid of Dhat al-Salasil」。https://en.wikipedia.org/wiki/Raid_of_Dhat_al-Salasil

Wikipedia「Mu'tah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mu%27tah

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第六部

マッカ征服（一）

預言者伝（スィーラ）— 第 20 巻

破られた盟約、ハーティブの手紙、マッル・アッ＝ザフラーンの火 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

マッカ征服（一）

『預言者伝』第 15 巻は**フダイビーヤの和約**を語りました。ムスリムとクライシュ族の間の十年間の休戦です。アッラーはそれを「**明白な勝利**」と名づけられました（勝利章 48:1）。二年後、その名の英知が明らかになります。和約はクライシュ族自身によって破られ、マッカの門は大きく開かれたのです。

この**マッカ征服** — マッカの町の開放 — の物語は、一冊の本には大きすぎます。この第 20 巻は**第一部**です。盟約がどのように破られたか、アッラーの使徒ﷺがどのように秘密裏に軍を準備されたか、ハーティブ・ブン・アビー・バルタアの手紙の話、ラマダーン月の一万の軍勢の行軍、そしてアブー・スフヤーンがイスラームに入信したマッル・アッ＝ザフラーンの夜を語ります。**第二部**（第 21 巻）では、征服の日そのものを語ります。

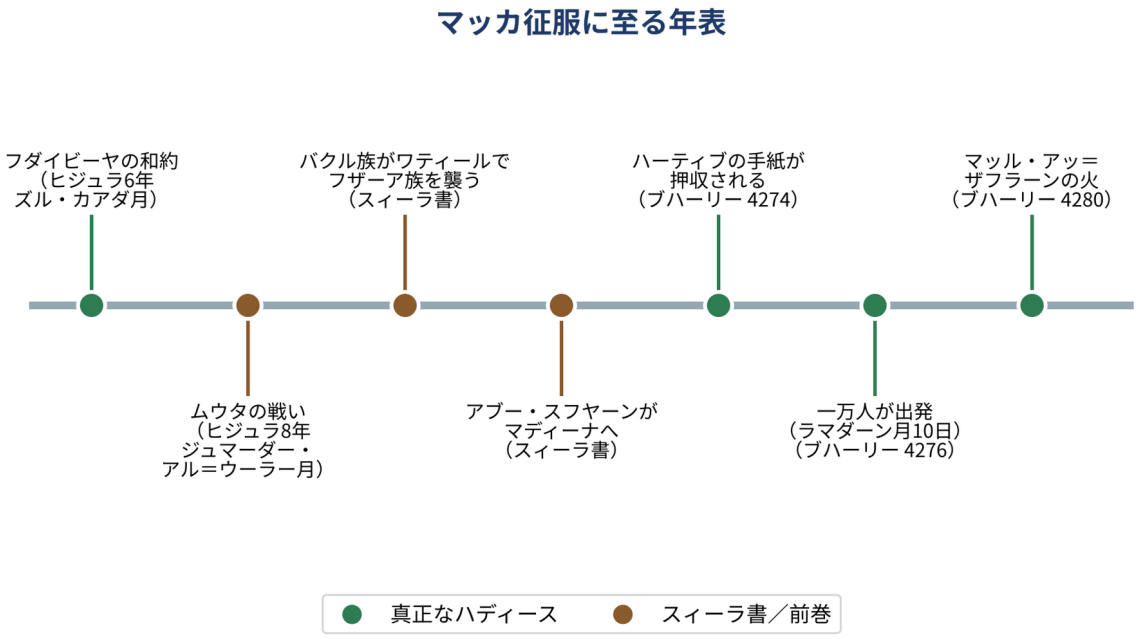


図 1：マッカ征服に至る年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報 — ワティールでの襲撃の詳細、アムル・ブン・サーリムの詩、マディーナでのアブー・スフヤーンの会話など — は、その多くが連続した伝承経路なしに伝えられているため、茶色の「スィーラの注」の枠に入れている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フダイビーヤから二年

フダイビーヤの和約にはいくつかの条件がありました。その中で最も重要なもの — 当時は小さく見えましたが — の一つは、アラブの諸部族がどちらの側とでも**同盟を選ぶ**自由でした。一方の側と同盟した部族は、和約においてその側の一部とみなされました。

スィーラの注：フダイビーヤの和約における同盟の条件

イブン・イスハークは、和約の内容に次のものがあったと伝えています。「**ムハンマドとの盟約と約束に加わりたい者は加わってよい。クライシュ族との盟約と約束に加わりたい者は加わってよい。**」そこで**フザーア族**はアッラーの使徒 ﷺ との同盟を表明し、一方**バクル族**はクライシュ族と同盟しました。

この条件の文言は**スィーラ書の伝承**です。フダイビーヤに関する真正なハディース（その中に『サヒーフ・ブハーリー』2731）は、休戦やマッカから来た者の送還など、他の条件を詳しく述べています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

二年近くの間、この和約はかつて味わったことのない**平和**をもたらしました。人びとは恐れることなく行き来し、語り合い、クルアーンを聞くことができました。イマーム・アッ＝ズフリーは、フダイビーヤ以前のイスラームにおいてこれより大きな勝利はなかったと述べています。この二年間にイスラームに入信した人の数は、それ以前の数に匹敵するか、それを上回ったからです。その証拠に、フダイビーヤでは 1,400 人、マッカ征服のときには **10,000 人**でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

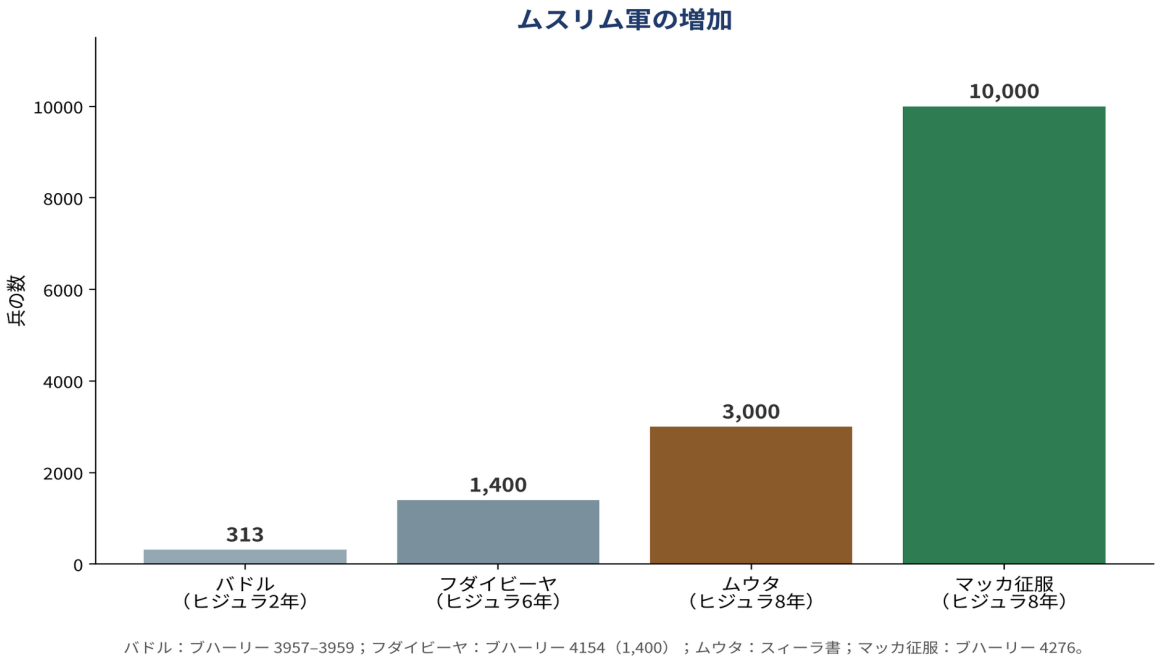


図 2：バドルからマッカ征服までのムスリム軍の増加。

上の図は、ムスリムの本当の力が武器からではなく、**平和な環境で広まった宣教**から来たことを示しています。人びとが圧力なしにクルアーンを聞くことができると、多くの人がその真理に引かれました。これこそ、アッラーの使徒 ﷺ が一方的に見えるフダイビーヤの条件を受け入れられた英知です。平和は、剣では開けない道を開いたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヘラクレイオスの前のアブー・スフヤーン

フダイビーヤの休戦期間中、アブー・スフヤーン・ブン・ハルブはクライシュ族の隊商とともにシャームへ交易に出かけました。そこで、イマーム・ブハーリーが『サヒーフ』の冒頭のハディースに記録した出来事が起こります。アブー・スフヤーンは、アラブの地に現れた預言者について尋問されるため、イーリヤー（エルサレム）でローマ皇帝**ヘラクレイオス**の前に呼び出されたのです（『サヒーフ・ブハーリー』7）。アッラーの使徒 ﷺ からヘラクレイオスへの手紙の話は、第 17 巻で詳しく述べました。

ヘラクレイオスはいくつかの質問をしました。その家系、従う人びと、彼らが増えているか減っているか、そして彼が嘘をついたことがあるかどうか。それから尋ねました。「**彼は約束を破ったことがあるか。**」アブー・スフヤーンは答えました。「**いいえ。そしてわれわれは今、彼とある期間（の約束）の中にいる。その期間に彼が何をするかはわからない。**」アブー・スフヤーンは、彼を悪く言うために何かを差し挟めたのはそこだけだったと認めています。

歴史の皮肉を見てください。アブー・スフヤーンは、アッラーの使徒 ﷺ が**もしかすると**約束を破るかもしれないという疑いを起こそうとしました。しかし最終的に和約を破ったのは、アッラーの使徒 ﷺ ではなく、**クライシュ族自身の同盟者**であり、クライシュ族の有力者たちがそれを助けたのです。ヘラクレイオスはこう結論しました。「**使徒たちとはそのようなものだ。彼らは裏切らない。**」

ヘラクレイオスはまた言いました。「**おまえの言うことが本当なら、彼はわたしのこの両足の場所をも手にするだろう。**」アブー・スフヤーンは、ムハンマドの事柄は大きくなり、ローマの王さえ彼を恐れていると言いながら宮殿を出ました。同じ伝承の中で彼はこう言っています。「**わたしは、アッラーがわたしの心にイスラームを入れてくださるまで、彼が勝つと確信し続けていた。**」

この最後の言葉は、本書で語られる出来事への**最初の手がかり**です。確信の種はヘラクレイオスの宮殿でアブー・スフヤーンの心に植えられ、マッル・アッ＝ザフラーンのある夜、ムスリム軍の何千もの火を見たときに芽吹きました。教訓：**今日聞いた真理**は、何年も後に実を結ぶかもしれません。わたしたちの務めは、それを誠実に伝えることです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フザーア族：ハーシム家の古い同盟者

フザーア族はなぜアッラーの使徒 ﷺ を選んだのでしょうか。彼らとハーシム家の関係は、イスラームよりはるかに古いものでした。フザーア族はクライシュ族より前にマッカを支配しており、アッラーの使徒 ﷺ の祖父**アブドゥル・ムッタリブ**と同盟を結んでいました。

スィーラの注：フザーア族とアブドゥル・ムッタリブの古い同盟

歴史家たちは、アブドゥル・ムッタリブが父方のおじたちと争ったときにフザーア族に助けを求め、両者の間に同盟が結ばれたと述べています。フザーア族の一部は早くからイスラームに入信しており、この部族は**秘密を守る者**として知られ、ティハーマにおいてアッラーの使徒 ﷺ の秘密を守っていました。彼らの中のムスリムも非ムスリムも、使徒に心を寄せていたのです。

この情報は**スィーラ書**によるものです。真正なハディースでは、ブダイル・ブン・ワルカー・アル＝フザーイーがフダイビーヤのとき、クライシュ族の知らせをアッラーの使徒 ﷺ に伝える人物として登場します（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。これはフザーア族と使徒との良好な関係を示しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。
イブン・サアド『大列伝』。

一方、**バクル族** — とくにディール支族 — は、ジャーヒリーヤの時代から晴らされていない血の復讐を抱え、フザーア族と古くから敵対していました。フダイビーヤの休戦はその復讐心をしばらく抑えましたが、消されていない燠火はいつでも再び燃え上がりえます。

教訓：**古い忠誠と善行は決して無駄にならない。**アブドゥル・ムッタリブが築いた良い関係は、数十年後、その孫に忠実な同盟者という形で実を結びました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ワティールでの夜襲

ヒジュラ暦 8 年シャアバーン月、すべてを変える出来事が、マッカ近くの、**ワティール**と呼ばれるフザーア族の水場で起こりました。

スィーラの注：ワティールでの襲撃

イブン・イスハークは、**ナウファル・ブン・ムアーウィヤ・アッ＝ディーリー**がバクル族の一団とともに夜にワティールでフザーア族を襲い、何人かを殺したと伝えています。**クライシュ族は武器でバクル族を助け**、クライシュ族の有力者の一部も夜の闇に紛れてひそかに戦いました。フザーア族は聖域まで退きました。バクル族の中には「聖域に入ってしまったぞ！」と言う者もいましたが、ナウファルは聖域の神聖さを侮る言葉で答えました。

これらの詳細は**スィーラ書の伝承**です。歴史家たちが一致しているのは、クライシュ族の同盟者が、クライシュ族の助けを得て、アッラーの使徒 ﷺ の同盟者を襲い、それによってフダイビーヤの和約は**クライシュ族の側から破棄された**ということです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アル＝ワーキディー『遠征記（マガーズィー）』。

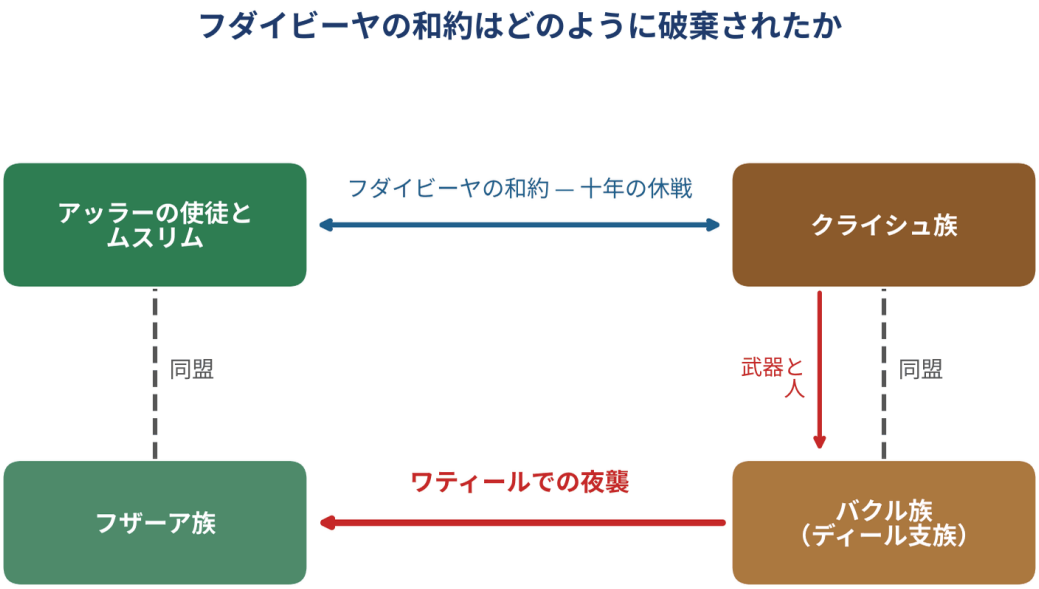


図 3：フダイビーヤの和約はどのように破棄されたか。

裏切りを始めたのは**クライシュ族の側**であり、ムスリムではなかったことに注目してください。二年近くの間、アッラーの使徒 ﷺ はすべての条件を守られました — アブー・ジャンダルとアブー・バスィールを送り返すという苦い条件さえも（第 15 巻）。今、和約はクライシュ族自身の手で引き裂かれたのです。

破られた盟約

クルアーンは、盟約を破る民についての規定を述べています。「**だがもしかれらが誓約の後にその誓いを破り……**」（悔悟章 9:12） — 『イブン・カスィール注釈』9:12。

そして次の節は、まるでクライシュ族をそのまま描いているかのようです。「**誓いを破り、使徒を追放しようと企て、しかも先にあなたがたを攻撃した民と、あなたがたはなぜ戦わないのか。**」（悔悟章 9:13） — 『イブン・カスィール注釈』9:13。

イブン・カスィールは、一部の学者がこの節を、クライシュ族がバクル族を助けてアッラーの使徒 ﷺ の同盟者フザーア族と戦わせたことによる盟約破棄に結びつけていると述べています。三つの特徴が挙げられています。誓いを破ること、使徒を追放しようと企てること、そして敵対を始めること — その三つともクライシュ族にありました。

イスラームにおいて約束を裏切ることは**大罪**であり、それを犯す者は審判の日に全人類の前で辱められます。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3188 番

حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادٌ، عَنْ أَيُّوبَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ سَمِعْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ لِكُلِّ غَادِرٍ لِوَاءٌ يُنْصَبُ لِغَدْرَتِهِ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ はこう仰せられました。「**すべての裏切り者（約束を破る者）には、審判の日、その裏切りのゆえに一本の旗が立てられる。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：スライマーン・ブン・ハルブ ← ハンマード・ブン・ザイド ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』人頭税と休戦の書、裏切り者の罪の章、ハディース第 3188 番；ムスリム第 1735 番にも。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：375 / 522

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3188

このハディースの教訓

アラブの時代、何かを告知するときには市場に旗が立てられました。このハディースは、裏切り者の罪が**すべての被造物の前で**告げ知らされる様子を描いています。学者たちは、この裏切りの禁止は非ムスリムとの約束にも及ぶと説明しています — だからこそアッラーの使徒 ﷺ は、クライシュ族が敵であっても、決して先に裏切ることはされなかったのです。

アムル・ブン・サーリムの訴え

襲撃の知らせはすぐにマディーナに届きました。フザーア族は、同盟者に助けを求めるのに時間をかけませんでした。

スィーラの注：「主よ、わたしはムハンマドに呼びかける……」

イブン・イスハークは、**アムル・ブン・サーリム・アル＝フザーイー**が馬でマディーナへ行き、モスクに座っておられたアッラーの使徒 ﷺ の前に立ち、長い詩を朗誦したと伝えています。冒頭の数節の意味は次のとおりです。**「主よ、わたしはムハンマドに呼びかける — われらの同盟と、その父祖の古い同盟を（思い起こさせつつ）……クライシュ族はあなたとの約束を破り、固められたあなたの盟約を反故にした……彼らは眠っているわれらをワティールで襲い、ルクーウとサジダの最中にわれらを殺した。」**

アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。**「アムル・ブン・サーリムよ、おまえは助けられるだろう。」**それから空に雲が現れ、使徒は「この雲はカアブ族（フザーア族）への助けを運んでいる」と仰せられました。

この伝承は**スィーラ書で有名**であり、ハディース学者たちはその伝承経路を論じています。その経路の一部は、他の伝承の裏づけによって、何人かの学者からハサン（良好）と評価されています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。
アル＝バイハキー『預言者性の証拠』。

詩の中の**「ルクーウとサジダの最中に」**という言葉は、犠牲者の一部が**ムスリム**であったことを示しています。したがってその襲撃は、単なる盟約違反ではなく、ムスリムの血への侵害でもあったのです。

アムルの後には**ブダイル・ブン・ワルカー**がフザーア族の数人とともに来て、彼らに起こったこと、そしてクライシュ族がどのようにバクル族を助けたかを語りまし

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

た。アッラーの使徒 ﷺ は注意深く耳を傾けられ — その瞬間から、決断は下されていたのです。

マディーナのアブー・スフヤーン

クライシュ族はすぐに自分たちの過ちに気づきました。彼らは指導者**アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ**をマディーナに送り、和約を**更新し延長**しようとしました。アッラーの使徒 ﷺ が行動を起こされる前に。

スィーラの注：たたまれた敷物

イブン・イスハークは、アブー・スフヤーンがまず自分の娘**ウンム・ハビーバ** رضي الله عنها、すなわちアッラーの使徒 ﷺ の妻の家に入ったと伝えています。彼がアッラーの使徒 ﷺ の敷物に座ろうとすると、ウンム・ハビーバはすぐにそれをたたみました。アブー・スフヤーンは尋ねました。「娘よ、おまえはこの敷物がわたしにふさわしくないと思うのか、それともわたしがこの敷物にふさわしくないと思うのか。」彼女は答えました。「**これはアッラーの使徒 ﷺ の敷物です。あなたは多神教徒です。**」

それからアブー・スフヤーンはアッラーの使徒 ﷺ に会いましたが、使徒は答えられませんでした。彼はアブー・バクル、ウマル、アリー、ファーティマ رضي الله عنهم に会って仲介を頼みましたが — 皆断りました。ウマルは言いました。「アッラーにかけて、もしわたしに蟻しかなくても、それでおまえたちと戦うだろう。」ついにアブー・スフヤーンはモスクに立ち、一方的に人びとの間の保護を宣言して、手ぶらでマッカに帰りました。

この話は**スィーラ書の伝承**で、連続した伝承経路はありませんが、歴史家の間でたいへんよく知られています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

ウンム・ハビーバの話は、血のつながりを超える**信仰への忠誠**を教えています。彼女は父を敬う娘であり続けましたが、**決して譲らなかった**のはアッラーの使徒 ﷺ の尊厳であり、それを父のために犠牲にすることはありませんでした。その数日後、父自身がマッル・アッ＝ザフラーンでイスラームに入信したのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウンム・ハビーバ：アビシニアからの妻

たたまれた敷物の話は、一人のすばらしい女性を紹介してくれます。**ウンム・ハビーバ・ラムラ・ビント・アビー・スフヤーン** رضي الله عنها、信者たちの母です。彼女はイスラームの敵の指導者の娘でしたが、マッカで**最も早く**イスラームに入信した人びとの一人でした。

スィーラの注：アビシニアからの妻

ウンム・ハビーバは夫ウバイドゥッラー・ブン・ジャフシュとともに**アビシニア**へ移住しました。そこで夫はイスラームを捨ててキリスト教徒となり、やがて亡くなりました。ウンム・ハビーバは娘ハビーバとともに異国にひとり残されましたが、イスラームを堅く守り続けました。

アッラーの使徒 ﷺ はその後、マディーナから彼女に求婚されました。**ナジャーシー王**が使徒に代わって彼女を嫁がせ、四千ディルハムのマフル（婚資）を支払い、シュラフビール・ブン・ハサナとともに彼女をアッラーの使徒 ﷺ のもとへ送り届けました。ナジャーシーによるこの結婚とマフルは『スナン・アビー・ダーウード』2107 に伝えられています（アル＝アルバーニーはサヒーフと評価）。夫についての詳細は**スィーラ書の伝承**です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』— ウンム・ハビーバ・ビント・アビー・スフヤーンの伝記。

ウンム・ハビーバは**ハディースの伝承者**でもありました。彼女が伝えたハディースの一つは、ラワーティブ（定めの任意礼拝）についてのものです。「**一昼夜に十二ラクアを礼拝する者には、楽園に一軒の家が建てられる。**」そして彼女は言いました。「**わたしはアッラーの使徒 ﷺ からそれを聞いて以来、一度も欠かしたことがありません。**」（『サヒーフ・ムスリム』728）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

何年も後、父アブー・スフヤーンが — ムスリムとして — 亡くなったとき、ウンム・ハビーバは三日目に香をつけ、アッラーの使徒 ﷺ がこう仰せられるのを聞いたと言いました。信仰する女性は、夫の死を除き、三日を超えて喪に服してはならない、と（『サヒーフ・ブハーリー』1280）。父への愛は変わらずありましたが、**シャリーアが優先された**のです。

教訓：**人の信仰は家族によって決まるのではない**。ウンム・ハビーバは多神教徒の指導者の娘であり、背教した男の妻であり、異国でひとりきりでした — それでもアッラーは彼女を**信者たちの母**として尊ばれました。そして父のための彼女の祈りはついに聞き届けられ、アブー・スフヤーンはマッカ征服の年にイスラームに入信したのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

約束を守り、裏切りに報いる

戦場へ踏み出す前に、盟約の扱いに関する**イスラームの原則**を理解しておくことが大切です。イスラームは、たとえ敵との間であっても、ムスリムが気ままに盟約を破ることを許していません。

アッラーは仰せられます。「**あなたがたが誓いを固めた後、それを破ってはならない。**」（蜜蜂章 16:91） — 『イブン・カスィール注釈』16:91。

そして相手側の裏切りが恐れられるときには、イスラームは率直さを教えます。「**（その盟約を）公平に、はっきりとかれらに投げ返せ。**」（戦利品章 8:58） — 『イブン・カスィール注釈』8:58。

マッカ征服の場合、状況は異なっていました。クライシュ族は**自ら盟約を破っていた**のです。アッラーの使徒 ﷺ の同盟者への襲撃を助けたことによって。したがって盟約は彼らの側から無効となり、アッラーの使徒 ﷺ はもはやそれに縛られていませんでした。イブン・アル＝カイイムは『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』で、盟約を結んだ側がそれを破るか、わたしたちの同盟者と戦う者を助けた場合、その盟約は改めて宣言するまでもなく無効になると説明しています。

教訓：イスラームは**約束を重んじる**宗教です。マッカ征服の勝利は裏切りの上にではなく、**正義**の上に築かれました — クライシュ族は自らまいた種を刈り取ったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

秘密裏の準備

アッラーの使徒 ﷺ は出発の準備を始められましたが、人びとに**目的地を告げることはありませんでした**。使徒は、クライシュ族が準備を整える前にマッカに着き、流血をできるかぎり避けたいと望まれたのです。使徒は仰せられました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3030 番

حَدَّثَنَا صَدَقَةُ بْنُ الْفَضْلِ، أَخْبَرَنَا ابْنُ عُيَيْنَةَ، عَنْ عَمْرٍو، سَمِعَ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم الْحَرْبُ خُدْعَةٌ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ はこう仰せられました。「**戦いとは策略（戦略）である。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：サダカ・ブン・アル＝ファドル ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、戦いは策略である の章、ハディース第 3030 番；ムスリム第 1739 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3030

このハディースの教訓

「**戦いとは策略である**」とは、戦いにおける戦略、秘密保持、計略が許されるという意味であり — 約束の裏切りではありません。学者たちは、**フドア**（正当な戦いの計略）と、禁じられた**ガドル**（約束の破棄）とを区別しています。アッラーの使徒 ﷺ は通常、戦いに出ようとされるとき、別の目的地を口にして**向かう先を隠されました**（『サヒーフ・ブハーリー』2947）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：秘密を守るための祈り

イブン・イスハークは、アッラーの使徒 ﷺ がこう祈られたと伝えています。「**アッラーよ、クライシュ族から密偵と知らせを遮ってください。わたしたちが彼らの地で彼らを不意に襲うまで。**」スィーラ書はまた、使徒が**アブー・カターダ**の率いる小部隊を別の方角のバトン・イダムへ送り、人びとに目的地がマッカではないと思わせたと述べています。

そのどちらも**スィーラ書の伝承**です。その一般原則を裏づける真正なハディースは、「戦いとは策略である」のハディースと、使徒が目的地を隠された慣行です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・サアド『大列伝』（アブー・カターダのバトン・イダムへの遠征）。

戦いにおけるアッラーの使徒 ﷺ

アッラーの使徒 ﷺ は、当時のアラブ史上最大の軍を整えられました。しかしこの軍は、何をしてもよい軍ではありませんでした。アッラーとその使徒が教えた**戦いの作法**に縛られていたのです。アッラーは仰せられます。

「あなたがたに戦いを挑む者があれば、アッラーの道のために戦え。だが侵略的であってはならない。」（雌牛章 2:190） — 『イブン・カスィール注釈』2:190。

ブライダ رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ が軍の指揮官を任命されるとき、アッラーを畏れ、配下の者たちに善くするよう命じられ、それからこう仰せられたと伝えています。**「アッラーの御名において、アッラーの道のために戦え……戦え。だが戦利品を盗むな。約束を裏切るな。死体を損壊するな。子どもを殺すな。」**（『サヒーフ・ムスリム』1731）

イブン・ウマル رضي الله عنهما はまた、ある戦いで一人の女性が殺されているのが見つかったとき、アッラーの使徒 ﷺ が**女性と子どもの殺害を禁じられた**と伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』3015）。イスラームは、近代の諸条約より十四世紀も前に、戦時における民間人の保護を定めていたのです。

敵への憎しみでさえ、正義を妨げてはなりません。**「人びとを憎むあまり、あなたがたが公正を欠くようなことがあってはならない。」**（食卓章 5:8） — 『イブン・カスィール注釈』5:8。

これらの原則こそ、マッカ征服が**ほとんど流血のない**町の開放となった理由を説明しています。アッラーの使徒 ﷺ の目的は、かつて自分を追い出した町への復讐ではなく、その住民の**心を開く**ことでした。秘密保持、マッル・アッ＝ザフラーンのたき火、そして安全の申し出は、すべて戦いを求めるためではなく、避けるためのものだったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

髪の中の手紙

その秘密はあやうく漏れるところでした — 敵によってではなく、**バドルに参戦した一人の教友**によって。ハーティブ・ブン・アビー・バルタアは、アッラーの使徒 ﷺ の準備をクライシュ族に知らせる手紙を書き、マッカへ運ばせるため一人の女性に託しました。しかしアッラーはその使徒にお知らせになったのです。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4274 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ عَمْرِو بْنِ دِينَارٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي الْحَسَنُ بْنُ مُحَمَّدٍ، أَنَّهُ سَمِعَ عُبَيْدَ اللَّهِ بْنَ أَبِي رَافِعٍ، يَقُولُ سَمِعْتُ عَلِيًّا ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ بَعَثَنِي رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَنَا وَالزُّبَيْرَ وَالْمِقْدَادَ فَقَالَ انْطَلِقُوا حَتَّى تَأْتُوا رَوْضَةَ خَاخٍ، فَإِنَّ بِهَا ظَعِينَةً مَعَهَا كِتَابٌ، فَخُذُوا مِنْهَا. قَالَ فَانْطَلَقْنَا تَعَادَى بِنَا خَيْلُنَا حَتَّى أَتَيْنَا الرَّوْضَةَ، فَإِذَا نَحْنُ بِالظَّعِينَةِ قُلْنَا لَهَا أَخْرِجِي الْكِتَابَ. قَالَتْ مَا مَعِي كِتَابٌ. فَقُلْنَا لَتُخْرِجِنَّ الْكِتَابَ أَوْ لَنُلْقِيَنَّ الثِّيَابَ، قَالَ فَأَخْرَجَتْهُ مِنْ عِقَاصِهَا، فَأَتَيْنَا بِهِ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَإِذَا فِيهِ مِنْ حَاطِبِ بْنِ أَبِي بَلْتَعَةَ إِلَى نَاسٍ بِمَكَّةَ مِنَ الْمُشْرِكِينَ، يُخْبِرُهُمْ بِبَعْضِ أَمْرِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَا حَاطِبُ مَا هَذَا. قَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ لاَ تَعْجَلْ عَلَىَّ، إِنِّي كُنْتُ امْرَأً مُلْصَقًا فِي قُرَيْشٍ ـ يَقُولُ كُنْتُ حَلِيفًا وَلَمْ أَكُنْ مِنْ أَنْفُسِهَا ـ وَكَانَ مَنْ مَعَكَ مِنَ الْمُهَاجِرِينَ مَنْ لَهُمْ قَرَابَاتٌ، يَحْمُونَ أَهْلِيهِمْ وَأَمْوَالَهُمْ، فَأَحْبَبْتُ إِذْ فَاتَنِي ذَلِكَ مِنَ النَّسَبِ فِيهِمْ أَنْ أَتَّخِذَ عِنْدَهُمْ يَدًا يَحْمُونَ قَرَابَتِي، وَلَمْ أَفْعَلْهُ ارْتِدَادًا عَنْ دِينِي، وَلاَ رِضًا بِالْكُفْرِ بَعْدَ الإِسْلاَمِ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَمَا إِنَّهُ قَدْ صَدَقَكُمْ. فَقَالَ عُمَرُ يَا رَسُولَ اللَّهِ دَعْنِي أَضْرِبْ عُنُقَ هَذَا الْمُنَافِقِ. فَقَالَ إِنَّهُ قَدْ شَهِدَ بَدْرًا، وَمَا يُدْرِيكَ لَعَلَّ اللَّهَ اطَّلَعَ عَلَى مَنْ شَهِدَ بَدْرًا قَالَ اعْمَلُوا مَا شِئْتُمْ فَقَدْ غَفَرْتُ لَكُمْ. فَأَنْزَلَ اللَّهُ السُّورَةَ {يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لاَ تَتَّخِذُوا عَدُوِّي وَعَدُوَّكُمْ أَوْلِيَاءَ تُلْقُونَ إِلَيْهِمْ بِالْمَوَدَّةِ} إِلَى قَوْلِهِ {فَقَدْ ضَلَّ سَوَاءَ السَّبِيلِ}.

訳：

アリー رضى الله عنه は語りました。アッラーの使徒 ﷺ は、わたしとアッ＝ズバイルとアル＝ミクダードを遣わして仰せられました。「**ラウダト・ハーフまで行け。そこに乗り物に乗った女がいて、一通の手紙を持っている。それを彼女から取り上げよ。**」わたしたちは出発し、馬を全速で駆けさせてその園に着きました。すると、その女がいました。わたしたちは「手紙を出せ！」と言いました。彼女は「手紙など持っていません」と言いました。わたしたちは「手紙を出すか、さもなければおまえの衣を脱がせるぞ」と言いました。すると彼女は髪の束の中からそれを取り出しました。わたしたちはその手紙をアッラーの使徒 ﷺ のもとへ持って行きました。なんとそれは**ハーティブ・ブン・アビー・バルタア**からマッカの多神教徒の何人かに宛てたもので、アッラーの使徒 ﷺ の事柄の一部を彼らに知らせていました。アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**ハーティブよ、これは何か。**」ハーティブは答えました。「アッラーの使徒よ、わたしに対して急がないでください。わたしはクライシュ族の中に（同盟者として）身を寄せる者で、彼らの血筋ではありません。あなたとともにいる移住者たちには、マッカに家族と財産を守ってくれる親族がいます。そこでわたしは—彼らと血のつながりがないので—彼らに恩を売り、わたしの親族を守ってもらいたいと思ったのです。**わたしは不信仰ゆえにしたのではなく、自分の宗教から背いたからでもなく、イスラームの後に不信仰を良しとしたからでもありません。**」アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**彼はあなたがたに真実を語った。**」ウマルは言いました。「アッラーの使徒よ、この偽信者の首をはねさせてください。」使徒は仰せられました。「**彼はバドルに参戦した。あなたに何がわかろう。アッラーはバドルの人びとをご覧になり、『あなたがたの望むことをせよ。われはすでにあなたがたを赦した』と仰せられたのかもしれない。**」そこでアッラーは章を啓示されました。「あなたがた信仰する者よ、わが敵であり、またあなたがたの敵である者を親しい友としてはならない……」から「……かれは正しい道から迷い去ったのである。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← アル＝ハサン・ブン・ムハンマド・ブン・アル＝ハナフィーヤ ← ウバイドゥッラー・ブン・アビー・ラーフィウ ← アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：387 / 522

参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、マッカ征服の遠征の章、ハディース第 4274 番；第 3007、3983、4890 番にも；ムスリム第 2494 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4274

このハディースの教訓

このハディースには**奇跡**が含まれています。アッラーの使徒 ﷺ は、密偵もなしに、その女のいる場所、乗り物、運んでいる手紙を知っておられたのです。別の伝承でアリーは言っています。「**アッラーの使徒 ﷺ はわたしたちに嘘を言われたことはない**」（『サヒーフ・ブハーリー』3983）— 使徒の知らせへの全き信頼です。

また**アッラーの使徒 ﷺ** の公正さにも注目してください。使徒はハーティブをすぐに罰することはされず、まずこう尋ねられました。「**ハーティブよ、これは何か。**」使徒は彼の言い分を聞き、その真実を受け入れ、ウマルの提案を退けられました。指導者は、理解する前に罰することはしないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハーティブ・ブン・アビー・バルタアとは誰か

ハーティブ・ブン・アビー・バルタア رضي الله عنه とは誰だったのでしょうか。彼は偽信者ではなく、イスラームに**大きな功績**のある教友でした。

スィーラの注：ハーティブの生涯

ハーティブはラフム族の出身で、マッカでは**アサド・ブン・アブドゥル・ウッザー家の同盟者**でした。早くにイスラームに入信してマディーナへ移住し、**バドルの戦いに参戦**し、フダイビーヤにも加わりました。彼はまた**アッラーの使徒 ﷺ からアル＝ムカウキスへの使者**でもありました。エジプトの統治者（第 17 巻）で、マーリヤ・アル＝キブティーヤを含む贈り物を持ち帰ったのです。

彼の妻と子どもたちは、親族の保護者もないままマッカに残っていました。これが彼に手紙を書かせたのです — **家族を案じて**であり、自分の宗教を疑ったからではありません。彼はヒジュラ暦 30 年にマディーナで亡くなりました。

参照：

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』— ハーティブ・ブン・アビー・バルタアの伝記。

ウィキペディア「Hatib ibn Abi Balta'a」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hatib_ibn_Abi_Balta%27a

ハーティブの話は、**善い人でさえ過ちを犯しうる**ことを示しています。とくに家族への愛が判断を支配するときには。イスラームはその愛を否定しませんが、アッラーとその使徒への愛の下に置くのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

試問される女章

ハーティブの出来事は、上のアリーのハディースにあるとおり、**試問される女章**の冒頭が啓示されるきっかけとなりました。その最初の節はこう始まります。

「あなたがた信仰する者よ、わが敵であり、またあなたがたの敵である者を親しい友としてはならない。」（試問される女章 60:1） — 『イブン・カスィール注釈』60:1。

イブン・カスィールは、この節がハーティブについて啓示されたこと、そしてアッラーがなお彼を「**あなたがた信仰する者よ**」と呼びかけておられることを説明しています — 彼の行為は大きな過ちであっても、彼を信仰から外すものではなかったという印です。この節はまた、使徒とムスリムを追い出した敵は、愛情と秘密を注ぐ相手にふさわしくないことを思い起こさせます。

しかし同じ章は、敵対しない非ムスリムへの公正をも強調しています。**「アッラーは、宗教のことであなたがたに戦いを仕掛けなかった者たちに、親切を尽くし、公正に交わることを禁じられない。」**（試問される女章 60:8） — 『イブン・カスィール注釈』60:8。

この二つの節は**均衡**を与えています。ウンマに忠実であり、戦いを仕掛ける敵にその秘密を漏らさないこと。しかし、イスラームに敵対しない者には誰に対しても**親切と公正**を尽くすことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドルの人々と赦しの門

ウマル رضى الله عنه はハーティブの行為を、死罪に値する裏切りと見ました。しかしアッラーの使徒 ﷺ は、一つの過ちだけでなく、ハーティブの**生涯の全体**をご覧になったのです。ジャービル رضى الله عنه は、ハーティブの立場を強めるもう一つの出来事を伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2495 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا لَيْثٌ، ح وَحَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ رُمْحٍ، أَخْبَرَنَا اللَّيْثُ، عَنْ أَبِي الزُّبَيْرِ، عَنْ جَابِرٍ، أَنَّ عَبْدًا، لِحَاطِبٍ جَاءَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَشْكُو حَاطِبًا فَقَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ لَيَدْخُلَنَّ حَاطِبٌ النَّارَ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم كَذَبْتَ لاَ يَدْخُلُهَا فَإِنَّهُ شَهِدَ بَدْرًا وَالْحُدَيْبِيَةَ.

訳：

ジャービル رضى الله عنه によれば、ハーティブの奴隷の一人がアッラーの使徒 ﷺ のもとへ来てハーティブのことを訴え、「アッラーの使徒よ、ハーティブはきっと地獄に入ります」と言いました。アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**おまえは嘘を言っている。彼はそこに入らない。**彼はバドルとフダイビーヤに参加したのだから。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← アル＝ライス・ブン・サアド；また ムハンマド・ブン・ルムフ ← アル＝ライス・ブン・サアド ← アブー・アッ＝ズバイル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』教友の美徳の書、ハーティブ・ブン・アビー・バルタアとバドルの人びとの美徳の章、ハディース第 2495 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2495

このハディースの教訓

学者たちは、「**あなたがたの望むことをせよ。われはすでにあなたがたを赦した**」という御言葉は罪を犯す許可ではなく、バドルの人びとが悔悟へと導かれ、赦され

るという**吉報**であると説明しています。『サヒーフ・ブハーリー』3983 の伝承では、ウマルはその御言葉を聞くと**目から涙があふれ**、「アッラーとその使徒が最もよくご存じです」と言いました。

この話の大きな教訓：**大きな善行は過ちを覆いうる**。アッラーは、善行は悪行を消し去ると仰せられています（フード章 11:114）。わたしたちもまた、一つの過ちだけで裁くのではなく、兄弟の**善行の歴史**を見て評価すべきなのです。

ラマダーン月の一万の軍勢

ヒジュラ暦 8 年のラマダーン月、アッラーの使徒 ﷺ は、当時アラビア半島がかつて見たこともない最大の軍を率いてマディーナを出発されました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4276 番

حَدَّثَنِي مَحْمُودٌ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، أَخْبَرَنِي مَعْمَرٌ، قَالَ أَخْبَرَنِي الزُّهْرِيُّ، عَنْ عُبَيْدِ اللَّهِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم خَرَجَ فِي رَمَضَانَ مِنَ الْمَدِينَةِ، ومعه عَشَرَةُ آلاَفٍ، وَذَلِكَ عَلَى رَأْسِ ثَمَانِ سِنِينَ وَنِصْفٍ مِنْ مَقْدَمِهِ الْمَدِينَةَ، فَسَارَ هُوَ وَمَنْ مَعَهُ مِنَ الْمُسْلِمِينَ إِلَى مَكَّةَ، يَصُومُ وَيَصُومُونَ حَتَّى بَلَغَ الْكَدِيدَ ـ وَهْوَ مَاءٌ بَيْنَ عُسْفَانَ وَقُدَيْدٍ ـ أَفْطَرَ وَأَفْطَرُوا. قَالَ الزُّهْرِيُّ وَإِنَّمَا يُؤْخَذُ مِنْ أَمْرِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الآخِرُ فَالآخِرُ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ はラマダーン月に**一万人を率いて**マディーナを出発されました。それはマディーナに来られてからちょうど八年半のときでした。使徒とともにいたムスリムたちはマッカへ向かって進みました。使徒は斎戒し、彼らも斎戒していましたが、**アル＝カディード** — ウスファーンとクダイドの間の水場 — に着くと、使徒は斎戒を解き、彼らも解きました。（アッ＝ズフリーは言いました：）（規範として）取られるのは、アッラーの使徒 ﷺ の最後の行いである。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：マフムード・ブン・ガイラーン ← アブドゥッラッザーク ← マアマル・ブン・ラーシド ← アッ＝ズフリー ← ウバイドゥッラー・ブン・アブドゥッラー・ブン・ウトバ ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما。

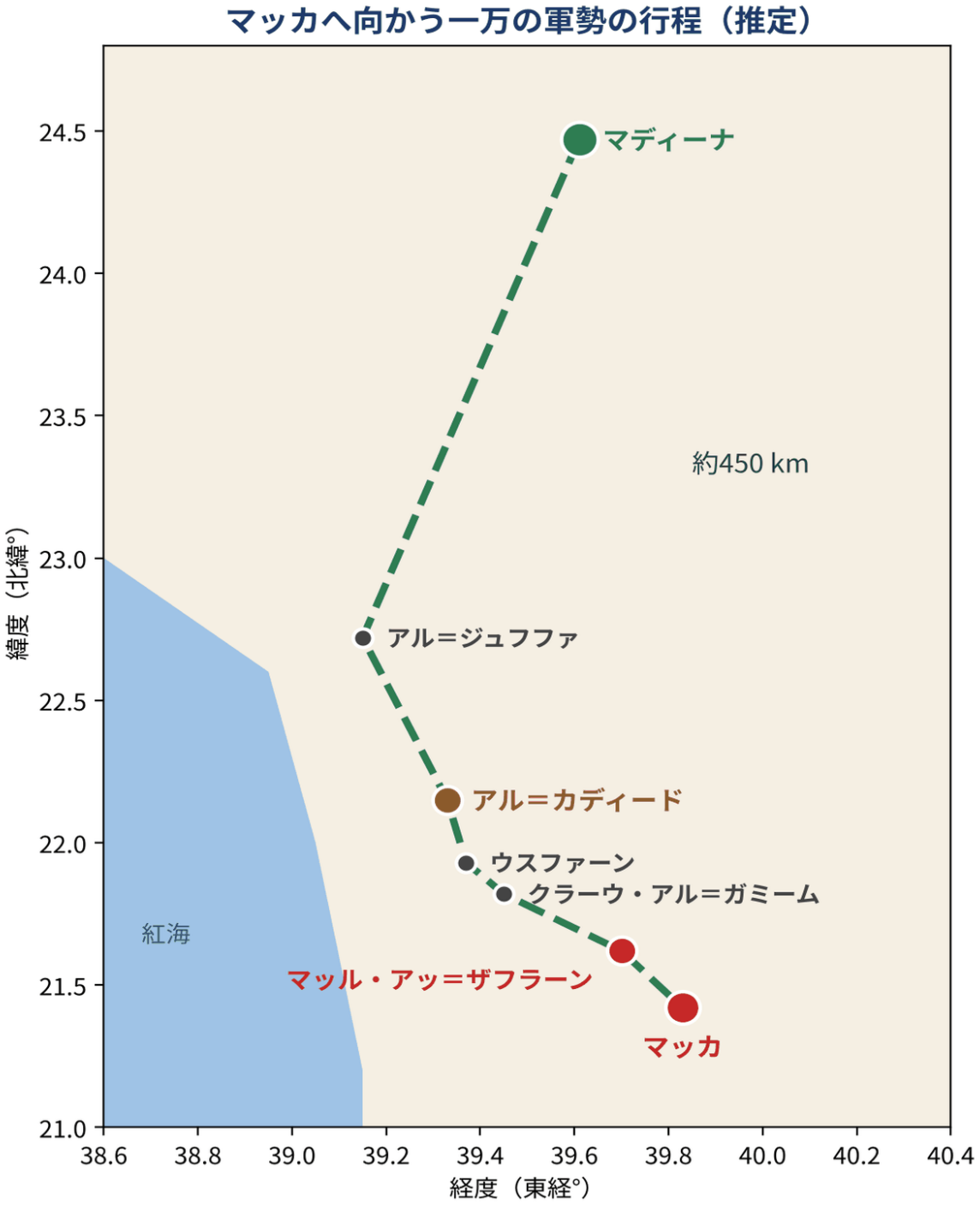
参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ラマダーン月のマッカ征服の章、ハディース第 4276 番；第 4275、1944 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4276

このハディースの教訓

一万人 — 二年前のフダイビーヤの人数の七倍以上です。移住者とアンサールのほかに、**ムザイナ族、ジュハイナ族、アスラム族、ギファール族、スライム族、フザーア族**などの部族が加わりました。スィーラ書は、使徒が**ラマダーン月 10 日**に出発され、**アブー・ルフム・クルスーム・ブン・フサイン・アル＝ギファーリー**をマディーナでの代理に任命されたと述べています。



アル＝カディード、ウスファーン、クラーウ・アル＝ガミーム、マッル・アッ＝ザフラーンは真正なハディースに出てくる地名。位置は推定。

図 4：マッカへ向かう一万の軍勢の行程（推定）。

マディーナからマッカまでは約 ***450 km*** です。軍はアル＝ジュフファ、クダイド、アル＝カディード、ウスファーンを経て、**マッル・アッ＝ザフラーン**へ進みました —

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

マッカの北約 20 km の広い谷で、今日ではワーディー・ファーティマとアル＝ジュムームの地域として知られています。

一万人の人とラクダと馬が、ラマダーン月に、ヒジャーズの照りつける太陽の下で、これほどの距離を進む様子を想像してみてください。それには**高い規律**と周到な指導力が必要でした — 水、食糧、野営の配置、そして秘密保持をすべて管理しなければなりません。そのすべてが整然と進められ、クライシュ族は軍がマッカの門に着くまでその到来に気づかなかったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

旅の途中の斎戒

その行軍は**ラマダーン**月に行われました。アッラーの使徒 ﷺ と教友たちは初め斎戒していました。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は、クラーウ・アル＝ガミームで起こったことを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1114 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَهَّابِ، - يَعْنِي ابْنَ عَبْدِ الْمَجِيدِ - حَدَّثَنَا جَعْفَرٌ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ جَابِرِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ، - رضى الله عنهما - أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَرَجَ عَامَ الْفَتْحِ إِلَى مَكَّةَ فِي رَمَضَانَ فَصَامَ حَتَّى بَلَغَ كُرَاعَ الْغَمِيمِ فَصَامَ النَّاسُ ثُمَّ دَعَا بِقَدَحٍ مِنْ مَاءٍ فَرَفَعَهُ حَتَّى نَظَرَ النَّاسُ إِلَيْهِ ثُمَّ شَرِبَ فَقِيلَ لَهُ بَعْدَ ذَلِكَ إِنَّ بَعْضَ النَّاسِ قَدْ صَامَ فَقَالَ أُولَئِكَ الْعُصَاةُ أُولَئِكَ الْعُصَاةُ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما によれば、アッラーの使徒 ﷺ は征服の年のラマダーン月にマッカへ出発されました。使徒は**クラーウ・アル＝ガミーム**に着くまで斎戒し、人びとも斎戒していました。それから使徒は一杯の水を求め、人びとに見えるように高く掲げて飲まれました。その後、使徒に「一部の人びとはまだ斎戒しています」と告げられると、使徒は仰せられました。「**その者たちは背く者だ。その者たちは背く者だ。**」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝ムサンナー ← アブドゥル・ワッハーブ・ブン・アブドゥル・マジード・アッ＝サカフィー ← ジャアファル・アッ＝サーディク・ブン・ムハンマド ←（その父）ムハンマド・アル＝バーキル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

参照： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』斎戒の書、旅行者がラマダーン月に斎戒することも解くことも許される章、ハディース第 1114a 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1114a

このハディースの教訓

なぜ使徒は斎戒を続けた者たちを「**背く者**」と呼ばれたのでしょうか。イマーム・アン＝ナワウィーはこう説明しています。使徒は敵に立ち向かう力を保つため、斎戒を解くよう**命じておられた**のに、彼らはなお斎戒を続けたからです。普通の状況では旅行者は選ぶことができますが、指導者が戦いの利益のために斎戒を解くよう命じたときは、**服従の方がまさる**のです。

この緩和はアッラーの御言葉に基づいています。「**アッラーはあなたがたに易きを望み、困難を望まれない。**」（雌牛章 2:185） — 『イブン・カスィール注釈』2:185。

このハディースはまた、アッラーの使徒 ﷺ への服従が、追加の崇拝行為のように見える事柄においてさえ優先されなければならないことを示しています。斎戒は良いことですが、使徒がより大きな利益のために斎戒を解くよう命じられたときには、**斎戒を解くことこそが崇拝**なのです。宗教は、自分がより重いと感じることで測るのではなく、アッラーとその使徒が望まれることで測るのです。

「望む者は斎戒せよ」

イブン・アッバース رضي الله عنهما は同じ出来事を別の角度から語り、その規定をまとめています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4279 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، حَدَّثَنَا جَرِيرٌ، عَنْ مَنْصُورٍ، عَنْ مُجَاهِدٍ، عَنْ طَاوُسٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، قَالَ سَافَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي رَمَضَانَ، فَصَامَ حَتَّى بَلَغَ عُسْفَانَ، ثُمَّ دَعَا بِإِنَاءٍ مِنْ مَاءٍ فَشَرِبَ نَهَارًا، لِيُرِيَهُ النَّاسَ، فَأَفْطَرَ حَتَّى قَدِمَ مَكَّةَ. قَالَ وَكَانَ ابْنُ عَبَّاسٍ يَقُولُ صَامَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي السَّفَرِ وَأَفْطَرَ، فَمَنْ شَاءَ صَامَ، وَمَنْ شَاءَ أَفْطَرَ.

訳：

ターウースがイブン・アッバース رضي الله عنهما から伝えるところによれば、彼は言いました。アッラーの使徒 ﷺ はラマダーン月に旅をされ、ウスファーンに着くまで斎戒されました。それから水の入った器を求め、**人びとに見えるように**昼間にそれを飲まれ、マッカに着くまで斎戒されませんでした。イブン・アッバースは言いました。「**アッラーの使徒 ﷺ は（旅の途中で）斎戒されたこともあり、解かれたこともある。だから望む者は斎戒し、望む者は解いてよい。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アブドゥッラー・アル＝マディーニー ← ジャリール・ブン・アブドゥル・ハミード ← マンスール・ブン・アル＝ムウタミル ← ムジャーヒド・ブン・ジャブル ← ターウース・ブン・カイサーン ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضي الله عنهما。

参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ラマダーン月のマッカ征服の章、ハディース第 4279 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4279

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ は昼間**人びとの前で**飲まれました。彼らが後に続く勇気を持てるようにです。これは**手本**による指導です。指導者は緩和を許すだけでなく、自らそれを示して、従う者がそれを取ることに罪悪感を抱かないようにするのです。

イブン・アッバースの結論 — **「望む者は斎戒し、望む者は解く」** — は法学上の規定の基礎となりました。旅行者はラマダーン月の斎戒を解き、別の日に補うことが許されます。斎戒が負担にならなければ続けてもよく、負担となったり重要な務めのために体を弱らせたりするなら、斎戒を解く方がまさるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ラマダーン：勝利の月

スィーラにおける二つの最大の勝利が**ラマダーン**月に起こったのは偶然ではありません。ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月 17 日の**バドルの戦い**と、ヒジュラ暦 8 年ラマダーン月の**マッカ征服**です。クルアーンが下された月は、アッラーがその助けを豊かに注がれる月なのです。

項目	バドルとマッカ征服
月	どちらもラマダーン月
軍の人数	313 人 → 10,000 人
状況	弱く少数 → 強く多数
結果	「識別の日」 → マッカ開放
姿勢 — アッラーの使徒 ﷺ	切実な祈り → 謙虚さと赦し

ラマダーンは**忍耐、敬虔、規律**を教えます。斎戒しながら照りつける太陽の下を進み、斎戒を解くよう命じられると従った軍 — それこそラマダーンが形づくった軍でした。今日のわたしたちにとって、ラマダーンは自らの心を欲望の偶像から「開放」する機会なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

帰るべき所へ

八年前、アッラーの使徒 ﷺ は**追われる身**として夜にマッカを去り、アブー・バクル رضى الله عنه とともにサウルの洞窟に身を隠されました（第 7 巻）。今、使徒は一万人の指導者として帰って来られました。アッラーはこの帰還を初めから約束しておられたのです。

「本当にあなたにクルアーンを（守るよう）定められた方は、必ずあなたを帰るべき所に帰されるであろう。」（物語章 28:85）— 『イブン・カスィール注釈』28:85。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、この節の**「帰るべき所」**（マアード）を**マッカ**と解釈しました（『サヒーフ・ブハーリー』4773）。イブン・カスィールは、一部の学者がこの節は移住の旅の途中、使徒がマッカを恋しく思われたときに啓示されたと考えていると述べています。その約束は八年後、ヒジュラ暦 8 年のラマダーン月に果たされたのです。

アッラーの使徒 ﷺ のマッカへの愛は、マッカの市場アル＝ハズワラに立って語られた言葉に表れています。**「アッラーにかけて、おまえはアッラーの地の中で最も良く、アッラーに最も愛される地だ。もしわたしがおまえから追い出されなかったなら、決して出て行きはしなかった。」**（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3925、アッ＝ティルミズィーはハサン・サヒーフと評価。）

教訓：**アッラーの約束は必ず果たされる。**たとえその時が遠く見えても。真理を守るために追われた者は何も失いません。アッラーはその者が愛するものを、より尊い形で返してくださいます。そしてアッラーがそれを返されたとき、使徒は復讐ではなく**赦し**をもって帰られたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

聖域のためのイブラーヒームの祈り

マッカは普通の町ではありません。それは**預言者イブラーヒーム（彼に平安あれ）の祈り**の上に築かれた町であり、人びとのために建てられた最初の礼拝の館がそこにあります。

「本当に人びとのために最初に建立された家は、バッカ（マッカ）のそれである。」（イムラーン家章 3:96） — 『イブン・カスィール注釈』3:96。

妻と息子イスマーイールをその不毛の谷に残すとき、預言者イブラーヒームは祈りました。**「主よ、この町を安全にしてください。わたしと子孫を偶像崇拝から遠ざけてください。」**（イブラーヒーム章 14:35） — 『イブン・カスィール注釈』14:35。

歴史の皮肉を見てください。イブラーヒームはマッカが**安全**であり、子孫が**偶像から遠ざけられる**よう祈りました。しかし数世紀後、彼が建てたカアバは **360 体の偶像**に囲まれ、彼自身の子孫 — クライシュ族 — がその偶像の守り手となっていたのです。さらに、安全であるはずの地は、聖域でのフザーア族への襲撃によって汚されました。

イブラーヒームはまた、カアバが崇拝の中心となるよう祈りました。**「主よ、（かれらをそこに住まわせたのは）礼拝の務めを守らせるためです。」**（イブラーヒーム章 14:37） — 『イブン・カスィール注釈』14:37。

アッラーの使徒 ﷺ は**イブラーヒームの祈りへの答え**です — 使徒ご自身、父祖イブラーヒームの祈りであると仰せられました（アフマドの伝承）。マッカ征服は、その祈りが完全に聞き届けられた瞬間でした。カアバは偶像から清められ、聖域は再び安全となり、アッラーの館の周りで礼拝が行われたのです。その話は第 21 巻で語られます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アル＝アッバースの移住

行軍の途中、心を打ついくつかの出会いがありました。最初は、アッラーの使徒 ﷺ ご自身の父方のおじ、**アル＝アッバース・ブン・アブドゥル・ムッタリブ** رضى الله عنه との出会いです。

スィーラの注：アル＝ジュフファでの出会い

スィーラの学者たちは、アル＝アッバースが家族とともにマディーナへ**移住**するためマッカを出て、アッラーの使徒 ﷺ に**アル＝ジュフファ**で出会ったと述べています（一部の伝承ではズル・フライファ）。使徒は家族をマディーナへ送り届けるよう命じ、アル＝アッバース自身はマッカへ向かう軍に加わりました。こうして彼は、マッカ開放の前の**最後の移住者**となったのです。

一部の学者は、アル＝アッバースはずっと前にひそかにイスラームに入信しており、アッラーの使徒 ﷺ に知らせを伝えるためマッカにとどまっていたと考えています。これは論じられている**歴史家の見解**です。確かなのは、彼がマッカ征服の前にイスラームを公にしたことです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』— アル＝アッバース・ブン・アブドゥル・ムッタリブの伝記。

アル＝アッバースの存在は非常に重要でした。彼はクライシュ族の中で**高い地位**にあり、アブー・スフヤーンとは古くからの友人だったからです。まもなく、マッル・アッ＝ザフラーンでアブー・スフヤーンとアッラーの使徒 ﷺ との橋渡しをするのは彼なのです。アッラーは物語の一つひとつの断片を、その場所に配されるのです。

教訓：**移住と悔悟の門**は最後の瞬間まで開かれています。アル＝アッバースは最後の瞬間に来ましたが、それでも受け入れられ、尊ばれました。アッラーの使徒 ﷺ は

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

彼をたいへん敬い、人のおじはその父のようなものだと仰せられました（『サヒーフ・ムスリム』983）。

かつて傷つけた二人の親族

二つ目の出会いはさらに心を打つものでした。かつて**最も激しく苦しめた**相手であるアッラーの使徒 ﷺ のもとに、クライシュ族の二人の男がイスラームに入信するためにやって来たのです。使徒のいとこ**アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリス**・ブン・アブドゥル・ムッタリブと、**アブドゥッラー・ブン・アビー・ウマイヤ**、すなわちウンム・サラマ رضى الله عنها の兄弟です。

スィーラの注：ニーク・アル＝ウカーブにて

イブン・イスハークは、二人がアッラーの使徒 ﷺ に**ニーク・アル＝ウカーブ** — マッカとマディーナの間 — で会ったが、使徒は初め、かつての迫害の重さゆえに彼らを受け入れようとされなかったと伝えています。アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスは何年も詩で使徒を嘲っていたのです。ウンム・サラマは願いました。「アッラーの使徒よ、あなたのいとこ、あなたの義理の兄弟です！」

アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه はアブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスにこう助言したと伝えられています。「アッラーの使徒 ﷺ のもとへ正面から行き、ユースフの兄弟たちがユースフに言った言葉を言いなさい。使徒は、自分より言葉の良い者がいることを好まれないから。」彼がそのとおりにすると、アッラーの使徒 ﷺ はユースフ（彼に平安あれ）の答えで答えられました。二人ともイスラームに入信し、アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスはのちに**フナインでアッラーの使徒 ﷺ とともに堅く踏みとどまった**のです。

この話は**スィーラ書の伝承**です。フナインでのアブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスの堅忍は、『サヒーフ・ムスリム』1775 で真正に伝えられています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ユースフの兄弟たちの言葉：「**アッラーにかけて、アッラーは確かにわたしたちよりもあなたを優遇された。**」（ユースフ章 12:91） — 『イブン・カスィール注釈』12:91。

そして、アッラーの使徒 ﷺ が繰り返されたユースフの答え：「**今日あなたがたに咎めはない。**」（ユースフ章 12:92） — 『イブン・カスィール注釈』12:92。

同じ言葉 — 「**今日あなたがたに咎めはない**」 — は、スィーラの伝承によれば、開放の日にアッラーの使徒 ﷺ によってマッカの全住民に向けて再び繰り返されることになります（第 21 巻）。使徒の赦しは、ご自身の親族から始まったのです。

マッル・アッ＝ザフラーンの火

ムスリム軍は、マッカから約一日の行程にある**マッル・アッ＝ザフラーン**に野営しましたが、クライシュ族はまだそれを知りませんでした。アッラーの使徒 ﷺ は各隊に火をたくよう命じられ、谷は**何千ものたき火**で満たされました。ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルは、そこで起こったことを語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4280 番

حَدَّثَنَا عُبَيْدُ بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، قَالَ لَمَّا سَارَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَامَ الْفَتْحِ فَبَلَغَ ذَلِكَ قُرَيْشًا، خَرَجَ أَبُو سُفْيَانَ بْنُ حَرْبٍ وَحَكِيمُ بْنُ حِزَامٍ وَبُدَيْلُ بْنُ وَرْقَاءَ يَلْتَمِسُونَ الْخَبَرَ عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَقْبَلُوا يَسِيرُونَ حَتَّى أَتَوْا مَرَّ الظَّهْرَانِ، فَإِذَا هُمْ بِنِيرَانٍ كَأَنَّهَا نِيرَانُ عَرَفَةَ، فَقَالَ أَبُو سُفْيَانَ مَا هَذِهِ لَكَأَنَّهَا نِيرَانُ عَرَفَةَ. فَقَالَ بُدَيْلُ بْنُ وَرْقَاءَ نِيرَانُ بَنِي عَمْرٍو. فَقَالَ أَبُو سُفْيَانَ عَمْرٌو أَقَلُّ مِنْ ذَلِكَ. فَرَآهُمْ نَاسٌ مِنْ حَرَسِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَدْرَكُوهُمْ فَأَخَذُوهُمْ، فَأَتَوْا بِهِمْ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَسْلَمَ أَبُو سُفْيَانَ، فَلَمَّا سَارَ قَالَ لِلْعَبَّاسِ احْبِسْ أَبَا سُفْيَانَ عِنْدَ خَطْمِ الْجَبَلِ حَتَّى يَنْظُرَ إِلَى الْمُسْلِمِينَ. فَحَبَسَهُ الْعَبَّاسُ، فَجَعَلَتِ الْقَبَائِلُ تَمُرُّ مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم تَمُرُّ كَتِيبَةً كَتِيبَةً عَلَى أَبِي سُفْيَانَ، فَمَرَّتْ كَتِيبَةٌ قَالَ يَا عَبَّاسُ مَنْ هَذِهِ قَالَ هَذِهِ غِفَارُ. قَالَ مَا لِي وَلِغِفَارَ ثُمَّ مَرَّتْ جُهَيْنَةُ، قَالَ مِثْلَ ذَلِكَ، ثُمَّ مَرَّتْ سَعْدُ بْنُ هُذَيْمٍ، فَقَالَ مِثْلَ ذَلِكَ، وَمَرَّتْ سُلَيْمٌ، فَقَالَ مِثْلَ ذَلِكَ، حَتَّى أَقْبَلَتْ كَتِيبَةٌ لَمْ يَرَ مِثْلَهَا، قَالَ مَنْ هَذِهِ قَالَ هَؤُلاَءِ الأَنْصَارُ عَلَيْهِمْ سَعْدُ بْنُ عُبَادَةَ مَعَهُ الرَّايَةُ. فَقَالَ سَعْدُ بْنُ عُبَادَةَ يَا أَبَا سُفْيَانَ الْيَوْمَ يَوْمُ الْمَلْحَمَةِ، الْيَوْمَ تُسْتَحَلُّ الْكَعْبَةُ. فَقَالَ أَبُو سُفْيَانَ يَا عَبَّاسُ حَبَّذَا يَوْمُ الذِّمَارِ. ثُمَّ جَاءَتْ كَتِيبَةٌ، وَهْىَ أَقَلُّ الْكَتَائِبِ، فِيهِمْ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَصْحَابُهُ، وَرَايَةُ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مَعَ الزُّبَيْرِ بْنِ الْعَوَّامِ، فَلَمَّا مَرَّ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِأَبِي سُفْيَانَ قَالَ أَلَمْ تَعْلَمْ مَا قَالَ سَعْدُ بْنُ عُبَادَةَ قَالَ مَا قَالَ. قَالَ كَذَا وَكَذَا. فَقَالَ كَذَبَ سَعْدٌ، وَلَكِنْ هَذَا يَوْمٌ يُعَظِّمُ اللَّهُ فِيهِ

الْكَعْبَةَ، وَيَوْمٌ تُكْسَى فِيهِ الْكَعْبَةُ. قَالَ وَأَمَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَنْ تُرْكَزَ رَايَتُهُ بِالْحَجُونِ. قَالَ عُرْوَةُ وَأَخْبَرَنِي نَافِعُ بْنُ جُبَيْرِ بْنِ مُطْعِمٍ قَالَ سَمِعْتُ الْعَبَّاسَ يَقُولُ لِلزُّبَيْرِ بْنِ الْعَوَّامِ يَا أَبَا عَبْدِ اللَّهِ، هَا هُنَا أَمَرَكَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَنْ تَرْكُزَ الرَّايَةَ، قَالَ وَأَمَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَئِذٍ خَالِدَ بْنَ الْوَلِيدِ أَنْ يَدْخُلَ مِنْ أَعْلَى مَكَّةَ مِنْ كَدَاءٍ، وَدَخَلَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مِنْ كُدًا، فَقُتِلَ مِنْ خَيْلِ خَالِدٍ يَوْمَئِذٍ رَجُلاَنِ حُبَيْشُ بْنُ الأَشْعَرِ وَكُرْزُ بْنُ جَابِرٍ الْفِهْرِيُّ.

訳：

ヒシャームがその父（ウルワ）から伝えるところによれば、彼は言いました。アッラーの使徒 ﷺ が征服の年に出発され、その知らせがクライシュ族に届くと、**アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ、ハキーム・ブン・ヒザーム、ブダイル・ブン・ワルカー**が、アッラーの使徒 ﷺ の知らせを探りに出ました。彼らは進んで**マッル・アッ＝ザフラーン**に着きました。すると彼らは、**アラファの火のようなたき火の数々**を目にしました。アブー・スフヤーンは言いました。「これは何だ。まるでアラファの火のようだ。」ブダイル・ブン・ワルカーは言いました。「これはアムル族（フザーア族）の火だ。」アブー・スフヤーンは言いました。「アムル族はこれより少ない。」すると、アッラーの使徒 ﷺ の見張りの何人かが彼らを見つけ、追って捕らえ、アッラーの使徒 ﷺ のもとへ連れて行きました。**そしてアブー・スフヤーンはイスラームに入信しました。**使徒は出発されるとき、アル＝アッバースに仰せられました。**「アブー・スフヤーンを、馬がひしめく狭い道に引き止めておけ。ムスリムたちを見られるように。」**アル＝アッバースは彼を引き止め、預言者 ﷺ とともにいた諸部族が、部隊ごとにアブー・スフヤーンの前を通り過ぎました。一つの部隊が通ると、彼は尋ねました。「アッバースよ、これは誰だ。」アル＝アッバースは「ギファール族だ」と答えました。彼は「ギファール族とわたしに何の関わりがある」と言いました。次にジュハイナ族が通り、彼は同じように言いました。次にサアド・ブン・フザイム族、彼は同じように言いました。そしてスライム族、彼は同じように言いました。やがて、彼が見たこともないような一つの部隊が来ました。彼は「これは誰だ」と尋ねました。アル＝アッバースは「アンサールだ。旗を持つサアド・ブン・ウバーダが率いている」と答えました。サアド・ブン・ウバーダは

言いました。「アブー・スフヤーンよ、**今日は流血の日だ。今日、カアバ（の不可侵）は解かれる。**」アブー・スフヤーンは言いました。「アッバースよ、この（保護の）日はなんと良い日か。」それから一つの部隊 — 部隊の中で最も小さいもの — が来ました。その中にはアッラーの使徒 ﷺ と教友たちがおり、預言者 ﷺ の旗はアッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワームが持っていました。アッラーの使徒 ﷺ がアブー・スフヤーンの前を通られると、彼は言いました。「サアド・ブン・ウバーダが何と言ったかご存じですか。」使徒は「彼は何と言ったのか」と尋ねられました。彼は「これこれと言いました」と答えました。使徒は仰せられました。「**サアドは誤った。**いや、今日はアッラーがカアバを尊ばれる日であり、カアバにキスワ（覆い布）が掛けられる日である。」アッラーの使徒 ﷺ は、その旗をアル＝ハジューンに立てるよう命じられました。ウルワは言いました。ナーフィウ・ブン・ジュバイル・ブン・ムトイムがわたしに語りました。「わたしは、アル＝アッバースがアッ＝ズバイルにこう言うのを聞いた。『アブー・アブドゥッラーよ、ここがアッラーの使徒 ﷺ があなたに旗を立てるよう命じられた場所だ。』」その日、アッラーの使徒 ﷺ はハーリド・ブン・アル＝ワリードに、カダーを通ってマッカの上手から入るよう命じられ、預言者 ﷺ はクダーを通って入られました。その日、ハーリドの騎兵のうち二人が殺されました。フバイシュ・ブン・アル＝アシュアルとクルズ・ブン・ジャービル・アル＝フィフリーです。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイド・ブン・イスマーイール ← アブー・ウサーマ・ハンマード・ブン・ウサーマ ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← （その父）ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル（ムルサルとして）；またウルワは言った、わたしに語ったのは ナーフィウ・ブン・ジュバイル・ブン・ムトイム ← アル＝アッバース・ブン・アブドゥル・ムッタリブ رضي الله عنه。

参照： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、征服の日に預言者 ﷺ が旗を立てた場所の章、ハディース第 4280 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。冒頭の一部はウルワによるムルサルの伝承であり、他の伝承に裏づけられているためブハーリーに受け入れられた。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4280

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：410 / 522

このハディースの教訓

アブー・スフヤーンはその火を**アラファの火** — 巡礼の季節にアラファの谷を埋め尽くす巡礼者たちの火 — にたとえました。それほど大きな火の海について、彼に思い浮かべられた唯一の比較だったのです。この戦略は、クライシュ族を**畏怖させ**、戦わずに降伏させることを目的としていました — そしてそれによって、双方の命を救ったのです。

ブダイル・ブン・ワルカーの「これはアムル族（フザーア族）の火だ」という言葉にも注目してください。彼自身フザーア族の人でしたが、自分の部族が今や一万の軍の一部となっていることを知らなかったのです。アッラーの使徒 ﷺ の秘密保持はまさに成功していました。

アブー・スフヤーンの入信

ブハーリーのハディースは簡潔にこう述べています。「**そしてアブー・スフヤーンはイスラームに入信した。**」スィーラ書は、その決定的な夜を詳しく述べています。

スィーラの注：天幕の夜 — アッラーの使徒 ﷺ

イブン・イスハークは、アル＝アッバースが**白いラバ** — アッラーの使徒 ﷺ のもの — に乗ってマッカの方へ向かい、クライシュ族に知らせて安全を求めに来させられる誰かに会えないかと願ったと伝えています。彼はアブー・スフヤーンの声を聞きつけ、自分の乗り物の後ろに乗せて、アッラーの使徒 ﷺ の天幕へ連れて行きました。ウマルの天幕の前を通ると、ウマルはアブー・スフヤーンに気づき、彼を殺す許しを得ようと追いかけました。アル＝アッバースは彼のために保護を願いました。

アッラーの使徒 ﷺ はアル＝アッバースに仰せられました。「彼をおまえの天幕に連れて行き、朝になったらわたしのもとに連れて来なさい。」その朝、使徒は尋ねられました。「**アブー・スフヤーンよ、気の毒な者よ、アッラーのほかに神はないと知るべき時がまだ来ないのか。**」アブー・スフヤーンは答えました。「もしアッラーのほかに神がいたなら、わたしを助けたでしょう。」それから使徒はご自身の使徒性について尋ねられました。アブー・スフヤーンは、心にまだ何かが残っていると言いました。ついにアル＝アッバースに促されて、彼は**シャハーダ（信仰告白）**を唱えたのです。

この会話の詳細は**スィーラ書の伝承**です。マッル・アッ＝ザフラーンでのアブー・スフヤーンの入信は、上のブハーリーのハディースで真正に伝えられています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アッラーの使徒 ﷺ の気高い人格を見てください。目の前の男は、何年もウフドとハンダクでクライシュ族を率いた**敵の指導者**でした。それでも使徒は復讐せず、むしろ**救いへと招かれた**のです。スィーラ書はまた、使徒がアブー・スフヤーンに一つ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

の栄誉を与えられたと述べています。彼の家に入る者は安全である、と — これは『サヒーフ・ムスリム』1780 で真正に伝えられており、第 21 巻で詳しく述べます。

ハキーム・ブン・ヒザーム：無駄にならない善行

マッル・アッ＝ザフラーンについてのブハーリーのハディースでは、アブー・スフヤーンは一人で出たのではありません。彼とともにいたのは**ハキーム・ブン・ヒザーム** — 信者たちの母ハディージャ رضى الله عنها の甥であり、クライシュ族で最も尊敬された有力者の一人です。彼もまたマッカ征服の年にイスラームに入信しました。

スィーラの注：カアバの中で生まれた人

イマーム・ムスリムは『サヒーフ』の中で、ハキーム・ブン・ヒザームが**カアバの中で生まれ**、ジャーヒリーヤで六十年、イスラームで六十年生きたと述べています。彼は預言者となられる前からアッラーの使徒 ﷺ の親しい友であり、ザイド・ブン・ハーリサという奴隷を父方のおばハディージャに贈ったことがあります。

カアバの中で生まれたという記述は**イマーム・ムスリムと歴史家の言葉**であり、アッラーの使徒 ﷺ の言葉ではありません。ザイドの話はスィーラ書の伝承です。

参照：

『サヒーフ・ムスリム』売買の書、ハディース第 1532 番の後。

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』— ハキーム・ブン・ヒザームの伝記。

イスラームに入信した後、ハキームはアッラーの使徒 ﷺ に、ジャーヒリーヤの時代に行った善行 — 施し、奴隷の解放、親族の絆を保つこと — について、それに報いがあるかどうかを尋ねました。使徒は答えられました。「**あなたは以前に行った善行とともにイスラームに入ったのだ。**」（『サヒーフ・ブハーリー』1436）。ジャーヒリーヤの時代、彼は百人の奴隷を解放し、百頭のラクダを施しました。イスラームの後も同じことをしたのです（『サヒーフ・ブハーリー』2538）。

ハキームはまた、**自尊心**について大きな教訓を学びました。彼はアッラーの使徒 ﷺ に財を求めて与えられ、また求めてまた与えられました。すると使徒は仰せられました。「**この財は緑で甘美である……上の手は下の手にまさる。**」それ以来ハキームは、アッラーの使徒 ﷺ の後、誰からも何も受け取らないと誓いました — アブー・バ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：414 / 522

クルとウマル رضى الله عنهما の贈り物さえ断ったのです（『サヒーフ・ブハーリー』1472）。

教訓：**善行は決して無駄にならない**。ジャーヒリーヤ時代のハキームの気高い人格は彼をイスラームへ導く橋となり、イスラームはそれを完成させました。わたしたちの周りにも、心が開かれるための一つの「マッル・アッ＝ザフラーンの夜」をただ待っている善い人びとが、どれほど多くいることでしょう。

次々と続く部隊

マッカへ進む前、アッラーの使徒 ﷺ はアル＝アッバースに、馬がひしめく**狭い道**でアブー・スフヤーンを引き止め、ムスリム軍の力を目撃させるよう命じられました。部隊が次々と彼の前を通りました。**ギファール族、ジュハイナ族、サアド・ブン・フザイム族、スライム族** — そしてそのたびにアブー・スフヤーンは「彼らとわたしに何の関わりがある」と言ったのです。

その言葉には深い意味があります。これらの部族はかつてクライシュ族と**何の関わりもなく**、彼らと戦ったこともありませんでした。今、彼らは皆一つの旗の下に来ていたのです — **ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラーのほかに神はなし）**の旗の下に。イスラームは、かつて分裂していた諸部族を一つにしたのです。

部隊	説明
ギファール族	アブー・ザッル・アル＝ギファーリーの部族
ジュハイナ族	マディーナの西の沿岸の部族
サアド・ブン・フザイム族	北方のクダーア系の部族
スライム族	かつてイスラームに敵対した部族
アンサール	サアド・ブン・ウバーダが率いる
部隊：アッラーの使徒 ﷺ	最も小さい部隊；旗はアッ＝ズバイルが持つ

注目すべきことに、アッラーの使徒 ﷺ の部隊は**最も小さいもの**（アカッルハー）でした。偉大な指導者は、周りに最大の部隊を必要としません。その力は、全軍の**信頼**と服従にあるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「アッラーがカアバを尊ばれる日」

アンサールの部隊が通ったとき、その指揮官**サアド・ブン・ウバーダ** رضي الله عنه はアブー・スフヤーンに叫びました。「**今日は殺戮の日だ。今日、カアバ（の不可侵）は解かれる！**」その言葉は、クライシュ族の手による長年の苦しみを思い出した一人の勇士の熱情から出たものでした。

しかしアッラーの使徒 ﷺ はすぐにそれを正されました。「**サアドは誤った。いや、今日はアッラーがカアバを尊ばれる日であり、カアバにキスワが掛けられる日である。**」これこそマッカ征服のメッセージです。復讐ではなく、アッラーの館の**尊厳の回復** — それを偶像から清め、預言者イブラーヒーム（彼に平安あれ）の唯一神信仰に戻すことなのです。

スィーラの注：「今日は慈悲の日」

一部のスィーラ書は、アッラーの使徒 ﷺ がこう仰せられたと伝えています。「**今日は慈悲の日である（アル＝ヤウム・ヤウム・アル＝マルハマ）**」。そして使徒はサアドから旗を取り、その息子**カイス・ブン・サアド**に渡されました。旗がその家族から離れず、サアドが心を痛めないようにするためです。

「慈悲の日」という言葉は**『サヒーフ・ブハーリー』にはありません。**伝承経路が論じられているスィーラの伝承であり、一部の学者は弱いと評価しています。真正な言葉は「アッラーがカアバを尊ばれる日」です。それでも、その意味はマッカ征服の出来事全体と調和しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』— ハディース第 4280 番の注釈。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**英知をもって**過ちを正されました — サアドに恥をかかせず、アンサールの功績を軽んじず、しかし原則においては毅然として。そして使徒

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

は、ご自身の旗をマッカの上手の**アル＝ハジューン**に立てるよう命じられました。

明日、マッカは開かれるのです。

サアド・ブン・ウバーダ：アンサールの指導者

では、**サアド・ブン・ウバーダ** رضى الله عنه — アッラーの使徒 ﷺ に正されたアンサールの旗手 — とは誰だったのでしょうか。マッル・アッ＝ザフラーンでの彼の言葉を、彼の全体を測る物差しにすることはできません。彼はアンサールの最も偉大な人物の一人なのです。

スィーラの注：ハズラジュ族の長

サアド・ブン・ウバーダは**ハズラジュ族の長**であり、第二アカバの誓いでアッラーの使徒 ﷺ に誓いを立てた十二人の代表（ヌカバー）の一人でした。彼は**気前の良さ**で知られ、スィーラの学者たちは、彼の家ではいつも食事がふるまわれ、彼はしばしば多くのスッファの人びとを連れ帰ってもてなしたと述べています。

アッラーの使徒 ﷺ の逝去の後、彼はシャームに移り、ハウラーンで亡くなりました。これらの詳細は**スィーラ書の伝承**です。

参照：

イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』— サアド・ブン・ウバーダの伝記。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、サアドの母が、彼の不在中に亡くなったと伝えています。サアドはアッラーの使徒 ﷺ に、母の名で施しをすれば母の益になるかどうかを尋ねました。使徒はそうだと答えられました。するとサアドは言いました。**「あなたを証人として、わたしの果樹園アル＝ミフラーフを母のための施しといたします。」**（『サヒーフ・ブハーリー』2756）。亡くなった母のために果樹園をまるごと施す — それがサアドの魂でした。

ですから、マッル・アッ＝ザフラーンでのサアドの叫びは、その文脈で理解されなければなりません。二十年にわたりクライシュ族の手によるムスリムの苦しみを目にしてきたアンサールの勇士の熱情です。アッラーの使徒 ﷺ は**その熱情の向きを正された**のであって、消し去られたのではありません — そしてスィーラの伝承によれば、旗はその息子カイスを通じて彼の家族にとどまったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓：**高潔な人でも言葉を誤ることがある。**そして正しい忠告は、その人の尊厳を損ないません。わたしたちは人をその生涯の全体で評価します — アッラーの使徒 ﷺ が、ハーティブをそのバドルで、サアドをその献身で評価されたように。

第一部の物語の典拠

マッカ征服の物語は、二種類の典拠によって伝えられています。その違いを理解することは、**確かなこと**と**伝えられていること**とを区別する助けになります。

出来事	典拠と等級
ハーティブの手紙と試問される女章	『サヒーフ・ブハーリー』4274
一万人とともにラマダーン月に出発	『サヒーフ・ブハーリー』4276
クラーウ・アル＝ガミームで斎戒を解く	『サヒーフ・ムスリム』1114
マッル・アッ＝ザフラーンの火；アブー・スフヤーンの入信	『サヒーフ・ブハーリー』4280
ワティールでの襲撃	スィーラ書（イブン・イスハーク、アル＝ワーキディー）
アムル・ブン・サーリムの詩	スィーラ書；伝承経路は議論あり
マディーナのアブー・スフヤーン	スィーラ書
「今日は慈悲の日」	スィーラの伝承；弱いと評価

物語の主要な枠組み — 盟約の破棄、秘密保持、ハーティブの手紙、ラマダーン月の行軍、マッル・アッ＝ザフラーンの火、そしてアブー・スフヤーンの入信 — は**真正なハディースによって確定しています**。その他の詳細は物語に命を吹き込むものであり、わたしたちはそれをスィーラの伝承として誠実に伝えます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

征服の前と後

マッカ征服は単なる歴史上の出来事ではありません。クルアーンはそれを、人びとの献身を評価する分かれ目とされました。イスラームがまだ弱く数も少ないときに献身した人もいれば、イスラームが勝利し、誰もが群れをなして入ってくるようになってから献身した人もいます。どちらも良いのですが、その位階は同じではありません。

クルアーン：鉄章 57:10

アッラーは仰せられます（意味）：「あなたがたの中で、勝利（ファトフ）の前に財を施し、また戦った者は、（その後の者と）同じではない。かれらは、その後で施し、戦った者よりも位階が高い。だがアッラーは、そのどちらにも最善（の報奨）を約束された。」

参照：鉄章 57:10 — 『イブン・カスィール注釈』57:10。

注釈の注：どの「ファトフ（勝利）」か

注釈学者たちは、この節の「アル＝ファトフ」の意味について意見が分かれています。イブン・カスィールは、学者の多数はそれをマッカ征服とし、アッ＝シャアビーら一部の学者はフダイビーヤの和約 — アッラーが勝利章 48:1 で「明白な勝利」と名づけられたもの — としていると述べています。

どちらの見解も同じ意味をもたらします。困難なときの献身は、容易なときの献身よりも価値が高いということです。この見解は注釈書から引いたものであり、預言者に遡るハディースではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「わたしの教友たちをののしってはならない」

ハディース：ウフド山ほどの黄金

アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه は、ハーリド・ブン・アル＝ワリードとアブドゥッラフマーン・ブン・アウフの間にちょっとした争いがあり、ハーリドがアブドゥッラフマーンをののしったと伝えています。するとアッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「誰もわたしの教友たちをののしってはならない。もしあなたがたの誰かがウフド山ほどの黄金を施したとしても、彼らの誰か一人の一ムッド（ひとすくい）にも、その半分にも及ばない。」

等級：サヒーフ（真正） — 『サヒーフ・ムスリム』2541；『サヒーフ・ブハーリー』3673にも（ハーリドとアブドゥッラフマーンの話には触れずに）。

このハディースは、マッカ征服と合わせて読むととても興味深いものです。ハーリド・ブン・アル＝ワリードは征服の数か月前にイスラームに入信しました（第 18 巻）。一方アブドゥッラフマーン・ブン・アウフは最初にイスラームに入信した八人の一人で、二度移住し、バドルに参戦しました。ハーリドは高潔な教友であり「アッラーの剣」です（第 19 巻） — しかし初期の世代と比べると、彼の献身はイスラームが強くなってからのものでした。アッラーの使徒 ﷺ は、財では追いつけない位階があることを彼に思い起こさせられたのです。

これはまた、アッラーの使徒 ﷺ がハーティブ・ブン・アビー・バルタアのような人びとを、過ちを犯したにもかかわらず、なぜあれほど尊ばれたのかを説明しています（第 12〜15 章）。ハーティブは「征服の前」に献身した人でした — ムスリムがわずか三百人ほどだったときにバドルに参戦したのです。

征服の年にイスラームに入った人びと

多くのクライシュ族の有力者が、征服の年またはその直後にイスラームに入信しました — アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ、ハキーム・ブン・ヒザーム、アブー・

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スフヤーン・ブン・アル＝ハーリス、アブドゥッラー・ブン・アビー・ウマイヤ、そして第二部に登場する多くの人びとです。彼らは温かく迎えられ、地位さえ与えられました。イスラームは遅れて来た者に門を閉ざしません。それでも鉄章の節は、イスラームがまだ見知らぬものであったときにそれを担った初期の世代 — 移住者とアンサール — を重んじるよう教えています。

教訓

善いことが容易で人気のあるものになるまで待ってから加わるのではいけません。困難なときの献身 — モスクの資金がまだ足りないときの寄付、真理がまだ多くの人に受け入れられていないときにそれを擁護すること — は、アッラーのもとでより価値が高いのです。そして後から来た者は、先に来た者を敬うべきです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第一部の人物

第一部の物語には、さまざまな部族の多くの人物が登場します。次の表は、彼らが誰であり、アッラーの使徒 ﷺ とどのような関係にあり、情報の典拠は何かをまとめたものです。親族関係はしばしば誤って伝えられるため、注意深く確認しています。

人物	部族／関係	第一部での役割	典拠
アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ	クライシュ族アブドゥ・シャムス家（ウマイヤ家）；ウンム・ハビーバの父	和約更新のためマディーナへ；マッル・アッ＝ザフラーンで捕らえられ入信	『サヒーフ・ブハーリー』7、4280；スィーラ書
ウンム・ハビーバ（ラムラ・ビント・アビー・スフヤーン）	アブー・スフヤーンの娘；信者たちの母	アッラーの使徒 ﷺ の敷物を父からたたんで遠ざけた	『スナン・アビー・ダーウード』2107；スィーラ書
アムル・ブン・サーリム・アル＝フザーイー	フザーア族（カアブ家）	ワティールの襲撃の後、嘆願の詩を携えてマディーナへ	スィーラ書
ブダイル・ブン・ワルカー	フザーア族	アッラーの使徒 ﷺ に訴えた；のちにマッル・アッ＝ザフラーンでアブー・スフヤーンとともに出た	『サヒーフ・ブハーリー』2731、4280
ナウファル・ブン・ムアーウィヤ・アッ＝ディーリー	ディール家、バクル・ブン・アブドゥ・マナート族（キナーナ族）	ワティールでのフザーア族へのバクル族の襲撃を率いた	スィーラ書
ハーティブ・ブン・アビー・バルタア	ラフム族の出身；アサド・ブン・アブドゥル・ウッザー家（クライシュ族）の同盟者	クライシュ族に手紙を書いた；バドルの人ゆえに赦された	『サヒーフ・ブハーリー』3007、4274

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	部族／関係	第一部での役割	典拠
アリー・ブン・アビー・ターリブ	ハーシム家；いとこ — アッラーの使徒 ﷺ	ラウダト・ハーフでハーティブの手紙を押収するため遣わされた	『サヒーフ・ブハーリー』 3007
アッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワーム	アサド・ブン・アブドゥル・ウッザー家；サフィーヤ・ビント・アブドゥル・ムッタリブの子 — いとこ：アッラーの使徒 ﷺ	アリーとともに手紙を押収；部隊の旗手 — アッラーの使徒 ﷺ	『サヒーフ・ブハーリー』 3007、4280
アル＝ミクダード・ブン・アムル（ブン・アル＝アスワド）	バフラー族（クダーア系）の出身；ズフラ家の同盟者	アリー、アッ＝ズバイルとともにラウダト・ハーフへ	『サヒーフ・ブハーリー』 3007
アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ	ハーシム家；父方のおじ — アッラーの使徒 ﷺ	移住し、アル＝ジュフファで使徒に会う；アブー・スフヤーンを使徒のもとへ連れて行った	『サヒーフ・ムスリム』 983；『サヒーフ・ブハーリー』 4280；スィーラ書
アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリス	ハーシム家；アル＝ハーリス・ブン・アブドゥル・ムッタリブの子 — アッラーの使徒 ﷺ のいとこであり、乳兄弟でもある（ハリーマに授乳された）	ニーク・アル＝ウカーブで悔悟して来た	スィーラ書；『サヒーフ・ムスリム』 1775（フナインにて）
アブドゥッラー・ブン・アビー・ウマイヤ	マフズーム家；アーティカ・ビント・アブドゥル・ムッタリブの子 — アッラーの使徒 ﷺ のいとこ；ウンム・サラマの異母兄弟（父を同じくする）	アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスとともに悔悟して来た	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

人物	部族／関係	第一部での役割	典拠
ハキーム・ブン・ヒザーム	アサド・ブン・アブドゥル・ウッザー家；ハディージャ رضي الله عنها の甥（彼女の兄弟ヒザームの子）	マッル・アッ＝ザフラーンでアブー・スフヤーン、ブダイルとともに出た	『サヒーフ・ブハーリー』4280、1436
サアド・ブン・ウバーダ	ハズラジュ族（サーイダ家）；ハズラジュ族の長	アンサールの旗手；「殺戮の日」のゆえに正された	『サヒーフ・ブハーリー』4280
アブー・ルフム・クルスーム・ブン・フサイン・アル＝ギファーリー	ギファール族	アッラーの使徒 ﷺ の出陣中、マディーナの守りに任命された	スィーラ書（イブン・イスハーク）

スィーラの注：手紙を運んだ女性

真正なハディースでは、ハーティブの手紙を運んだ女性の名は挙げられていません。イブン・イスハークはその名をサーラとし、アブドゥル・ムッタリブ家の一部によって解放された女奴隷（マウラー）で、援助を求めてマディーナに来ていたと述べています。アル＝ワーキディーは別の名を挙げています。この名と詳細はスィーラ書の伝承であり、真正な話の核心には影響しません。

参照：イブン・ヒシャーム『預言者伝』— マッカ征服の章；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』、ハディース第 3007 番の注釈。

教訓

第一部の人物たちは、さまざまな背景から来ています。同盟者、敵、親族、そして教友。過ちを犯した者、遅れて来た者、かつて苦しめた者もいます。アッラーの使徒 ﷺ は一人ひとりにその状況に応じて接せられました — 裏切りには毅然と、過ちには公正に、悔悟した者には寛大に。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：427 / 522

マディーナからマッル・アッ＝ザフラーンまでの地名

第 16 章では、マディーナからマッカへの一万の軍勢の道のりを簡単に述べました。この章では、第一部の物語に出てくる地名 — マッカ南方のワティールから町の外れのアル＝ハジューンまで — を集め、読者がその行程を思い描けるようにします。

ハディース：アル＝カディードまで斎戒された

イブン・アッバース رضي الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がラマダーン月に征服の遠征に出発されたと伝えています。使徒はアル＝カディード — クダイドとウスファーンの間の水場 — に着くまで斎戒し、そこで斎戒を解かれ、その月が終わるまで再び斎戒されませんでした。

等級：サヒーフ（真正） — 『サヒーフ・ブハーリー』4275；『サヒーフ・ブハーリー』1944 にも。

場所	出来事	今日（推定）	典拠
ワティール	バクル族に襲われたフザーア族の水場	マッカの南方；正確な位置は特定できない	スィーラ書；ヤークート『諸国辞典』
ラウダト・ハーフ	運び手の女性からハーティブの手紙が押収された	マッカとマディーナの間、マディーナ寄り	『サヒーフ・ブハーリー』3007；『ファトフ・アル＝バーリー』
アル＝ジュフファ	移住の途中のアル＝アッバースがアッラーの使徒 ﷺ に会った	シャームとエジプトの人びとのミーカート、ラービグ近く	スィーラ書；サウディペディア「Miqat al-Juhfah」

場所	出来事	今日（推定）	典拠
ニーク・アル＝ウカーブ	アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスとアブドゥッラー・ブン・アビー・ウマイヤが悔悟して来た	マッカとマディーナの間の山道；正確な位置は不確か	スィーラ書
クダイド	行軍の途中で軍が通過	ラービグとフライスの間	スィーラ書
アル＝カディード	アッラーの使徒 ﷺ が斎戒を解かれた	クダイドとウスファーンの間の水場	『サヒーフ・ブハーリー』4275、1944
クラーウ・アル＝ガミーム	斎戒を解く；斎戒を続けた者への戒め	ウスファーン近くの谷	『サヒーフ・ムスリム』1114
ウスファーン	アッラーの使徒 ﷺ が人びとに見えるよう昼間に飲まれた	マッカの北、マディーナへの古い道沿いの町	『サヒーフ・ブハーリー』4279
マッル・アッ＝ザフラーン	一万の火；アブー・スフヤーンの入信	ワーディー・ファーティマとアル＝ジュムームの地域、マッカの北西	『サヒーフ・ブハーリー』4280
アル＝ハジューン	アッラーの使徒 ﷺ の旗が立てられた場所	マッカの上手（北部）、アル＝マアラー墓地の近く	『サヒーフ・ブハーリー』4280

地理の注

真正なハディースに出てくる地名は、ラウダト・ハーフ、アル＝カディード、クラーウ・アル＝ガミーム、ウスファーン、マッル・アッ＝ザフラーン、アル＝ハジューンです。その他の地名はスィーラ書に出てきます。今日の地名との対応は、ヤークート・アル＝ハマウィーの『諸国辞典』などの古典的地理書に基づく推定であり、距離は道筋によって異なることがあります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

この道筋のそれぞれの場所に、一つの教訓があります。ラウダト・ハーフでは秘密が守られ、アル＝ジュフファとニーク・アル＝ウカーブでは悔悟の門が開かれ、アル＝カディードとウスファーンでは宗教が容易にされ、マッル・アッ＝ザフラーンでは硬い心が和らげられました。マッカへの旅は、軍の旅である前に、心の旅だったのです。

第一部から得られる法規定

マッカ征服の前の出来事は、単なる物語ではなく、法規定の源でもあります。イマーム・ブハーリー自身、ハーティブの手紙のハディースをジハードの書の「密偵（アル＝ジャースース）」の章に置いており、学者たちがそこから規定を導き出したことを示しています。

ハディース：密偵の章

アリー رضى الله عنه は言いました。アッラーの使徒 ﷺ は、わたしとアッ＝ズバイルとアル＝ミクダードを、一人の女性から一通の手紙を取り上げるためラウダト・ハーフへ遣わされました。その手紙が持って来られると、それはハーティブ・ブン・アビー・バルタアからマッカの多神教徒の何人かに宛てたもので、アッラーの使徒 ﷺ の事柄の一部を彼らに知らせていました。ウマルが彼の首をはねる許しを求めると、使徒は仰せられました。「彼はバドルに参戦した。あなたに何がわかろう。アッラーはバドルの人びとをご覧になり、『あなたがたの望むことをせよ。われはすでにあなたがたを赦した』と仰せられたのかもしれない。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』3007、ジハードの書、密偵の章；『サヒーフ・ブハーリー』4274、『サヒーフ・ムスリム』2494 にも。

問題	規定／指針	根拠
相手側が盟約を破る	盟約は相手の裏切りによって無効となる；裏切られた側はもはや拘束されない	悔悟章 9:12–13；スィーラ書
裏切りが起こる前にそれを恐れる場合	不意打ちではなく、盟約の破棄を公然と通告しなければならない	戦利品章 8:58；『サヒーフ・ブハーリー』3188
戦いの計画を秘密にする	許され、むしろ求められる；戦いの計略は許されるが、約束の破棄は許されない	『サヒーフ・ブハーリー』2947、3030

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

問題	規定／指針	根拠
ムスリムが敵のために密偵を働く	禁じられた大罪；その処罰は統治者に委ねられる	『サヒーフ・ブハーリー』3007；試問される女章 60:1
罰する前に調べる	被告の説明を聞かなければならない	「ハーティブよ、これは何か。」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4274
疑わしい者の持ち物を調べる	安全上の緊急時には許される。ただし身体の隠すべき部分と尊厳を守ること	『サヒーフ・ブハーリー』3007
旅の途中の斎戒	斎戒することも解くことも許される。負担が重いときや敵に立ち向かう力のためには、解く方がまさる	『サヒーフ・ブハーリー』4275；『サヒーフ・ムスリム』1114
かつて敵対した者の入信を受け入れる	外面によって受け入れ、心の内はアッラーに委ねる	『サヒーフ・ブハーリー』4280；戦利品章 8:38

法学の注：ムスリムの密偵の処罰

学者たちは、敵のために密偵を働くことが禁じられていることで一致しています。その処罰については意見が分かれています。『ファトフ・アル＝バーリー』のイブン・ハジャルと『サヒーフ・ムスリム注釈』のアン＝ナワウィーの要約によれば、イマーム・アッ＝シャーフィイーと多くの学者は、密偵を働いたムスリムは死刑にはされず、適切なタアズィール（裁量刑）が科されると考えています。一方、マーリク派の一部の学者は、統治者がその判断で死刑を科すことができると考えています。

ハーティブの話は、統治者が行為者の状況 — その意図、善行の歴史、行為の影響 — を見なければならないことを示しています。この要約は注釈書によるものであり、詳細は法学書で論じられています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

イスラームは毅然さと公正とを結びつけます。盟約の裏切りには報いがありますが、イスラーム自身が裏切りを始めることはありません。国の秘密は守られますが、被告の言い分は聞かれます。そして崇拝においては、この宗教は奮闘する者に容易さを与えるのです。

第一部の年表

この表は、第一部の出来事を順に並べたものです。正確な日付の多くはスィーラ書によるもので、その一部は歴史家の間で意見が分かれています。

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 6 年ズル＝カアダ月	フダイビーヤの和約；フザーア族はアッラーの使徒 ﷺ と、バクル族はクライシュ族と同盟	『サヒーフ・ブハーリー』2731；スィーラ書
休戦期間中	ヘラクレイオスの前のアブー・スフヤーン：「彼は約束を破ったことがあるか」	『サヒーフ・ブハーリー』7
ヒジュラ暦 8 年シャアバーン月	クライシュ族の一部に助けられたバクル族が、ワティールでフザーア族を襲う	スィーラ書
襲撃の後	アムル・ブン・サーリムとブダイル・ブン・ワルカーがマディーナに来る	スィーラ書
その後	アブー・スフヤーンが和約更新のためマディーナへ；手ぶらで帰る	スィーラ書
ヒジュラ暦 8 年シャアバーン月末〜ラマダーン月初め	秘密裏の準備；知らせがクライシュ族に届かないようにとの祈り	スィーラ書；『サヒーフ・ブハーリー』2947
出発の前	ラウダト・ハーフでハーティブの手紙が押収される；試問される女章の啓示	『サヒーフ・ブハーリー』3007、4274
ヒジュラ暦 8 年ラマダーン月 10 日（イブン・イスハークによる）	アッラーの使徒 ﷺ が一万人とともに出発	『サヒーフ・ブハーリー』4276；日付：スィーラ書
旅の途中	アル＝アッバースがアル＝ジュフファで使徒に会う	スィーラ書

時期	出来事	典拠
旅の途中	アブー・スフヤーン・ブン・アル＝ハーリスとアブドゥッラー・ブン・アビー・ウマイヤがニーク・アル＝ウカーブで悔悟する	スィーラ書
アル＝カディードとクラーウ・アル＝ガミームにて	アッラーの使徒 ﷺ が斎戒を解かれる	『サヒーフ・ブハーリー』4275；『サヒーフ・ムスリム』1114
マッル・アッ＝ザフラーンの夜	一万の火；アブー・スフヤーン、ハキーム、ブダイルが捕らえられる；アブー・スフヤーンの入信	『サヒーフ・ブハーリー』4280
翌朝	部隊が次々とアブー・スフヤーンの前を通る；サアド・ブン・ウバーダが正される	『サヒーフ・ブハーリー』4280
ヒジュラ暦 8 年ラマダーン月 17〜20 日ごろ	軍がマッカに入る（第 21 巻）；正確な日付は諸説あり	『サヒーフ・ブハーリー』4280；スィーラ書

教訓

この年表は、裏切りが起こった後、出来事がいかに速く動いたかを示しています — ワティールからマッカまで約一か月です。しかしその速さの陰には、二年間約束を守り続けた忍耐がありました。勝利は、わたしたちの望む時ではなく、アッラーの定められた時に訪れるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マッカ征服（一）に関するよくある質問

1.「ファトフ」とは何を意味するのか。

「ファトフ」とは開くこと（開放）を意味します。スィーラの学者たちは、この出来事をファトフ・マッカ — マッカの開放 — と名づけました。町がほとんど流血なしに開かれ、その門がイスラームに開かれたからです。援助章はそれを「アル＝ファトフ」と呼んでいます（援助章 110:1；第 31 章）。

2. なぜフダイビーヤの和約は無効とみなされたのか。

クライシュ族の同盟者であるバクル族が、アッラーの使徒 ﷺ の同盟者であるフザーア族を襲い、クライシュ族の有力者の一部が武器と人で彼らを助けたからです。これは、両者とその同盟者が互いに戦わないという和約の条件に反していました（第 4〜5 章；スィーラ書）。

3. アッラーの使徒 ﷺ は通告なしに不意打ちをされたのか。

裏切りはクライシュ族自身の側から来たものであり、アブー・スフヤーンがマディーナに来たのも、盟約が破られたと知っていたからです（第 7 章）。戦利品章 8:58 の不意打ちの禁止は、裏切りを恐れているだけの場合のことです。この場合、裏切りは実際に起こっていたのです（第 9 章と第 34 章）。

4. なぜハーティブは罰せられなかったのか。

彼は自分の意図を正直に説明し、背教しておらず、バドルの人だったからです。アッラーの使徒 ﷺ は彼の説明を受け入れ、ウマルが彼を殺すことを禁じられました（『サヒーフ・ブハーリー』3007、4274；第 12〜15 章）。

5. ムスリムが敵に秘密を漏らすことの規定は何か。

禁じられており、大罪に含まれます。その処罰は法学書で詳しく論じられ、統治者に委ねられます（第 34 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6. ムスリム軍の人数はどれほどだったのか。

『サヒーフ・ブハーリー』4276 にあるとおり、一万人です。一部のスィーラ書は一万二千人としていますが、これはその後に加わった者を含めた数で、フナインの戦いについてより多く挙げられる数です。

7. なぜアッラーの使徒 ﷺ は旅の途中で斎戒を解かれたのか。

軍に力を与え、人びとに宗教の容易さを示すためです。使徒は人びとの前で飲まれ、皆がそれに続けるようにされました（『サヒーフ・ブハーリー』4275、4279；『サヒーフ・ムスリム』1114；第 17〜18 章）。

8. 軍はいつ出発し、いつマッカに入ったのか。

イブン・イスハークは、アッラーの使徒 ﷺ がヒジュラ暦 8 年ラマダーン月 10 日に出発されたと述べています。マッカに入った日付は諸説あり、伝承によって 17 日から 20 日の間です。確かなのは、それがラマダーン月に起こったことです（『サヒーフ・ブハーリー』4276）。

9. アブー・スフヤーンの入信は誠実だったのか。

わたしたちは外面を受け入れ、心の内はアッラーに委ねます。アッラーの使徒 ﷺ が彼のシャハーダを受け入れられたように（『サヒーフ・ブハーリー』4280）。スィーラ書は、彼がその後フナインとターイフに参加し、ターイフで片目を失ったと述べています。スンナ派の学者たちは、彼を一人の教友として敬っています。

10. アッラーの使徒 ﷺ が出陣されている間、誰がマディーナを守ったのか。

イブン・イスハークはアブー・ルフム・クルスーム・ブン・フサイン・アル＝ギファーリーを挙げています。他の一部の伝承はイブン・ウンム・マクトゥームを挙げています。これはスィーラ書の情報です（第 32 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：437 / 522

11. 鉄章 57:10 の「征服の前」とは誰を指すのか。

征服の前に財と命を捧げた人びとです — 注釈学者の多数によればマッカ征服の前、一部の学者によればフダイビーヤの前です。すべての者に善が約束されていますが、彼らの位階はより高いのです（第 31 章）。

12. 第二部では何が語られるのか。

第 21 巻は開放の日そのものを語ります。頭を垂れてのアッラーの使徒ﷺの入城、安全の門、カアバの周りの偶像の破壊、カアバの鍵、ビラールのアザーン、「今日あなたがたに咎めはない」という言葉、女性たちの誓い、そして使徒がマッカで過ごされた十九日間です。

教訓

これらの質問は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、そして学者の見解を区別するよう思い起こさせてくれます。第一部の物語の枠組みは真正なハディースによって確定しており、その詳細はそれぞれの等級に応じて誠実に伝えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

マッカ征服の第一部は**準備**の物語です — 周到で、秘密裏で、慈悲に満ちた準備です。大きな勝利は突然訪れるのではありません。それは二年間の忍耐、約束の厳守、そして指導者の英知の上に築かれるのです。

教訓	第一部から
約束を守る	イスラームは裏切りを始めない
同盟者への忠誠	フザーア族の訴えに応える
信仰は血縁にまさる	ウンム・ハビーバが敷物をたたむ
戦略と秘密保持	「戦いとは策略である」
罰する前に公正であれ	「ハーティブよ、これは何か」
善行は過ちを覆う	バドルの人びとは赦される
宗教の容易さ	旅の途中で斎戒を解く
敵を赦す	「今日あなたがたに咎めはない」

これらすべては、援助章におけるアッラーの約束への序章です。「**アッラーの援助と勝利が来て……**」（援助章 110:1） — 『イブン・カスィール注釈』110:1。

わたしたちの生活の中のマッカ征服

わたしたち一人ひとりの内には「マッカ」があります — 現世の偶像から清められるべき心です。第一部は、その開放には**準備と忍耐と慈悲**が必要であることを教えています。約束を守り、苦しめた者を赦し、アッラーへの服従を優先することです。

イン・シャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは**第 21 巻 — マッカ征服（二）**へと続きます。頭を垂れてのアッラーの使徒 ﷺ のマッカ入城、安全の宣言、カアバの周りの 360 体の偶像の破壊、カアバの上でのビラールのアザーン、そしてマッカの住民への大いなる赦しを語ります。アッラーこそ最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 20 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:185；戦利品章 8:58；悔悟章 9:12–13；ユースフ章 12:91–92；蜜蜂章 16:91；試問される女章 60:1、60:8；援助章 110）。https://tafsir.app/ibn-katheer/60/1

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』2731、2947、3030、3188、3983、4274、4276、4279、4280。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』983、1114、1775、1780、2495。https://sunnah.com/muslim

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章。

アル＝ワーキディー『遠征の書』；イブン・サアド『大列伝』；アル＝バイハキー『預言者性の証拠』。

イブン・カスィール『始まりと終わり』— マッカ征服；イブン・アル＝カイイム『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』— 遠征の書、マッカ征服の遠征の章；『教友識別の書（アル＝イサーバ）』。アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』— 斎戒の書。

サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— マッカ征服の章。

一般の歴史

ウィキペディア「Conquest of Mecca」。https://en.wikipedia.org/wiki/Conquest_of_Mecca

Wikipedia「Treaty of Hudaybiyyah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Treaty_of_Hudaybiyyah

ウィキペディア「Hatib ibn Abi Balta'a」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hatib_ibn_Abi_Balta%27a

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウィキペディア「Abu Sufyan ibn Harb」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Sufyan_ibn_Harb

ウィキペディア「Al-Abbas ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Abbas_ibn_Abd_al-Muttalib

ウィキペディア「Banu Khuza'a」。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Khuza%27a

ウィキペディア「Al-Mumtahanah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Mumtahanah

ハディースと追加の典拠

鉄章 57:10（征服の前と後）。https://quran.com/57:10

『サヒーフ・ムスリム』2541（ハーリドとアブドゥッラフマーン・ブン・アウフ；「わたしの教友たちをののしってはならない」）。https://sunnah.com/muslim:2541a

『サヒーフ・ブハーリー』3673（「わたしの教友たちをののしってはならない」）。https://sunnah.com/bukhari:3673

『サヒーフ・ブハーリー』4275（アル＝カディードまで斎戒）。https://sunnah.com/bukhari:4275

『サヒーフ・ブハーリー』1944（クダイドとウスファーンの間のアル＝カディード）。https://sunnah.com/bukhari:1944

『サヒーフ・ブハーリー』3007（密偵の章 — ハーティブの手紙）。https://sunnah.com/bukhari:3007

『サヒーフ・ムスリム』2494（ハーティブの話）。https://sunnah.com/muslim:2494

サウディペディア「Miqat al-Juhfah」。https://saudipedia.com/en/article/3247/religion/miqat-al-juhfah

『サヒーフ・ブハーリー』2947（遠征の行き先を秘密にする）。https://sunnah.com/bukhari:2947

『サヒーフ・ブハーリー』4280（マッル・アッ＝ザフラーン）。https://sunnah.com/bukhari:4280

第七部

マッカ征服（二）

預言者伝（スィーラ）— 第 21 巻

垂れた頭、倒れた偶像、そして大いなる赦し — クルアーンと真正なハディースに基づいて

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マッカ征服（二）

第 20 巻は、**マッル・アッ＝ザフラーン**でのある夜で終わりました。ムスリム軍の何千もの火が燃え、アブー・スフヤーンがイスラームに入り、部隊が次々とかれの前を通り過ぎていきました。アッラーの使徒 ﷺ は、ご自分の旗をアル＝ハジューンに立てるよう命じられました。翌日、マッカは開かれることになります。

この第 21 巻は、マッカ征服の物語の**第二部**です。アッラーの使徒 ﷺ がどのようにして生まれ故郷の町に**頭を垂れて**入られたのか、住民にどのように安全が布告されたのか、カアバの周りで **360 体の偶像**がどのように倒れたのか、そして昔の敵たちがどのように**大いなる赦し**を受けたのかを語ります。また、審判の日まで尊厳を取り戻した聖域の物語でもあります。

マッカ征服の日の年表（ヒジュラ8年ラマダーン月）

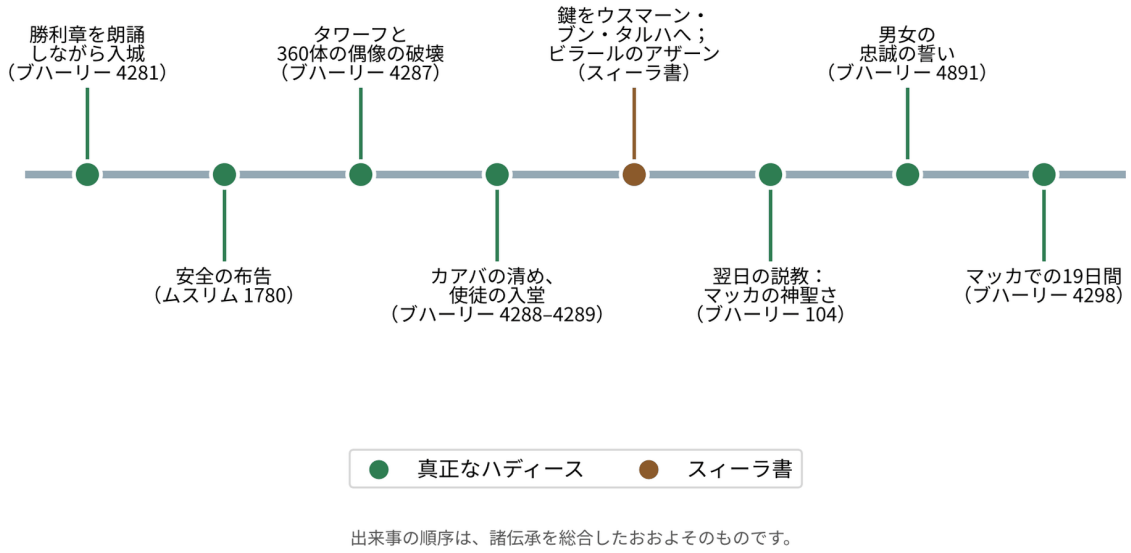


図 1：マッカ征服の日の年表。

注：本書のクルアーンの節の訳は、三田了一訳を用いています。各ハディースの等級はハディースの枠に記しています。スィーラ書からの情報 — カアバの上でのビラールのアザーン、カアバの鍵の話、「行け、あなたがたは自由だ」という言葉など — は、茶色の枠「スィーラの注」に入れています。その多くは途切れた伝承経路で、あるいは議論のある伝承経路で伝えられているからです。

征服の日の夜明け

その朝、ムスリム軍はマッル・アッ＝ザフラーンからマッカへ向けて進みました。教友の一人、**アブドゥッラー・ブン・ムガッファル** رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がラクダの上で、この歴史的な瞬間に何をなさっていたかを目撃し、伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4281 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْوَلِيدِ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ مُعَاوِيَةَ بْنِ قُرَّةَ، قَالَ سَمِعْتُ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ مُغَفَّلٍ، يَقُولُ رَأَيْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ فَتْحِ مَكَّةَ عَلَى نَاقَتِهِ، وَهْوَ يَقْرَأُ سُورَةَ الْفَتْحِ يُرَجِّعُ، وَقَالَ لَوْلاَ أَنْ يَجْتَمِعَ النَّاسُ حَوْلِي لَرَجَّعْتُ كَمَا رَجَّعَ.

訳：

ムアーウィヤ・ブン・クッラは言った。わたしはアブドゥッラー・ブン・ムガッファル رضى الله عنه がこう言うのを聞いた。「**わたしは、マッカ征服の日、アッラーの使徒 ﷺ がラクダの上で、声を震わせる抑揚（タルジーウ）をつけて勝利章を朗誦しておられるのを見た。**」（ムアーウィヤは言った。）もし人々がわたしの周りに群がるのを恐れなければ、かれが抑揚をつけたように、わたしも抑揚をつけて朗誦して見せたことだろう。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ワリード・アッ＝タヤーリスィー ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージュ ← ムアーウィヤ・ブン・クッラ ← アブドゥッラー・ブン・ムガッファル رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、「征服の日に預言者 ﷺ はどこに旗を立てたか」の章、ハディース第 4281 番；ムスリム第 794 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4281

このハディースの教訓

生涯最大の勝利の瞬間に、アッラーの使徒 ﷺ は誇らず、歓声を上げず、復讐の言葉も口にされませんでした。使徒は**クルアーンを朗誦された**のです。とりわけ**勝利章**を。それは二年前のフダイビーヤの後に下った章で、次のアッラーの御言葉で始まります。

「**本当にわれは、明らかな勝利をあなたに授けた。**」（勝利章 48:1） — 『イブン・カスィール注釈』48:1。

その約束が、今、目の前で実現しました。抑揚をつけた朗誦（タルジーウ）は、主の恵みを喜ぶ**しもべの喜び**を表しています。その喜びは傲慢ではなく、アッラーを念じることによって表されました。これこそ、恵みを受けたときの信仰者の作法、すなわちアッラーに立ち返ることです。

垂れた頭

イブン・ウマル رضى الله عنهما によれば、アッラーの使徒 ﷺ はマッカの上部から、**ウサーマ・ブン・ザイドを後ろに乗せて**入られました（『サヒーフ・ブハーリー』4289。「アッラーの館の中で」の章で紹介します）。ウサーマは、解放された元奴隷ザイド・ブン・ハーリサの息子です。勝利の日に使徒の後ろに乗せられたのは、クライシュ族の有力者ではなく、**元奴隷の息子**だったのです。

スィーラの注：鞍に触れんばかりのあごひげ

イブン・イスハークの伝えるところでは、アッラーの使徒 ﷺ はズー・トゥワーに着き、目の前に開かれたマッカを見ると、アッラーへの謙虚さから**頭を垂れられた**ので、あごひげが乗り物の鞍に触れんばかりでした。

この詳細は**スィーラ書の伝承**です。真正なのは、使徒が勝利章を朗誦しながら入城されたこと（『サヒーフ・ブハーリー』4281）です。そして両者は同じ心を描いています。勝利の瞬間にアッラーにへりくだる心です。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

世の王たちと比べてみてください。かれらは町を征服すると、威容を誇る行列で入城し、殺し、奪い、復讐しました。アッラーの使徒 ﷺ は、**かつてご自分を追放し、教友たちを拷問し、ご自分を殺そうとした**町に、頭を垂れ、唇にクルアーンを携えて入られたのです。

教訓：**真の勝利とは自分自身に対する勝利である。**その日、最も誇る資格のあった人が、最も謙虚な人でした。わたしたちの人生の成功 — 学業でも、仕事でも、家庭でも — は、人々の上に立つためではなく、アッラーにいっそうへりくだるためのものであるべきです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

四つの部隊、一つの目的地

アッラーの使徒 ﷺ は、マッカに幾つもの方向から同時に入れるよう、軍を入念に編成されました。その目的は戦うことではなく、**戦いを避けること**でした。四方から包囲されていると知れば、クライシュ族は抵抗しないからです。アブー・フライラ رضى الله عنه はこう語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1780 番

حَدَّثَنَا شَيْبَانُ بْنُ فَرُّوخَ، حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ بْنُ الْمُغِيرَةِ، حَدَّثَنَا ثَابِتٌ الْبُنَانِيُّ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ رَبَاحٍ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، قَالَ وَفَدَتْ وُفُودٌ إِلَى مُعَاوِيَةَ وَذَلِكَ فِي رَمَضَانَ فَكَانَ يَصْنَعُ بَعْضُنَا لِبَعْضٍ الطَّعَامَ فَكَانَ أَبُو هُرَيْرَةَ مِمَّا يُكْثِرُ أَنْ يَدْعُونَا إِلَى رَحْلِهِ فَقُلْتُ أَلاَ أَصْنَعُ طَعَامًا فَأَدْعُوهُمْ إِلَى رَحْلِي فَأَمَرْتُ بِطَعَامٍ يُصْنَعُ ثُمَّ لَقِيتُ أَبَا هُرَيْرَةَ مِنَ الْعَشِيِّ فَقُلْتُ الدَّعْوَةَ عِنْدِي اللَّيْلَةَ فَقَالَ سَبَقْتَنِي. قُلْتُ نَعَمْ. فَدَعَوْتُهُمْ فَقَالَ أَبُو هُرَيْرَةَ أَلاَ أُعْلِمُكُمْ بِحَدِيثٍ مِنْ حَدِيثِكُمْ يَا مَعْشَرَ الأَنْصَارِ ثُمَّ ذَكَرَ فَتْحَ مَكَّةَ فَقَالَ أَقْبَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حَتَّى قَدِمَ مَكَّةَ فَبَعَثَ الزُّبَيْرَ عَلَى إِحْدَى الْمُجَنِّبَتَيْنِ وَبَعَثَ خَالِدًا عَلَى الْمُجَنِّبَةِ الأُخْرَى وَبَعَثَ أَبَا عُبَيْدَةَ عَلَى الْحُسَّرِ فَأَخَذُوا بَطْنَ الْوَادِي وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي كَتِيبَةٍ - قَالَ - فَنَظَرَ فَرَآنِي فَقَالَ «أَبُو هُرَيْرَةَ». قُلْتُ لَبَّيْكَ يَا رَسُولَ اللَّهِ. فَقَالَ «لاَ يَأْتِينِي إِلاَّ أَنْصَارِيٌّ». زَادَ غَيْرُ شَيْبَانَ فَقَالَ «اهْتِفْ لِي بِالأَنْصَارِ». قَالَ فَأَطَافُوا بِهِ وَوَبَّشَتْ قُرَيْشٌ أَوْبَاشًا لَهَا وَأَتْبَاعًا. فَقَالُوا نُقَدِّمُ هَؤُلاَءِ فَإِنْ كَانَ لَهُمْ شَىْءٌ كُنَّا مَعَهُمْ. وَإِنْ أُصِيبُوا أَعْطَيْنَا الَّذِي سُئِلْنَا فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «تَرَوْنَ إِلَى أَوْبَاشِ قُرَيْشٍ وَأَتْبَاعِهِمْ». ثُمَّ قَالَ بِيَدَيْهِ إِحْدَاهُمَا عَلَى الأُخْرَى ثُمَّ قَالَ «حَتَّى تُوَافُونِي بِالصَّفَا». قَالَ فَانْطَلَقْنَا فَمَا شَاءَ أَحَدٌ مِنَّا أَنْ يَقْتُلَ أَحَدًا إِلاَّ قَتَلَهُ وَمَا أَحَدٌ مِنْهُمْ يُوَجِّهُ إِلَيْنَا شَيْئًا - قَالَ - فَجَاءَ أَبُو سُفْيَانَ فَقَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ أُبِيحَتْ خَضْرَاءُ قُرَيْشٍ لاَ قُرَيْشَ بَعْدَ الْيَوْمِ. ثُمَّ قَالَ «مَنْ دَخَلَ دَارَ أَبِي سُفْيَانَ فَهُوَ آمِنٌ». فَقَالَتِ الأَنْصَارُ بَعْضُهُمْ لِبَعْضٍ أَمَّا الرَّجُلُ فَأَدْرَكَتْهُ رَغْبَةٌ فِي قَرْيَتِهِ وَرَأْفَةٌ بِعَشِيرَتِهِ. قَالَ أَبُو هُرَيْرَةَ وَجَاءَ الْوَحْىُ وَكَانَ إِذَا جَاءَ الْوَحْىُ لاَ يَخْفَى

عَلَيْنَا فَإِذَا جَاءَ فَلَيْسَ أَحَدٌ يَرْفَعُ طَرْفَهُ إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حَتَّى يَنْقَضِيَ الْوَحْىُ فَلَمَّا انْقَضَى الْوَحْىُ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «يَا مَعْشَرَ الأَنْصَارِ». قَالُوا لَبَّيْكَ يَا رَسُولَ اللَّهِ قَالَ «قُلْتُمْ أَمَّا الرَّجُلُ فَأَدْرَكَتْهُ رَغْبَةٌ فِي قَرْيَتِهِ». قَالُوا قَدْ كَانَ ذَاكَ. قَالَ «كَلاَّ إِنِّي عَبْدُ اللَّهِ وَرَسُولُهُ هَاجَرْتُ إِلَى اللَّهِ وَإِلَيْكُمْ وَالْمَحْيَا مَحْيَاكُمْ وَالْمَمَاتُ مَمَاتُكُمْ». فَأَقْبَلُوا إِلَيْهِ يَبْكُونَ وَيَقُولُونَ وَاللَّهِ مَا قُلْنَا الَّذِي قُلْنَا إِلاَّ الضِّنَّ بِاللَّهِ وَبِرَسُولِهِ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «إِنَّ اللَّهَ وَرَسُولَهُ يُصَدِّقَانِكُمْ وَيَعْذِرَانِكُمْ». قَالَ فَأَقْبَلَ النَّاسُ إِلَى دَارِ أَبِي سُفْيَانَ وَأَغْلَقَ النَّاسُ أَبْوَابَهُمْ - قَالَ - وَأَقْبَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حَتَّى أَقْبَلَ إِلَى الْحَجَرِ فَاسْتَلَمَهُ ثُمَّ طَافَ بِالْبَيْتِ - قَالَ - فَأَتَى عَلَى صَنَمٍ إِلَى جَنْبِ الْبَيْتِ كَانُوا يَعْبُدُونَهُ - قَالَ - وَفِي يَدِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَوْسٌ وَهُوَ آخِذٌ بِسِيَةِ الْقَوْسِ فَلَمَّا أَتَى عَلَى الصَّنَمِ جَعَلَ يَطْعُنُهُ فِي عَيْنِهِ وَيَقُولُ «جَاءَ الْحَقُّ وَزَهَقَ الْبَاطِلُ». فَلَمَّا فَرَغَ مِنْ طَوَافِهِ أَتَى الصَّفَا فَعَلاَ عَلَيْهِ حَتَّى نَظَرَ إِلَى الْبَيْتِ وَرَفَعَ يَدَيْهِ فَجَعَلَ يَحْمَدُ اللَّهَ وَيَدْعُو بِمَا شَاءَ أَنْ يَدْعُوَهُ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・ラバーフは言った。ラマダーン月に幾つかの使節団がムアーウィヤのもとを訪れ、わたしたちは互いに食事をふるまい合っていた。アブー・フライラはよくわたしたちを自分の所に招いてくれた。わたしは「今度はわたしが食事を用意して、皆をわたしの所に招いたらどうだろう」と言い、食事の用意を命じた。夕方にアブー・フライラに会ったので、「今夜の夕食はわたしの所です」と言うと、かれは「先を越されたな」と言った。わたしは「はい」と答え、皆を招いた。アブー・フライラは言った。「アンサールの人々よ、あなたがた自身についてのハディースを一つ話してあげようか。」そしてかれはマッカ征服のことを語って言った。**アッラーの使徒 ﷺ はマッカに着くまで進まれ、アッ＝ズバイルを一方の翼の指揮官に、ハーリドをもう一方の翼の指揮官に、そしてアブー・ウバイダを鎧を着けない部隊の指揮官として遣わされた。**かれらは谷底の道を進み、アッラーの使徒 ﷺ は一つの部隊の中におられた。使徒はわたしを見て呼ばれた。**「アブー・フライラ！」** わたしが「ここにおります、アッラーの使徒よ」と答えると、使徒は言われた。**「わたしのもとにはアンサール以外は来させる**

な。」（別の伝承では、「**アンサールをわたしのもとに呼べ。**」）そこでかれらは使徒の周りを取り囲んだ。一方クライシュ族は、配下の者や追従者を集めて言った。「この者たちを先に出そう。かれらが勝てばわれわれも共に加わり、負ければ求められたものを差し出そう。」アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**クライシュの配下の者と追従者たちが見えるか。**」そして両手を一方を他方の上に重ねる仕草をされ（すなわち、かれらを打ち破れということ）、言われた。「**サファーの丘でわたしと会うまで。**」わたしたちは出発したが、かれらの中の誰一人としてわたしたちに抵抗できる者はいなかった。そこへアブー・スフヤーンが来て言った。「アッラーの使徒よ、クライシュは滅びました。今日以後クライシュはありません。」**すると使徒は言われた。「アブー・スフヤーンの家に入る者は安全である。**」アンサールは互いに言い合った。「この方（アッラーの使徒 ﷺ）は、故郷への愛と親族への情に引かれてしまわれた。」アブー・フライラは言った。そのとき啓示が下った。啓示が下るとわたしたちにはそれがわかり、啓示が終わるまで誰もアッラーの使徒 ﷺ に目を上げなかった。啓示が終わると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**アンサールの人々よ！**」かれらは「ここにおります、アッラーの使徒よ」と答えた。使徒は言われた。「**あなたがたは言った。『この方は故郷への愛に引かれてしまわれた』と。**」かれらは「そのとおりです」と言った。使徒は言われた。「**決してそうではない！わたしはアッラーのしもべであり、その使徒である。わたしはアッラーのもとへ、そしてあなたがたのもとへ移住したのだ。わたしの生はあなたがたの生であり、わたしの死はあなたがたの死である。**」すると、かれらは泣きながら使徒のもとに来て言った。「アッラーにかけて、わたしたちがあのように言ったのは、アッラーとその使徒を惜しむ思い（失うことへの恐れ）からにほかなりません。」アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**アッラーとその使徒は、あなたがたを信じ、あなたがたの弁明を受け入れる。**」そして人々はアブー・スフヤーンの家に向かい、人々は自分の家の戸を閉ざした。アッラーの使徒 ﷺ は黒石まで進んでそれに触れ、それからカアバの周りを巡られた。使徒はカアバの傍らで人々が崇めていた偶像のそばを通られた。使徒の手には弓が一張りあり、その端を持っておられた。**その偶像のところに来ると、使徒はその目を突きながら言われた。「真理は下り、虚偽は消え去った。**」タワーフを終

えると、使徒はカアバが見えるところまでサファーの丘に登り、両手を上げて、アッラーを讃え、望むことを祈願された。

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：シャイバーン・ブン・ファッルーフ ← スライマーン・ブン・アル＝ムギーラ ← サービト・アル＝ブナーニー ← アブドゥッラー・ブン・ラバーフ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

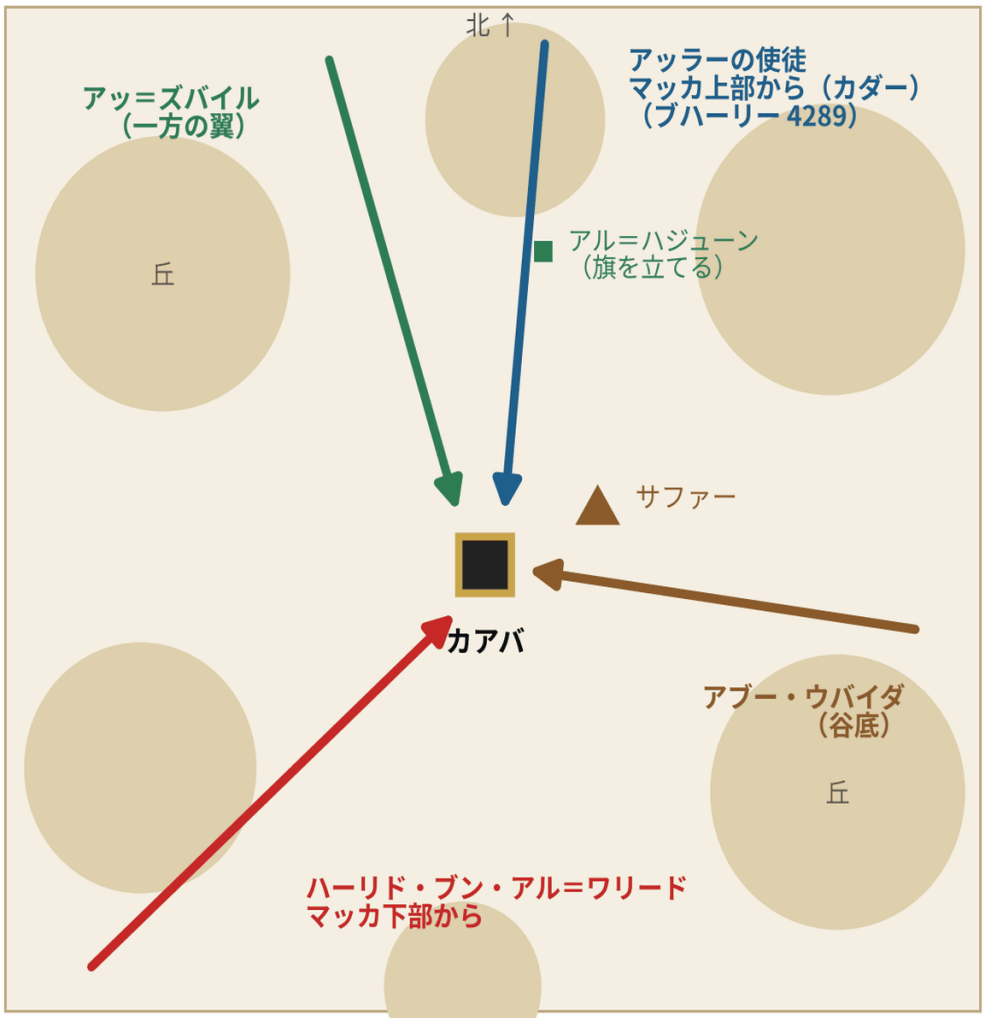
出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、マッカ征服の章、ハディース第 1780 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1780a

このハディースの教訓

ムスリム軍のマッカ入城（模式図）



『サヒーフ・ムスリム』1780、『サヒーフ・ブハーリー』4280・4289に基づく。方向と位置は略図であり、正確な地図ではない。

図 2：ムスリム軍のマッカ入城（模式図）。

このハディースは三人の指揮官を挙げています。一方の翼の**アッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワーム**、もう一方の翼の**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**、そして鎧を着けない徒歩部隊を率いた**アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフ**です。アッラーの使徒 ﷺ ご自身は、アンサールに囲まれた部隊におられました。『サヒーフ・ブハーリー』4280（第 20 巻）には、ハーリドが別の方向から入るよう命じられ、アッラーの使徒 ﷺ の旗がアル＝ハジューンに立てられたことが記されています。

またハーリド・ブン・アル＝ワリード — ウフドでクライシュ軍を率いてムスリムと戦った人物 — が、今や**ムスリム軍の一翼**を率いてマッカに入ったことにも注目してください。アッラーは人の心を変えられます。昨日の敵が今日の擁護者となったのです。

第三の部隊の指揮官**アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフ** رضي الله عنه も、特別な地位にありました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「**どの共同体にも信頼できる者がいる。この共同体の信頼できる者は、アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフである**」（『サヒーフ・ブハーリー』3744）。征服の日、使徒は最も信頼できる教友に徒歩部隊を任されました。かれらの任務は谷底、すなわち住民に最も近い所に入ることだったからです。

「わたしの生はあなたがたの生」

アブー・フライラのハディースには、非常に心を打つ出来事が含まれています。アッラーの使徒 ﷺ がアブー・スフヤーンの家に入る者には安全があると布告されたとき、**アンサール**の一部が互いにささやき合いました。「この方は故郷への愛と親族への情に引かれてしまわれた。」

かれらの心配は理解できます。八年の間、アンサールはアッラーの使徒 ﷺ のためにすべてを — 家も財産も命も — 捧げてきました。今、使徒の故郷の町が開かれました。使徒はマッカに戻って住み、マディーナを去ってしまわれるのだろうか。

アッラーは啓示を下して、そのささやきを使徒にお知らせになりました。使徒はかれらを呼んで言われました。「**決してそうではない！わたしはアッラーのしもべであり、その使徒である。わたしはアッラーのもとへ、そしてあなたがたのもとへ移住したのだ。わたしの生はあなたがたの生であり、わたしの死はあなたがたの死である。**」 アンサールは泣きました。そしてその約束は守られました。アッラーの使徒 ﷺ はマディーナに戻り、マディーナで亡くなり、マディーナに葬られたのです。

教訓：**忠誠には忠誠で応える**。アッラーの使徒 ﷺ は、勝利の瞬間にあっても、困難な時に助けてくれた人々を忘れられませんでした。そして使徒はかれらの思い込みに、叱るのではなく、慈しみをもって安心させる言葉で応えられました。「**アッラーとその使徒は、あなたがたを信じ、あなたがたの弁明を受け入れる。**」

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

安全の扉

アブー・スフヤーンはアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て言いました。「クライシュは滅びました。今日以後クライシュはありません。」アッラーの使徒 ﷺ は、流血なきマッカ征服の土台となった布告で応えられました。「**アブー・スフヤーンの家に入る者は安全である。**」『サヒーフ・ムスリム』1780 の別の伝承では、使徒はこう付け加えられました。「**武器を置く者は安全である。自分の戸を閉ざす者は安全である。**」

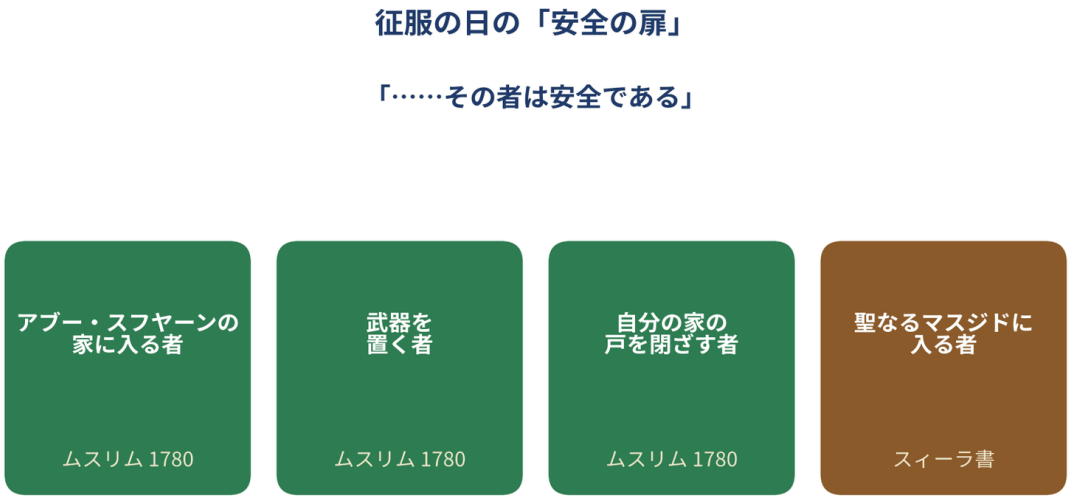


図 3：征服の日の安全の扉。

安全の条件がどれほど**容易**であったかを見てください。身代金も降伏も要らず、その場でイスラームに入ることさえ求められませんでした。ただ自分の家の戸を閉ざせばよかったのです。アッラーの使徒 ﷺ の目的は、**できるだけ多くの命を救うこと**でした。

アブー・スフヤーンの家を尊重したことにも、細やかな英知がありました。アブー・スフヤーンはイスラームに入ったばかりで、**名誉を好む人**でした。その家を避難所とすることで、アッラーの使徒 ﷺ はかれを一族の前で尊び、かれのイスラーム

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

を固め、かれを、打ち負かされ辱められた敵ではなく、**平和を実現する協力者**とされたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アル＝ハンダマでの小競り合い

マッカのほとんど全体がこの安全を受け入れました。しかし全員ではありませんでした。『サヒーフ・ブハーリー』4280 は、その日**ハーリドの騎馬隊から二人が戦死した**と記しています。フバイシュ・ブン・アル＝アシュアルとクルズ・ブン・ジャービル・アル＝フィフリーです。マッカの一角では、小さな戦いもあったのです。

スィーラの注：アル＝ハンダマでの戦い

イブン・イスハークの伝えるところでは、**サフワーン・ブン・ウマイヤ、イクリマ・ブン・アビー・ジャハル、スハイル・ブン・アムル**の率いるクライシュの一団が、戦うために**アル＝ハンダマ**に集まりました。マッカ下部から進んだハーリドの部隊がかれらとぶつかり、十二、三人ほどの多神教徒が殺され、残りは逃げ去りました。

この人数は**スィーラ書の伝承**です。真正なハディース（『サヒーフ・ムスリム』1780）は、かれらの中の誰一人として有効な抵抗ができなかったと述べています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

最後の抵抗を率いたこの三人が、その後どうなったかを見てください。**サフワーン、イクリマ、スハイル** — 三人ともやがてイスラームに入りました。その物語は後の章で語ります。最後の日に武器を取った者にさえ、悔悟の扉は閉ざされていなかったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

鉄の兜と除外された者たち

アッラーの使徒 ﷺ は、クライシュがどう動くかを完全には知り得なかったため、備えを整えてマッカに入られました。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه はこう伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1846 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم دَخَلَ عَامَ الْفَتْحِ، وَعَلَى رَأْسِهِ الْمِغْفَرُ، فَلَمَّا نَزَعَهُ جَاءَ رَجُلٌ، فَقَالَ إِنَّ ابْنَ خَطَلٍ مُتَعَلِّقٌ بِأَسْتَارِ الْكَعْبَةِ. فَقَالَ «اقْتُلُوهُ».

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は征服の年、**頭に鉄の兜をかぶって**（マッカに）入られた。使徒が兜を脱がれると、一人の男が来て言った。「イブン・ハタルがカアバの覆い布にしがみついています。」使徒は言われた。「**かれを殺せ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ・アッ＝ティンニースィー ← マーリク・ブン・アナス ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』狩猟の償いの書、「イフラームなしに聖域とマッカに入ること」の章、ハディース第 1846 番；ムスリム第 1357 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1846

このハディースの教訓

その鉄の兜（ミグファル）は、**備えることは神に委ねないことではない**ことを示しています。またこのハディースは、全体的な赦しに**幾つかの例外**があったことも示しています。イブン・ハタルはかつてイスラームに入った者でしたが、自分に仕え

ていたムスリムを殺し、背教してマッカに逃げ、歌い手を雇って詩でアッラーの使徒 ﷺ を侮辱させていました。

スィーラの注：除外された者たち

サアド・ブン・アビー・ワッカース رضى الله عنه によれば、征服の日、アッラーの使徒 ﷺ は**四人の男と二人の女**を除くすべての人に安全を与えられました。かれらは殺人や背教といった重大な罪を犯した者たちです。その一人**アブドゥッラー・ブン・サアド・ブン・アビー・サルフ**はウスマーン・ブン・アッファーンの家に隠れ、ウスマーンはかれをアッラーの使徒 ﷺ のもとに連れて来ました。三度求められた後、使徒はかれの忠誠の誓いを受け入れられました（『スナン・アビー・ダーウード』2683、アル＝アルバーニーはサヒーフと評価）。

スィーラの学者たちは、除外された者の一部も悔悟して来たときには最終的に**赦された**と述べています。罰せられたのはごく少数にすぎません。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

教訓：イスラームの赦しは弱さではなく、イスラームの正義は復讐ではありません。除外された者たちは不信仰だけを理由に罰せられたのではなく、かれらの犯した**重大な罪**のゆえでした。それでも、自ら出頭した者には悔悟の扉がなお開かれていました。後にウスマーンの時代にエジプト総督となったアブドゥッラー・ブン・アビー・サルフのように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「真理は下った」

アッラーの使徒 ﷺ はまっすぐ**聖なるマスジド**へ向かわれました。使徒は黒石に触れ、カアバの周りを巡られました。しかし、唯一のアッラーを崇めるために預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ が建てたカアバは、今や偶像に囲まれていました。アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は、そこで起こったことを目撃しています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4287 番

حَدَّثَنَا صَدَقَةُ بْنُ الْفَضْلِ، أَخْبَرَنَا ابْنُ عُيَيْنَةَ، عَنِ ابْنِ أَبِي نَجِيحٍ، عَنْ مُجَاهِدٍ، عَنْ أَبِي مَعْمَرٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ دَخَلَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مَكَّةَ يَوْمَ الْفَتْحِ وَحَوْلَ الْبَيْتِ سِتُّونَ وَثَلاَثُمِائَةِ نُصُبٍ، فَجَعَلَ يَطْعَنُهَا بِعُودٍ فِي يَدِهِ وَيَقُولُ «جَاءَ الْحَقُّ وَزَهَقَ الْبَاطِلُ، جَاءَ الْحَقُّ، وَمَا يُبْدِئُ الْبَاطِلُ وَمَا يُعِيدُ».

訳：

アブドゥッラー（・ブン・マスウード） رضى الله عنه は言った。**預言者 ﷺ は征服の日にマッカに入られたが、そのときカアバの周りには三百六十体の偶像があった。** 使徒は手にした棒でそれを突きながら言われた。「**真理は下り、虚偽は消え去った。真理は下った。虚偽は何も始めることができず、繰り返すこともできない。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：サダカ・ブン・アル＝ファドル ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← イブン・アビー・ナジーフ ← ムジャーヒド・ブン・ジャブル ← アブー・マアマル・アブドゥッラー・ブン・サフバラ ← アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、「征服の日に預言者 ﷺ はどこに旗を立てたか」の章、ハディース第 4287 番；第 2478 番とムスリム第 1781 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4287

このハディースの教訓

使徒が口にされた言葉は、夜の旅章のアッラーの御言葉です。それはムスリムがまだ弱かった何年も前に、マッカで下されたものでした。「**言え、『（今や）真理は下り、虚偽は消え去りました。本当に虚偽は常に消える定めにあります。』」**（夜の旅章 17:81） — 『イブン・カスィール注釈』17:81。

その偶像を拒んだためにカアバの周りで拷問された教友たちの気持ちを想像してみてください。ビラールはマッカの砂漠で岩を胸に載せられ、ヤースィルの一家は殉教するまで責められました。今、**かれらが拒んだ偶像が次々と倒れていった**のです — 目の前で、それを崇めていた者は誰一人それを守ることができずに。

偶像は自分自身を守ることもできず、ましてや崇拝者を守ることなどできませんでした。これこそタウヒードの最も明白な論拠です。**虚偽は必ず消え去る** — どれほど長く堅固に見えても。石の偶像であれ、現代の「偶像」 — 富、地位、欲望 — であれ、すべては真理の前に倒れるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアバの中の絵

アッラーの使徒 ﷺ は、カアバの中に偶像や絵がある限り、そこに入ろうとはされませんでした。イブン・アッバース رضي الله عنهما はこう語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4288 番

حَدَّثَنِي إِسْحَاقُ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الصَّمَدِ، قَالَ حَدَّثَنِي أَبِي، حَدَّثَنَا أَيُّوبُ، عَنْ عِكْرِمَةَ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَمَّا قَدِمَ مَكَّةَ أَبَى أَنْ يَدْخُلَ الْبَيْتَ وَفِيهِ الآلِهَةُ، فَأَمَرَ بِهَا فَأُخْرِجَتْ، فَأُخْرِجَ صُورَةُ إِبْرَاهِيمَ، وَإِسْمَاعِيلَ فِي أَيْدِيهِمَا مِنَ الأَزْلاَمِ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم «قَاتَلَهُمُ اللَّهُ لَقَدْ عَلِمُوا مَا اسْتَقْسَمَا بِهَا قَطُّ». ثُمَّ دَخَلَ الْبَيْتَ، فَكَبَّرَ فِي نَوَاحِي الْبَيْتِ، وَخَرَجَ وَلَمْ يُصَلِّ فِيهِ. تَابَعَهُ مَعْمَرٌ عَنْ أَيُّوبَ. وَقَالَ وُهَيْبٌ حَدَّثَنَا أَيُّوبُ عَنْ عِكْرِمَةَ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم.

訳：

イブン・アッバース رضي الله عنهما によれば、アッラーの使徒 ﷺ はマッカに着かれたとき、**中に偶像がある限りカアバに入ることを拒まれた。**使徒がそれらすべてを運び出すよう命じられると、イブラーヒームとイスマーイールの絵が運び出されたが、その手には占いの矢（アズラーム）が握られていた。預言者 ﷺ は言われた。**「アッラーがかれらを滅ぼされますように！アッラーにかけて、かれらは、この二人（イブラーヒームとイスマーイール）が決してこれで占いなどしなかったことを知っているのだ。」**それから使徒はカアバの中に入り、**その四隅のそれぞれでタクビールを唱え**、中で礼拝せずに出て来られた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク ← アブドゥッサマド・ブン・アブドゥルワーリス ← その父アブドゥルワーリス・ブン・サイード ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← イクリマ ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、「征服の日に預言者 ﷺ はどこに旗を立てたか」の章、ハディース第 4288 番；第 1601 番と第 3352 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4288

このハディースの教訓

クライシュは、**預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ と預言者イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ** が占いの矢（アズラーム）を持つ姿を描いていました。それは無明時代のアラブ人が決断の前に運勢を決めるのに使った道具です。これは、タウヒードのためにカアバを建てた二人の預言者に対する**虚偽**でした。アッラーの使徒 ﷺ は断言されました。

「かれらは、この二人が決してこれで占いなどしなかったことを知っているのだ。」

クルアーンは、この矢による占いを禁じています。**「籤で分配されたもの……これらは忌まわしいものである」**（食卓章 5:3）— 『イブン・カスィール注釈』5:3。

カアバが清められた後、アッラーの使徒 ﷺ は中に入り、**その四隅のそれぞれでタクビールを唱えられました。**タクビール — 「アッラーは最も偉大なり」 — は、偶像も運命も人間も、アッラーより偉大なものは何もないという宣言です。カアバは本来の目的に戻りました。今日でも、現代的な形の占い — 星占い、手相占いなど — は同じ禁止の中に含まれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの館の中で

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がカアバに入られたときのことを伝えています。誰が使徒に同行するよう選ばれたかに注目してください。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4289 番

وَقَالَ اللَّيْثُ حَدَّثَنِي يُونُسُ، قَالَ أَخْبَرَنِي نَافِعٌ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَقْبَلَ يَوْمَ الْفَتْحِ مِنْ أَعْلَى مَكَّةَ عَلَى رَاحِلَتِهِ، مُرْدِفًا أُسَامَةَ بْنَ زَيْدٍ وَمَعَهُ بِلاَلٌ وَمَعَهُ عُثْمَانُ بْنُ طَلْحَةَ، مِنَ الْحَجَبَةِ حَتَّى أَنَاخَ فِي الْمَسْجِدِ، فَأَمَرَهُ أَنْ يَأْتِيَ بِمِفْتَاحِ الْبَيْتِ، فَدَخَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَمَعَهُ أُسَامَةُ بْنُ زَيْدٍ وَبِلاَلٌ وَعُثْمَانُ بْنُ طَلْحَةَ، فَمَكَثَ فِيهِ نَهَارًا طَوِيلاً ثُمَّ خَرَجَ، فَاسْتَبَقَ النَّاسُ، فَكَانَ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ عُمَرَ أَوَّلَ مَنْ دَخَلَ، فَوَجَدَ بِلاَلاً وَرَاءَ الْبَابِ قَائِمًا، فَسَأَلَهُ أَيْنَ صَلَّى رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَشَارَ لَهُ إِلَى الْمَكَانِ الَّذِي صَلَّى فِيهِ. قَالَ عَبْدُ اللَّهِ فَنَسِيتُ أَنْ أَسْأَلَهُ كَمْ صَلَّى مِنْ سَجْدَةٍ

訳：

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما によれば、アッラーの使徒 ﷺ は征服の日、乗り物に乗ってマッカの上部から来られ、**ウサーマ・ブン・ザイドを後ろに乗せ**、ビラールと、カアバの守り手の一人ウスマーン・ブン・タルハを伴っておられた。使徒はマスジドの中でラクダをひざまずかせ、ウスマーンに**カアバの鍵**を持って来るよう命じられた。そしてアッラーの使徒 ﷺ は、ウサーマ・ブン・ザイド、ビラール、ウスマーン・ブン・タルハと共に中に入り、昼間の長い時間そこにとどまり、それから出て来られた。人々は（中に入ろうと）先を争い、アブドゥッラー・ブン・ウマルが最初に入った。かれは扉の後ろに立っているビラールを見つけて尋ねた。「アッラーの使徒 ﷺ はどこで礼拝されたのか。」ビラールは使徒が礼拝された場所を示した。アブドゥッラーは言った。「何ラクア礼拝されたのかを尋ねるのを忘れてしまった。」

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承（タアリーク）：アッ＝ライスは言った：アッ＝ライス・ブン・サアド ← ユーヌス・ブン・ヤズィード・アル＝アイリー ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4289 番（断定形のタアリークで、伝承経路は第 1598 番、第 2988 番、第 4400 番でつながっている）；ムスリム第 1329 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4289

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ と共にアッラーの館に入ったのは三人でした。**ウサーマ・ブン・ザイド** — 元奴隷の息子、**ビラール・ブン・ラバーフ** — マッカで拷問されたアビシニア出身の元奴隷、そして**ウスマーン・ブン・タルハ** — イスラームに入ったばかりの、アブドゥッダール家出身のカアバの守り手です。クライシュの有力者たちではなく、敬虔さと誠実さによって尊ばれた人々でした。

このハディースはまた、**教友たちの学ぶ熱意**も示しています。イブン・ウマルは、アッラーの使徒 ﷺ がどこで礼拝されたかを尋ねてそれに倣うためだけに、真っ先に入ろうと急ぎました。そして正直に認めました。「何ラクアだったか尋ねるのを忘れてしまった。」伝えることにおける誠実さ — 知っていることを語り、知らないことを認めること — は、ハディース学の土台です。

イブン・アッバースのハディース（「使徒は礼拝されなかった」）とイブン・ウマルのハディース（「ビラールが使徒の礼拝された場所を示した」）の違いについて、学者たちは**肯定する者が否定する者に優先する**と説明しています。ビラールは中にいて目撃しましたが、イブン・アッバースはその場におらず、他の人から伝えたからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：464 / 522

カアバの鍵と信託

カアバから出て来られると、アッラーの使徒 ﷺ は**アッラーの館の鍵**を手にしておられました。何世紀もの間、カアバの守り役（ヒジャーバ）としてアブドゥッダールの子孫シャイバ家が保持してきた鍵です。今、この鍵は誰に与えられるのでしょうか。

スィーラの注：「永遠にこれを受け取れ」

スィーラの学者たちの伝えるところでは、アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه（別の伝承ではアル＝アッバース）が、すでにハーシム家が担っていた巡礼者への給水（スィカーヤ）の役目に加えて、この鍵をハーシム家に与えてほしいと願い出ました。しかしアッラーの使徒 ﷺ は**ウスマーン・ブン・タルハ**を呼び、鍵をかれに渡して言われました。「**アビー・タルハ家の人々よ、永遠にこれを受け取れ。不正な者以外、誰もこれをあなたがたから奪うことはない。**」

また、ヒジュラの何年も前、ウスマーン・ブン・タルハがアッラーの使徒 ﷺ のためにカアバの扉を開けることを拒んだとき、使徒は、いつの日かこの鍵が自分の手に入り、望む所にそれを置くことになるだろうと言われた、とも伝えられています。

この話は、議論のある伝承経路をもつ**スィーラ書の伝承**です（イブン・サアドやアッ＝タバラーニーなど）。今日に至るまで、カアバの鍵はシャイバ家の一族が保持しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』— ウスマーン・ブン・タルハ伝。

一部の注釈者は、この出来事を次のアッラーの御言葉に結びつけています。「**誠にアッラーは、あなたがたが信託されたものを、元の所有者に返還することを命じられる**」（女性章 4:58）— 『イブン・カスィール注釈』4:58。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：465 / 522

イブン・カスィールは、この節がカアバの鍵について下ったという伝承を挙げていますが、**その規定は一般的である**と強調しています。あらゆる信託 — 地位、財産、秘密、責任 — は、権利があり資格のある者に渡されなければなりません。アッラーの使徒 ﷺ は鍵をご自分の親族に与えることもできましたが、**身内の利益より正義**を選ばれたのです。

カアバの上のアザーン

その日のズフルの時刻、マッカの空に、町で最も高い所 — **カアバの屋根** — から一つの声が響き渡りました。

スィーラの注：カアバの上のビラール

イブン・イスハークや他のスィーラの学者たちの伝えるところでは、アッラーの使徒 ﷺ は**ビラール・ブン・ラバーフ** رضي الله عنه にカアバの上に登ってアザーンを唱えるよう命じられました。近くに座っていたクライシュの有力者の何人かは、元奴隷がカアバの上に立っていることに不満を表し、皮肉を言う者もいましたが、アッラーはかれらの言葉を使徒にお知らせになりました。

この話はよく知られた**スィーラ書の伝承**です。アル＝バガウィーなどの注釈者は、これを部屋章 49:13 の啓示の理由の一つに挙げていますが、その伝承経路は強くありません。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アル＝バガウィー『マアーリム・アッ＝タンズィール』（部屋章 49:13）。

ビラールの人生の歩みを想像してみてください。マッカで、かれは熱い砂の上に寝かされ、胸に大きな岩を載せられながら、「**アハド、アハド**」 — 唯一なるアッラー — と言い続けました。八年後、同じ町で、かれは最も尊い場所に立ち、同じタウヒードの言葉を唱えたのです — 今度は、マッカの全住民に聞こえる大きな声で。

アッラーは仰せられます。「**アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたの中最も主を畏れる者である**」（部屋章 49:13） — 『イブン・カスィール注釈』49:13。

カアバの上のビラールのアザーンは、イスラームがもたらした**価値観の革命**です。高貴さの尺度は、もはや家柄でも肌の色でも富でもなく、**主を畏れること（タクワ**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ー）になりました。人々がいまだに民族や容姿や富で評価される今日においても、この教訓は生きています。

「あなたがたに咎めはない」

今やマッカの住民は集まり、裁定を待っていました。かれらの前に立っていたのは、かれらが嘲り、追放し、三年間経済的に封鎖し、殺そうとした人でした。使徒はどうなさるのでしょうか。

スィーラの注：「行け、あなたがたは自由だ」

イブン・イスハークの伝えるところでは、アッラーの使徒 ﷺ はカアバの扉口に立って尋ねられました。**「クライシュの人々よ、わたしがあなたがたに何をすると思うか。」**かれらは答えました。「善いことを。あなたは高貴な兄弟であり、高貴な兄弟の子です。」使徒は言われました。**「わたしはあなたがたに、ユースフがその兄弟たちに言ったように言おう。今日あなたがたに咎めはない。行け、あなたがたは自由だ（アッ＝トゥラカー）。」**

この言葉は非常に有名な**スィーラ書の伝承**ですが、その伝承経路は途切れているため、ハディースの学者たちによって**弱いと評価されています**。しかし**その意味は確かです**。真正なハディースは、アッラーの使徒 ﷺ がマッカの住民を全体として赦されたことを示しており、かれらは後に「アッ＝トゥラカー」 — 解放された人々 — と呼ばれるようになりました。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アル＝アルバーニー『弱いハディース集成』— 「あなたがたはトゥラカーである」の伝承についての議論。

ここで引かれている節は、かつて自分を井戸に投げ込んだ兄弟たちに対する預言者ユースフ عَلَيْهِ السَّلَامُ の答えです。**「今日あなたがたを、（取り立てて）咎めることはありません」**（ユースフ章 12:92） — 『イブン・カスィール注釈』12:92。

二つの物語の共通点は非常に深いものです。ユースフは兄弟たちに捨てられ、その後アッラーはかれを高め、兄弟たちがかれを必要として来るまでにされました。ア

ッラーの使徒 ﷺ は一族に追放され、その後アッラーは使徒を勝利者として帰還させられました。二人とも同じ道を選びました。**過去を蒸し返さずに赦すこと**です。

教訓：最も偉大な赦しとは、**報復する力があるときの赦し**です。弱いときの赦しはやむを得ないからかもしれませんが、強いときの赦しは預言者たちの品性です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

翌日の説教

翌日、アッラーの使徒 ﷺ は立ち上がって人々に説教をされました。フザーア族の教友**アブー・シュライフ** رضى الله عنه は、それを耳で聞き、心で理解し、目で見ました。そして何年も後、不正な総督にそれを伝える勇気を持ったのです。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 104 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، قَالَ حَدَّثَنِي اللَّيْثُ، قَالَ حَدَّثَنِي سَعِيدٌ، عَنْ أَبِي شُرَيْحٍ، أَنَّهُ قَالَ لِعَمْرِو بْنِ سَعِيدٍ وَهُوَ يَبْعَثُ الْبُعُوثَ إِلَى مَكَّةَ ائْذَنْ لِي أَيُّهَا الأَمِيرُ أُحَدِّثْكَ قَوْلاً قَامَ بِهِ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم الْغَدَ مِنْ يَوْمِ الْفَتْحِ، سَمِعَتْهُ أُذُنَاىَ وَوَعَاهُ قَلْبِي، وَأَبْصَرَتْهُ عَيْنَاىَ، حِينَ تَكَلَّمَ بِهِ، حَمِدَ اللَّهَ وَأَثْنَى عَلَيْهِ ثُمَّ قَالَ «إِنَّ مَكَّةَ حَرَّمَهَا اللَّهُ، وَلَمْ يُحَرِّمْهَا النَّاسُ، فَلاَ يَحِلُّ لاِمْرِئٍ يُؤْمِنُ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الآخِرِ أَنْ يَسْفِكَ بِهَا دَمًا، وَلاَ يَعْضِدَ بِهَا شَجَرَةً، فَإِنْ أَحَدٌ تَرَخَّصَ لِقِتَالِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِيهَا فَقُولُوا إِنَّ اللَّهَ قَدْ أَذِنَ لِرَسُولِهِ، وَلَمْ يَأْذَنْ لَكُمْ. وَإِنَّمَا أَذِنَ لِي فِيهَا سَاعَةً مِنْ نَهَارٍ، ثُمَّ عَادَتْ حُرْمَتُهَا الْيَوْمَ كَحُرْمَتِهَا بِالأَمْسِ، وَلْيُبَلِّغِ الشَّاهِدُ الْغَائِبَ». فَقِيلَ لأَبِي شُرَيْحٍ مَا قَالَ عَمْرٌو قَالَ أَنَا أَعْلَمُ مِنْكَ يَا أَبَا شُرَيْحٍ، لاَ يُعِيذُ عَاصِيًا، وَلاَ فَارًّا بِدَمٍ، وَلاَ فَارًّا بِخَرْبَةٍ.

訳：

アブー・シュライフ・アル＝フザーイー رضى الله عنه によれば、かれは、マッカに部隊を送っていたアムル・ブン・サイードに言った。「総督よ、わたしに話させてください。預言者 ﷺ **マッカ征服の翌日**に語られた言葉です。わたしの両耳がそれを聞き、心がそれを理解し、両目が、使徒がそれを語っておられるのを見ました。使徒はアッラーを讃えて称賛し、それから言われました。**「マッカはアッラーが神聖とされたのであり、人が神聖としたのではない。だからアッラーと最後の日を信じる者は、そこで血を流してはならず、その木を切ってはならない。もし誰かが、アッラーの使徒 ﷺ がそこで戦ったことを口実にして許しを求めるなら、言え。『アッラーはその使徒にはお許しになったが、あなたがたにはお許しにならなかった。』使徒が許されたのも昼間のほんの一時にすぎず、その後その神聖さは、昨日の神聖さのように今日戻った。居合わせた者は、**

居合わせなかった者に伝えよ。」」アブー・シュライフに「アムルは何と言ったのか」と尋ねると、かれは言った。「（アムルは言った。）『アブー・シュライフよ、わたしはそれをあなたよりよく知っている。聖域は、反逆する者も、血を流して逃げる者も、悪事を働いて逃げる者もかくまいはしない。』」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ・アッ＝ティンニースィー ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← サイード・ブン・アビー・サイード・アル＝マクブリー ← アブー・シュライフ・アル＝フザーイー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』知識の書、「居合わせた者は居合わせなかった者に知識を伝えよ」の章、ハディース第 104 番；第 1832 番、第 4295 番、ムスリム第 1354 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:104

このハディースの教訓

この説教は一つの重要なことを明らかにしています。征服の日にマッカで戦う許しは**特別な例外**であり、アッラーの使徒 ﷺ だけに、**「昼間のほんの一時」**与えられたもので、その後誰の口実にもなり得ないということです。マッカは永遠に流血の場とされてはならないのです。

アブー・シュライフは、マッカのアブドゥッラー・ブン・アッ＝ズバイルと戦うために軍を送っていたマディーナ総督アムル・ブン・サイードに、このハディースを伝えました。アムルはこじつけの理屈でその忠告を退けました。しかしアブー・シュライフは信託を果たしました。**「居合わせた者は、居合わせなかった者に伝えよ。」** 真理を伝えることがわたしたちの務めであり、導きはアッラーの御手にあります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

審判の日までの聖域

イブン・アッバース رضى الله عنهما もまた、征服の日のアッラーの使徒 ﷺ の説教を伝えており、そこでは**マッカの神聖さ**がさらに詳しく説明されています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1834 番

حَدَّثَنَا عُثْمَانُ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا جَرِيرٌ، عَنْ مَنْصُورٍ، عَنْ مُجَاهِدٍ، عَنْ طَاوُسٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ افْتَتَحَ مَكَّةَ «لاَ هِجْرَةَ وَلَكِنْ جِهَادٌ وَنِيَّةٌ، وَإِذَا اسْتُنْفِرْتُمْ فَانْفِرُوا، فَإِنَّ هَذَا بَلَدٌ حَرَّمَ اللَّهُ يَوْمَ خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالأَرْضَ، وَهُوَ حَرَامٌ بِحُرْمَةِ اللَّهِ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ، وَإِنَّهُ لَمْ يَحِلَّ الْقِتَالُ فِيهِ لأَحَدٍ قَبْلِي، وَلَمْ يَحِلَّ لِي إِلاَّ سَاعَةً مِنْ نَهَارٍ، فَهُوَ حَرَامٌ بِحُرْمَةِ اللَّهِ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ، لاَ يُعْضَدُ شَوْكُهُ، وَلاَ يُنَفَّرُ صَيْدُهُ، وَلاَ يَلْتَقِطُ لُقَطَتَهُ إِلاَّ مَنْ عَرَّفَهَا، وَلاَ يُخْتَلَى خَلاَهَا». قَالَ الْعَبَّاسُ يَا رَسُولَ اللَّهِ. إِلاَّ الإِذْخِرَ، فَإِنَّهُ لِقَيْنِهِمْ وَلِبُيُوتِهِمْ. قَالَ قَالَ «إِلاَّ الإِذْخِرَ».

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った。預言者 ﷺ はマッカを開かれた日にこう言われた。「**もはやヒジュラはない。しかしジハードと意図はある。出陣を求められたら出陣せよ。まことにこの地は、アッラーが天と地を創造された日に神聖とされたものであり、審判の日までアッラーの定めによって神聖である。わたしより前の誰にも、そこで戦うことは許されなかった。わたしにも昼間のほんの一時しか許されなかった。だからそれは審判の日までアッラーの定めによって神聖である。その棘を切ってはならず、その獲物を追い立ててはならず、その落とし物は、それを告知する者以外は拾ってはならず、その草を抜いてはならない。**」アル＝アッバースは言った。「アッラーの使徒よ、イズヒル（香りのよい草の一種）は別にしてください。鍛冶屋や家々に使うのです。」使徒は言われた。「**イズヒルは別である。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウスマーン・ブン・アビー・シャイバ ← ジャリール・ブン・アブドゥルハミード ← マンスール・ブン・アル＝ムウタミル ← ムジャーヒド・ブン・ジャブル ← ターウース・ブン・カイサーン ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』狩猟の償いの書、「マッカで戦うことは許されない」の章、ハディース第 1834 番；第 2783 番、第 3077 番、ムスリム第 1353 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1834

このハディースの教訓

マッカの神聖さは人間だけでなく、**植物や動物**にも及びます。棘のある木さえ切ってはならず、獲物を追い立ててはならず、落とし物は告知するため以外に拾ってはなりません。イスラームは十四世紀前に**自然保護区**を定めていたのです。

クルアーンはこの特別さを述べています。「**また誰でもその中に入る者は、平安が与えられる**」（イムラーン家章 3:97）— 『イブン・カスィール注釈』3:97。

また、鍛冶屋と家々の必要のためにイズヒルの草を例外にしてほしいという**アル＝アッバース**の願いを、アッラーの使徒 ﷺ が受け入れられたことにも注目してください。これは**イスラームの法が人間の必要を考慮している**こと、そしてアッラーの使徒 ﷺ が教友たちからの道理ある提案に開かれていたことを示しています。

「征服の後にヒジュラはない」

同じ説教は、ウンマの歴史を変えた言葉で始まります。「**もはやヒジュラはない。しかしジハードと意図はある。**」その意味は何でしょうか。

マッカ征服の前、**マディーナへのヒジュラ**は、それができるムスリムにとって義務でした。マッカはイスラームに敵対する地で、信仰者はそこで自由に信仰を実践できなかったからです。マッカが開かれてイスラームの地となると、その特別な義務は**終わりました**。征服前のヒジュラの大きな報奨は、もはや同じ形では得られなくなったのです。

しかし善の扉は閉ざされていません。**ジハード**（アッラーの道における努力）と誠実な**意図**はなお開かれています。学者たちはまた、ヒジュラの一般的な意味 — アッラーが禁じたことを捨てること — は残ると説明しています。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「**移住者とは、アッラーが禁じられたことを捨てる者である**」（『サヒーフ・ブハーリー』10）。

教訓：どの時代にも、その時代ならではの善の機会があります。マディーナへのヒジュラを逃した人々も、**真実の意図**と**ひたむきな努力**によって報奨を得ることができました。わたしたちもまた毎日「ヒジュラ」することができます — 罪から服従へと。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒンド・ビント・ウトバ

マッカでアッラーの使徒 ﷺ のもとに来た人々の中に、その名がイスラームへの敵意の代名詞であった一人の女性がいました。アブー・スフヤーンの妻、**ヒンド・ビント・ウトバ**です。かの女はバドルで父とおじと兄弟を失い、スィーラ書ではウフドで復讐をあおった人物として描かれています。しかしアッラーはかの女の心を開かれました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3825 番

وَقَالَ عَبْدَانُ أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، أَخْبَرَنَا يُونُسُ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، حَدَّثَنِي عُرْوَةُ، أَنَّ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ جَاءَتْ هِنْدُ بِنْتُ عُتْبَةَ قَالَتْ يَا رَسُولَ اللَّهِ، مَا كَانَ عَلَى ظَهْرِ الأَرْضِ مِنْ أَهْلِ خِبَاءٍ أَحَبَّ إِلَىَّ أَنْ يَذِلُّوا مِنْ أَهْلِ خِبَائِكَ، ثُمَّ مَا أَصْبَحَ الْيَوْمَ عَلَى ظَهْرِ الأَرْضِ أَهْلُ خِبَاءٍ أَحَبَّ إِلَىَّ أَنْ يَعِزُّوا مِنْ أَهْلِ خِبَائِكَ. قَالَ وَأَيْضًا وَالَّذِي نَفْسِي بِيَدِهِ، قَالَتْ يَا رَسُولَ اللَّهِ إِنَّ أَبَا سُفْيَانَ رَجُلٌ مِسِّيكٌ، فَهَلْ عَلَىَّ حَرَجٌ أَنْ أُطْعِمَ مِنَ الَّذِي لَهُ عِيَالَنَا قَالَ «لاَ أُرَاهُ إِلاَّ بِالْمَعْرُوفِ».

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。ヒンド・ビント・ウトバが来て言った。「**アッラーの使徒よ、かつて地上で、あなたの一家ほど辱められるのを見たいと思った家はありませんでした。それが今日では、地上で、あなたの一家ほど尊ばれるのを見たいと思う家はありません。**」使徒は言われた。「**わたしもまた同じである（その思いはさらに強まるであろう）。わたしの魂をその御手に握る御方にかけて。**」ヒンドは言った。「アッラーの使徒よ、アブー・スフヤーンはけちな人です。かれの財産からわたしたちの子どもに食べさせたら、わたしに罪がありましょうか。」使徒は言われた。「**正当な（マアルーフの）仕方である限り、それは罪とは思わない。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承（タアリーク）：アブダーン（アブドゥッラー・ブン・ウスマーン）は言った：アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← ユーヌス・ブン・ヤズィード・アル＝アイリー ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アンサールの美徳の書、「ヒンド・ビント・ウトバについて」の章、ハディース第 3825 番（タアリークで、伝承経路は第 7161 番でつながっている）；ムスリム第 1714 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3825

このハディースの教訓

ヒンドの言葉は、心の変化についての**最も率直な告白**です。かの女は取り繕いませんでした。以前の憎しみを率直に認め、今の愛を同じ強さで表したのです。アッラーの使徒 ﷺ はかの女の過去を蒸し返さず、むしろ親しみを込めて答えられました。

扶養についてのヒンドの質問は、**フィクフの規定の根拠**にもなりました。妻は、けちな夫の財産から、自分と子どもの必要のために**正当な仕方で十分な分**を取ることができるのです。イスラームに入ったばかりの女性がすぐに信仰について学び、質問しました — そしてその質問は今日までウンマを益しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

女性たちの忠誠の誓い

マッカの住民は男も女も、イスラームに入るためにアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て忠誠を誓いました。女性たちのために、アッラーは忠誠の誓いの特別な条件を下されました。

「預言者よ、あなたの許へ女の信者がやって来て、あなたに対しこう忠誠を誓うならば、『アッラーの外は何ものも同位に崇めません。盗みをしません……』」（試問される女章 60:12）— 『イブン・カスィール注釈』60:12。

アーイシャ رضى الله عنها は、その誓いがどのように行われたかを説明しています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4891 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ، حَدَّثَنَا يَعْقُوبُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، حَدَّثَنَا ابْنُ أَخِي ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ عَمِّهِ، أَخْبَرَنِي عُرْوَةُ، أَنَّ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ زَوْجَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم أَخْبَرَتْهُ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم كَانَ يَمْتَحِنُ مَنْ هَاجَرَ إِلَيْهِ مِنَ الْمُؤْمِنَاتِ بِهَذِهِ الآيَةِ، بِقَوْلِ اللَّهِ {يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ إِذَا جَاءَكَ الْمُؤْمِنَاتُ يُبَايِعْنَكَ} إِلَى قَوْلِهِ {غَفُورٌ رَحِيمٌ}. قَالَ عُرْوَةُ قَالَتْ عَائِشَةُ فَمَنْ أَقَرَّ بِهَذَا الشَّرْطِ مِنَ الْمُؤْمِنَاتِ قَالَ لَهَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «قَدْ بَايَعْتُكِ». كَلاَمًا وَلاَ وَاللَّهِ مَا مَسَّتْ يَدُهُ يَدَ امْرَأَةٍ قَطُّ فِي الْمُبَايَعَةِ، مَا يُبَايِعُهُنَّ إِلاَّ بِقَوْلِهِ «قَدْ بَايَعْتُكِ عَلَى ذَلِكَ». تَابَعَهُ يُونُسُ وَمَعْمَرٌ وَعَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ إِسْحَاقَ عَنِ الزُّهْرِيِّ. وَقَالَ إِسْحَاقُ بْنُ رَاشِدٍ عَنِ الزُّهْرِيِّ عَنْ عُرْوَةَ وَعَمْرَةَ.

訳：

ウルワによれば、アーイシャ رضى الله عنها — 預言者 ﷺ の妻 — はかれにこう告げた。アッラーの使徒 ﷺ は、**使徒のもとへ移住して来た女の信者たちを、この節によって試された。**すなわちアッラーの御言葉「預言者よ、あなたの許へ女の信者がやって来て、あなたに対しこう忠誠を誓うならば……」から「……本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。」までである。アーイシャは言った。女の信者のうちこの条件を認めた者に、アッラーの使徒 ﷺ は「**わたしはあなたの忠誠の誓いを受け入れた**」と言われた —

言葉だけで。**アッラーにかけて、使徒の手が忠誠の誓いにおいて女性の手に触れたことは一度もなかった。** 使徒はかの女たちから、ただ次の言葉によってのみ誓いを受けられた。「**わたしはそのことについてあなたの忠誠の誓いを受け入れた。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク ← ヤアクーブ・ブン・イブラーヒーム・ブン・サアド ← イブン・シハーブの甥（ムハンマド・ブン・アブドゥッラー） ← そのおじイブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』注釈の書、試問される女章、「女の信者たちがあなたのもとに忠誠を誓いに来たとき」の章、ハディース第 4891 番；ムスリム第 1866 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4891

このハディースの教訓

このハディースは、イスラームが**女性を責任ある個人として尊重している**ことを示しています。女性たちは夫や父を通してではなく、自らアッラーの使徒 ﷺ に直接忠誠を誓いました。その条件 — 多神崇拝をしない、盗まない、姦通しない、子を殺さない、嘘をつかない、正しいことに背かない — は、新しい社会の**道徳の土台**でした。

「**子女を殺しません**」という条件は、女の子を生き埋めにしていた無明時代のアラブ社会にとって、非常に大きな意味を持っていました。この誓いは、マッカにおけるその慣習を永遠に終わらせたのです。そして、アッラーの使徒 ﷺ の手が忠誠の誓いにおいて親族でない女性の手に一度も触れなかったというアーイシャの誓言は、使徒の**作法と清らかさ**を示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：479 / 522

イクリマ・ブン・アビー・ジャハル

イクリマ・ブン・アビー・ジャハルは、バドルで殺された、イスラームの最も激しい敵アブー・ジャハルの息子です。イクリマ自身もウフドとハンダクでムスリムと戦い、アル＝ハンダマでの最後の抵抗を率いました。マッカが開かれると、かれはイエメンへ逃げました。

スィーラの注：夫を迎えに行った妻

スィーラの学者たちの伝えるところでは、イクリマの妻**ウンム・ハキーム・ビント・アル＝ハーリス**は征服の日にイスラームに入り、夫のために安全を願い出ました。アッラーの使徒 ﷺ はかの女に安全を与えられました。ウンム・ハキームは夫を追って海岸まで行き、船に乗ろうとしているかれを見つけて言いました。「わたしは、人々の中で最も親族の絆を大切にし、最も善良で、最も高貴な方のもとから来ました。」

イクリマがやって来ると、アッラーの使徒 ﷺ は喜んで立ち上がり、かれを迎えられました。また使徒は教友たちに、**かれの父をののしらないよう**言い聞かせられたと伝えられています。死者をののしることは生きている者を傷つけ、死者には届かないからです。イクリマはその後懸命に戦い、ヤルムークの戦いで殉教しました。

この詳細は**スィーラ書の伝承**です（中には『ムワッタア』のムルサル伝承やアル＝ハーキムのものがあります）。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。
マーリク『ムワッタア』— 婚姻の書；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』— イクリマ伝。

イクリマの物語は二つのことを示しています。第一に、**信仰ある妻の役割**です。ウンム・ハキームは夫をあきらめず、遠い道のりを越えてかれを連れ戻しました。第二に、イスラームに入ったばかりの人の気持ちに配慮する**アッラーの使徒** ﷺ の英知です。使徒は、かれの前でその父をののしることを禁じられました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・ジャハル — 「このウンマのファラオ」 — の息子が、イスラームを守って殉教しました。アッラーの導きから遠すぎる人など誰もおらず、**家系が人の運命を決めるのではない**のです。

サフワーン・ブン・ウマイヤ

サフワーン・ブン・ウマイヤもまた、イスラームの大敵の息子でした。ビラールを拷問し、バドルで殺された主人ウマイヤ・ブン・ハラフの息子です。サフワーンもマッカが開かれると逃げ出しました。

スィーラの注：二か月の猶予

スィーラの学者たちの伝えるところでは、ウマイル・ブン・ワフブがサフワーンのために安全を願い出ると、アッラーの使徒 ﷺ は安全のしるしとしてご自分のターバンを与えられました。サフワーンは戻って来ると、考えるために二か月の猶予を求めました。使徒は言われました。「**あなたには四か月の猶予を与えよう。**」 アッラーの使徒 ﷺ は、かれにイスラームを強制されませんでした。

この詳細は**スィーラ書の伝承**です（中には『ムワッタア』のムルサル伝承があります）。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。
マーリク『ムワッタア』— 婚姻の書。

サフワーンは、イスラームに入る前にアッラーの使徒 ﷺ とともにフナインの戦いに加わりました（第 22 巻）。フナインの後、アッラーの使徒 ﷺ はかれに百頭のラクダを与え、さらに百頭、さらに百頭を与えられました。サフワーンは言いました。**「アッラーにかけて、使徒はわたしに与えられたものを与えられたが、そのときわたしにとって使徒は最も憎い人だった。使徒が与え続けられたので、ついにわたしにとって最も愛しい人になった。」**（『サヒーフ・ムスリム』2313）

教訓：「**宗教には強制があってはならない**」は単なる理論ではありません。アッラーの使徒 ﷺ はサフワーンに時間と安全と寛大さを与えられ、ついにはサフワーン自

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

身の心が開かれたのです。人の心をつかむには、強制よりも絶え間ない善意のほうが効果があります。

アブー・クハーファ：染められた白髪

征服の日の最も心打つ光景の一つは、**アブー・バクル・アッ＝スィッディーク** رضي الله عنه が年老いて目の見えない父**アブー・クハーファ**をアッラーの使徒 ﷺ のもとに連れて来たときのことです。ジャービル・ブン・アブディッラー رضي الله عنهما によれば、アブー・クハーファがマッカ征服の日に連れて来られたとき、**その頭とあごひげはサガーマの花のように真っ白だった。**アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「**これを何かで（色を）変えなさい。ただし黒は避けなさい。**」（『サヒーフ・ムスリム』2102）

スィーラの注：「なぜこの老人を家に置いておかなかったのか」

スィーラの学者たちの伝えるところでは、アブー・バクルが父を連れて来ると、アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「**なぜこの老人を家に置いておかなかったのか。わたしのほうから訪ねて行ったものを。**」 アブー・バクルは答えました。「アッラーの使徒よ、あなたがかれのもとへ歩いて行かれるより、かれがあなたのもとへ歩いて来るほうがふさわしいのです。」使徒はかれを座らせ、その胸をなでられ、アブー・クハーファはイスラームに入りました。

この詳細は、議論のある伝承経路をもつ**スィーラ書の伝承**です（アフマドやイブン・イスハークなど）。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

アッラーの使徒 ﷺ の老人への敬意を見てください。アラビア半島の最高指導者となったその日にも、使徒は目の見えない老人の家まで自ら歩いて行こうとされたのです。そして**アブー・バクルの喜び**を見てください。最初にイスラームに入った教友が、二十年以上を経て、ついに自分の父がイスラームに入るのを見届けたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このハディースはまた、白髪をヘンナなどで**染めることがスンナであること**、そして黒く染めることが禁じられていることの根拠ともなっています。この宗教は、大きな出来事に満ちた日においてさえ、ムスリムの身だしなみの細かな点にまで心を配っているのです。

マッカ周辺の偶像

カアバを清めるだけでは十分ではありませんでした。マッカの周辺には、アラブの諸部族が崇める大きな**偶像の館**がまだありました。アッラーの使徒 ﷺ は、それらを破壊するために幾つかの小部隊を送られました。

スィーラの注：アル＝ウッザー、スワーウ、マナート

スィーラの学者たちの伝えるところでは、**ハーリド・ブン・アル＝ワリード** رضى الله عنه はクライシュ最大の偶像**アル＝ウッザー**を破壊するためにナフラへ遣わされ、**アムル・ブン・アル＝アース** رضى الله عنه はフザイル族の偶像**スワーウ**を破壊するために遣わされ、**サアド・ブン・ザイド・アル＝アシュハリー** رضى الله عنه は、イスラーム以前にアウス族とハズラジュ族があがめていた偶像**マナート**を破壊するためにアル＝ムシャッラルへ遣わされました。

スワーウの番人はアムルに尋ねたと伝えられています。「何をするつもりか。」アムルがそれを破壊しても何も起こらなかったので、番人は言いました。「**わたしはアッラーに帰依します。**」 この詳細は**スィーラ書の伝承**です。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』— マッカ征服後の遠征。

スワーウの番人の話には深い教訓があります。かれは生涯、その偶像に力があると信じていました。目の前でそれが破壊され、**何も起こらなかった**とき、かれは、自分が今まで崇めてきたものには何の力もなかったことを自ら悟りました。時には、人の目を開かせる最善の方法は、その人が崇めているものの無力さを自分の目で見させることなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハーリドとジャズィーマ族

マッカ征服の後に起こったことのすべてが完璧だったわけではありません。アッラーの使徒 ﷺ は**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**を**ジャズィーマ族**のもとへ遣わし、イスラームに招かせました。アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما によれば、かれらは「アスラムナー」（わたしたちはイスラームに入った）とうまく言えず、「**サバアナー、サバアナー**」（わたしたちは自分たちの宗教を捨てた）と言いました。ハーリドはこれを誤解し、かれらの一部を殺し、ほかの者を捕虜にしました。

イブン・ウマルとその仲間たちは、**自分たちの捕虜を殺すことを拒みました**。その知らせがアッラーの使徒 ﷺ に届くと、使徒は両手を上げて二度言われました。「**アッラーよ、わたしはハーリドのしたことについて、あなたの御前で関わりのないことを表明します。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4339）

> **スィーラの注：ジャズィーマ族への血の代償**
>
> スィーラの学者たちの伝えるところでは、アッラーの使徒 ﷺ は**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه に財貨を持たせて遣わし、殺されたすべての命と損なわれたすべての財産について**血の代償（ディヤ）**を支払わせました。犬の水飲み器さえ弁償されたほどでした。この詳細は**スィーラ書の伝承**です。
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

ここには大きな教訓があります。第一に、イスラームは、たとえ優れた指揮官が犯したものであっても、**過ちを覆い隠さない**ということ。第二に、アッラーの使徒 ﷺ は、**ハーリドではなくその行為について関わりを否定された**ということ。その過ちは悪意ではなく誤解から生じたものだったので、使徒はかれを解任されませんでした。第三に、正義は被害者への**補償**を求めるということ。そして第四に、イブン・

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウマルは、指導者への服従は明らかに誤ったことへの服従を**含まない**ことを教えてくれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

待っていた諸部族

マッカ征服は一つの町が開かれただけではなく、**アラビア半島全体の転換点**でした。若い教友**アムル・ブン・サリマ** رضي الله عنه は、その出来事の前の自分の部族の様子をこう語っています。

「アラブの人々は、征服が起こるまでイスラームに入るのを先延ばしにしていた。かれらは言っていた。『かれ（ムハンマド）とかれの一族のことは放っておけ。もしかれが一族に勝てば、かれは真実の預言者だ。』征服が起こると、どの部族も急いでイスラームに入った。」（『サヒーフ・ブハーリー』4302）

なぜアラブの諸部族は待っていたのでしょうか。クライシュは**カアバの守り手**であり、アラブの宗教的指導者だったからです。クライシュがムハンマド ﷺ に敵対している限り、多くの者がためらっていました。マッカが開かれ、カアバが清められると、イスラームへの最大の障害は**崩れ去りました**。翌年は**アーム・アル＝ウフード** — 使節団の年 — として知られ、アラブ各地の部族がイスラームに入るためにマディーナを訪れました（第 26 巻）。

同じハディースで、アムル・ブン・サリマは、旅人たちによく尋ねていたので一族の中で最も多くクルアーンを覚えていた自分が、六、七歳で一族の**イマーム**に任じられたことを語っています。クルアーンの知識は、たとえ子どもであっても、その人の地位を高めるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

援助章

マッカ征服を描くのに最もふさわしい章は**援助章**です。一部の学者によれば、全章がそろって最後に下された章です。

「**アッラーの援助と勝利が来て、**」（援助章 110:1） — 『イブン・カスィール注釈』110:1。

「**人びとが群れをなしてアッラーの教え（イスラーム）に入るのを見たら、**」（援助章 110:2） — 『イブン・カスィール注釈』110:2。

「**あなたの主の栄光を誉め称え、また御赦しを請え。本当にかれは、度々赦される御方である。**」（援助章 110:3） — 『イブン・カスィール注釈』110:3。

この章は三つのことを述べています。**アッラーの援助、勝利（アル＝ファトフ）、そして人びとが群れをなしてイスラームに入ること** — まさにマッカ征服の後に起こったことです。そしてその命令は祝宴ではなく、**主の栄光を讃え、主を讃美し、赦しを請うこと**です。これがイスラームにおける勝利の作法です。

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه は、年長の教友たちにこの章の意味を尋ねたことがあります。ある者は言いました。「勝利が与えられたら、アッラーを讃え、赦しを請うよう命じられているのです。」しかしまだ若かったイブン・アッバース رضي الله عنهما は言いました。「**それは、アッラーの使徒ﷺに知らされた、使徒の寿命の終わりのことです。**」 ウマルは言いました。「わたしも、あなたが言ったこと以外にはこれについて知らない。」（『サヒーフ・ブハーリー』4970）

使命が完了したとき、帰る時が来ます。マッカ征服の勝利は**使命がまもなく終わるというしるし**でした — そして三年足らずの後、アッラーの使徒ﷺは亡くなられました。わたしたちにとっても、あらゆる成功は人生に終わりがあることを思い起こさせます。だから、それを讃美と赦しの祈りで迎えましょう。

マッカでの 19 日間

アッラーの使徒 ﷺ は、征服の後すぐにマッカを去られたわけではありませんでした。イブン・アッバース رضى الله عنهما は言いました。「**預言者 ﷺ はマッカに十九日間とどまり、ニラクアで礼拝された（礼拝を短縮された）。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4298）

その間、使徒は**マッカの生活を立て直されました。**住民の忠誠の誓いを受け、信仰を教え、周辺の偶像を破壊するために部隊を送り、イスラームに入ったばかりのクライシュの若者**アッターブ・ブン・ウサイド**をマッカ総督に任じ、またムアーズ・ブン・ジャバルにクルアーンと諸規定を教えさせました（スィーラ書による）。アッラーの使徒 ﷺ はマッカを罰したのではなく、マッカを**再建**されたのです。

このハディースはまた、旅人の礼拝についての**フィクフの根拠**にもなっています。アッラーの使徒 ﷺ は、そこに住み着くつもりがなかったので、マッカ滞在中ずっと礼拝を短縮されました。人がどれだけの期間短縮できるかについて学者たちの意見は分かれており、このハディースはその議論の主要な根拠の一つです。

その後、**ハワーズィン族とサキーフ族**がムスリムを攻撃するために大軍を集めているという知らせが届きました。マッカの勝利は**フナイン**の谷で試されることになります。その物語は第 22 巻で語ります。

追われた日、戻った日

マッカ征服がどれほど偉大なことであったかを理解するために、アッラーの使徒 ﷺ が**マッカを去られた**日と、**戻られた**日を比べてみましょう。

ヒジュラの日（ヒジュラ 1 年）	マッカ征服の日（ヒジュラ 8 年）
夜にひそかに出て行かれた	昼に堂々と入られた
一人の教友、アブー・バクルが同行	一万人が同行
ラクダ百頭の懸賞をかけて追われた	昔の敵たちが安全を求めて来た
サウルの洞窟に隠れた	カアバの扉口に立たれた
偶像がカアバを支配していた	カアバの周りで偶像が倒れた
ビラールはマッカで拷問された	ビラールはカアバの上でアザーンを唱えた
「アッラーはわたしたちと共におられる」（悔悟章 9:40）	「真理は下った」（夜の旅章 17:81）

二つの日には共通点が一つあります。**アッラーへの完全な信頼（タワックル）**です。サウルの洞窟で、使徒はアブー・バクルに言われました。「心配してはならない。アッラーはわたしたちと共におられる。」マッカでは、使徒は頭を垂れ、勝利章を朗誦しながら入られました。困難の中でも使徒は絶望せず、勝利の中でも我を忘れることはありませんでした。

二つの日を隔てるのは、わずか八年です。それは、アッラーのお許しによって**状況はすぐに変わり得る**ことを教えています。今日、困難の中で忍耐する人は、いつの日か自分自身の「マッカ征服」を目にするかもしれません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第二部の物語の典拠

第一部と同じように、第二部の物語も真正なハディースとスィーラ書を通して伝えられています。次の表は、その二つを区別するのに役立ちます。

出来事	典拠と等級
勝利章を朗誦しながら入城	『サヒーフ・ブハーリー』4281
部隊、アンサール、アブー・スフヤーンの家	『サヒーフ・ムスリム』1780
360 体の偶像とカアバの中の絵	『サヒーフ・ブハーリー』4287、4288
ビラールと共にカアバの中へ	『サヒーフ・ブハーリー』4289
マッカの神聖さについての説教	『サヒーフ・ブハーリー』104、1834
ヒンドと女性たちの忠誠の誓い	『サヒーフ・ブハーリー』3825、4891
カアバの鍵をウスマーン・ブン・タルハへ	スィーラ書；伝承経路は議論あり
カアバの上のビラールのアザーン	スィーラ書
「行け、あなたがたは自由だ」	スィーラの伝承；弱いと評価
イクリマとサフワーンの話	スィーラ書；『ムワッタア』（ムルサル）

骨格となる部分 — 平和的な入城、安全の布告、偶像の破壊、カアバの清め、マッカの神聖さについての説教、住民のイスラーム入信 — は**真正なハディースで確かめられています**。その他の話は、スィーラの伝承として正直にお伝えしています。その意味が、真正なハディースで確かめられたアッラーの使徒 ﷺ の品性と一致しているからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

征服の日の背後にあるクルアーンの節

これまでの章で、マッカ征服の日に関わるクルアーンの節を幾つか挙げてきました。この章ではそれらを一つの表にまとめ、クルアーンがどのようにその出来事に「寄り添って」いたかを見られるようにします。また、関わりが真正なハディースで確かめられている節と、一部の注釈者の見解にすぎない節とを区別します。

節	おおよその意味	征服の日との関わり	関わりの確かさ
夜の旅章 17:81	真理は下り、虚偽は消え去った	360 体の偶像を倒しながらアッラーの使徒 ﷺ が唱えられた（第 8 章）	真正なハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』4287
サバア章 34:49	真理は下り、虚偽は何も始めることも繰り返すこともできない	同じ伝承の中で 17:81 と共に唱えられた	真正なハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』4287
女性章 4:58	信託されたものを元の所有者に返せ	カアバの鍵がウスマーン・ブン・タルハに返された（第 11 章）	一部の注釈者の見解（イブン・カスィール）；文言は一般的
部屋章 49:13	最も貴い者は最も主を畏れる者	カアバの上のビラールのアザーンに結びつけられる（第 12 章）	弱い注釈伝承；意味は正しい
ユースフ章 12:92	今日あなたがたに咎めはない	クライシュに対するアッラーの使徒 ﷺ の言葉（第 13 章）	スィーラ書の伝承
イムラーン家章 3:97	その中に入る者には平安が与えられる	聖域の神聖さ（第 15 章）	節の一般的な意味
試問される女章 60:12	女性たちの忠誠の誓いの条件	マッカの女性たちの忠誠の誓い（第 18 章）	真正なハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』4891

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

節	おおよその意味	征服の日との関わり	関わりの確かさ
援助章 110:1–3	アッラーの援助、勝利、人びとが群れをなしてイスラームに入る	征服の描写と、使徒の寿命の終わりの示唆（第 25 章）	真正なハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』4970
鉄章 57:10	勝利の前に尽くした者と後に尽くした者は同じではない	初期世代の位（第 20 巻、第 31 章）	大多数の学者の注釈
悔悟章 9:28	多神教徒はこの年以後、聖なるマスジドに近づいてはならない	ヒジュラ 9 年の聖域の清めの完成（第 27 巻）	ヒジュラ 9 年に下った — 征服の日ではない

クルアーン：サバア章 34:49

アッラーは仰せられる。「言ってやるがいい。『真理（イスラーム）は下り、偽り（邪神）は何らその後創造することもなくまた再び繰返すこともない。』」

参照：サバア章 34:49 — 『イブン・カスィール注釈』34:49。征服の日にアッラーの使徒ﷺが夜の旅章 17:81 と共に唱えられた（『サヒーフ・ブハーリー』4287）。

このサバア章の節は、夜の旅章 17:81 の意味を補っています。真理が明らかに下ると、虚偽は倒れるだけでなく、再び立ち上がることも、何か新しいものを生み出すこともできません。何世紀も崇められてきた偶像は、一張りの弓で突かれただけで倒れ伏し、今日に至るまで二度とカアバの周りに戻ることはありませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

注釈の注：関わりの度合いを区別する

節と出来事との関わりは、すべてが同じ強さではありません。17:81 と 34:49 の征服の日との関わりは、『サヒーフ・ブハーリー』で確かめられています。4:58 とカアバの鍵との関わりは、イブン・カスィールが一部のサラフの学者から引いたもので、節そのものは一般的な内容です。49:13 とビラールのアザーンとの関わりは、伝承経路の弱い注釈伝承によるものです。

学者たちは注意を促しています。「考慮されるのは文言の一般性であって、啓示の原因の特殊性ではない。」啓示の原因が確かでなくても、節の意味はすべての人に当てはまります。

教訓

マッカ征服の日は、単なる軍事上の出来事ではありません。クルアーンが朗誦され、実践された日でした。勝利したとき、アッラーの使徒 ﷺ は誇りの詩ではなく、クルアーンの節を唱えられました。わたしたちはまた、学問における誠実さも学びます。節との関わりを、足すことも引くこともなく、その確かさの度合いに応じて伝えることです。

除外された者たちとその結末

第 7 章では、征服の日の全体的な安全に幾つかの例外があったことを簡単に述べました。この章では、かれらの名前、除外の理由、そして一人ひとりの結末をまとめます。これらの詳細の多くはスィーラ書によるものです。ハディースで確かめられているものには典拠を示します。

ハディース：四人の男と二人の女

サアド・ブン・アビー・ワッカース رضي الله عنه によれば、マッカ征服の日、アッラーの使徒 ﷺ は四人の男と二人の女を除いて人々に安全を与えられました。使徒が挙げたのは、イクリマ・ブン・アビー・ジャハル、アブドゥッラー・ブン・ハタル、ミクヤス・ブン・スバーバ、アブドゥッラー・ブン・サアド・ブン・アビー・サルフでした。イブン・ハタルはカアバの覆い布にしがみついているところを見つけられて殺され、ミクヤスは市場で見つけられて殺され、イクリマは海へ逃げ、イブン・アビー・サルフはウスマーン・ブン・アッファーンの家に隠れました。

等級：アル＝アルバーニーによればサヒーフ — 『スナン・アン＝ナサーイー』4067；『スナン・アビー・ダーウード』2683 にも。

名前	除外の理由（要約）	その後	典拠
アブドゥッラー・ブン・ハタル	自分に仕えていたムスリムを殺した後に背教；歌い手を雇って罵らせた相手はアッラーの使徒 ﷺ	カアバの覆い布にしがみついているところを殺された	『サヒーフ・ブハーリー』1846；『スナン・アン＝ナサーイー』4067
ミクヤス・ブン・スバーバ	兄弟の血の代償を受け取った後にアンサールの一人を殺し、背教	市場で殺された	『スナン・アン＝ナサーイー』4067；スィーラ書

名前	除外の理由（要約）	その後	典拠
イクリマ・ブン・アビー・ジャハル	最も激しい敵対者の一人；アル＝ハンダマで戦った	海岸へ逃げ、妻に連れ戻されてイスラームに入った（第 19 章）	『スナン・アン＝ナサーイー』4067；スィーラ書
アブドゥッラー・ブン・サアド・ブン・アビー・サルフ	かつて啓示の書記だったが、背教して虚偽を広めた	ウスマーンに連れて来られ、三度求められた後に忠誠の誓いを受け入れられた	『スナン・アビー・ダーウード』2683；『スナン・アン＝ナサーイー』4067
アル＝フワイリス・ブン・ヌカイズ	マッカでアッラーの使徒 ﷺ を苦しめ、移住する使徒の娘の乗り物を妨げた	アリー・ブン・アビー・ターリブに殺された	スィーラ書（イブン・イスハーク）
ハッバール・ブン・アル＝アスワド	アッラーの使徒 ﷺ の娘ザイナブの移住の際、そのラクダを驚かせて流産させた	逃げたが、のちにイスラームに入りに来て赦された	スィーラ書
イブン・ハタルの二人の歌い手	罵りの詩を歌った相手はアッラーの使徒 ﷺ	一人は殺され、もう一人は安全を与えられてイスラームに入った	スィーラ書（名前には異説がある）
ヒンド・ビント・ウトバ	スィーラ書の一部の名簿に挙げられている	忠誠を誓いに来てイスラームに入った（第 17 章）	『サヒーフ・ブハーリー』3825；スィーラ書
ワフシー・ブン・ハルブ	ウフドでハムザを殺した	ターイフへ逃げ、のちにサキーフの使節団と共にイスラームに入りに来た	『サヒーフ・ブハーリー』4072

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：さまざまな名簿

サアド・ブン・アビー・ワッカースのハディースは、四人の男と二人の女を挙げています。イブン・イスハークやアル＝ワーキディーといったスィーラの学者たちは、より長い名簿を挙げています — アル＝フワイリス、ハッバール、ヒンド、そしてサーラ（ハーティブの手紙を運んだ女、第 20 巻）などです。人数と名前は伝承によって異なります。真正な伝承経路で確かめられているのは、サアドのハディースにある四人の名前です。

イブン・ハタルを殺したのが誰かについても異説があります。アブー・バルザ・アル＝アスラミーとする説と、サイード・ブン・フライスとする説です。これはスィーラ書の伝承です。

参照：イブン・ヒシャーム『預言者伝』— マッカ征服の章；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』— ハディース第 1846 番と第 4280 番の注釈。

除外された者のほとんど全員が、悔悟して来たときには最終的に赦されたことに注目してください。罰せられたのは、戻る機会がなかったか戻ろうとしなかった者で、その罪は殺人、殺人の後の背教、イスラームとの戦いといった重大なものでした。全体的な安全は何千人ものマッカの住民に与えられ、その中には二十年にわたってアッラーの使徒 ﷺ を苦しめた多くの人々も含まれていました。

教訓

大きな赦しは、正義を脇に置くことを意味しません。国家には、広い悔悟の扉と明確な法の境界の両方が必要です。そして最も美しいのは、たとえ指名手配の名簿に入っていても、悔悟の扉がなお開かれていたことです — イクリマ、イブン・アビー・サルフ、ハッバール、ワフシーのように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウンム・ハーニー、マフズーム族の女性、征服の日の諸規定

征服の日の大きな出来事の合間に、重要な規定の土台となった二つの小さな話がありました。どちらも女性に関わり、どちらも『サヒーフ・ブハーリー』で確かめられています。

ウンム・ハーニーの保護

ハディース：「あなたが保護した者は、わたしたちも保護した」

ウンム・ハーニー・ビント・アビー・ターリブ رضى الله عنها は、マッカ征服の年にアッラーの使徒 ﷺ のもとを訪れると、使徒は沐浴中で、娘のファーティマが布で覆っていたと語っています。沐浴を終えると、使徒は一枚の布をまとって八ラクアの礼拝をされました。ウンム・ハーニーは言いました。「アッラーの使徒よ、わたしの兄弟（アリー）が、わたしが保護した男 — フバイラの息子某 — を殺すと言っています。」アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「ウンム・ハーニーよ、あなたが保護した者は、わたしたちも保護した。」ウンム・ハーニーは言いました。「それはドゥハーの時刻でした。」

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』357；『サヒーフ・ブハーリー』3171 と『サヒーフ・ムスリム』336 にも。

ウンム・ハーニーはアッラーの使徒 ﷺ のいとこ — 使徒のおじアブー・ターリブの娘 — で、アリー・ブン・アビー・ターリブの姉妹です。夫のフバイラ・ブン・アビー・ワフブはマフズーム家の出身でした。かの女が保護した男は夫の親族で、イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』でその名について幾つかの可能性を挙げています。

このハディースから、学者たちは幾つかの規定を導いています。ムスリム — 男でも女でも — が敵の一人に与えた保護（アマーン）は有効であり、すべてのムスリムがそれを尊重しなければならないこと。そしてドゥハーの時刻の八ラクアの礼拝です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：500 / 522

一部の学者はこれをドゥハーの礼拝と呼び、別の学者たちは、ある地が開かれたときに指導者に勧められる「勝利の礼拝」（サラート・アル＝ファトフ）であると考えています。

盗みを働いたマフズーム族の女性

ハディース：「たとえファーティマが盗んだとしても……」

ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルの伝えるところでは、アッラーの使徒 ﷺ の時代、征服の遠征の際に一人の女性が盗みを働いた。その一族は急いでウサーマ・ブン・ザイドに取りなしを頼んだ。ウサーマが使徒に話すと、アッラーの使徒 ﷺ の顔色が変わり、使徒は言われた。「あなたはアッラーの刑罰（フドゥード）の一つについて取りなしをするのか。」ウサーマは言った。「アッラーの使徒よ、わたしのために赦しを請うてください。」その夕方、使徒は立って説教し、アッラーを讃えてから言われた。「あなたがた以前の人々を滅ぼしたのは、かれらの中の高貴な者が盗むと放っておき、弱い者が盗むと刑罰を科したことであった。ムハンマドの魂をその御手に握る御方にかけて、たとえムハンマドの娘ファーティマが盗んだとしても、わたしはその手を切るであろう。」

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』4304；『サヒーフ・ムスリム』1688 にも。

その女性はクライシュの中でも最も名誉ある一族の一つ、マフズーム族 — アブー・ジャハルとハーリド・ブン・アル＝ワリードの一族 — の出身でした。イブン・ハジャルはその名をファーティマ・ビント・アル＝アスワドとしています。ウサーマが仲介者に選ばれたのは、かれがアッラーの使徒 ﷺ にとても愛されていたからです。しかし愛情で正義を買うことはできません。同じ伝承によれば、その女性は立派に悔悟してのちに結婚し、アーイシャ رضي الله عنها は、かの女がその後よく訪ねて来たので、その用件をアッラーの使徒 ﷺ に取り次いだと述べています。

なぜこの女性は、他のマッカの住民のように赦されなかったのでしょうか。全体的な安全は、イスラーム以前に起きたことを帳消しにするものだったからです。この盗みはマッカが開かれた後、イスラームの法の下で起こり、その件はすでに統治者

のもとに届いていました。統治者のもとに届いた刑罰は、取りなしによって免除することはできません。

規定	征服の日からの根拠	典拠
ムスリム女性による保護（アマーン）は有効である	ウンム・ハーニーの話	『サヒーフ・ブハーリー』357、3171
ドゥハーの時刻の八ラクアの礼拝／勝利の礼拝	ウンム・ハーニーの家でのアッラーの使徒 ﷺ の礼拝	『サヒーフ・ブハーリー』357；『サヒーフ・ムスリム』336
統治者のもとに届いた刑罰には取りなしはない	マフズーム族の女性	『サヒーフ・ブハーリー』4304；『サヒーフ・ムスリム』1688
法の前でのすべての人の平等	「たとえファーティマが盗んだとしても……」	『サヒーフ・ブハーリー』4304
巡礼も小巡礼も意図しない者がイフラームなしにマッカに入ること	アッラーの使徒 ﷺ は鉄の兜をかぶって入られた	『サヒーフ・ブハーリー』1846（学者の意見は分かれる）
住み着くつもりのない旅人の礼拝の短縮	マッカでの 19 日間	『サヒーフ・ブハーリー』4298
その日以後、聖域で戦うことの禁止	翌日の説教	『サヒーフ・ブハーリー』104、1834

フィクフの注：イフラームなしにマッカに入ること

巡礼や小巡礼以外の目的でマッカに入る人について、学者たちの意見は分かれています。シャーフィイー派（有名な見解）は、アッラーの使徒 ﷺ が鉄の兜をかぶって入られたことを根拠に、その人にイフラームは義務ではないとします。ハナフィー派とマーリク派は、ミーカートの外から来る人はイフラームをしなければならないとし、その日のアッラーの使徒 ﷺ の状況は特別な例外であったと考えます。マッカは使徒に「昼間のほんの一時」だけ許されたからです（『サヒーフ・ブハーリー』104）。

参照：イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』— ハディース第 1846 番の注釈；アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』— ハディース第 1357 番。

教訓

勝利の日は、不正やえこひいきが最も起こりやすい日です。アッラーの使徒 ﷺ はその逆を示されました。一人の女性の保護は尊重され、高貴な家柄の女性もまた法に従わされたのです。真の正義は、自分に近い人を罰し、弱い人の権利を尊重する覚悟ができたときに始まります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

第二部の人物

マッカ征服の日には、多くの人物が関わりました — 古くからの教友、使徒の親族、そしてのちにイスラームに入った敵たちです。次の表は、親族関係を注意深く確かめたうえで、かれらをまとめたものです。

人物	部族／関係	第二部での役割	典拠
ウサーマ・ブン・ザイド	ザイド・ブン・ハーリサ（カルブ族）とウンム・アイマンの息子；ウンム・アイマンが育てたのはアッラーの使徒 ﷺ	入城の際に使徒の後ろに乗せられた；カアバの中に入った	『サヒーフ・ブハーリー』4289
ビラール・ブン・ラバーフ	アビシニア出身の元奴隷	カアバの中に入った；カアバの屋根の上でアザーン	『サヒーフ・ブハーリー』4289；スィーラ書
ウスマーン・ブン・タルハ	アブドゥッダール家（クライシュ）；カアバの守り手	カアバを開けた；鍵がかれに返された	『サヒーフ・ブハーリー』4289；スィーラ書
シャイバ・ブン・ウスマーン	アブドゥッダール家；ウスマーン・ブン・タルハのいとこ	その子孫（シャイバ家）が今日までカアバの鍵を保持している	スィーラ書；歴史書
ハーリド・ブン・アル＝ワリード	マフズーム家（クライシュ）	右翼を率いた；アル＝ハンダマで戦った；アル＝ウッザーとジャズィーマ族のもとへ遣わされた	『サヒーフ・ブハーリー』4280、4339；スィーラ書
アッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワーム	アサド家；アブドゥルムッタリブの娘サフィーヤの息子で、いとこの関係にある：アッラーの使徒 ﷺ	左翼を率いた；アル＝ハジューンに旗を立てた	『サヒーフ・ブハーリー』4280；『サヒーフ・ムスリム』1780

人物	部族／関係	第二部での役割	典拠
アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフ	アル＝ハーリス・ブン・フィフル家（クライシュ）	徒歩部隊を率いた	『サヒーフ・ムスリム』1780
ウンム・ハーニー・ビント・アビー・ターリブ	ハーシム家；アッラーの使徒 ﷺ のいとこで、アリーの姉妹	夫の親族を保護した；使徒はかの女の家で八ラクアの礼拝をされた	『サヒーフ・ブハーリー』357
ヒンド・ビント・ウトバ	アブド・シャムス家；アブー・スフヤーンの妻、ムアーウィヤの母	忠誠を誓い、イスラームに入った	『サヒーフ・ブハーリー』3825
イクリマ・ブン・アビー・ジャハル	マフズーム家；アブー・ジャハルの息子	逃げたが、のちにイスラームに入った	『スナン・アン＝ナサーイー』4067；スィーラ書
ウンム・ハキーム・ビント・アル＝ハーリス・ブン・ヒシャーム	マフズーム家；イクリマの妻であり、そのいとこでもある（父がアブー・ジャハルの兄弟）	夫のために安全を願い出て、海岸までかれを追った	スィーラ書
サフワーン・ブン・ウマイヤ	ジュマフ家；ウマイヤ・ブン・ハラフの息子	逃げ、猶予を与えられ、フナインの後にイスラームに入った	『サヒーフ・ムスリム』2313；スィーラ書
ウマイル・ブン・ワフブ・アル＝ジュマヒー	ジュマフ家；サフワーンのいとこ	サフワーンのために安全を願い出た	スィーラ書
アブー・クハーファ（ウスマーン・ブン・アーミル）	タイム家；アブー・バクル・アッ＝スィッディークの父	アブー・バクルに連れて来られてイスラームに入った；白髪が染められた	『サヒーフ・ムスリム』2102

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	部族／関係	第二部での役割	典拠
アブドゥッラー・ブン・サアド・ブン・アビー・サルフ	アーミル・ブン・ルアイ家；ウスマーン・ブン・アッファーンの乳兄弟	除外されたが、ウスマーンに連れて来られ、忠誠の誓いを受け入れられた	『スナン・アビー・ダーウード』2683
アッターブ・ブン・ウサイド	ウマイヤ家（アブド・シャムス）	若くしてマッカ総督に任じられた	スィーラ書
アムル・ブン・サリマ・アル＝ジャルミー	ジャルム族（クダーア）	征服を待っていた諸部族のことを語った；幼くして一族のイマームとなった	『サヒーフ・ブハーリー』4302

スィーラの注：ウスマーン・ブン・タルハの後のカアバの鍵

歴史家たちによれば、ウスマーン・ブン・タルハはその後マディーナへ移住し、カアバの鍵の務めはそのいとこシャイバ・ブン・ウスマーン・ブン・アビー・タルハが担いました。シャイバの子孫 — シャイバ家、あるいはアッ＝シャイビー家として知られる — が、今日に至るまで代々その鍵を保持しています。

参照：イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』— ウスマーン・ブン・タルハとシャイバ・ブン・ウスマーンの伝記；ウィキペディア「Banu Shayba」。

教訓

この人物の一覧は、征服の日の本当の姿を映し出しています。元奴隷と元奴隷の息子がカアバの中でアッラーの使徒 ﷺ のかたわらに立ち、一方でクライシュの指導者たちの息子たちが安全を求めてやって来たのです。イスラームは家柄ではなく敬虔さによって人を高めます — しかし、昔からカアバの鍵を守ってきた一族にそれが託され続けたように、信仰ある家系をも尊ぶのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアバと聖なるマスジド：昔と今

征服の日にアッラーの使徒 ﷺ が清められたカアバは、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の最初の建物ではありませんでした。それは預言者としての召命の約五年前、アッラーの使徒 ﷺ が三十五歳のときにクライシュが建て直したものでした。使徒ご自身も、おじのアル＝アッバースと共に石を運ばれました（『サヒーフ・ブハーリー』1582）。

ハディース：イブラーヒームの土台の上のカアバ

アーイシャ رضى الله عنها によれば、アッラーの使徒 ﷺ はかの女にこう言われました。「アーイシャよ、もしあなたの民が無明時代を離れて間もないのでなければ、わたしはカアバを取り壊すよう命じ、外に出されてしまった部分をその中に戻し、扉を地面の高さまで下げ、東と西に一つずつ、二つの扉を作っただろう。そうすればカアバはイブラーヒームの土台の上に立つことになるのだ。」

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』1586；『サヒーフ・ブハーリー』1583 と『サヒーフ・ムスリム』1333 にも。

このハディースは、アッラーの使徒 ﷺ の英知を示しています。征服の日に全権を握っておられたにもかかわらず、使徒はカアバの建物を変えられませんでした。イスラームに入ったばかりのマッカの住民の心が傷つくことを恐れられたからです。使徒は、より大きなもの — すなわち人の心 — を守るために、より完全なものをあえて残されたのです。

時代	カアバと聖なるマスジドの様子	典拠
預言者としての召命の約 5 年前	クライシュがカアバを建て直す；資金不足のためアル＝ヒジュルの一部が建物の外に残される；扉が高くされる	『サヒーフ・ブハーリー』1582、1586

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時代	カアバと聖なるマスジドの様子	典拠
征服の日（ヒジュラ 8 年）	偶像と絵が取り除かれる；クライシュの建物はそのまま残される；タワーフの場を囲む壁はない	『サヒーフ・ブハーリー』4287、4288；歴史書
ウマルの時代（ヒジュラ 17 年頃）とウスマーンの時代（ヒジュラ 26 年頃）	マスジドの区域が拡張され、低い壁で囲まれる	マッカの歴史書（アル＝アズラキー）
アブドゥッラー・ブン・アッ＝ズバイルの時代（ヒジュラ 64 年）	アーイシャのハディースに基づき、カアバがイブラーヒームの土台の上に二つの扉で建て直される	『サヒーフ・ムスリム』1333
アブドゥルマリク・ブン・マルワーンの時代（ヒジュラ 74 年）	クライシュの建物の形に戻される；この形が今日まで続いている	『サヒーフ・ムスリム』1333；歴史書
現代	1950 年代以降、サウジアラビア政府によって聖なるマスジドが何度も拡張される；キスワ（覆い布）は毎年取り替えられる；鍵はアッ＝シャイビー家に残る	ウィキペディア「Great Mosque of Mecca」

歴史の注：イマーム・マーリクとカアバ

歴史家たちの伝えるところでは、カリフのハールーン・アッ＝ラシード（あるいはその前のカリフ）が、イブン・アッ＝ズバイルの建物にならってカアバを建て直そうとしたことがありました。イマーム・マーリクは、カアバが王たちの戯れの対象となり、誰もがそれを変えたがるようにならないよう、そうしないことを勧め、その忠告は受け入れられました。

参照：アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』 — ハディース第 1333 番の注釈；イブン・カスィール『始まりと終わり』。これは歴史書の伝承です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

今日、何百万人もの巡礼者がカアバの周りを巡り、イスマーイールのヒジュルの中で礼拝するとき、かれらは実はカアバの中で礼拝しているのです。アーイシャのハディースが説明するように、そのヒジュルの一部はイブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の最初の建物に含まれていたからです。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、優先順位のフィクフをわたしたちに教えておられます。時には、混乱を避け、一致を守るために、最善のことを先送りにすることがあります。賢明な指導者は、たとえそれを行う力があっても、人々が大切にしているものを性急に変えたりはしません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第二部の年表

次の表は、第二部の出来事を順に並べたものです。正確な日付についてはスィーラの学者たちの意見が分かれており、ここに示すのはよく知られたおおよその日付です。

時期（ヒジュラ 8 年）	出来事	典拠
ラマダーン月 17〜20 日頃	ムスリム軍がマッル・アッ＝ザフラーンからズー・トゥワーへ進む；アッラーの使徒 ﷺ は乗り物の上で頭を垂れられる	『サヒーフ・ブハーリー』4281；スィーラ書
征服の日の朝	四つの部隊が四方向からマッカに入る；安全の扉の布告	『サヒーフ・ムスリム』1780；『サヒーフ・ブハーリー』4280
征服の日の朝	アル＝ハンダマでの小競り合い（ハーリドの部隊）	『サヒーフ・ブハーリー』4280；スィーラ書
征服の日	アッラーの使徒 ﷺ が鉄の兜をかぶって入城；イブン・ハタルが殺される	『サヒーフ・ブハーリー』1846
征服の日	ラクダに乗ってのタワーフ；360 体の偶像が倒される	『サヒーフ・ブハーリー』4287
征服の日	カアバの中の絵が取り除かれる；使徒が中で礼拝される	『サヒーフ・ブハーリー』4288、4289
征服の日	鍵がウスマーン・ブン・タルハに返される；ビラールのアザーン；「あなたがたに咎めはない」	スィーラ書
征服の日（ドゥハーの時刻）	ウンム・ハーニーの家での八ラクアの礼拝；かの女の保護が認められる	『サヒーフ・ブハーリー』357
翌日	聖域の神聖さについての説教	『サヒーフ・ブハーリー』104、1834

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期（ヒジュラ 8 年）	出来事	典拠
続く日々	男女の忠誠の誓い；ヒンドがイスラームに入る	『サヒーフ・ブハーリー』3825、4891
続く日々	マフズーム族の女性の盗み；「たとえファーティマが盗んだとしても」の説教	『サヒーフ・ブハーリー』4304
続く日々	イクリマとサフワーンが戻る；アブー・クハーファがイスラームに入る	『サヒーフ・ムスリム』2102；スィーラ書
ラマダーン月の終わり	アル＝ウッザー、スワーウ、マナートを破壊する遠征	スィーラ書（イブン・サアド）
シャウワール月	ハーリドがジャズィーマ族のもとへ遣わされる；アリーが血の代償を支払う	『サヒーフ・ブハーリー』4339；スィーラ書
19 日間を通して	アッラーの使徒 ﷺ が礼拝を短縮される；アッターブ・ブン・ウサイドが総督に任じられる	『サヒーフ・ブハーリー』4298；スィーラ書
シャウワール月の初め	ハワーズィン族とサキーフ族が集結しているとの知らせ；軍がフナインへ出発（第 22 巻）	スィーラ書

教訓

三週間足らずのうちに、二十年間イスラームに敵対してきた町がタウヒードの中心へと変わりました。その変化は流血によってではなく、赦しと正義と教えによって成し遂げられました。再建は勝利よりも大切なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：511 / 522

マッカ征服（第二部）についてのよくある質問

1. なぜアッラーの使徒 ﷺ はイフラームなしにマッカに入られたのですか。

使徒は巡礼や小巡礼のためではなく、町を開くために入られ、鉄の兜をかぶっておられたからです（『サヒーフ・ブハーリー』1846）。マッカは使徒に「昼間のほんの一時」だけ許されました（『サヒーフ・ブハーリー』104）。他の人がイフラームなしにマッカに入れるかについては、学者たちの意見が分かれています（第 31 章）。

2. マッカは戦いによって開かれたのですか、それとも和平によってですか。

大多数の学者は、アル＝ハンダマで戦闘があり、使徒が武装して入られたことから、マッカは武力によって（アンワタン）開かれたと考えます。イマーム・アッ＝シャーフィイーは、入城前に安全が布告されたことから、和平によって（スルハン）開かれたと考えます。この違いは、マッカの土地と家屋に関する規定に影響します。参照：イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』 — ハディース第 4280 番の注釈。

3. 安全から除外されたのは何人ですか。

サアド・ブン・アビー・ワッカースのハディースは、四人の男と二人の女を挙げています（『スナン・アン＝ナサーイー』4067）。スィーラ書はより長い名簿を挙げています。かれらの多くは最終的に赦されました（第 30 章）。

4. なぜアブドゥッラー・ブン・アビー・サルフは、除外されていたのに罰せられなかったのですか。

かれが乳兄弟のウスマーン・ブン・アッファーンを通して悔悟して来て、アッラーの使徒 ﷺ がその忠誠の誓いを受け入れられたからです（『スナン・アビー・ダーウ

ード』2683）。かれはのちにウスマーンの時代にエジプト総督となり、北アフリカの征服を率いました。

5. ムスリム女性は不信仰者に保護を与えることができますか。

できます。アッラーの使徒 ﷺ はウンム・ハーニーに「あなたが保護した者は、わたしたちも保護した」と言われました（『サヒーフ・ブハーリー』357）。一人のムスリムの保護は、ムスリム共同体全体を拘束します（『サヒーフ・ブハーリー』3172）。

6. ウンム・ハーニーの家での八ラクアの礼拝は何だったのですか。

一部の学者は、ドゥハーの時刻に行われたのでドゥハーの礼拝と呼び、別の学者たちはサラート・アル＝ファトフ（勝利の礼拝）と呼びます。どちらもこのハディースを根拠としています（『サヒーフ・ブハーリー』357；『サヒーフ・ムスリム』336）。

7. なぜマフズーム族の女性は罰せられ、他のマッカの住民は赦されたのですか。

全体的な赦しは、イスラーム以前の罪を帳消しにするものでした。その女性の盗みは征服の後、イスラームの法の下で起こり、その件はすでに統治者のもとに届いていました — だから取りなしはできなかったのです（『サヒーフ・ブハーリー』4304）。

8. 今日のカアバは、征服の日のカアバと同じですか。

その形は、征服の日に存在したクライシュの建物と同じです。イブン・アッ＝ズバイルはかつてイブラーヒームの土台の上にそれを建てましたが、アブドゥルマリクの時代にクライシュの形に戻されました（『サヒーフ・ムスリム』1333；第 33 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：513 / 522

9. 今日、カアバの鍵を保持しているのは誰ですか。

アッ＝シャイビー家です。ウスマーン・ブン・タルハのいとこシャイバ・ブン・ウスマーン・ブン・アビー・タルハの子孫で、アッラーの使徒 ﷺ の時代から代々それを保持しています（第 32 章）。

10. 女性章 4:58 はカアバの鍵のために下ったのですか。

イブン・カスィールが引いているように、一部の注釈者はそう考えています。しかしその節の文言は一般的で、あらゆる信託に当てはまります（第 29 章）。

11. なぜアッラーの使徒 ﷺ はマッカにそのまま住まれなかったのですか。

使徒はすでにマディーナへ移住されており、アッラーのために故郷を離れた移住者は、そこに戻って住み着くことはしないからです。使徒は礼拝を短縮しながら十九日間とどまり（『サヒーフ・ブハーリー』4298）、その後フナインとターイフへ出陣し、マディーナへ帰られました。アンサールは使徒がマッカに住まわれるのではと心配しましたが、使徒は「わたしの生はあなたがたの生、わたしの死はあなたがたの死」と断言されました（『サヒーフ・ムスリム』1780；第 4 章）。

12. マッカ征服の後、何が起こったのですか。

ハワーズィン族とサキーフ族が軍を集め、フナインの戦い、ターイフの包囲、そしてアル＝ジゥラーナでの戦利品の分配が続きました。この物語は第 22 巻と第 23 巻で語ります。

教訓

これらの質問は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、学者の見解を区別することを思い起こさせてくれます。征服の日の物語の骨格は真正なハディースで確かめられており、その細部はそれぞれの確かさの度合いに応じて正直にお伝えしています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

マッカ征服は、二十一年にわたる奮闘の頂点です。それは単なる軍事的勝利ではなく、**品性の勝利**でした。復讐に対する赦しの勝利、多神崇拝に対するタウヒードの勝利、傲慢に対する謙虚さの勝利です。

教訓	第二部から
勝利の時の謙虚さ	頭を垂れ、勝利章を朗誦する
命を最優先に	容易な安全の扉
助けてくれた人々への忠誠	アンサールへの「わたしの生はあなたがたの生」
純粋なタウヒード	360 体の偶像が倒れ、カアバが清められる
信託はふさわしい者へ	カアバの鍵をウスマーン・ブン・タルハへ
敬虔さによる高貴さ	カアバの上のビラールのアザーン
力ある時の赦し	「今日あなたがたに咎めはない」
えこひいきのない正義	ジャズィーマ族への血の代償
讃美と赦しの祈り	援助章

わたしたちの生活の中のマッカ征服

わたしたち一人ひとりの内には「カアバ」があります — **心**です。それはタウヒードの家であるべきなのに、時に「偶像」 — 現世への愛、恨み、傲慢、欲望 — で満たされてしまいます。マッカ征服は、その心を一つずつ清めるようわたしたちを招いています。こう言いながら。「**真理は下り、虚偽は消え去った。**」

そしてアッラーがわたしたちに成功を授けてくださったときは、援助章の教えを忘れないようにしましょう。**主の栄光を讃え、主を讃美し、赦しを請うこと**です。真の勝利とは、清らかな心でアッラーのもとに立ち返ることなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

インシャーアッラー、**預言者伝（スィーラ）**のシリーズは**第 22 巻 — フナインの戦いとターイフの包囲**へと続きます。当時イスラームの歴史で最大の軍が、自分たちの数の多さに慢心したために敗れかけたこと、アッラーの使徒 ﷺ とわずかな教友たちの不動の姿、そして試練の後に訪れた勝利を語ります。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存じです）。

第 21 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（イムラーン家章 3:97；女性章 4:58；食卓章 5:3；ユースフ章 12:92；夜の旅章 17:81；勝利章 48:1；部屋章 49:13；試問される女章 60:12；援助章 110）。https://tafsir.app/ibn-katheer/110/1

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』10、104、1834、1846、3744、3825、4280、4281、4287、4288、4289、4298、4302、4339、4891、4970。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1780、2102、2313。https://sunnah.com/muslim

『スナン・アビー・ダーウード』2683。https://sunnah.com/abudawud:2683

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— マッカ征服の章。

アル＝ワーキディー『マガーズィー』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』；マーリク『ムワッタア』。

イブン・カスィール『始まりと終わり』— マッカ征服；イブン・アル＝カイイム『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』— 遠征の書；『アル＝イサーバ』。アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』。

サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— マッカ征服の章。

一般の歴史

ウィキペディア「Conquest of Mecca」。https://en.wikipedia.org/wiki/Conquest_of_Mecca

ウィキペディア「Kaaba」https://en.wikipedia.org/wiki/Kaaba

ウィキペディア「ビラール・ブン・ラバーフ」。https://en.wikipedia.org/wiki/Bilal_ibn_Rabah

ウィキペディア「Uthman ibn Talha」。https://en.wikipedia.org/wiki/Uthman_ibn_Talha

ウィキペディア「Hind bint Utba」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hind_bint_Utba

ウィキペディア「Ikrima ibn Abi Jahl」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ikrima_ibn_Abi_Jahl

ウィキペディア「Safwan ibn Umayya」。https://en.wikipedia.org/wiki/Safwan_ibn_Umayya

ウィキペディア「Abu Quhafa」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Quhafa

ウィキペディア「Al-Nasr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Nasr

ハディースと追加の典拠

サバア章 34:49（真理は下った）。https://quran.com/34:49

『スナン・アン＝ナサーイー』4067（四人の男と二人の女が除外された）。https://sunnah.com/nasai:4067

『サヒーフ・ブハーリー』357（ウンム・ハーニーと八ラクアの礼拝）。https://sunnah.com/bukhari:357

『サヒーフ・ブハーリー』3171（ウンム・ハーニーの保護）。https://sunnah.com/bukhari:3171

『サヒーフ・ブハーリー』4304（盗みを働いたマフズーム族の女性）。https://sunnah.com/bukhari:4304

『サヒーフ・ムスリム』1688（マフズーム族の女性）。https://sunnah.com/muslim:1688a

『サヒーフ・ブハーリー』1586（イブラーヒームの土台の上のカアバ）。https://sunnah.com/bukhari:1586

『サヒーフ・ムスリム』1333（イブン・アッ＝ズバイルの建物）。https://sunnah.com/muslim:1333a

ウィキペディア「Banu Shayba」。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Shayba

ウィキペディア「Great Mosque of Mecca」。https://en.wikipedia.org/wiki/Great_Mosque_of_Mecca

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

支援と寄付

この電子書籍は、ムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売されるものではありません。**研究、ウェブサイト quranscience.my の運営、今後の電子書籍の出版の費用のためのご寄付を心より歓迎いたします。ただし寄付は**義務ではありません。**アッラーがすべてのご寄付を、絶えることのない施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば，ちょうど 1 粒が 7 穂を付け，1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に，倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

日本語訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。「本当にわたしの主は，そのしもべの中から御心に適う者に，御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。」

日本語訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。アッラーは、赦す僕に尊厳しか増し加えられない。そして、アッラーのためにへりくだる者は誰であれ、アッラーがその位を高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・礼儀の書（キターブ・ル＝ビッル・ワ・ッ＝スィラ・ワ・ル＝アダブ）、赦しと謙虚さの奨励の章、ハディース第 2588 番。

判定： サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは途絶える。ただし三つを除いて。絶えることのない施し、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書（キターブ・ル＝ワスィーヤ）、死後に人に届く報いの章、ハディース第 1631 番。

判定： サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：https://sunnah.com/muslim:1631

Jazakumullahu Khairan Kathira



上の QR コード（DuitNow、マレーシア）を読み取ってご寄付ください。



海外からのご寄付：上の PayPal QR コードを読み取るかクリックするか、次をご覧ください
paypal.me/quranscience

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |